

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

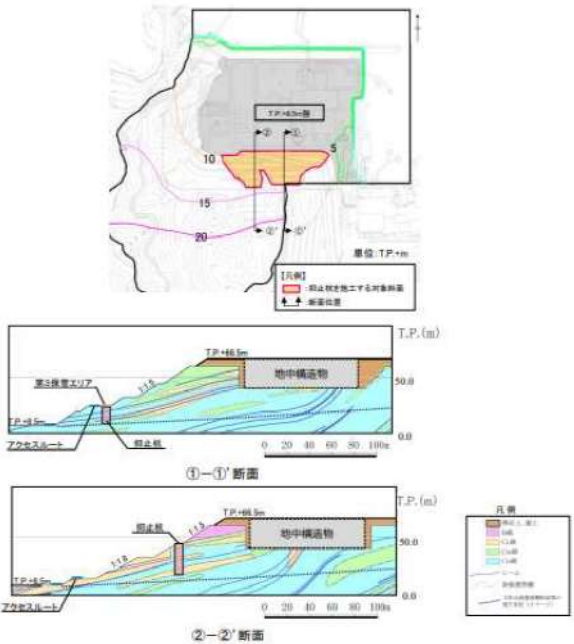
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>抑止杭による抵抗力を考慮したすべり安全率の算定式を以下に示す。すべり安全率算出時には、抑止杭（鉄筋コンクリート+H鋼）のせん断抵抗力を見込む。</p> $F_s = \frac{P_1 + R_K}{P_2}$ <p>ここで、  <math>P_1</math>：すべり面上の地盤のせん断抵抗力の和  <math>P_2</math>：すべり面上（地盤、抑止杭）のせん断力の和  <math>R_K</math>：抑止杭の許容せん断抵抗力</p> <p>抑止杭の単位奥行当たりの許容せん断抵抗力 <math>R_K</math> は、照査の際に用いた第7.4.3-6表の杭の1本当たりの許容せん断抵抗力を各区間の杭本数（区間Ⅰなら7本）で乗じ、各区間の抑止杭の効果を期待する範囲の幅（斜面の奥行方向幅、詳細は第7.4.4-1図を参照）で除して単位奥行当たりのせん断抵抗力として算出する。</p> $R_K = \frac{n \times S_K + S_G}{\cos \theta} \times \frac{1}{L}$ <p>ここで、  <math>R_K</math>：抑止杭の単位奥行き当たりの許容せん断抵抗力  <math>n</math>：杭本数（区間Ⅰ：7本、区間Ⅱ：3本）  <math>S_K</math>：杭1本の許容せん断抵抗力  <math>S_G</math>：杭間及び周辺岩盤のせん断抵抗力                      （シームの場合は保守的に見込まない）  <math>\theta</math>：すべり面角度  <math>L</math>：抑止杭の効果を期待する範囲の幅                      （斜面の奥行方向幅、区間Ⅰ：150.5m、区間Ⅱ：48.6m、詳細は第7.4.4-1図を参照）</p>		

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>(6) 液状化範囲の検討</p> <p>抑止杭を設置する斜面上部に埋戻土が存在することから、3次元浸透流解析結果の大局的な地下水位分布の傾向を参照し、液状化の可能性を検討する。</p> <p>3次元浸透流解析の結果、抑止杭を設置する斜面の①-①'断面及び②-②'断面の埋戻土部の地下水位は、T.P.+15~20mであり、埋戻土層下端（T.P.+44m 盤）より十分に低いことから、液状化影響を考慮しない。</p> <p>なお、T.P.+44m 盤には構造物を設置して周辺を埋め戻す予定であるため、すべり安定性評価においては、構造物等がある場合とない場合をそれぞれ検討する。構造物がある場合の評価においては、当該構造物は地中構造物になることから、重量の観点から保守的になるように埋戻土としてモデル化する。</p>  <p>第7.4.4-2図 3次元浸透流解析結果（定常解析）の等水位線図※          ※「島根原子力発電所2号炉 地震による損傷の防止（コメント回答）[地下水位の設定]」（第872回審査会合、2020年7月7日）において説明済</p>		



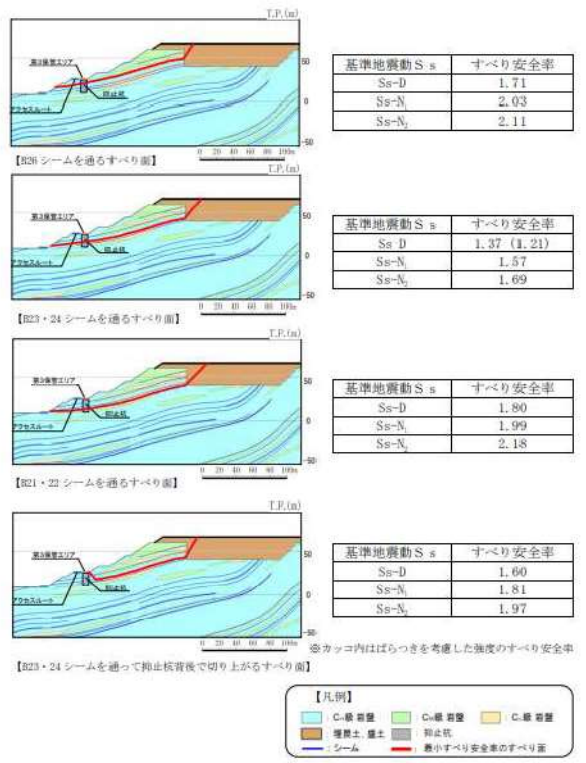
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>(7) 評価内容                      斜面安定性評価フローを第7.4.4-3図に示す。</p> <p>第7.4.4-3図 斜面安定性評価フロー</p> <p>(8) 入力地震動の策定                      入力地震動は、7.4.3章と同様。</p> <p>(9) 評価結果                      【①-①'断面（構造物等がある場合）】                      すべり安定性評価結果を第7.4.4-4図に示す。最小すべり安全率（平均強度）が評価基準値1.0を上回っており、安定性を有することを確認した。                      また、上記の結果が最小となったケースに対して、地盤物性のばらつき（平均強度-1.0×標準偏差（σ））を考慮した場合でも、最小すべり安全率が評価基準値1.0を上回っており、安定性を有することを確認した。</p>		

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

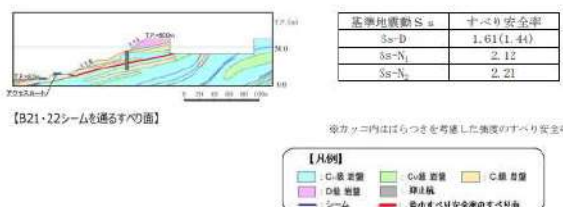
女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	 <p>第 7.4.4-4 図 ①-①' 断面の評価結果（構造物等がある場合）</p> <p>【①-①' 断面（構造物等がない場合）】                  すべり安定性評価結果を第 7.4.4-5 図に示す。最小すべり安全率（平均強度）が評価基準値 1.0 を上回っており、安定性を有することを確認した。                  また、上記の結果が最小となったケースに対して、地盤物性のばらつき（平均強度-1.0×標準偏差（σ））を考慮した場合でも、最小すべり安全率が評価基準値 1.0 を上回っており、安定性を有することを確認した。詳細設計段階においては、基本設計の妥当性に係る種々の検討を行うとともに、検討に際しては余裕を持った設計となるよう留意する。</p>		

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

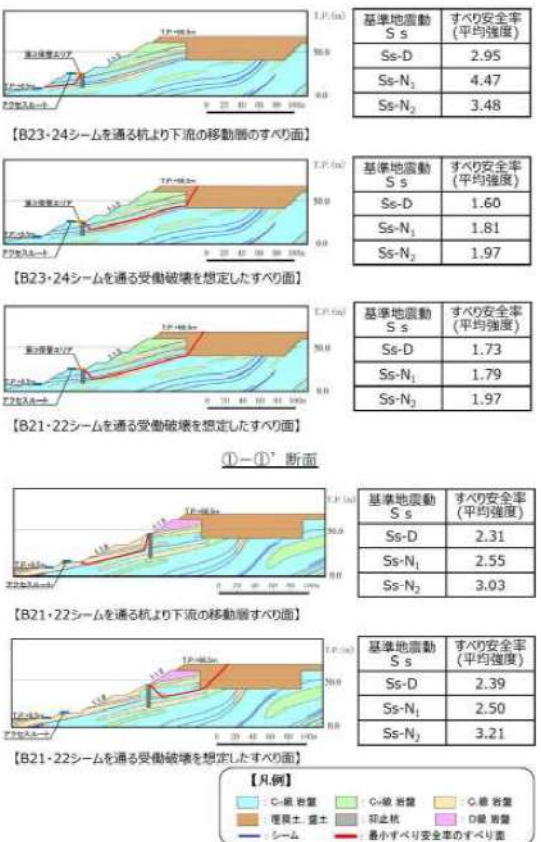
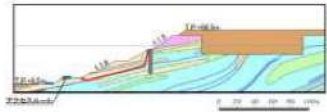
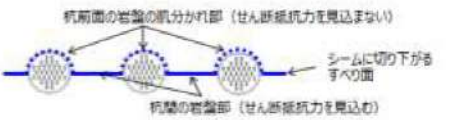
女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																						
	<div data-bbox="734 183 1041 295"> <p>【B23・24シームを通るすべり面】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準地震動 S<sub>s</sub></th> <th>すべり安全率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>S<sub>s</sub>-D</td> <td>1.28 (1.11)</td> </tr> <tr> <td>S<sub>s</sub>-N<sub>1</sub></td> <td>1.54</td> </tr> <tr> <td>S<sub>s</sub>-N<sub>2</sub></td> <td>1.65</td> </tr> </tbody> </table> </div> <div data-bbox="734 343 1041 454"> <p>【B21・22シーム、法尻近傍のC、級岩盤及びB23・24シームを通じて法尻に抜けるすべり面】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準地震動 S<sub>s</sub></th> <th>すべり安全率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>S<sub>s</sub>-D</td> <td>1.31</td> </tr> <tr> <td>S<sub>s</sub>-N<sub>1</sub></td> <td>1.55</td> </tr> <tr> <td>S<sub>s</sub>-N<sub>2</sub></td> <td>1.64</td> </tr> </tbody> </table> </div> <div data-bbox="974 470 1310 534"> <p>※カッコ内はばらつきを考慮した強度のすべり安全率</p> <p>【凡例】              C-級岩盤 C-級岩盤 D-級岩盤 埋設地              シーム 最小すべり安全率のすべり面</p> </div> <p>第 7.4.4-5 図 ①-①' 断面の評価結果（構造物等がない場合）</p> <p>【②-②' 断面（構造物等がある場合）】</p> <p>すべり安定性評価結果を第 7.4.4-6 図に示す。最小すべり安全率（平均強度）が評価基準値 1.0 を上回っており、安定性を有することを確認した。</p> <p>また、上記の結果が最小となったケースに対して、地盤物性のばらつき（平均強度-1.0×標準偏差（σ））を考慮した場合でも、最小すべり安全率が評価基準値 1.0 を上回っており、安定性を有することを確認した。</p> <div data-bbox="734 901 1041 1013"> <p>【B21・22シームを通るすべり面】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準地震動 S<sub>s</sub></th> <th>すべり安全率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>S<sub>s</sub>-D</td> <td>1.67 (1.49)</td> </tr> <tr> <td>S<sub>s</sub>-N<sub>1</sub></td> <td>2.10</td> </tr> <tr> <td>S<sub>s</sub>-N<sub>2</sub></td> <td>2.10</td> </tr> </tbody> </table> </div> <div data-bbox="734 1061 1041 1173"> <p>【B21・22シームを通過して抑止機背後で切り上がるすべり面】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準地震動 S<sub>s</sub></th> <th>すべり安全率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>S<sub>s</sub>-D</td> <td>2.39</td> </tr> <tr> <td>S<sub>s</sub>-N<sub>1</sub></td> <td>2.50</td> </tr> <tr> <td>S<sub>s</sub>-N<sub>2</sub></td> <td>3.21</td> </tr> </tbody> </table> </div> <div data-bbox="734 1220 1041 1332"> <p>【B21・22シームを通過して法面に抜けるすべり面】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準地震動 S<sub>s</sub></th> <th>すべり安全率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>S<sub>s</sub>-D</td> <td>2.25</td> </tr> <tr> <td>S<sub>s</sub>-N<sub>1</sub></td> <td>2.58</td> </tr> <tr> <td>S<sub>s</sub>-N<sub>2</sub></td> <td>2.95</td> </tr> </tbody> </table> </div> <div data-bbox="974 1348 1310 1412"> <p>※カッコ内はばらつきを考慮した強度のすべり安全率</p> <p>【凡例】              C-級岩盤 C-級岩盤 D-級岩盤 埋設地              遮断土、掘削 抑止機 D級岩盤              シーム 最小すべり安全率のすべり面</p> </div> <p>第 7.4.4-6 図 ②-②' 断面の評価結果（構造物等がある場合）</p>	基準地震動 S <sub>s</sub>	すべり安全率	S <sub>s</sub> -D	1.28 (1.11)	S <sub>s</sub> -N <sub>1</sub>	1.54	S <sub>s</sub> -N <sub>2</sub>	1.65	基準地震動 S <sub>s</sub>	すべり安全率	S <sub>s</sub> -D	1.31	S <sub>s</sub> -N <sub>1</sub>	1.55	S <sub>s</sub> -N <sub>2</sub>	1.64	基準地震動 S <sub>s</sub>	すべり安全率	S <sub>s</sub> -D	1.67 (1.49)	S <sub>s</sub> -N <sub>1</sub>	2.10	S <sub>s</sub> -N <sub>2</sub>	2.10	基準地震動 S <sub>s</sub>	すべり安全率	S <sub>s</sub> -D	2.39	S <sub>s</sub> -N <sub>1</sub>	2.50	S <sub>s</sub> -N <sub>2</sub>	3.21	基準地震動 S <sub>s</sub>	すべり安全率	S <sub>s</sub> -D	2.25	S <sub>s</sub> -N <sub>1</sub>	2.58	S <sub>s</sub> -N <sub>2</sub>	2.95
基準地震動 S <sub>s</sub>	すべり安全率																																								
S <sub>s</sub> -D	1.28 (1.11)																																								
S <sub>s</sub> -N <sub>1</sub>	1.54																																								
S <sub>s</sub> -N <sub>2</sub>	1.65																																								
基準地震動 S <sub>s</sub>	すべり安全率																																								
S <sub>s</sub> -D	1.31																																								
S <sub>s</sub> -N <sub>1</sub>	1.55																																								
S <sub>s</sub> -N <sub>2</sub>	1.64																																								
基準地震動 S <sub>s</sub>	すべり安全率																																								
S <sub>s</sub> -D	1.67 (1.49)																																								
S <sub>s</sub> -N <sub>1</sub>	2.10																																								
S <sub>s</sub> -N <sub>2</sub>	2.10																																								
基準地震動 S <sub>s</sub>	すべり安全率																																								
S <sub>s</sub> -D	2.39																																								
S <sub>s</sub> -N <sub>1</sub>	2.50																																								
S <sub>s</sub> -N <sub>2</sub>	3.21																																								
基準地震動 S <sub>s</sub>	すべり安全率																																								
S <sub>s</sub> -D	2.25																																								
S <sub>s</sub> -N <sub>1</sub>	2.58																																								
S <sub>s</sub> -N <sub>2</sub>	2.95																																								

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由								
	<p>【②-②' 断面（構造物等がない場合）】</p> <p>すべり安定性評価結果を第7.4.4-7図に示す。最小すべり安全率（平均強度）が評価基準値1.0を上回っており、安定性を有することを確認した。</p> <p>また、上記の結果が最小となったケースに対して、地盤物性のばらつき（平均強度-1.0×標準偏差（σ））を考慮した場合でも、最小すべり安全率が評価基準値1.0を上回っており、安定性を有することを確認した。</p>  <table border="1" data-bbox="1070 406 1294 478"> <thead> <tr> <th>基準用震動 S<sub>a</sub></th> <th>すべり安全率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>S<sub>a</sub>-D</td> <td>1.61(1.44)</td> </tr> <tr> <td>S<sub>a</sub>-N<sub>1</sub></td> <td>2.12</td> </tr> <tr> <td>S<sub>a</sub>-N<sub>2</sub></td> <td>2.21</td> </tr> </tbody> </table> <p>【凡例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>C: 岩盤層</li> <li>D: 砂層</li> <li>シーム</li> <li>C: 砂層</li> <li>砂層</li> <li>C: 砂層</li> <li>最小すべり安全率のすべり面</li> </ul> <p>第7.4.4-7図 ②-②' 断面の評価結果（構造物等がない場合）</p> <p>(10) 杭の断面配置の妥当性確認結果</p> <p>①-①' 断面及び②-②' 断面において、抑止杭をモデル化し、杭より下流の移動層のすべり及び受働破壊を想定したすべりを設定して動的解析を実施した結果、すべり安全率1.0を上回ることを確認したことから、杭の断面配置が妥当であることを確認した。（第7.4.4-8図参照）</p> <p>詳細設計段階において、杭より下流の移動層のすべりについて、以下の検討を行い、評価基準値を下回る場合は、杭を追加配置する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>杭前面における岩盤の肌分かれを想定したすべり安定性評価を実施し、杭の断面配置の妥当性を説明する。</li> <li>その際には、杭間に堅硬かつ健全な岩盤が分布すること（第7.4.4-9図及び(11)参照）、及び杭間の岩盤の中抜け現象が起こらないこと（7.4.2(5)章に方針を記載）を踏まえ、杭間の岩盤のせん断抵抗力のみを考慮した安定性評価を行う。</li> </ul>	基準用震動 S <sub>a</sub>	すべり安全率	S <sub>a</sub> -D	1.61(1.44)	S <sub>a</sub> -N <sub>1</sub>	2.12	S <sub>a</sub> -N <sub>2</sub>	2.21		
基準用震動 S <sub>a</sub>	すべり安全率										
S <sub>a</sub> -D	1.61(1.44)										
S <sub>a</sub> -N <sub>1</sub>	2.12										
S <sub>a</sub> -N <sub>2</sub>	2.21										

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

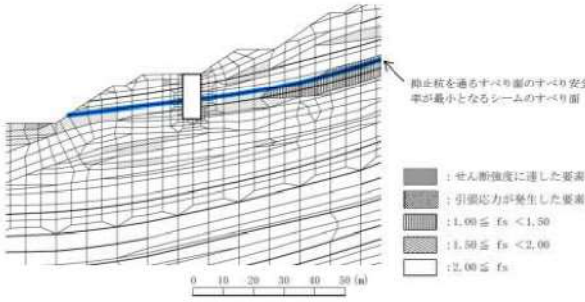
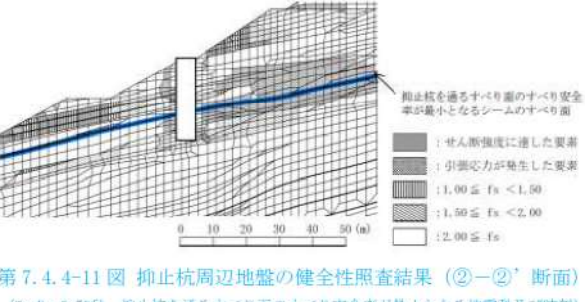
1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																								
	 <p>【B23・24シームを通る杭より下流の移動側のすべり面】</p> <table border="1" data-bbox="1097 183 1276 295"> <tr><th>基準地震動 Ss</th><th>すべり安全率 (平均強度)</th></tr> <tr><td>Ss-D</td><td>2.95</td></tr> <tr><td>Ss-N<sub>1</sub></td><td>4.47</td></tr> <tr><td>Ss-N<sub>2</sub></td><td>3.48</td></tr> </table> <p>【B23・24シームを通る受働破壊を想定したすべり面】</p> <table border="1" data-bbox="1097 335 1276 446"> <tr><th>基準地震動 Ss</th><th>すべり安全率 (平均強度)</th></tr> <tr><td>Ss-D</td><td>1.60</td></tr> <tr><td>Ss-N<sub>1</sub></td><td>1.81</td></tr> <tr><td>Ss-N<sub>2</sub></td><td>1.97</td></tr> </table> <p>【B21・22シームを通る受働破壊を想定したすべり面】</p> <table border="1" data-bbox="1097 486 1276 598"> <tr><th>基準地震動 Ss</th><th>すべり安全率 (平均強度)</th></tr> <tr><td>Ss-D</td><td>1.73</td></tr> <tr><td>Ss-N<sub>1</sub></td><td>1.79</td></tr> <tr><td>Ss-N<sub>2</sub></td><td>1.97</td></tr> </table> <p>①-①' 断面</p>  <table border="1" data-bbox="1097 662 1276 774"> <tr><th>基準地震動 Ss</th><th>すべり安全率 (平均強度)</th></tr> <tr><td>Ss-D</td><td>2.31</td></tr> <tr><td>Ss-N<sub>1</sub></td><td>2.55</td></tr> <tr><td>Ss-N<sub>2</sub></td><td>3.03</td></tr> </table> <p>【B21・22シームを通る杭より下流の移動側のすべり面】</p> <table border="1" data-bbox="1097 813 1276 925"> <tr><th>基準地震動 Ss</th><th>すべり安全率 (平均強度)</th></tr> <tr><td>Ss-D</td><td>2.39</td></tr> <tr><td>Ss-N<sub>1</sub></td><td>2.50</td></tr> <tr><td>Ss-N<sub>2</sub></td><td>3.21</td></tr> </table> <p>【B21・22シームを通る受働破壊を想定したすべり面】</p> <p>【凡例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>C-級 岩盤</li> <li>C-級 岩盤</li> <li>C-級 岩盤</li> <li>埋戻土、盛土</li> <li>杭止杭</li> <li>D-級 岩盤</li> <li>シーム</li> <li>最小すべり安全率のすべり面</li> </ul> <p>②-②' 断面</p> <p>第 7.4.4-8 図 杭の断面配置の妥当性確認結果</p>  <p>杭前面の岩盤の肌分かれ部（せん断抵抗力を見込まない）</p> <p>シームに切り下がるすべり面</p> <p>杭間の岩盤部（せん断抵抗力を見込む）</p> <p>第 7.4.4-9 図 ①-①' 断面の杭間隔等（イメージ図）</p>	基準地震動 Ss	すべり安全率 (平均強度)	Ss-D	2.95	Ss-N <sub>1</sub>	4.47	Ss-N <sub>2</sub>	3.48	基準地震動 Ss	すべり安全率 (平均強度)	Ss-D	1.60	Ss-N <sub>1</sub>	1.81	Ss-N <sub>2</sub>	1.97	基準地震動 Ss	すべり安全率 (平均強度)	Ss-D	1.73	Ss-N <sub>1</sub>	1.79	Ss-N <sub>2</sub>	1.97	基準地震動 Ss	すべり安全率 (平均強度)	Ss-D	2.31	Ss-N <sub>1</sub>	2.55	Ss-N <sub>2</sub>	3.03	基準地震動 Ss	すべり安全率 (平均強度)	Ss-D	2.39	Ss-N <sub>1</sub>	2.50	Ss-N <sub>2</sub>	3.21		
基準地震動 Ss	すべり安全率 (平均強度)																																										
Ss-D	2.95																																										
Ss-N <sub>1</sub>	4.47																																										
Ss-N <sub>2</sub>	3.48																																										
基準地震動 Ss	すべり安全率 (平均強度)																																										
Ss-D	1.60																																										
Ss-N <sub>1</sub>	1.81																																										
Ss-N <sub>2</sub>	1.97																																										
基準地震動 Ss	すべり安全率 (平均強度)																																										
Ss-D	1.73																																										
Ss-N <sub>1</sub>	1.79																																										
Ss-N <sub>2</sub>	1.97																																										
基準地震動 Ss	すべり安全率 (平均強度)																																										
Ss-D	2.31																																										
Ss-N <sub>1</sub>	2.55																																										
Ss-N <sub>2</sub>	3.03																																										
基準地震動 Ss	すべり安全率 (平均強度)																																										
Ss-D	2.39																																										
Ss-N <sub>1</sub>	2.50																																										
Ss-N <sub>2</sub>	3.21																																										



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

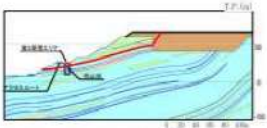
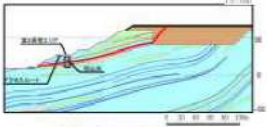
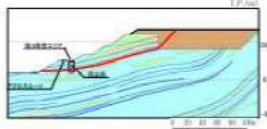
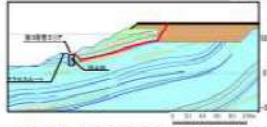
1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>(11) 抑止杭周辺地盤の健全性照査結果</p> <p>抑止杭周辺の地盤の局所安全係数分布図を第 7.4.4-10 図及び第 7.4.4-11 図に示す。不動層における抑止杭周辺の地盤には、せん断破壊が生じておらず、健全性を確保している。</p>  <p>第 7.4.4-10 図 抑止杭周辺地盤の健全性照査結果 (①-①' 断面)          (Ss-D・8.96秒, 抑止杭を通るすべり面のすべり安全率が最小となる地震動及び時刻)</p>  <p>第 7.4.4-11 図 抑止杭周辺地盤の健全性照査結果 (②-②' 断面)          (Ss-D・8.59秒, 抑止杭を通るすべり面のすべり安全率が最小となる地震動及び時刻)</p> <p>(12) 抑止杭の減衰定数の検討</p> <p>減衰特性の設定に当たっては、岩盤の減衰定数を JEAG4601-2015 に基づき 3%、抑止杭の減衰定数をコンクリート標準示方書〔構造性能照査編〕（土木学会，2002 年）に基づき 5%（鉄筋コンクリート）と設定している。</p> <p>抑止杭については、断面奥行き方向の杭間に岩盤が存在することから、抑止杭の減衰定数を岩盤の減衰定数である 3%とした場合の①-①' 断面を対象に影響検討を実施する。</p> <p>抑止杭の減衰定数を 3%とした場合の①-①' 断面における各すべり面の最小すべり安全率（平均強度）を下図に示す。</p> <p>抑止杭の減衰定数を 3%とした場合のすべり安全率は、減衰定数 5%の結果と同値であり、抑止杭の減衰特性がすべり安定性に与える影響は軽微であることを確認した。</p>		



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																												
	 <table border="1" data-bbox="1019 199 1288 295"> <thead> <tr> <th colspan="3">すべり安全率</th> </tr> <tr> <th>基準地震動 S s</th> <th>抑止杭の減衰定数 : 5%</th> <th>抑止杭の減衰定数 : 3%</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Se-D</td> <td>1.71</td> <td>1.71</td> </tr> <tr> <td>Se-N<sub>1</sub></td> <td>2.03</td> <td>2.03</td> </tr> <tr> <td>Se-N<sub>2</sub></td> <td>2.11</td> <td>2.11</td> </tr> </tbody> </table> <p>【B265シームを通るすべり面】</p>  <table border="1" data-bbox="1019 359 1288 454"> <thead> <tr> <th colspan="3">すべり安全率</th> </tr> <tr> <th>基準地震動 S s</th> <th>抑止杭の減衰定数 : 5%</th> <th>抑止杭の減衰定数 : 3%</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Se-D</td> <td>1.37</td> <td>1.37</td> </tr> <tr> <td>Se-N<sub>1</sub></td> <td>1.57</td> <td>1.57</td> </tr> <tr> <td>Se-N<sub>2</sub></td> <td>1.69</td> <td>1.69</td> </tr> </tbody> </table> <p>【B23-24シームを通るすべり面】</p> <p>第7.4.4-12図 ①-①' 断面の評価結果</p>  <table border="1" data-bbox="1019 606 1288 702"> <thead> <tr> <th colspan="3">すべり安全率</th> </tr> <tr> <th>基準地震動 S s</th> <th>抑止杭の減衰定数 : 5%</th> <th>抑止杭の減衰定数 : 3%</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Se-D</td> <td>1.80</td> <td>1.80</td> </tr> <tr> <td>Se-N<sub>1</sub></td> <td>1.99</td> <td>1.99</td> </tr> <tr> <td>Se-N<sub>2</sub></td> <td>2.18</td> <td>2.18</td> </tr> </tbody> </table> <p>【B21-22シームを通るすべり面】</p>  <table border="1" data-bbox="1019 774 1288 869"> <thead> <tr> <th colspan="3">すべり安全率</th> </tr> <tr> <th>基準地震動 S s</th> <th>抑止杭の減衰定数 : 5%</th> <th>抑止杭の減衰定数 : 3%</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Se-D</td> <td>1.60</td> <td>1.60</td> </tr> <tr> <td>Se-N<sub>1</sub></td> <td>1.81</td> <td>1.81</td> </tr> <tr> <td>Se-N<sub>2</sub></td> <td>1.97</td> <td>1.94</td> </tr> </tbody> </table> <p>【B23-24シームを通過して抑止杭背後で切り上がるすべり面】</p> <p>第7.4.4-13図 ②-②' 断面の評価結果</p>	すべり安全率			基準地震動 S s	抑止杭の減衰定数 : 5%	抑止杭の減衰定数 : 3%	Se-D	1.71	1.71	Se-N <sub>1</sub>	2.03	2.03	Se-N <sub>2</sub>	2.11	2.11	すべり安全率			基準地震動 S s	抑止杭の減衰定数 : 5%	抑止杭の減衰定数 : 3%	Se-D	1.37	1.37	Se-N <sub>1</sub>	1.57	1.57	Se-N <sub>2</sub>	1.69	1.69	すべり安全率			基準地震動 S s	抑止杭の減衰定数 : 5%	抑止杭の減衰定数 : 3%	Se-D	1.80	1.80	Se-N <sub>1</sub>	1.99	1.99	Se-N <sub>2</sub>	2.18	2.18	すべり安全率			基準地震動 S s	抑止杭の減衰定数 : 5%	抑止杭の減衰定数 : 3%	Se-D	1.60	1.60	Se-N <sub>1</sub>	1.81	1.81	Se-N <sub>2</sub>	1.97	1.94		
すべり安全率																																																															
基準地震動 S s	抑止杭の減衰定数 : 5%	抑止杭の減衰定数 : 3%																																																													
Se-D	1.71	1.71																																																													
Se-N <sub>1</sub>	2.03	2.03																																																													
Se-N <sub>2</sub>	2.11	2.11																																																													
すべり安全率																																																															
基準地震動 S s	抑止杭の減衰定数 : 5%	抑止杭の減衰定数 : 3%																																																													
Se-D	1.37	1.37																																																													
Se-N <sub>1</sub>	1.57	1.57																																																													
Se-N <sub>2</sub>	1.69	1.69																																																													
すべり安全率																																																															
基準地震動 S s	抑止杭の減衰定数 : 5%	抑止杭の減衰定数 : 3%																																																													
Se-D	1.80	1.80																																																													
Se-N <sub>1</sub>	1.99	1.99																																																													
Se-N <sub>2</sub>	2.18	2.18																																																													
すべり安全率																																																															
基準地震動 S s	抑止杭の減衰定数 : 5%	抑止杭の減衰定数 : 3%																																																													
Se-D	1.60	1.60																																																													
Se-N <sub>1</sub>	1.81	1.81																																																													
Se-N <sub>2</sub>	1.97	1.94																																																													

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>7.4.5 構造等に関する先行炉との比較</p> <p>(1) 比較の観点</p> <p>島根原子力発電所の抑止杭の設計において留意すべき事項を整理するため、島根原子力発電所と先行炉（関西電力(株)高浜発電所）の抑止杭との構造等を比較する。</p> <p>また、先行炉との比較を踏まえ、先行炉実績との類似点を踏まえた設計方針の適用性及び先行炉実績との相違点を踏まえた設計への反映事項を示す。</p> <p>(2) 先行炉との比較</p> <p>島根原子力発電所の抑止杭は、深礎杭にH鋼でせん断補強を行っていることから、類似の先行炉における抑止杭として、関西電力(株)高浜発電所における鋼管杭を選定する。それぞれの構造概要を第7.4.5-1図に示す。</p> <p>島根原子力発電所の抑止杭の構造等に関する特徴及び参照している基準類を示すとともに、高浜発電所の抑止杭との比較を行い、類似点及び相違点を抽出した。類似点についてはその適用性を、相違点についてはそれを踏まえた設計への反映事項を整理した。構造等に関する比較結果を第7.4.5-1表に、参照している基準類に関する比較結果を第7.4.5-2表に示す。</p> <div data-bbox="752 758 1274 1034"> </div> <div data-bbox="752 1066 1274 1396"> </div> <p>第 7.4.5-1 図 構造図の比較</p>		

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉

島根原子力発電所2号炉

泊発電所3号炉

相違理由

第7.4.5-1表 抑止杭の構造等に関する先行炉との比較

評価項目	先行炉の構造等*		島根原子力発電所先行炉との比較		先行炉等との類似点を踏まえた設計方針の適用性	先行炉等との相違点を踏まえた設計の相違事項
	島根原子力発電所 抑止杭の構造等	先行炉の構造等*	類似点	相違点		
抑止杭の構造	・掘削中のコンクリートが硬直する ため、軟弱に留意する。	・D掘削部が土質の硬直する ため、軟弱に留意する。	—	—	—	—
	・コンクリートの圧入防止に留意 する。必要に応じて、深礎杭を 採用する。	・掘削部を深礎杭とする。	—	・掘削部の硬直に 留意。	—	・深礎杭について、掘削部、 土留りの深さ（1000mm以 上）に基づいて設計する。 ・深礎杭の位置・深さ等の施 工条件を留意する。
設計方針	・すべての安全基準式に用いる抑 止杭のせん断耐力（コンクリート） 【許容応力度（H鋼）】 【許容応力度（鋼管）】	・すべての安全基準式に用いる抑 止杭のせん断耐力（コンクリート） 【許容応力度（H鋼）】 【許容応力度（鋼管）】	・抑止杭のせん断耐 力の設計は、 せん断耐力に基 づく。	—	・掘削部の土留り構造等について は、先行炉の設計方針が 適用可能である。 ・掘削部の土留り構造等について は、先行炉の設計方針が 適用可能である。 ・掘削部の土留り構造等について は、先行炉の設計方針が 適用可能である。	—

\* 先行炉の構造に関する記載内容については、島根原子力発電所にも同様の内容にて記載を施しております。

第7.4.5-2表 抑止杭の参照している基準類に関する先行炉との比較

評価項目	参照している基準類 （[]内は適用範囲、工認が4号等に記載されている基準類に下線）		先行炉との類似点を踏まえた適用性/ 相違点を踏まえた設計への反映事項
	島根原子力発電所	先行炉	
設計方針	最新鋭部-土留り技術指針（1991年）【杭工】	最新鋭部-土留り技術指針（1991年）【杭工】	・深礎杭は杭工であるため、適用可能。
抑止杭のせん断耐力	H鋼 建設機示方書Ⅱ鋼橋編（2002年） 【許容応力度】	建設機示方書Ⅱ鋼橋編（2002年） 【許容応力度】	・許容応力度法により設計しており、適用可能。
	コンクリート鉄筋 コンクリート標準示方書【構造性能指 針】（2002年）【許容応力度】	—	・工認が4号等に記載の基準類を参照し、 許容応力度法により設計する。
	鋼管 —	建設機示方書Ⅱ鋼橋編（2002年） 【許容応力度】	—

\* 先行炉の構造に関する記載内容については、島根原子力発電所にも同様の内容にて記載を施しております。

(3) 施工実績（一般産業施設における類似構造の設計・施工事例）  
 島根原子力発電所の抑止杭の特徴は「岩盤内に設置された深礎杭」  
 であることから、この特徴に類似する一般産業施設の設計・施工例  
 を調査した。調査結果を第7.4.5-3表に示す。  
 また、各事例の概要を（a）～（d）に示す。

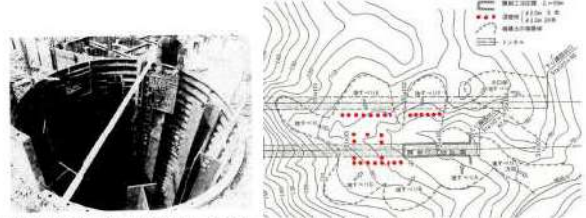
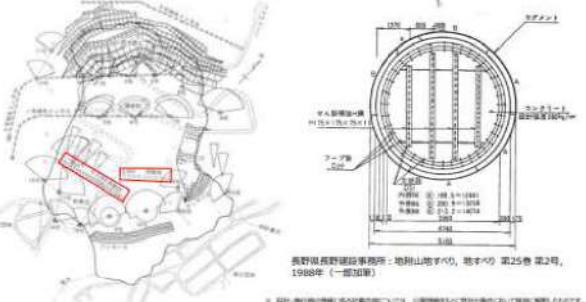
第7.4.5-3表 類似する一般産業施設の設計・施工例

特徴	施設・工事名称	設計・施工例	
		施設の概要	概要
土留りせん断 補強を併せて 複数本挿入	北陸自動車道地蔵トンネル 地すべり対策工事	・北陸自動車道地蔵トンネル西口付近に広く分布する地すべりの安定性を確保 するため、径2.5mの深礎杭を7.5mの間隔で24本、径2.0mの深礎杭を 6.0mの間隔で5本施工している。 ・せん断補強杭として深礎杭内にH鋼を環状に挿入している。	事例①
	地削山地すべり対策工事	・長野県地削山地すべりの安定性を確保するため、径5.1m、長さ33～61m の大口径鉄筋コンクリート杭を10m、15mの間隔で29本施工している。 ・効率的な配筋とするため、主筋に51mmの太鉄筋を用い、せん断補強として H鋼を複数本挿入している。	事例②
深礎杭	山間地区すべり対策工事	・大分県山間地区すべり（幅約45m、奥行き約300m、推定すべり面厚 70m前後の尾根型岩層すべり）の安定性を確保するため、径5.5m、長 さ30～97mの深礎杭を16本施工している。 ・軸方向配筋及び帯鉄筋を均等に4重に配筋し、最大曲げモーメント発生 位置付近に、D51のせん断補強筋を複数本挿入している。	事例③
	北神尾建設工事及び有馬 峡谷上駅建設工事の5号 谷上第1工区土木工事	・六甲山周辺地帯にて地すべりの安定性を確保するため、径3.5m、長さ33 ～35mの深礎杭を17本施工している。 ・主筋はD51を2段配筋している。	事例④

\* 設計・施工例の概要に関する記載内容については、島根原子力発電所にも同様の内容にて記載を施しております。

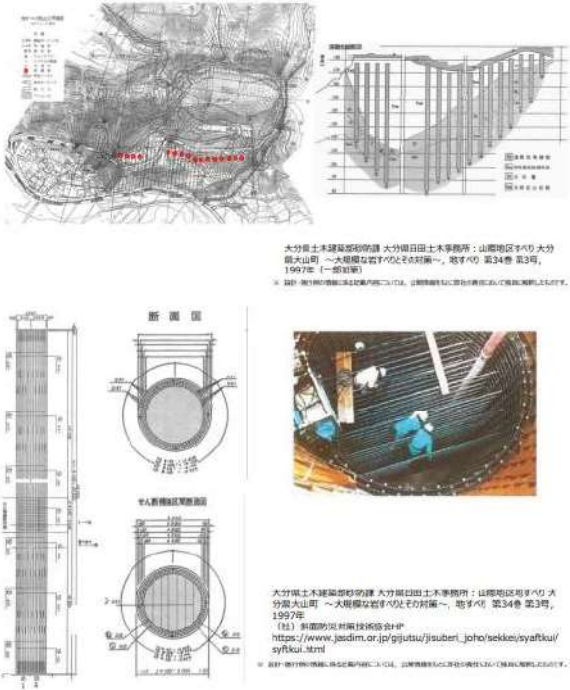
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>(a) 事例①北陸自動車道地蔵トンネル地すべり対策工事</p> <p>北陸自動車道地蔵トンネル西坑口付近に広く分布する地すべりの安定性を確保するため、径2.5mの深礎杭を7.5mの間隔で24本、径2.0mの深礎を6.0mの間隔で5本施工している。</p> <p>せん断抵抗材として深礎杭内にH鋼を環状に挿入している。</p>  <p>第7.4.5-2図 北陸自動車道地蔵トンネル地すべり対策工事の施工事例</p> <p>(b) 事例②地附山地すべり対策工事</p> <p>長野県地附山地すべり（幅約500m、奥行き約700m、推定すべり面層厚60m前後）の安定性を確保するため、径5.1m、長さ33～61mの大口径鉄筋コンクリート杭を10m、15mの間隔で29本施工している。</p> <p>効率的な配筋とするため、主筋に51mmの太鉄筋を用い、せん断補強としてH鋼を複数本挿入している。</p>  <p>第7.4.5-3図 地附山地すべり対策工事の施工事例</p>		

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>(c) 事例③山際地区地すべり対策工事</p> <p>大分県山際地区地すべり（幅約450m、奥行き約300m、推定すべり面層厚70m前後の尾根型岩盤すべり）の安定性を確保するため、径5.5m、長さ30～97mの深礎杭を16本施工している。</p> <p>軸方向鉄筋及び帯鉄筋を円周状に4重に配置し、最大曲げモーメント発生位置付近に、D51のせん断補強筋を複数本挿入している。</p>  <p>大分県土木建築部砂防課 大分県日田土木事務所：山際地区すべり大分県大山町～大規模な岩すべりとその対策～、地すべり第34巻 第3号、1997年（1～10頁）  <small>※ 資料：砂防技術情報センターより提供。公開情報にない部分は推定による（複製・転載禁止）。</small></p> <p>大分県土木建築部砂防課 大分県日田土木事務所：山際地区すべり大分県大山町～大規模な岩すべりとその対策～、地すべり第34巻 第3号、1997年  <small>（社）新藤防災技術株式会社  <a href="https://www.jasdim.or.jp/gijyutsu/jisuberi_joho/sekkei/syafuku/syafuku.html">https://www.jasdim.or.jp/gijyutsu/jisuberi_joho/sekkei/syafuku/syafuku.html</a>  <small>※ 資料：砂防技術情報センターより提供。公開情報にない部分は推定による（複製・転載禁止）。</small></small></p> <p>第7.4.5-4 図 山際地区地すべり対策工事の施工事例</p> <p>(d) 事例④北神線建設工事及び有馬線谷上駅移設工事のうち谷上第1工区土木工事</p> <p>六甲山周辺地域にて地すべりの安定性を確保するため、径3.5m、長さ33～35mの深礎杭を17本施工している。主筋はD51を2段配筋としている。</p>		



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）


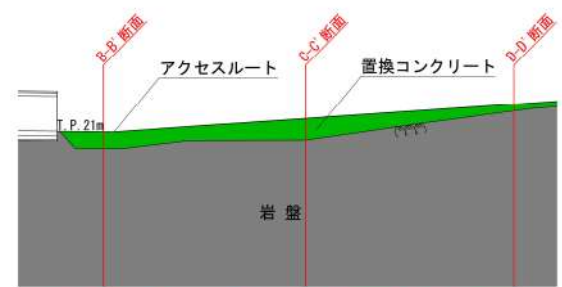
1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<div data-bbox="757 178 1272 411"> </div> <div data-bbox="734 466 1303 523"> <p>第7.4.5-5図 北神線建設工事及び有馬線谷上駅移設工事のうち谷上第1工区土木工事の施工事例</p> </div> <div data-bbox="712 577 1317 667"> <p>(4) 島根サイトの深礎杭の工事概要              島根サイトの①-①'断面及び②-②'断面における深礎杭は、第7.4.5-6図及び第7.4.5-7図のフローで施工している。</p> </div> <div data-bbox="743 689 1294 1002"> </div> <div data-bbox="855 1018 1169 1050"> <p>第7.4.5-6図 施工フロー図 (1/2)</p> </div> <div data-bbox="734 1072 1317 1375"> </div> <div data-bbox="855 1391 1169 1423"> <p>第7.4.5-7図 施工フロー図 (2/2)</p> </div>		



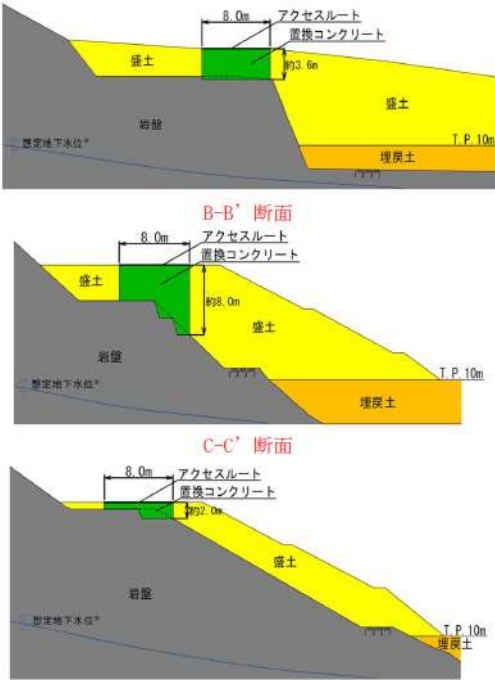
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
		<p>8.2 茶津側盛土斜面のアクセスルートについて</p> <p>屋外のアクセスルートのうち茶津側盛土斜面のアクセスルートについては、アクセスルート直下の範囲をコンクリートに置き換えることにより地震による被害の影響を受けない設計とする。</p> <p>置換コンクリートの範囲図を第8.2-1図、置換コンクリート箇所の縦断面図（A-A'断面）を第8.2-2図に示す。当該箇所について地震時における置換コンクリートの安定性評価を実施する。</p>  <p>第8.2-1図 置換コンクリート範囲図</p>  <p>第8.2-2図 置換コンクリート箇所縦断面図（A-A'断面）</p>	<p>【女川及び島根】                  設計方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プラントの相違による対策内容及び評価方針の相違。泊は、茶津側盛土斜面のアクセスルートについて、アクセスルート直下の範囲をコンクリートに置き換えることにより地震による被害の影響を受けない設計とし、地震時における滑動、転倒及び支持力の評価を実施。</li> </ul>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
		<p>8.2.1 評価方法</p> <p>アクセスルート直下の置換コンクリート（幅：8.0m）について、地震時における滑動、転倒及び支持地盤の支持力の評価を実施する。</p> <p>滑動、転倒及び支持力の評価は、地震応答解析から応答加速度を抽出し、安定性評価を実施する。滑動に対する評価は、地震時の全水平力（滑動力）に対する抵抗力の比が許容限界を上回ることを確認する。転倒に対する評価は、地震時の転倒モーメントに対する抵抗モーメントの比が許容限界を上回ることを確認する。支持地盤の支持力に対する評価は、置換コンクリートの接地圧（最大地盤反力）が支持地盤の極限支持力度を超えないことを確認する。</p> <p>置換コンクリート箇所の概略断面図を第8.2-3図に示す。評価断面は、置換コンクリート箇所の地盤状況を踏まえ、地震時慣性力や置換コンクリート背面の側圧が最大となる置換コンクリートの高さが最大の断面（C-C'断面）を選定する。評価においては、置換コンクリート前面（海側）の盛土が崩壊する可能性を考慮し、海側の盛土の抵抗はないものとして評価する。当該範囲の地下水位は、詳細設計段階で決定するため、評価における地下水位は詳細設計段階で設定した水位とする。</p>  <p>※：設置許可段階で実施した三次元浸透流解析の結果に基づいた地下水位。              第8.2-3図 置換コンクリート箇所概略断面図</p>	

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
		<p>8.2.2 評価結果</p> <p>地震時における置換コンクリートの滑動、転倒及び支持力の評価結果については、詳細設計段階で示す。</p>	

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>(参考-1) 評価対象斜面の選定理由（詳細）</p> <p>1. グループAにおける評価対象斜面の選定理由（詳細）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>岩盤で構成される斜面</li> </ul> <p>グループAの岩盤斜面である④-④'断面～⑦-⑦'断面の比較検討結果及び評価対象斜面の選定根拠の詳細を断面毎に示す。</p>	<p>(参考-1) グループAにおける評価対象断面の選定理由（詳細）</p> <p>保管場所及びアクセスルートに影響するおそれのある斜面のうち、グループA(岩盤斜面)については、敷地に広く分布することから、斜面のすべり方向並びに保管場所及びアクセスルートとの位置関係を踏まえて、グループAの斜面を斜面A～斜面Hの8つに区分した(第1図参照)。</p> <p>検討断面については、区分した斜面ごとに、岩種・岩級、斜面高さ、斜面の勾配及び断層の分布を考慮し、設定した(第2図～第8図、第10図、第12図及び第13図参照)。</p>	<p>【島根】記載表現の相違</p> <p>【島根】記載方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保管場所及びアクセスルートに影響するおそれのある斜面の分布による相違。</li> </ul>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）


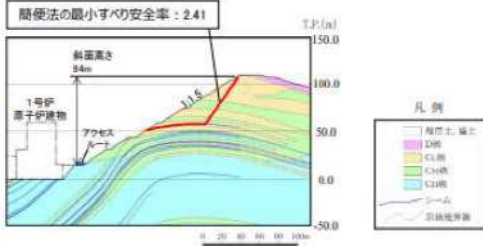

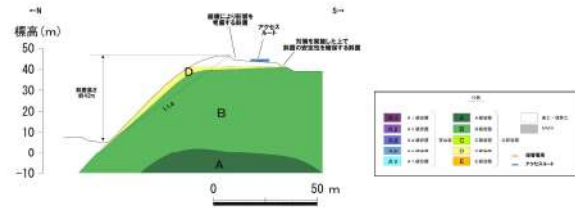
1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
		<p>第1図 グループAの斜面区分</p>	



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）


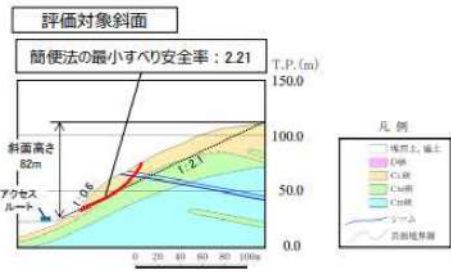
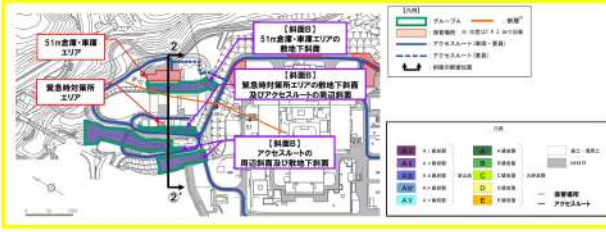
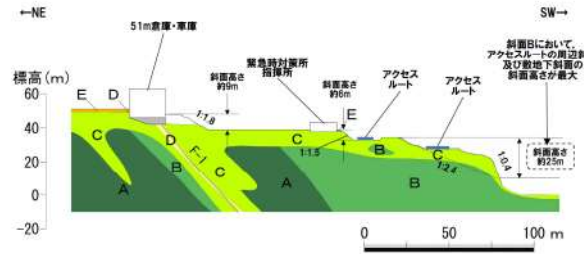
1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>【④-④' 断面】</p> <p>④-④' 断面の斜面は切取斜面であり、斜面高さが最も高く、最急勾配方向となるすべり方向に断面を設定した。</p> <p>当該斜面は、⑤-⑤' 断面に比べ、斜面高さが高いが、勾配が緩いこと、及び簡便法の最小すべり安全率が大きいことから、⑤-⑤' 断面の評価に代表させる。</p>   <p>簡便法の最小すべり安全率：2.41</p> <p>第1図 ④-④' 断面の比較結果</p>	<p>【斜面Aにおける検討断面】</p> <p>斜面Aにおいては、火砕岩層が概ね一様に分布しており、斜面のすべり方向にすべり面を形成し得る断層が分布しないことから、斜面高さ及び斜面の勾配に着目し、検討断面(①-①' 断面)を設定した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・斜面高さ：敷地の形状を考慮し、斜面高さが高くなる北西側とする。</li> <li>・斜面の勾配：斜面の勾配が最急となる位置とする。</li> </ul> <p>当該断面は、⑨-⑨' 断面に比べ、斜面高さが低いこと、斜面勾配が緩いこと、断層が分布しないこと、及び簡便法の最小すべり安全率が大きいことから、⑨-⑨' 断面の評価に代表させる。</p> <p>【斜面A】 51m倉庫・車庫エリアからのアクセスの敷地下斜面</p>   <p>第2図 ①-①' 断面の比較結果</p>	



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

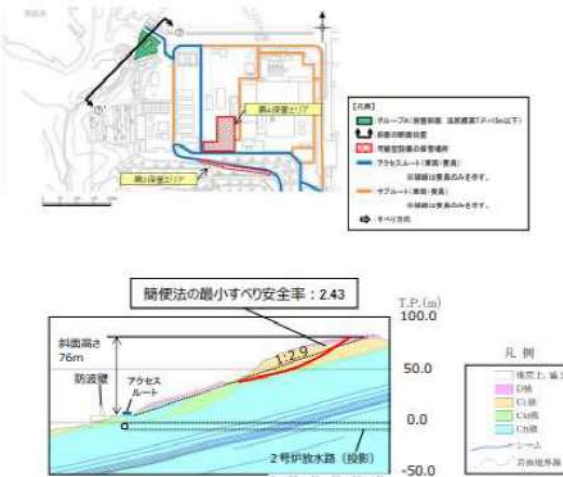
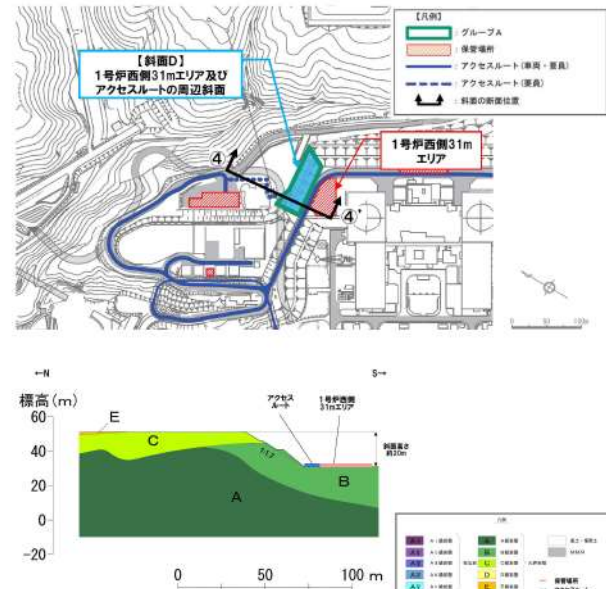
1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>【⑤-⑤' 断面（評価対象斜面）】</p> <p>⑤-⑤' 断面の斜面は自然斜面であり、斜面高さが最も高く、風化帯が最も厚くなる尾根部を通るすべり方向に断面を設定した。</p> <p>当該斜面は、C<sub>1</sub>級岩盤が分布すること、平均勾配が1:2.1と緩いが、局所的な急勾配部（1:0.6、C<sub>1</sub>級岩盤）があること、シームが分布すること、及び簡便法の最小すべり安全率が小さいことから、評価対象斜面に選定する。</p>   <p>第2図 ⑤-⑤' 断面の比較結果</p>	<p>【斜面Bにおける検討断面】</p> <p>斜面Bにおいては、火砕岩層が概ね一様に分布しており、位置にかかわらず斜面の勾配が同程度であることから、斜面高さが及び断層の分布に着目し、検討断面(②-②' 断面)を設定した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 斜面高さ：アクセスルートの周辺斜面及び敷地下斜面の斜面高さが最大となる位置とする。</li> <li>・ 断層の分布：斜面のすべり方向にすべり面を形成し得る断層であるF-1断層を通る位置とする。</li> </ul> <p>当該断面は、⑨-⑨' 断面に比べ、斜面高さが低いこと及び簡便法の最小すべり安全率が大きいことから、⑨-⑨' 断面の評価に代表させる。</p>   <p>第3図 ②-②' 断面の比較結果</p>	



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

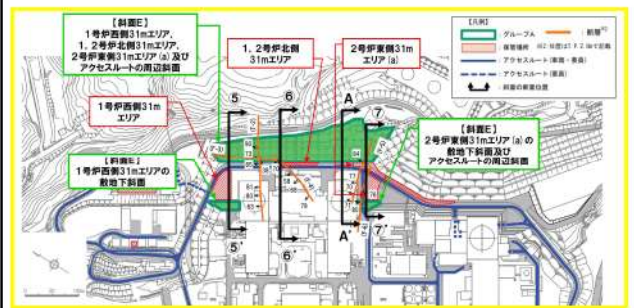
女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>【⑦-⑦' 断面】</p> <p>⑦-⑦' 断面の斜面は自然斜面であり、斜面高さが最も高く、風化帯が最も厚くなる尾根部を通るすべり方向に断面を設定した。</p> <p>当該斜面は、⑤-⑤' 断面に比べ、D級岩盤が分布するが、斜面高さが低いこと、平均勾配が緩いこと、シームが分布しないこと、及び簡便法の最小すべり安全率が大きいことから、⑤-⑤' 断面の評価に代表させる。</p>  <p>※「防波壁及び1号放水連絡通路防波壁の周辺斜面の安定性評価」（令和2年2月28日審査会）で説明した硬質土・粘性土の切取を反映済</p> <p>第4図 ⑦-⑦' 断面の比較結果</p>	<p>【斜面Dにおける検討断面】</p> <p>斜面Dにおいては、火砕岩層が概ね一様に分布しており、位置にかかわらず斜面高さが概ね一様であり、斜面のすべり方向にすべり面を形成し得る断層が分布しないことから、岩級の差異及び斜面の勾配に着目し、検討断面(④-④' 断面)を設定した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・岩級：斜面表層のC級岩級が厚く分布する位置とする。</li> <li>・斜面の勾配：斜面の勾配が最急となる位置とする。</li> </ul> <p>当該断面は、⑨-⑨' 断面に比べ、下位岩級等が分布しないこと、斜面高さが低いこと、斜面勾配が緩いこと、断層が分布しないこと、及び簡便法の最小すべり安全率が大きいことから、⑨-⑨' 断面の評価に代表させる。</p>  <p>第5図 ④-④' 断面の比較結果</p>	



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

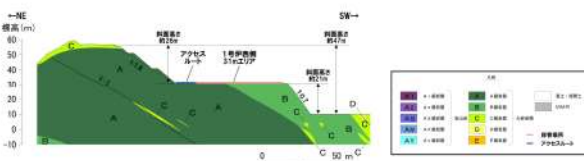
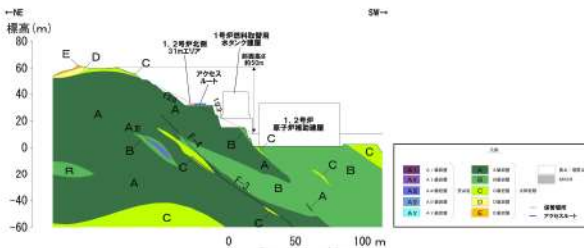
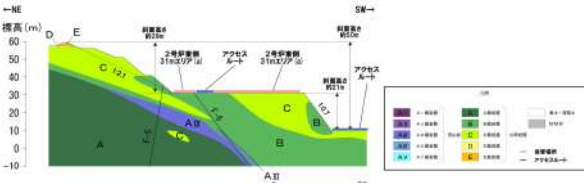
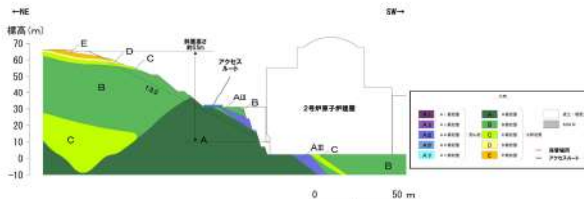
1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
		<p><b>【斜面Eにおける検討断面】</b></p> <p>斜面Eにおいては、概ね火砕岩層が分布しており、位置にかかわらず斜面高さが同程度であることから、断層の分布及び岩級の差異に着目し、検討断面(⑤-⑤'断面～⑦-⑦'断面)を設定した。断面位置の選定理由を以下に示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>⑤-⑤'断面については、斜面Eの北西側において、斜面のすべり方向にすべり面を形成し得る断層<sup>※1</sup>であるF-3断層を通る位置とした。</li> <li>⑥-⑥'断面については、斜面Eの中央付近において、斜面のすべり方向にすべり面を形成し得る断層であるF-3断層及びF-4断層<sup>※2</sup>を通る位置とした。なお、当該断面の斜面高さ(約50m)は、斜面Eにおいて斜面高さが概ね最大となるA-A'断面の斜面高さ(約55m)と比較して、大きな差はない。</li> <li>⑦-⑦'断面については、岩級の差異に着目し、斜面Eの南東側において、斜面表層のC級岩級が厚く分布する位置とした。</li> </ul> <p>⑤-⑤'断面～⑦-⑦'断面は、⑨-⑨'断面に比べ、斜面高さが低いこと及び簡便法の最小すべり安全率が大きいことから、⑨-⑨'断面の評価に代表させる。</p> <p>※1：斜面Eに分布するF-2断層、F-5断層及びF-6断層は、斜面のすべり方向にすべり面を形成しない。F-2断層、F-5断層及びF-6断層の走向・傾斜は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・F-2断層：N52°～70° E/63°～90° W</li> <li>・F-5断層：N75° E～85° W/70°～84° W</li> <li>・F-6断層：N77°～83° E/76° E～80° W</li> </ul> <p>※2：西傾斜の高角逆断層であるF-4断層は、敷地の形状により、斜面Eの南東側では分布しない。</p>	



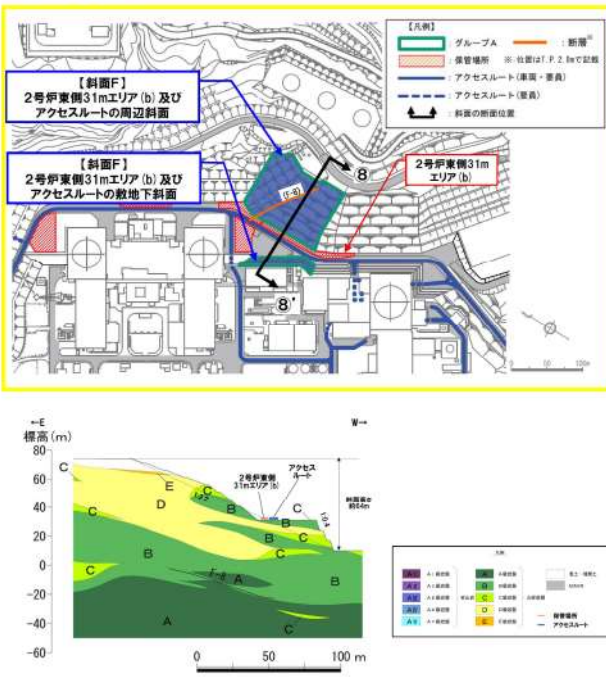
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
		 <p>第6図 ⑤-⑤' 断面の比較結果</p>  <p>第7図 ⑥-⑥' 断面の比較結果</p>  <p>第8図 ⑦-⑦' 断面の比較結果</p>  <p>第9図 A-A' 断面</p>	

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

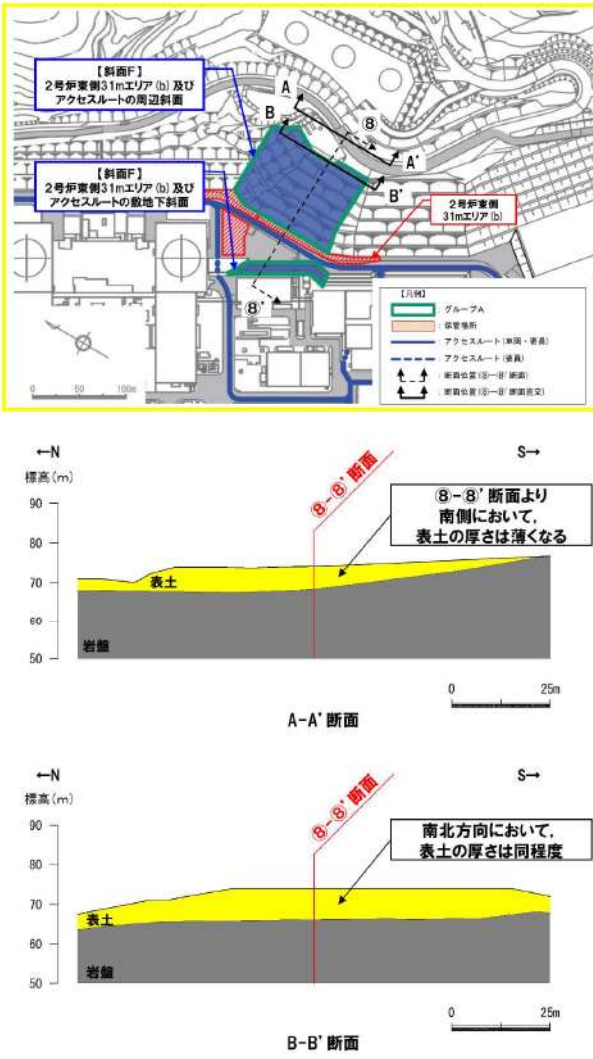
1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
		<p><b>【斜面Fにおける検討断面】</b></p> <p>斜面Fにおいては、火砕岩層が概ね一様に分布しており、位置にかかわらず斜面高さ及び斜面の勾配が同程度であることから、斜面のすべり方向にすべり面を形成し得る断層であるF-8断層を通り、当該斜面の中央付近に検討断面(⑧-⑧')断面を設定した。なお、第11図に示すとおり、⑧-⑧'断面は、斜面Fにおける表土が厚く分布する位置であることを確認している。</p> <p>当該断面は、⑨-⑨'断面に比べ、斜面高さが低いこと、及び簡便法の最小すべり安全率が大きいことから、⑨-⑨'断面の評価に代表させる。</p>  <p>第10図 ⑧-⑧'断面の比較結果</p>	



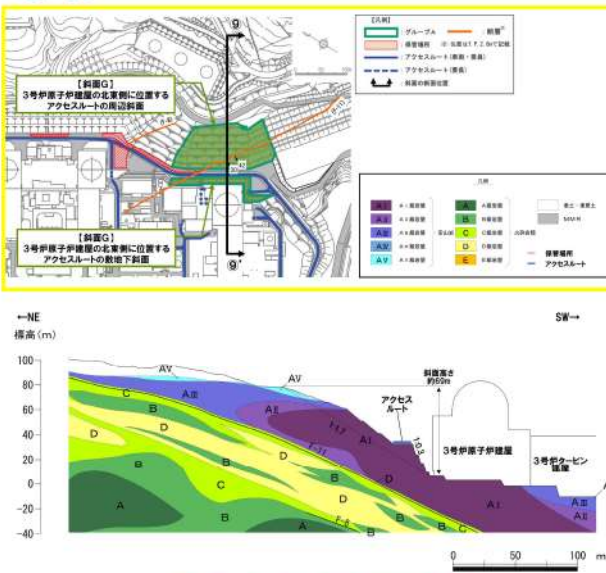
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
		 <p>第11図 斜面Fにおける表土の分布状況</p>	

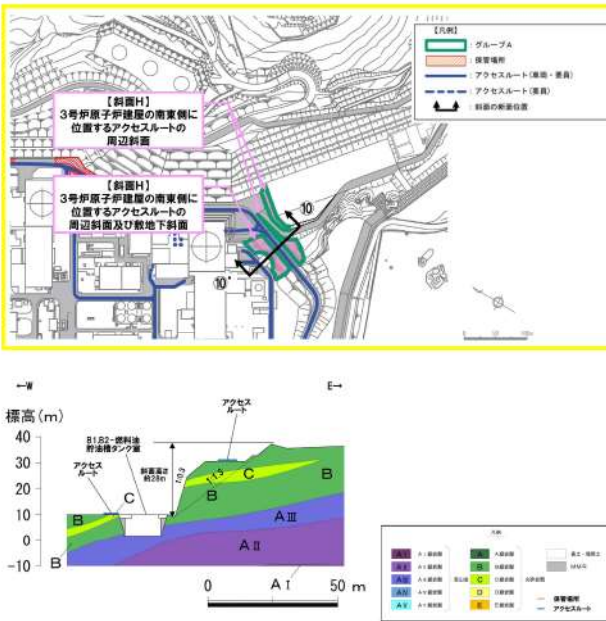
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
		<p>【斜面Gにおける検討断面(評価対象断面)】</p> <p>斜面Gにおいては、安山岩が概ね一様に分布しており、位置にかかわらず斜面高さ及び斜面の勾配が同程度であることから、斜面のすべり方向にすべり面を形成し得る断層であるF-11断層及び3号炉原子炉建屋の中心を通り、当該斜面の中央付近に検討断面(㊹-㊹'断面)を設定した。</p> <p>当該断面は、Av級及びD級岩盤が分布すること、斜面高さが高いこと、一部1:0.3の急勾配部があること、F-11断層が分布すること並びに簡便法の最小すべり安全率が小さいことから、評価対象断面に選定する。</p>  <p>第12図 ㊹-㊹'断面の比較結果</p>	


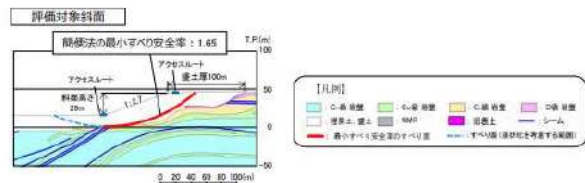
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
		<p><b>【斜面Hにおける検討断面】</b></p> <p>斜面Hにおいては、火砕岩層が概ね一様に分布しており、位置にかかわらず斜面高さが同程度であり、斜面のすべり方向にすべり面を形成し得る断層が分布しないことから、斜面の勾配に着目し、検討断面(⑩-⑩'断面)を設定した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・斜面の勾配：斜面勾配が最急となる位置とする。</li> </ul> <p>当該断面は、⑨-⑨'断面に比べ、下位岩級等が分布しないこと、斜面高さが低いこと、断層が分布しないこと、及び簡便法の最小すべり安全率が大きいことから、⑨-⑨'断面の評価に代表させる。</p>  <p>第13図 ⑩-⑩'断面の比較結果</p>	

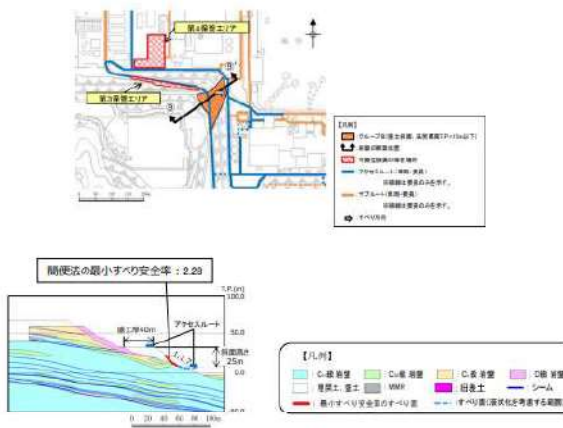
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>2. グループBにおける評価対象斜面の選定理由（詳細）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・盛土で構成される斜面                      グループBの盛土斜面である⑧-⑧'断面及び⑨-⑨'断面の比較検討結果及び評価対象斜面の選定根拠の詳細を断面毎に示す。</li> </ul> <p>【⑧-⑧'断面（評価対象斜面）】</p> <p>⑧-⑧'断面の斜面は盛土斜面であり、斜面高さが最も高く、最急勾配方向となるすべり方向に断面を設定した。</p> <p>当該斜面は、⑨-⑨'断面に比べて、盛土厚が100mと厚いこと、斜面高さが高いこと、及び簡便法の最小すべり安全率が小さいことから、評価対象斜面に選定する。</p>   <p>第5図 ⑧-⑧'断面の比較結果</p>		

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）


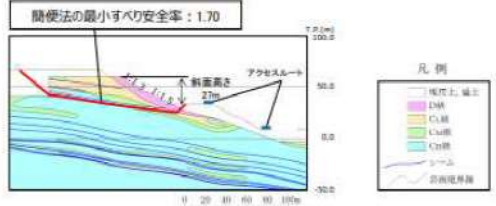
1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>【⑨-⑨' 断面】</p> <p>⑨-⑨' 断面の斜面は盛土斜面であり、斜面高さが最も高く、最急勾配方向となるすべり方向に断面を設定した。</p> <p>当該斜面は、⑧-⑧' 断面に比べ、勾配が急ではあるが、盛土厚が40mと薄いこと、斜面高さが低いこと、及び簡便法の最小すべり安全率が大きいことから、⑧-⑧' 断面の評価に代表させる。</p>  <p>簡便法の最小すべり安全率：2.29</p> <p>第6図 ⑨-⑨' 断面の比較結果</p>		




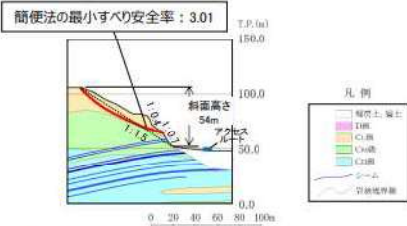
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>3. グループCにおける評価対象斜面の選定理由（詳細）</p> <p>グループCの岩盤斜面である⑨-⑨'断面、⑪-⑪'断面～⑬-⑬'断面の比較検討結果及び評価対象斜面の選定根拠の詳細を断面毎に示す。</p> <p><b>【⑨-⑨'断面】</b></p> <p>⑨-⑨'断面の斜面は自然斜面であり、斜面高さが最も高く、風化帯が最も厚くなる尾根部を通るすべり方向に断面を設定した。当該斜面は、⑫-⑫'断面に比べ、斜面高さが低いこと、斜面の勾配が緩いこと、及び簡便法の最小すべり安全率が大きいことから、⑫-⑫'断面の評価に代表させる。</p>   <p>簡便法の最小すべり安全率：1.70</p> <p>第7図 ⑨-⑨'断面の比較結果</p>		

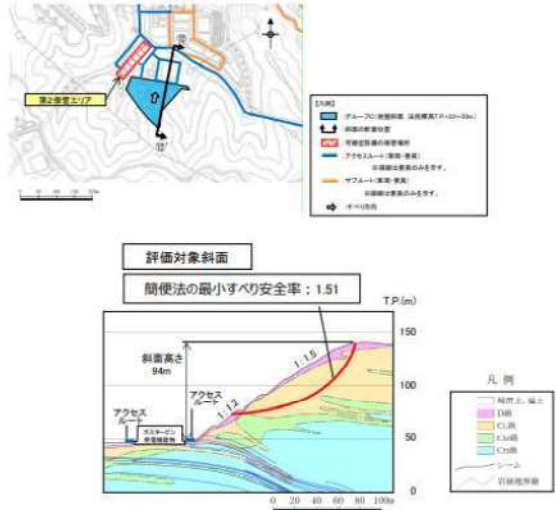
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>【⑪-⑪' 断面】</p> <p>⑪-⑪' 断面の斜面は自然斜面であり、斜面高さが最も高く、風化帯が最も厚くなる尾根部を通るすべり方向に断面を設定した。                  当該斜面は、⑫-⑫' 断面に比べ、斜面高さが低いこと、及び簡便法の最小すべり安全率が大きいことから、⑫-⑫' 断面の評価に代表させる。</p>   <p>簡便法の最小すべり安全率：3.01</p> <p>第8図 ⑪-⑪' 断面の比較結果</p>		


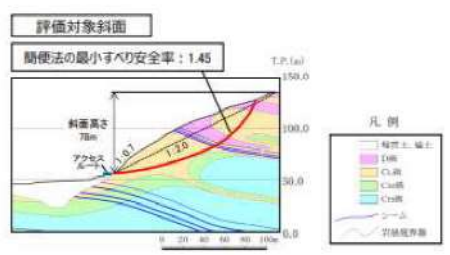
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>【⑫-⑫'断面（評価対象斜面）】</p> <p>⑫-⑫'断面の斜面は切取斜面であり、斜面高さが最も高く、最急勾配方向となるすべり方向に断面を設定した。</p> <p>当該斜面は、D級岩盤及びC<sub>1</sub>級岩盤が分布すること、斜面高さが94mとグループC（T.P.+33m～50m）の斜面で最も高いこと、1:1.2の急勾配部があること、シームが分布すること、及び簡便法の最小すべり安全率が小さいことから、評価対象斜面に選定する。</p>  <p>第9図 ⑫-⑫'断面の比較結果</p>		


赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>【⑬-⑬' 断面（評価対象斜面）】</p> <p>⑬-⑬' 断面の斜面は自然斜面であり、斜面高さが最も高く、風化帯が最も厚くなる尾根部を通るすべり方向に断面を設定した。</p> <p>当該斜面は、D 級岩盤及びC<sub>1</sub> 級岩盤が分布すること、局所的な急勾配部（1:0.7、C<sub>1</sub> 級岩盤）があること、シームが分布すること、及び⑭-⑭' 断面に比べ簡便法の最小すべり安全率が小さいことから、評価対象斜面に選定する。</p>   <p>第10図 ⑬-⑬' 断面の比較結果</p>		

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

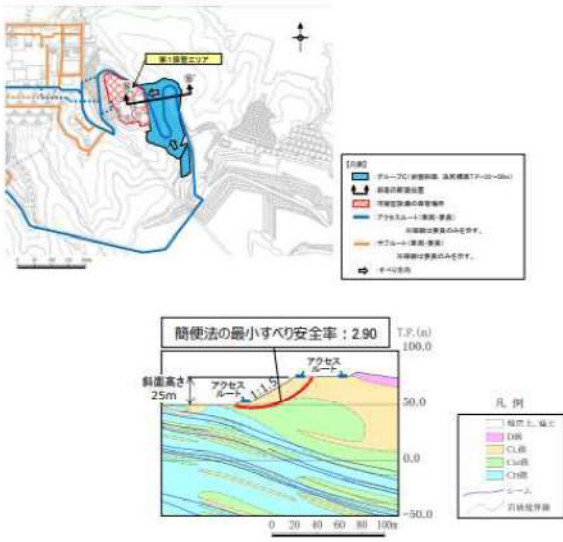
1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>【⑭-⑭'断面（評価対象斜面）及び⑮-⑮'断面】</p> <p>⑭-⑭'断面及び⑮-⑮'断面の斜面は自然斜面であり、斜面高さが最も高く、風化帯が最も厚くなる尾根部を通るすべり方向に断面を設定した。</p> <p>⑭-⑭'断面の斜面は、D級岩盤及びC<sub>1</sub>級岩盤が分布すること、シームが分布すること、及び⑫-⑫'断面に比べ簡便法の最小すべり安全率が小さいことから、評価対象斜面に選定する。</p> <p>また、⑮-⑮'断面の斜面は、⑫-⑫'断面に比べ、斜面高さが低いこと、平均勾配が緩いこと、及び簡便法の最小すべり安全率が大きいことから、⑫-⑫'断面の評価に代表させる。</p>  <p>第11図 ⑭-⑭'断面及び⑮-⑮'断面の比較結果</p>		



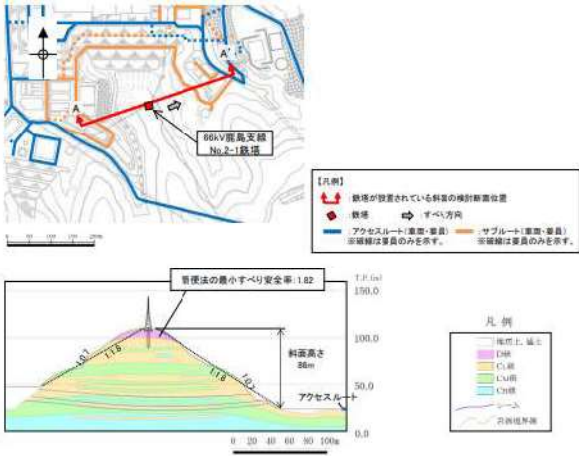
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>【⑩-⑩'断面】</p> <p>⑩-⑩'断面の斜面は切取斜面であり、斜面高さが最も高く、最急勾配方向となるすべり方向に断面を設定した。</p> <p>当該斜面は、⑫-⑫'断面に比べ、斜面高さが低いこと、平均勾配が1:1.5と緩いこと、シームが分布しないこと、及び簡便法の最小すべり安全率が大きいことから、⑫-⑫'断面の評価に代表させる。</p>  <p>第12図 ⑩-⑩'断面の比較結果</p>		

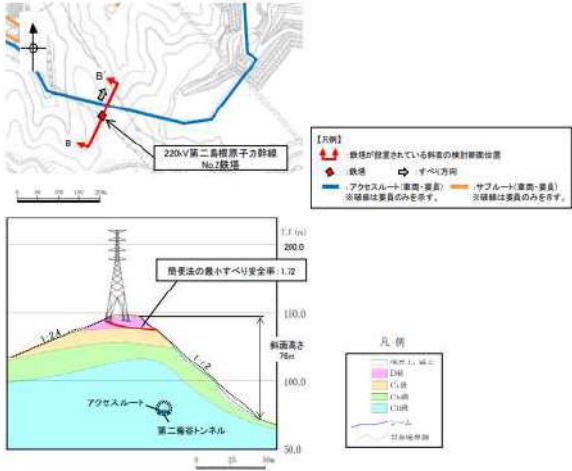
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>4. 鉄塔が設置されている斜面の断面比較結果（詳細）</p> <p>鉄塔が設置されている斜面の検討断面であるA-A'断面～C-C'断面の比較検討結果の詳細を断面毎に示す。</p> <p><b>【A-A'断面（評価対象斜面）】</b></p> <p>A-A'断面の斜面は自然斜面であり、鉄塔付近を通る断面のうち、斜面高さが高くなり、風化帯が最も厚くなる尾根部を通るすべり方向に断面を設定した。</p> <p>当該斜面は、D級岩盤及びC<sub>1</sub>級岩盤が存在すること、斜面高さが最も高いこと、一部1:0.7の急勾配部があること、シームが分布すること、及び簡便法の最小すべり安全率が小さいことから、評価対象斜面に選定する。</p>  <p>第13図 A-A'断面の比較結果</p>		

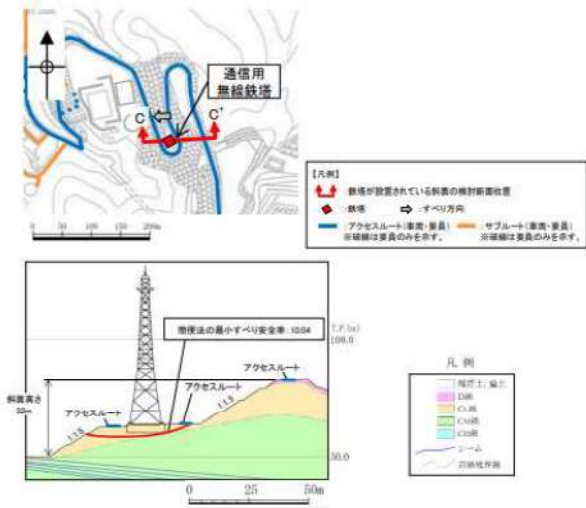
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>【B-B'断面（評価対象斜面）】</p> <p>B-B'断面の斜面は自然斜面であり、通常であれば尾根部を通すが、尾根部が概ね同等の標高になっており、傾斜が緩いため、鉄塔付近を通る断面のうち、斜面高さが高くなり、最急勾配となるすべり方向に断面を設定した。</p> <p>当該斜面は、D級岩盤及びC<sub>L</sub>級岩盤が存在すること、1:1.2の急勾配であること、及びA-A'断面に比べ簡便法の最小すべり安全率が小さいことから、評価対象斜面に選定する。</p>  <p>第14図 B-B'断面の比較結果</p>		

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p><b>【C-C' 断面】</b></p> <p>C-C'断面の斜面は切取斜面であり、鉄塔付近を通る断面のうち、斜面高さが高くなり、勾配が急となるすべり方向に断面を設定した。当該斜面は、A-A'断面に比べて斜面高さが低いこと、平均勾配が緩いこと、シームが分布しないこと、及び簡便法の最小すべり安全率が大きいことから、A-A'断面の評価に代表させる。</p>  <p>第15図 C-C'断面の比較結果</p>		



泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

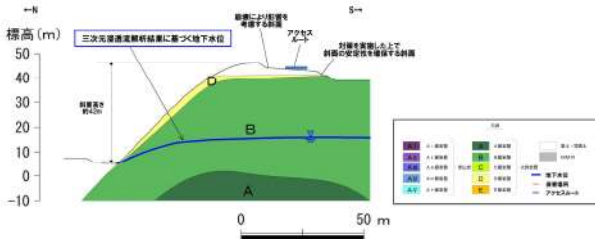
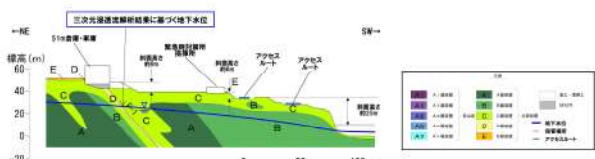
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>(参考-2) すべり安定性評価の基準値の設定について</p> <p>斜面のすべり安定性評価における評価基準値を1.0としたことについて、以下の理由から、二次元動的有限要素法解析におけるすべり安全率が1.0を上回れば、斜面の安定性は確保できると考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「斜面安定解析入門（社団法人地盤工学会）」<sup>※1</sup>において、「有限要素法を用いた動的解析ですべり安全率が1以上であれば、局所安全率が1を下回る所があっても、全体的なすべり破壊は生じないものと考えられる。さらに、このすべり安全率が1を下回っても、それが時間的に短い区間であれば、やはり必ずしも全体的すべりに至らないであろう。」と示されている。</li> <li>・「大規模地震に対するダム耐震性能照査指針（案）・同解説（国土交通省河川局）に係る参考資料」<sup>※2</sup>において、等価線形化法による動的解析を用いたすべり安定性の検討において、すべり安全率が1を下回る場合にはすべり破壊が発生する可能性があるとして示されている。</li> <li>・「道路土工盛土工指針（社団法人日本道路協会）」<sup>※3</sup>において、「レベル2地震動に対する設計水平震度に対して、円弧すべり面を仮定した安定解析法によって算出した地震時安全率の値が1.0以上であれば、盛土の変形量は限定的なものにとどまると考えられるため、レベル2地震動の作用に対して性能2を満足するとみなしてよい。」と示されている。</li> </ul> <p>注）レベル2地震動：供用期間中に発生する確率は低い大きな強度を持つ地震動。          注）性能2：想定する作用による損傷が限定的なものにとどまり、盛土としての機能の回復がすみやかにい行い得る性能。</p> <p>また、解析に当たっては、以下に示す保守的な評価を行っているため、すべり安全率1.0は評価基準値として妥当であると考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2次元断面による評価であり、現実のすべりブロック（3次元形状）が持つ側方抵抗を考慮していないため、保守的な評価となっている。</li> <li>・各要素の応力状態より、「引張応力が発生した要素」、「せん断強度に達した要素」については、せん断抵抗力の算定に用いる強度に残留強度を採用し、健全強度より低下させることで安全側の評価を実施している。</li> </ul> <p>※1：社団法人地盤工学会，P81          ※2：国土交通省 国土技術政策総合研究所，平成17年3月，P132          ※3：社団法人日本道路協会，平成22年4月，P123</p>	<p>(参考-2) すべり安定性評価の基準値の設定について</p> <p>斜面のすべり安定性評価における評価基準値を1.0としたことについて、以下の理由から、二次元動的有限要素法解析におけるすべり安全率が1.0を上回れば、斜面の安定性は確保できると考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「斜面安定解析入門（社団法人地盤工学会）」<sup>※1</sup>において、「有限要素法を用いた動的解析ですべり安全率が1以上であれば、局所安全率が1を下回る所があっても、全体的なすべり破壊は生じないものと考えられる。さらに、このすべり安全率が1を下回っても、それが時間的に短い区間であれば、やはり必ずしも全体的すべりに至らないであろう。」と示されている。</li> <li>・「大規模地震に対するダム耐震性能照査指針（案）・同解説（国土交通省河川局）に係る参考資料」<sup>※2</sup>において、等価線形化法による動的解析を用いたすべり安定性の検討において、すべり安全率が1を下回る場合にはすべり破壊が発生する可能性があるとして示されている。</li> <li>・「道路土工盛土工指針（社団法人日本道路協会）」<sup>※3</sup>において、「レベル2地震動に対する設計水平震度に対して、円弧すべり面を仮定した安定解析法によって算出した地震時安全率の値が1.0以上であれば、盛土の変形量は限定的なものにとどまると考えられるため、レベル2地震動の作用に対して性能2を満足するとみなしてよい。」と示されている。</li> </ul> <p>注）レベル2地震動：供用期間中に発生する確率は低い大きな強度を持つ地震動。          注）性能2：想定する作用による損傷が限定的なものにとどまり、盛土としての機能の回復がすみやかにい行い得る性能。</p> <p>また、解析に当たっては、以下に示す保守的な評価を行っているため、すべり安全率1.0は評価基準値として妥当であると考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2次元断面による評価であり、現実のすべりブロック（3次元形状）が持つ側方抵抗を考慮していないため、保守的な評価となっている。</li> <li>・各要素の応力状態より、「引張応力が発生した要素」、「せん断強度に達した要素」については、せん断抵抗力の算定に用いる強度に残留強度を採用し、健全強度より低下させることで安全側の評価を実施している。</li> </ul> <p>※1：社団法人地盤工学会，P81          ※2：国土交通省 国土技術政策総合研究所，平成17年3月，P132          ※3：社団法人日本道路協会，平成22年4月，P123</p>	

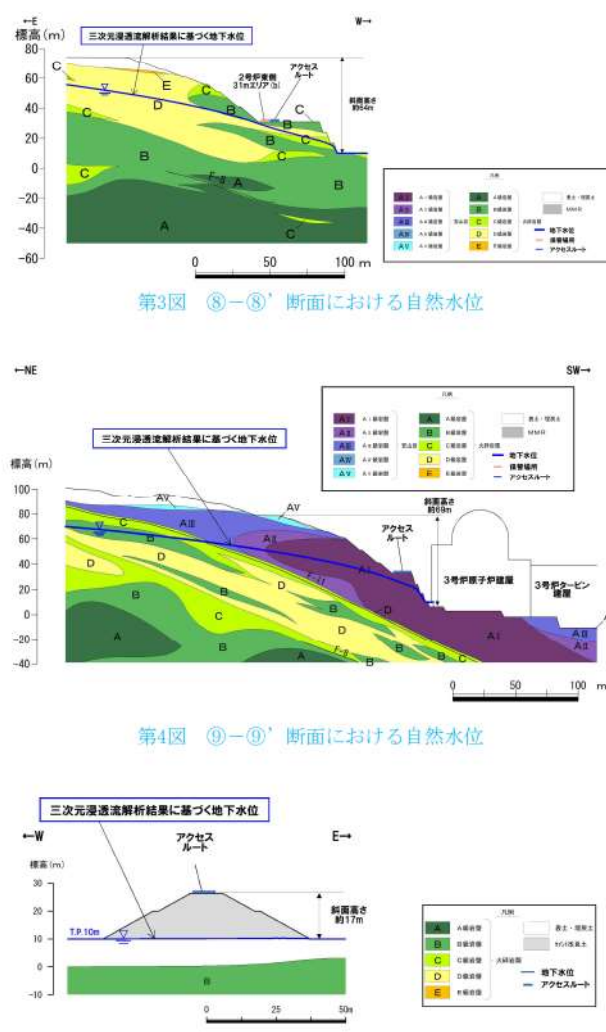
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
		<p>(参考-3) 斜面安定性評価における液状化影響の考慮について</p> <p>地盤の液状化を考慮する際、地表面が傾斜している場合には、側方流動による影響があると考えられることから、地下水位分布の状況を踏まえ、液状化の影響を考慮する。</p> <p>解析により斜面の安定性評価を実施する斜面において、検討断面位置における自然水位※を参照し、自然水位以深に埋戻土等が分布する場合は、液状化の影響を考慮した斜面の安定性評価を実施する。</p> <p>表土・埋戻土が分布する①-①' 断面、②-②' 断面、⑧-⑧' 断面、⑨-⑨' 断面及び⑩-⑩' 断面位置における自然水位を第1図～第5図に示す。</p> <p>液状化範囲の検討に用いる検討用地下水位については、自然水位を踏まえて設定する。</p> <p>※：地下水排水設備に期待しない場合の三次元浸透流解析の予測解析結果</p>  <p>第1図 ①-①' 断面における自然水位</p>  <p>第2図 ②-②' 断面における自然水位</p>	<p>【島根】</p> <p>記載方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 泊は、斜面安定性評価における液状化影響の考慮の考え方を記載。</li> </ul>

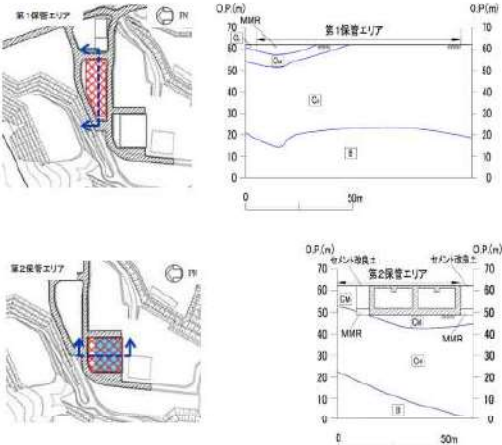
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
		 <p>第3図 ⑧-⑧' 断面における自然水位</p> <p>第4図 ⑨-⑨' 断面における自然水位</p> <p>第5図 ⑩-⑩' 断面における自然水位</p>	

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

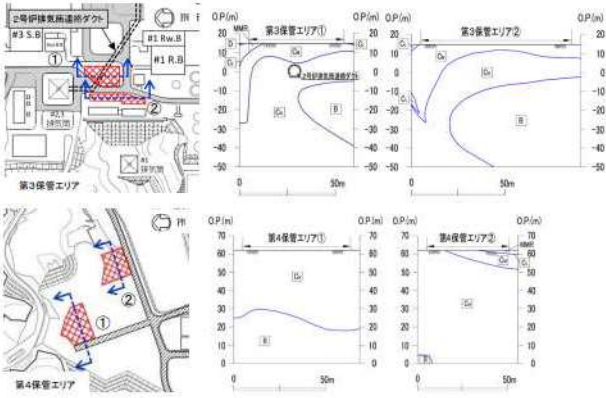

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>3. 敷地下斜面の選定根拠</p> <p>(1) 保管場所及び屋外アクセスルートの支持地盤</p> <p>第24図、第25図に示すとおり各保管場所は岩盤等に支持されている。</p> <p>また、第26図に示すとおり0.P.+62m盤から0.P.+14.8m盤に至るまでのアクセスルートの大部分は岩盤上に設置されており、一部盛土上を通過する。</p>  <p>第24図 第1、第2保管エリアの支持地盤</p>			



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
 <p>第25図 第3、第4保管エリアの支持地盤</p>  <p>第26図 アクセスルート2の支持地盤</p>			

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉

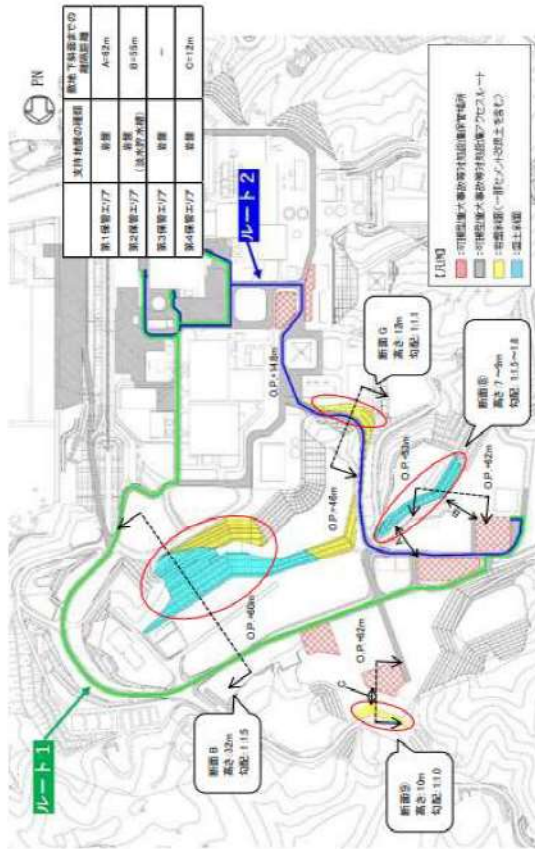
島根原子力発電所2号炉

泊発電所3号炉

相違理由

(2) 敷地下斜面の抽出

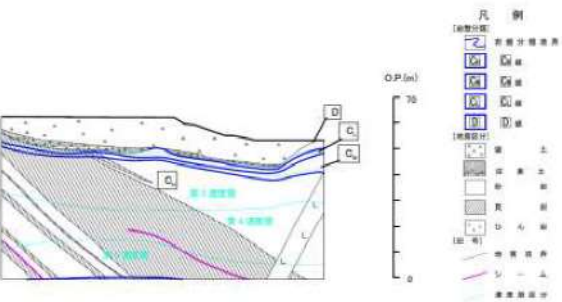
保管場所及びアクセスルートの支持地盤の状況を踏まえ、敷地下斜面を第27図のとおり網羅的に抽出する。



第27図 保管場所及びアクセスルート敷地下斜面の抽出

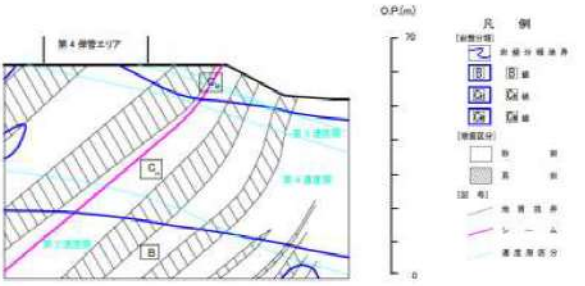
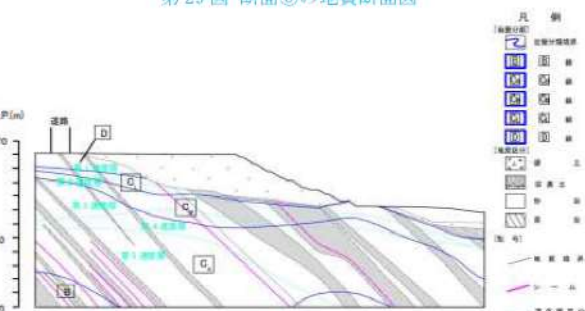
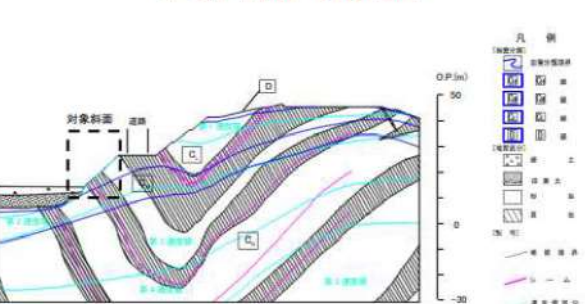
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>(3) 敷地下斜面の安定性評価断面</p> <p>0.P.+62m盤にある第1, 第2, 第4保管エリアは、いずれも岩盤上に設置されており、法肩から斜面高さ以上の離隔を確保していることから、敷地下斜面のすべりによる影響は想定されない。また、第3保管エリアには敷地下斜面は存在しない。0.P.+62m盤の敷地下斜面の影響について、強度の小さい盛土で構成され、斜面高さが最大となる斜面Bの安定性を確認し、保管場所における敷地下斜面の評価を補充する。</p> <p>アクセスルートの敷地下斜面について、第27図で抽出した斜面のすべり方向を考慮し、各一連の斜面の地質断面図を第28図～第31図に示す。</p> <p>評価断面の選定に当たっては、斜面高さや地盤の種類（岩盤、盛土）を勘案し、斜面崩壊のおそれ大きいと考えられる斜面を選定する。</p> <p>断面⑧は、第28図に示すとおり、盛土からなる高さ9mの斜面である。</p> <p>断面Bは、第30図に示すとおり、盛土からなる高さが32mの斜面であり、地震時の加速度等の応答が大きいと想定されることから、盛土斜面の評価は断面Bで代表する。</p> <p>断面⑨は、第29図に示すとおり、C<sub>2</sub>級が分布する岩盤からなる、高さ10mの斜面である。</p> <p>断面Gは、第31図に示すとおり、C<sub>1</sub>級及びC<sub>2</sub>級が分布する岩盤からなる、高さ12mの斜面である。</p> <p>断面⑨及び断面Gは盛土からなる断面Bと比較して斜面高さが低く、盛土より優位にせん断強度が大きいC<sub>1</sub>級以上の岩盤からなる斜面であることから、これら岩盤斜面の評価は断面Bで代表する。</p>  <p>第28図 断面⑧の地質断面図</p>			

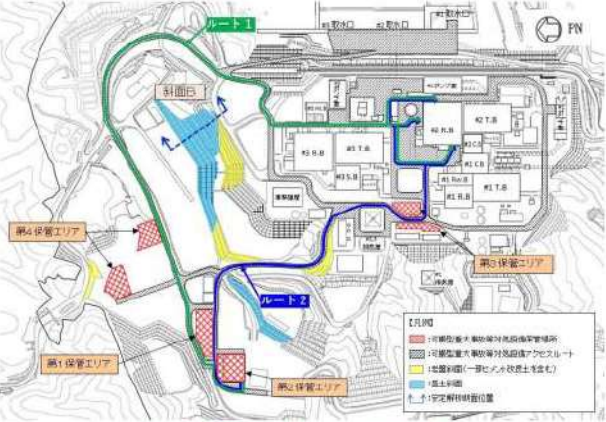
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>第4号管エリア</p>  <p>第29図 断面⑨の地質断面図</p>  <p>第30図 断面Bの地質断面図</p>  <p>第31図 断面Gの地質断面図</p>			

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>(4) 選定結果</p> <p>保管場所及びアクセスルートの敷地下斜面について、評価対象として選定した斜面Bの断面位置を第32図に示す。</p>  <p>第32図 評価対象とする敷地下斜面</p>			



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>4. 安定性評価の方法</p> <p>(1) 斜面の評価フロー</p> <p>評価対象として選定した斜面について、第33図のフローにより評価を実施する。</p> <p>※1 アクセスルートのみ周辺の斜面・敷地下斜面の場合          ※2 傾度が小さい場合（すべり安全率1.5未満を目安）は、より精緻な二次元有限要素法解析で確認する。          ※3 傾度が小さい（すべり安全率Fs=1.00）ことから、地盤物性のばらつきや斜面崩壊を仮定した評価を実施する。</p>			

第33図 保管場所及びアクセスルートに対する斜面の評価フロー

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉

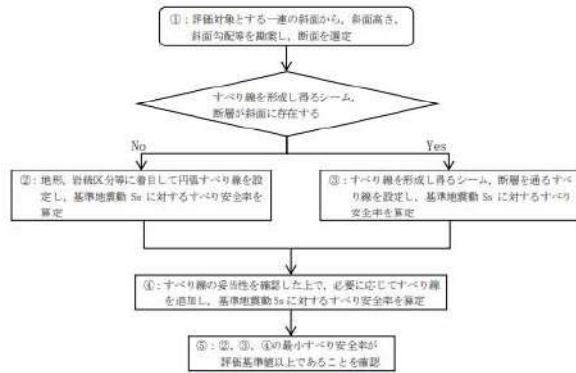
島根原子力発電所2号炉

泊発電所3号炉

相違理由

(2) 斜面の安定性評価フロー

斜面の安定性評価は、第34図のフローにより行う。  
 地下水位の設定については別紙(37)に示す。



第34図 斜面の安定性評価フロー

(3) 解析コード

斜面の解析に用いたコードは以下のとおり。なお、各解析コード  
 の妥当性については、理論解との比較等により検証している。

	静的解析	地震応答解析	ナベリ計算
斜面A	STRESS-NLAP Ver. 2.91	Super FLUSH Ver. 6.0	suberi_sf ver. 2
斜面B	SAC2D Ver. 2.10	Super FLUSH Ver. 6.0	suberi_Type6789_SAC2D-HD1 ver. 0
斜面C	—	LIQUEUR ver. 16.1B	COSTANA ver. 18.1F
斜面F	BG0195HDW1 ver. 5.06	Ves1-dyn ver. 2.03	SLIPO2HDW1 ver. 4.07
斜面G	—	LIQUEUR ver. 15.1H	COSTANA ver. 17.1E/18.1F

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

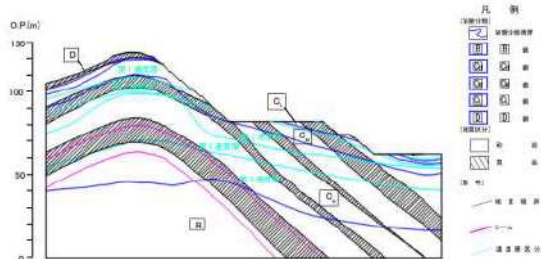
女川原子力発電所2号炉

(4) 斜面の地質断面図と解析メッシュ図

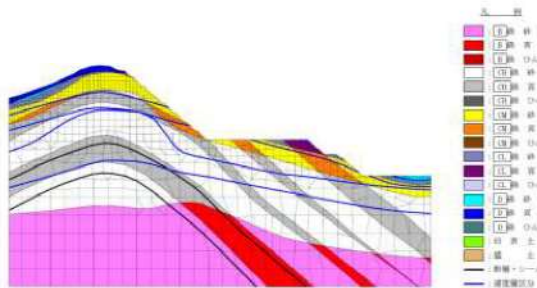
二次元有限要素法解析により斜面の安定性を評価する斜面A、B、Fについて、斜面の位置を第35図に、地質断面図及び解析モデル図を第36図～第41図に示す。



第35図 斜面位置図



第36図 斜面Aの地質断面図



第37図 斜面Aの解析メッシュ図

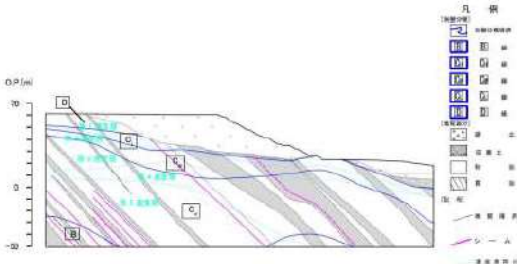
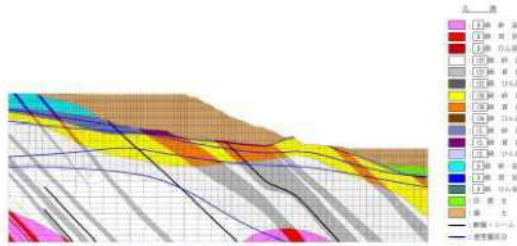
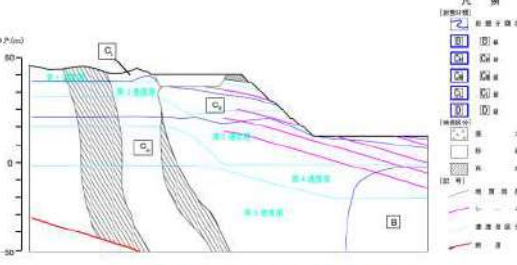
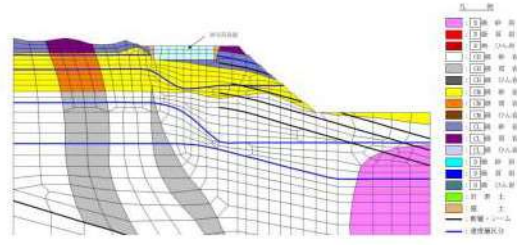
島根原子力発電所2号炉

泊発電所3号炉

相違理由

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p data-bbox="273 108 497 132">女川原子力発電所2号炉</p>  <p data-bbox="255 459 515 483">第38図 斜面Bの地質断面図</p>  <p data-bbox="237 753 533 777">第39図 斜面Bの解析メッシュ図</p>  <p data-bbox="255 1072 515 1096">第40図 斜面Fの地質断面図</p>  <p data-bbox="237 1391 533 1415">第41図 斜面Fの解析メッシュ図</p>			

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

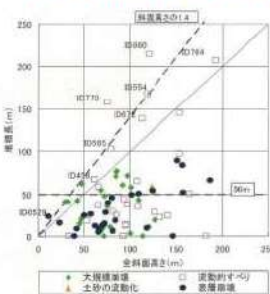
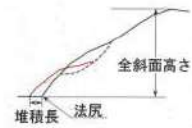
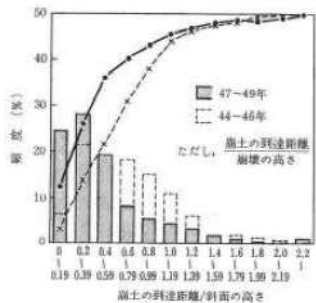
1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																													
<p>5. 斜面からの離隔距離の考え方</p> <p>保管場所及びアクセスルートの周辺斜面については、斜面から離隔を確保することを基本とし、離隔が確保できない場合は所要のすべり安全率を確保することにより崩壊土砂の影響を受けないことを確認している。</p> <p>斜面からの離隔については、各種文献及び解析により岩盤斜面は斜面高さの1.4倍、盛土斜面は斜面高さの2倍と設定している。</p> <p>(1) 各種文献の調査結果</p> <p>土砂の到達距離についての各種文献の記載は以下のとおり。</p> <table border="1" data-bbox="80 427 687 791"> <thead> <tr> <th>文献名</th> <th>記載内容</th> <th>根拠</th> <th>到達距離</th> <th>対象斜面</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① 原子力発電所耐震設計技術指針 (JEAG4601-1987)</td> <td>原子炉建屋周辺斜面として安定性評価の対象とすべき斜面の考え方</td> <td rowspan="4">実績</td> <td>約50m以内 or 約1.4H以内</td> <td rowspan="4">自然斜面</td> </tr> <tr> <td>② 原子力発電所の基礎地盤及び周辺斜面の安定性評価技術&lt;技術資料&gt;</td> <td>2004年新潟県中越地震による斜面崩壊事例からの分析結果</td> <td>1.4H (斜面高×1.4倍)</td> </tr> <tr> <td>③ 土質工学ハンドブック</td> <td>昭和44～49年の崩壊れの事例収集</td> <td>1.4H (斜面高×1.4倍)</td> </tr> <tr> <td>④ 土木工学ハンドブック</td> <td>1972～1982年に発生した急傾斜地3500地区の調査結果</td> <td>0.55～0.79H (崩壊高×0.55～0.79倍)</td> </tr> <tr> <td>⑤ 土砂災害防止法</td> <td>土砂災害警戒区域</td> <td>警戒区域*</td> <td>2.0H (斜面高×2.0倍)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑥ 『宅地防災マニュアル』の解説</td> <td>急傾斜地崩壊危険箇所の考え方</td> <td></td> <td>2.0H (斜面高×2.0倍)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>* 警戒区域：建築物に損壊が生じ、住民等の生命又は身体に著しい危害が生じるおそれがある区域。危険の周知、警戒避難体制の整備等が図られる。</p> <p>【実績に基づいて整理された文献等：①～④】</p> <p>①原子力発電所耐震設計技術指針 (JEAG4601-1987)</p> <p>当文献では、「原子炉建屋周辺斜面として安定性評価の対象とすべき斜面は、一般的に斜面のり尻と原子炉建屋の離隔距離が約50m以内あるいは斜面高さの約1.4倍以内の斜面と考えられる。」としている。</p> <p>4.1.3 安全性評価の基本的な考え方</p> <p>原子炉建屋基礎地盤、原子炉建屋周辺斜面の安定性評価に当たっては、地盤調査・試験結果をもとに適切な地盤モデルを定め、必要に応じてすべり面法等の慣用法による解析、有限要素法等による静的解析、動的解析を実施する。</p> <p>原子炉建屋基礎地盤は、原則として十分に支持力のある安定した地盤に求められるために、一般には安定性が問題となることは少ないが、特に卓越した異方性あるいは顕著な不均質性が認められる場合には、応力的な不均衡が生じる可能性があるため、例えば弱層等に沿った地盤のすべり、支持力、沈下等を詳細に検討することが必要となろう。</p> <p>一方、周辺斜面の場合には、原子炉建屋との離隔距離、斜面の規模等を考慮して安定性評価の対象とすべき範囲を決めることが、まず必要となってくる。この点については「3.2.3 敷地内調査」で述べたように、既往の斜面崩壊事例の調査結果から、<u>対象とすべき斜面は、一般に斜面のり尻と原子炉建屋の離隔距離が約50m以内あるいは斜面高さの約1.4倍以内の斜面と考えられる。</u>斜面には岩盤斜面、土質斜面、盛土斜面等があり、安定性評価に際しては、これら構成材料の特性をよく把握して、適切な解析方法を用いることが重要である。</p>	文献名	記載内容	根拠	到達距離	対象斜面	① 原子力発電所耐震設計技術指針 (JEAG4601-1987)	原子炉建屋周辺斜面として安定性評価の対象とすべき斜面の考え方	実績	約50m以内 or 約1.4H以内	自然斜面	② 原子力発電所の基礎地盤及び周辺斜面の安定性評価技術<技術資料>	2004年新潟県中越地震による斜面崩壊事例からの分析結果	1.4H (斜面高×1.4倍)	③ 土質工学ハンドブック	昭和44～49年の崩壊れの事例収集	1.4H (斜面高×1.4倍)	④ 土木工学ハンドブック	1972～1982年に発生した急傾斜地3500地区の調査結果	0.55～0.79H (崩壊高×0.55～0.79倍)	⑤ 土砂災害防止法	土砂災害警戒区域	警戒区域*	2.0H (斜面高×2.0倍)		⑥ 『宅地防災マニュアル』の解説	急傾斜地崩壊危険箇所の考え方		2.0H (斜面高×2.0倍)				
文献名	記載内容	根拠	到達距離	対象斜面																												
① 原子力発電所耐震設計技術指針 (JEAG4601-1987)	原子炉建屋周辺斜面として安定性評価の対象とすべき斜面の考え方	実績	約50m以内 or 約1.4H以内	自然斜面																												
② 原子力発電所の基礎地盤及び周辺斜面の安定性評価技術<技術資料>	2004年新潟県中越地震による斜面崩壊事例からの分析結果		1.4H (斜面高×1.4倍)																													
③ 土質工学ハンドブック	昭和44～49年の崩壊れの事例収集		1.4H (斜面高×1.4倍)																													
④ 土木工学ハンドブック	1972～1982年に発生した急傾斜地3500地区の調査結果		0.55～0.79H (崩壊高×0.55～0.79倍)																													
⑤ 土砂災害防止法	土砂災害警戒区域	警戒区域*	2.0H (斜面高×2.0倍)																													
⑥ 『宅地防災マニュアル』の解説	急傾斜地崩壊危険箇所の考え方		2.0H (斜面高×2.0倍)																													



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>②原子力発電所の基礎地盤及び周辺斜面の安定性評価技術&lt;技術資料&gt;</p> <p>当文献では、全135件の崩壊事例をもとに斜面高さと堆積長の関係を整理した上で、「JEAG4601-1987に定められる周辺斜面の離隔距離に関する目安値（約50m以内あるいは斜面高さの約1.4倍以内）は、崩壊土塊が水の影響を顕著に受ける場合を除いて、十分に保守的なものとなっている。」としている。</p>  <p>崩壊事例135件における崩壊土砂の堆積長（＝到達距離）は、50m以内及び斜面高さの1.4倍以内となっている。</p> <p>※図中のID860、ID554、ID770は、斜面の上部で発生した崩壊による土塊が谷に沿って流動している事例である。</p>  <p>③土質工学ハンドブック</p> <p>当文献は、昭和44～49年の崖崩れの事例を収集し、（崩土の到達距離）/（斜面の高さ）を分析したもので、斜面の高さの1.4倍までに、全体の94.2%が含まれるとしている。</p>  <p>④（崩土の到達距離）/（斜面の高さ）は、被災の範囲の実態を示す指標として重要なものであるが、図-29.79に示すように、0.2～0.39が最頻値で、0.6以下で全体の72.5%を占める。更に斜面の高さの1.4倍まで考えれば、全体の94.2%が含まれる。実際問題では、斜面</p>			

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉

島根原子力発電所2号炉

泊発電所3号炉

相違理由

④土木工学ハンドブック

当文献は、1972～1982年に発生した急傾斜地3500地区の調査結果を分析したもので、(崩土の到達距離)/(崩壊の高さ)は土質により異なり、表土及び崩積土で0.57～0.79であるとしている。

表-5.2 斜面構成土質ごとの崩壊規模(平均値)(1978～1982年)<sup>(1)</sup>  
 Magnitude of failures versus material (average: 1978 to 1982)

	崩壊の高さ h(m)	崩壊の幅 W(m)	崩壊の深さ d(m)	崩壊土量 V(m <sup>3</sup> )	崩土の到達距離 L(m)	R/H	L/h
表土	14.3	15.5	1.2	287.0	8.1	0.69	0.57
崩積土	16.2	21.2	1.5	667.5	11.3	0.80	0.79
火山砕屑物	14.3	17.6	3.1	321.6	13.8	0.85	0.96
段丘堆積物	13.9	23.8	2.1	333.1	12.2	0.91	0.84
強風化岩	13.9	16.2	1.6	172.0	7.0	0.72	0.55
岩 (I)	13.7	13.9	1.4	249.8	6.0	0.60	0.43
岩 (II)	13.5	15.1	1.3	230.1	6.8	0.56	0.57
全体	14.6	17.0	1.4	361.2	8.8	0.71	0.63

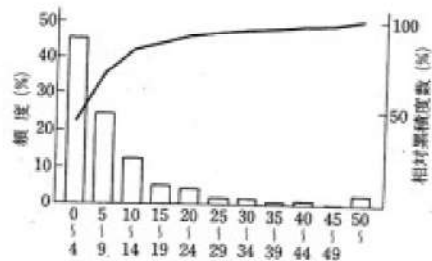


図-5.4 崩土の到達距離 (m) (1972～1982年)<sup>(1)</sup>  
 (Travel distance of failed materials)

【警戒区域を示した文献等：⑤、⑥】

⑤土砂災害防止法

当法令では、急傾斜地の土砂災害警戒区域指定の基準として、急傾斜地の高さの2倍以内という指標が用いられている。  
 また、急斜面地の下端から水平距離が当該急斜面地の高さに対応する距離の2倍以内の範囲を土砂災害警戒区域としながらも、「50mを超える場合は50m」と記載されており、上限は50mとなっている。

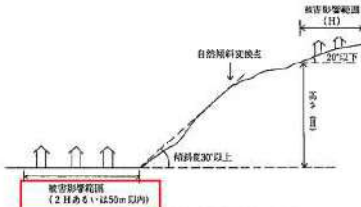
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
 <p><b>土砂災害警戒区域・特別警戒区域</b></p> <p><b>土砂災害警戒区域</b>          急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、住民等の生命又は身体に危害が生じるおそれがあると認められる区域であり、危険の周知、警戒避難体制等の整備が行われます。</p> <p><b>土砂災害特別警戒区域</b>          急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、建築物に崩壊が生じ住民等の生命又は身体に著しい危害が生ずるおそれがあると認められる区域で、特定の開発行為に対する許可制、建築物の構造規制等が行われます。</p> <p><b>警戒区域では</b>          警戒区域の指定          国土交通省が、国土交通省の定める基準に基づき、急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、住民等の生命又は身体に著しい危害が生ずるおそれがあると認められる区域を指定する。</p> <p><b>特別警戒区域ではさらに</b>          建築物の構造規制          建築物の構造規制          建築物の構造規制          建築物の構造規制</p>			


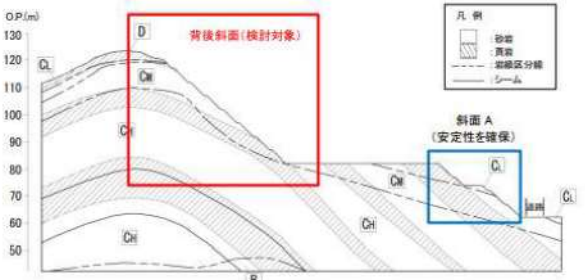
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>⑥宅地防災マニュアルの解説</p> <p>当文献では、土砂災害に係る危険箇所のうち、宅地造成に伴う災害に最も関連の深い急傾斜地崩壊危険箇所の考え方が示されており、急傾斜地崩壊危険箇所としての要件を整理する中で設定する「斜面下部」の定義がなされている。</p> <p>急傾斜地の下端から当該急傾斜地の高さの2倍程度の範囲を斜面下部としながらも、「概ね50mを限度とする。」と記載されており、上限は50mとなっている。</p> <p>土砂災害に係る危険箇所のうち、宅地造成に伴う災害に最も関連の深い急傾斜地崩壊危険箇所の考え方を以下に示す。</p> <p>【危険箇所としての要件】</p> <p>① 水平面とのなす角度が30度以上であること。                  ② 斜面の高さが5m以上であること。                  ③ 斜面上部又は下部に人家が5戸以上あること（官公署、学校、病院、旅館等がある場合は5戸未満でも可）。</p> <p>斜面上部又は下部とは、下図に示すように急傾斜地（傾斜30度以上が4）の下端及び上端から当該急傾斜地の高さの、それぞれ2倍及び1倍程度の範囲（概ね50mを限度とする）をいう。</p>  <p>図X.1 急傾斜地崩壊危険箇所の要件</p> <p>【考え方】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>⑤、⑥の文献で示された到達距離 2.0H については、土砂災害の警戒範囲を示したものである。盛土斜面については、土砂を対象とした⑤、⑥の文献を踏まえ、斜面法尻からの離隔として斜面高さの2倍を適用する。</li> <li>①～④の文献では、岩盤斜面及び盛土斜面のいずれも含んだ崩壊の考え方や実績が整理されており、対象斜面の大部分で到達距離は斜面高さの1.4倍に含まれるとされている。よって、岩盤斜面については、斜面法尻からの離隔として斜面高さの1.4倍を適用する。</li> </ul>			

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

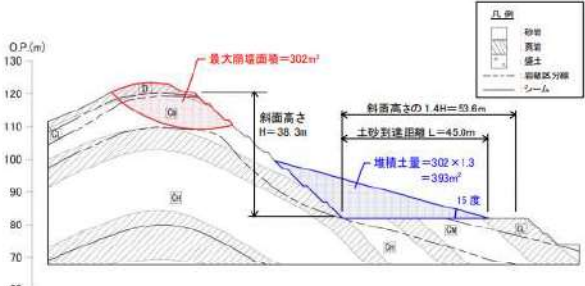
1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>(2) 解析による検討結果</p> <p>保管場所及びアクセスルートの周辺斜面については、斜面から離隔を確保、又は離隔が確保できない場合、所要のすべり安全率を確保することにより、斜面崩壊の影響を受けないことを確認している。</p> <p>岩盤斜面からの離隔については、崩壊の影響が及ぶ範囲を斜面高さの1.4倍としている。ここでは、所要の安全率を確保しない可能性のある斜面として、斜面Aの背後斜面を対象に、斜面崩壊時の到達距離を確認する。検討斜面位置を第42図に、検討断面を第43図に示す。</p>  <p>第42図 斜面A及び背後斜面 位置図</p>  <p>第43図 斜面A及び背後斜面 断面図</p>			



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>到達距離は、二次元有限要素法解析によりすべり安全率を算定し、すべり安全率が1.0を下回るすべり線のうち、土量が最大となるすべり線を対象に確認する。</p> <p>到達距離の算定条件及び算定結果を以下に示す。</p> <p><b>【考慮した条件】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・堆積時の角度は15度とする。                      （安息角と内部摩擦角の関係及び土砂移動時の内部摩擦角の下限値<sup>※1</sup>より設定）</li> <li>・すべり土塊の土量に対して土量変化率1.3を考慮する。</li> </ul> <p>※1 砂防設計公式集（マニュアル）：（社）全国治水砂防協会、S59.11                      ※2 土砂災害防止に関する基礎調査の手引き：（財）砂防フロンティア整備推進機構、H13.6</p>  <p>第44図 斜面崩壊時の最大到達距離</p> <p>第44図より、岩盤斜面で崩壊土量が最大となるケースにおいても、到達距離は1.4H未満であることを確認した。</p> <p>(3) 斜面からの離隔距離の設定</p> <p>(1)の文献調査では、実績に基づいた到達距離は1.4H以内であることを確認した。その上で、斜面法尻からの離隔は、岩盤斜面で斜面高さの1.4倍を、盛土斜面で保守的に斜面高さの2倍を考慮することとした。</p> <p>さらに、(2)の解析では、岩盤斜面で崩壊土量が最大となり堆積距離も最長となる場合の評価を実施し、到達距離が1.4H未満であることを確認した。</p> <p>以上より、斜面法尻からの離隔の設定は妥当であると考える。</p>			

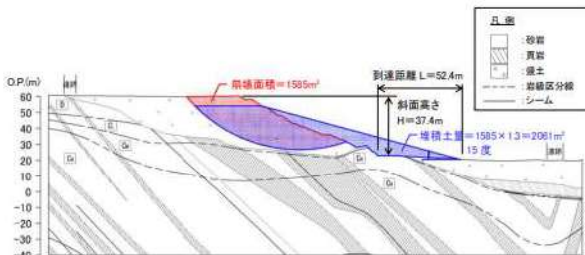
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																								
<p>6. 斜面評価に係る補足説明</p> <p>(1) 斜面Bの評価に係る補足説明</p> <p>a. 地盤物性のばらつきを考慮した評価</p> <p>斜面Bについては、二次元有限要素法解析による評価の結果、すべり安全率は1.0以上を確保しているものの裕度が小さいこと（<math>F_s=1.09</math>）から、地盤物性のばらつきを考慮した評価を実施する。すべり安全率に対しては、地盤物性のうち強度特性のばらつきが大きく影響することから、強度特性に関するばらつきを考慮する。評価結果を以下に示す。地盤物性のばらつきを考慮しても、すべり安全率は1.0以上であり、斜面Bの安定性を確認している。</p> <table border="1" data-bbox="138 448 627 751"> <thead> <tr> <th>基準地震動 Ss</th> <th>すべり安全率 (平均強度)</th> <th>地盤物性のばらつきを 考慮したすべり安全率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Ss-D1</td> <td>1.09</td> <td>1.03</td> </tr> <tr> <td>Ss-D2</td> <td>1.20</td> <td>1.13</td> </tr> <tr> <td>Ss-D3</td> <td>1.29</td> <td>1.22</td> </tr> <tr> <td>Ss-F1</td> <td>1.22</td> <td>1.15</td> </tr> <tr> <td>Ss-F2</td> <td>1.20</td> <td>1.13</td> </tr> <tr> <td>Ss-F3</td> <td>1.53</td> <td>1.44</td> </tr> <tr> <td>Ss-N1</td> <td>1.12</td> <td>1.05</td> </tr> </tbody> </table>	基準地震動 Ss	すべり安全率 (平均強度)	地盤物性のばらつきを 考慮したすべり安全率	Ss-D1	1.09	1.03	Ss-D2	1.20	1.13	Ss-D3	1.29	1.22	Ss-F1	1.22	1.15	Ss-F2	1.20	1.13	Ss-F3	1.53	1.44	Ss-N1	1.12	1.05			
基準地震動 Ss	すべり安全率 (平均強度)	地盤物性のばらつきを 考慮したすべり安全率																									
Ss-D1	1.09	1.03																									
Ss-D2	1.20	1.13																									
Ss-D3	1.29	1.22																									
Ss-F1	1.22	1.15																									
Ss-F2	1.20	1.13																									
Ss-F3	1.53	1.44																									
Ss-N1	1.12	1.05																									

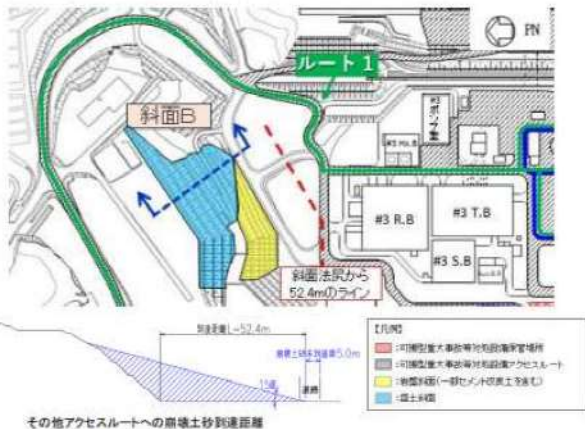
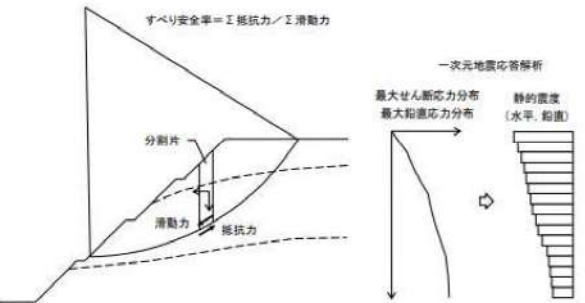
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>b. 斜面崩壊を仮定した場合の評価</p> <p>斜面Bはすべり安全率の裕度が小さいため、万一斜面が崩壊した場合の土砂到達距離を評価することにより、アクセスルートへの影響を確認する。</p> <p>(a) 土砂到達距離の算定方法</p> <p>斜面Bはすべり安全率が1.0以上であることが確認されていることから、崩壊を想定するすべり線は安定性評価において示したすべり安全率が最も小さいすべり線とする。</p> <p>また、土砂到達距離の算定に当たっては、以下の条件を考慮する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・堆積時の角度は15度とする。</li> </ul> <p>(安易角と内部摩擦角の関係及び土砂移動時の内部摩擦角の下限値<sup>※1</sup>より設定)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・すべり土塊の土量に対して土量変化率1.3を考慮する。</li> </ul> <p>※1 砂防設計公式集（マニュアル）：（社）全国治水砂防協会、S59.11</p> <p>※2 土砂災害防止に関する基礎調査の手引き：（財）砂防フロンティア整備推進機構、H13.6</p> <p>(b) 評価結果</p> <p>評価断面における崩壊土砂の到達距離を第45図に示す。評価断面において、崩壊土砂はアクセスルートに到達しないことが確認できる。</p> <p>また、第45図で算定した到達距離52.4mを用いて、斜面Bにおける崩壊土砂の影響範囲を第46図にて検討した。その結果、ルート1に対して土砂は到達せず、その他のアクセスルートに一部土砂が到達するが、必要な道路幅3.7mは確保できることを確認した。</p> <p>以上より、仮に斜面Bの崩壊を仮定した場合でも、崩壊土砂はアクセスルートに対して影響を与えないことを確認した。</p>  <p>第45図 斜面Bの崩壊土砂到達距離</p>			



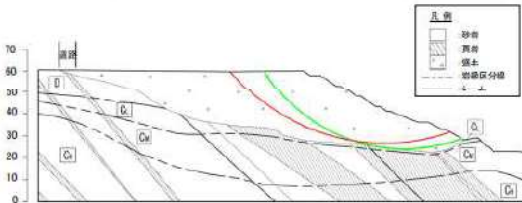




赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
 <p>第46図 崩壊土砂の影響範囲</p> <p>(2) 静的震度を用いた分割法による評価</p> <p>a. 評価方法</p> <p>道路土工（切土工・斜面安定工指針）に基づき、分割法による安定計算を行い、すべり安全率を算定する（第47図）。</p> <p>各分割片におけるすべり面の抵抗力は、岩級及び岩種の分布状況をもとに各岩種・岩級に応じた強度により算定し、滑動力は土塊重量及び地震時慣性力を考慮して算定する。地震時慣性力は原子力発電所耐震設計技術指針（JEAG4601-1987）に基づき、斜面位置での基準地震動 <math>S_s</math> に対する一次元地震応答解析により得られたせん断応力分布と鉛直応力分布をもとに静的震度として考慮する。なお、水平震度と鉛直震度については、保守的に全時刻を通しての最大値を組み合わせる。</p>  <p>第47図 静的震度を用いた分割法による安定計算の概要</p>			

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

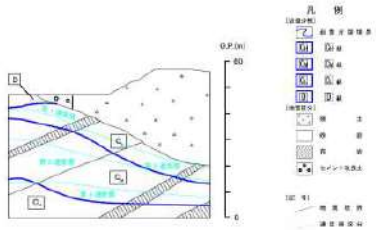
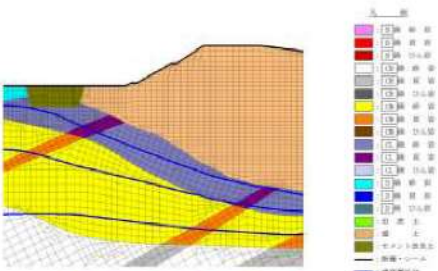
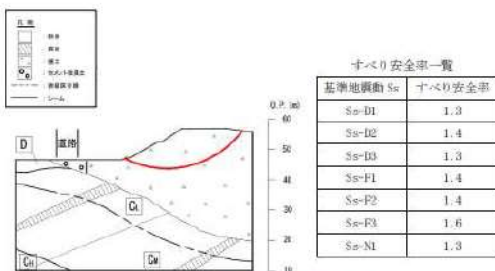
1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由												
<p>b. 解析手法の妥当性</p> <p>周辺斜面の安定性評価については、第33図のフローのとおり静的震度を用いた分割法と二次元有限要素法解析とを使い分ける。ここでは、静的震度を用いた分割法による安定性評価の妥当性を、斜面Bにおける安全率の比較により確認する。</p> <p>c. 評価結果</p> <p>評価結果を第48図に示す。それぞれの評価方法における最小すべり安全率を比較した結果、静的震度を用いた分割法の方が保守的である。以上より、アクセスルートの周辺斜面に対して用いる、静的震度を用いた分割法による評価は、妥当な結果であると考えられる。</p> <p>なお、斜面Bについては二次元有限要素法による評価により、評価基準値であるすべり安全率 1.0 以上を満足していることから、安定性を確認している。</p> <table border="1" data-bbox="174 624 633 695"> <thead> <tr> <th>すべり線</th> <th>評価方法</th> <th>最小すべり安全率</th> <th>基準地震動 Ss</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>静的震度を用いた分割法</td> <td>0.98</td> <td>Ss-D1</td> </tr> <tr> <td></td> <td>二次元有限要素法</td> <td>1.09</td> <td>Ss-D1</td> </tr> </tbody> </table>  <p>第48図 最小すべり安全率の比較結果</p> <p>(3) 斜面Cの二次元有限要素法解析による評価</p> <p>斜面Cは静的震度を用いた分割法による評価により、すべり安全率 1.0 以上を確保しているものの、裕度が小さい (Fs=1.09) ことから、より精緻な二次元有限要素法解析による安定性評価を実施する。</p> <p>a. 評価方法</p> <p>基準地震動 Ss に基づく二次元有限要素法解析を実施し、算定されるすべり安全率が 1.0 を上回っていることを確認する。地質断面図を第49図に、解析メッシュ図を第50図に示す。</p> <p>なお、静的解析には解析コード「SOILPLUS STATIC Ver. 10.002」を、地震応答解析には解析コード「Super FLUSH Ver. 6.1」を、すべり計算には解析コード「SFCALC ver. 5.2」を使用する。</p>	すべり線	評価方法	最小すべり安全率	基準地震動 Ss		静的震度を用いた分割法	0.98	Ss-D1		二次元有限要素法	1.09	Ss-D1			
すべり線	評価方法	最小すべり安全率	基準地震動 Ss												
	静的震度を用いた分割法	0.98	Ss-D1												
	二次元有限要素法	1.09	Ss-D1												



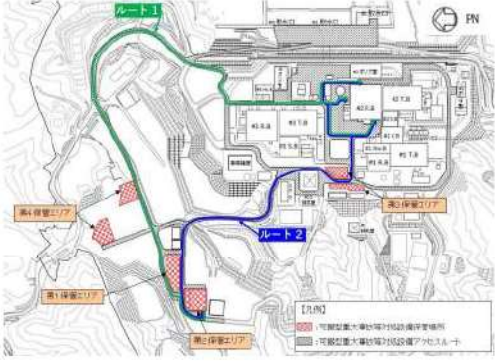
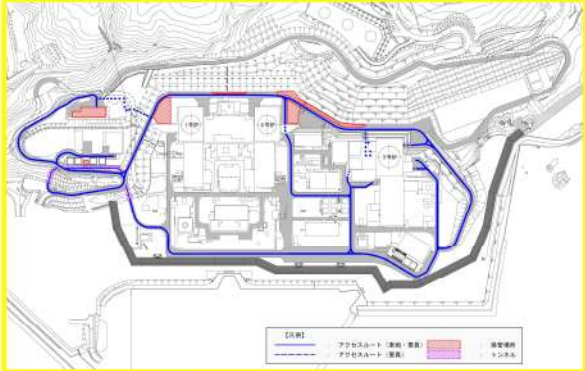
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																
<p data-bbox="268 108 497 135">女川原子力発電所2号炉</p>  <p data-bbox="250 430 517 458">第49図 斜面Cの地質断面図</p>  <p data-bbox="230 805 537 833">第50図 斜面Cの解析メッシュ図</p> <p data-bbox="91 893 224 920">b. 評価結果</p> <p data-bbox="112 922 696 981">斜面Cのすべり安定性評価結果を第51図に示す。すべり安全率は1.0以上であり、斜面の安定性を確認している。</p>  <p data-bbox="241 1332 526 1359">第51図 すべり安定性評価結果</p> <table border="1" data-bbox="436 1109 616 1316"> <caption>すべり安全率一覧</caption> <thead> <tr> <th>基準地質面 S<sub>0</sub></th> <th>すべり安全率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>S<sub>0</sub>-D1</td> <td>1.3</td> </tr> <tr> <td>S<sub>0</sub>-DE</td> <td>1.4</td> </tr> <tr> <td>S<sub>0</sub>-B3</td> <td>1.3</td> </tr> <tr> <td>S<sub>0</sub>-F1</td> <td>1.4</td> </tr> <tr> <td>S<sub>0</sub>-P2</td> <td>1.4</td> </tr> <tr> <td>S<sub>0</sub>-F3</td> <td>1.6</td> </tr> <tr> <td>S<sub>0</sub>-N1</td> <td>1.3</td> </tr> </tbody> </table>	基準地質面 S <sub>0</sub>	すべり安全率	S <sub>0</sub> -D1	1.3	S <sub>0</sub> -DE	1.4	S <sub>0</sub> -B3	1.3	S <sub>0</sub> -F1	1.4	S <sub>0</sub> -P2	1.4	S <sub>0</sub> -F3	1.6	S <sub>0</sub> -N1	1.3	<p data-bbox="907 108 1131 135">島根原子力発電所2号炉</p>	<p data-bbox="1579 108 1724 135">泊発電所3号炉</p>	<p data-bbox="2027 108 2116 135">相違理由</p>
基準地質面 S <sub>0</sub>	すべり安全率																		
S <sub>0</sub> -D1	1.3																		
S <sub>0</sub> -DE	1.4																		
S <sub>0</sub> -B3	1.3																		
S <sub>0</sub> -F1	1.4																		
S <sub>0</sub> -P2	1.4																		
S <sub>0</sub> -F3	1.6																		
S <sub>0</sub> -N1	1.3																		

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p style="text-align: right;">別紙(16)</p> <p style="text-align: center;">段差及び傾斜評価箇所の網羅性について</p> <p>地震時におけるアクセスルートの被害想定結果を踏まえ、2つのアクセスルート（ルート1及びルート2）を選定している（第1図）。</p> <p>地震時の液状化及び揺すり込みによる不等沈下によって生じる段差・傾斜については地下構造物と埋戻部との境界部及び地山と埋戻部との境界部を抽出し、網羅的に評価している。</p> <p>第2図にルート1の地質構造の概要を、第3図にルート2の地質構造の概要を示す。</p>  <p style="text-align: center;">第1図 アクセスルート平面図</p>	<p style="text-align: center;">該当箇所なし</p>	<p style="text-align: right;">別紙(15)</p> <p style="text-align: center;">段差及び傾斜評価箇所の網羅性について</p> <p>地震、津波その他自然現象又は故意による大型航空機の衝突その他テロリズムによる影響を考慮し、アクセスルートを複数設定している。（第1図）</p> <p>地震時の液状化及び揺すり込みによる不等沈下によって生じる段差・傾斜については地下構造物等と埋戻部との境界部及び地山と埋戻部との境界部を抽出し、網羅的に評価している。</p> <p>第2図に設定したアクセスルートの地質構造の概要を、第1表に地下構造物等と埋戻部との境界における段差評価結果を、第2表に地山に勾配を設けて掘削した箇所の評価結果を示す。</p>  <p style="text-align: center;">第1図 アクセスルート平面図</p>	<p>【女川】記載表現の相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

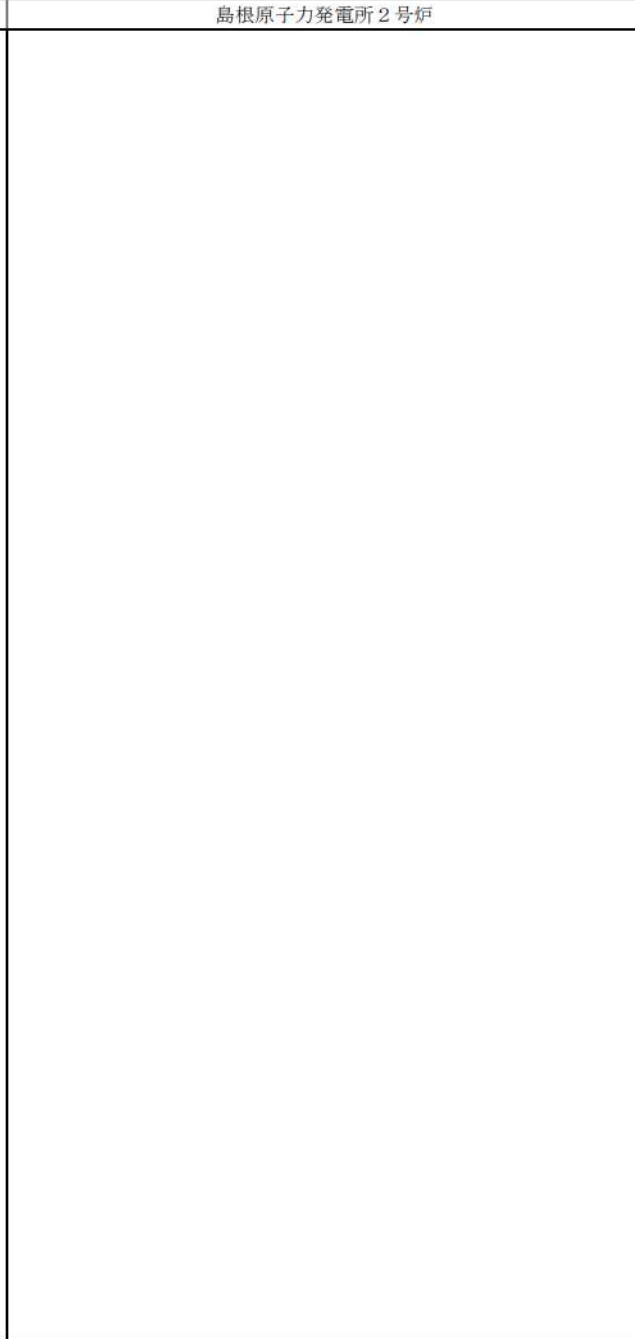
1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉

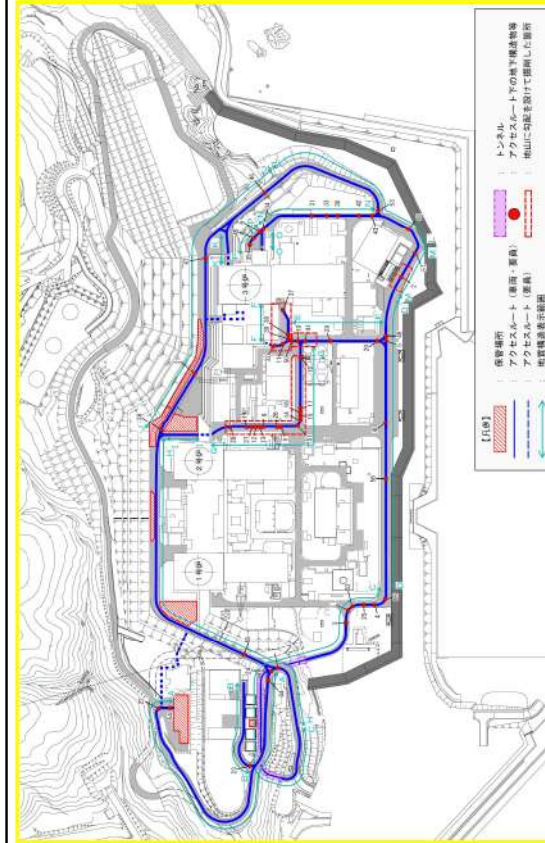


第2図 地質構造概要図（ルート1）

島根原子力発電所2号炉



泊発電所3号炉



第2図 アクセスルート地盤構造概要(1/8)

相違理由

【女川】記載内容の相違  
 ・プラントの相違による  
 評価対象箇所、評価結  
 果の相違。

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

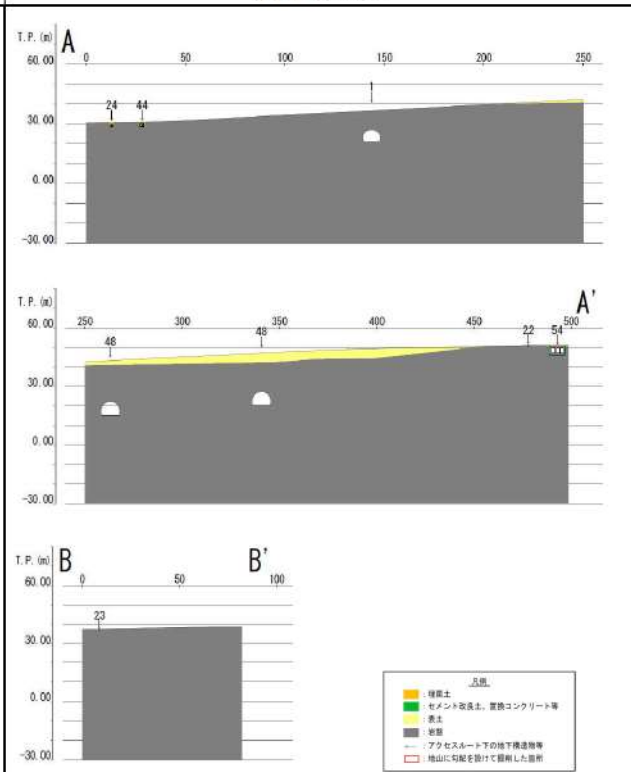
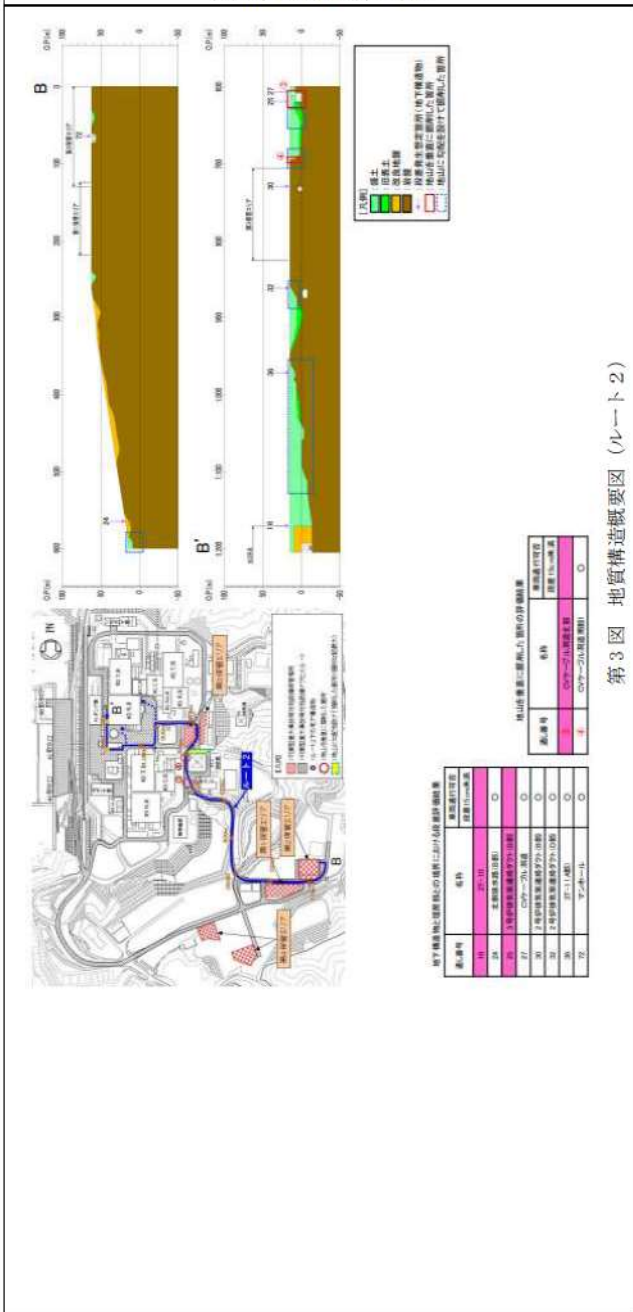
1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉

島根原子力発電所2号炉

泊発電所3号炉

相違理由



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
		<p>第2図 アクセスルート地盤構造概要(3/8)</p>	



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
		<p>第2図 アクセスルート地盤構造概要(4/8)</p>	

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
		<p>第2図 アクセスルート地盤構造概要(5/8)</p>	

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
		<p>第2図 アクセスルート地盤構造概要(6/8)</p>	

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
		<p>第2図 アクセスルート地盤構造概要(7/8)</p>	

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
		<p>第2図 アクセスルート地盤構造概要(8/8)</p>	



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																																																																																																				
		第1表 地下構造物等と埋戻部との境界における段差評価結果																																																																																																																																																																																					
		<p>(凡例)</p> <p>■：段差(相対沈下量)が15cmを超える箇所</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>通し番号</th> <th>名称</th> <th>車両通行可否</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>段差15cm以下：○</td> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>アクセスルートトンネル</td><td>○</td></tr> <tr><td>2</td><td>3号炉放水路</td><td>○</td></tr> <tr><td>3</td><td>1号炉放水路</td><td>○</td></tr> <tr><td>4</td><td>2号炉放水路</td><td>○</td></tr> <tr><td>5</td><td>2号炉OFケーブル地ダクト※</td><td>○</td></tr> <tr><td>6</td><td>止水壁</td><td>○</td></tr> <tr><td>7</td><td>貯油槽トレンチ</td><td>○</td></tr> <tr><td>8</td><td>1号炉OFケーブルダクト※</td><td>○</td></tr> <tr><td>9</td><td>2号炉OFケーブルダクト※</td><td>○</td></tr> <tr><td>10</td><td>2号炉OFケーブルダクト※</td><td>○</td></tr> <tr><td>11</td><td>CVケーブルダクト</td><td>○</td></tr> <tr><td>12</td><td>連絡配管ダクトA</td><td>○</td></tr> <tr><td>13</td><td>2号炉循環水管</td><td>○</td></tr> <tr><td>14</td><td>2号炉OFケーブルダクト※</td><td>○</td></tr> <tr><td>15</td><td>2号炉循環水管</td><td>○</td></tr> <tr><td>16</td><td>2号炉循環水管</td><td>○</td></tr> <tr><td>17</td><td>連絡配管ダクトI</td><td>○</td></tr> <tr><td>18</td><td>連絡配管ダクトB</td><td>○</td></tr> <tr><td>19</td><td>2号炉タービン油計量タンクダクト</td><td>○</td></tr> <tr><td>20</td><td>3号炉放水路</td><td>○</td></tr> <tr><td>21</td><td>CVケーブルトンネル</td><td>○</td></tr> <tr><td>22</td><td>管理道路排水</td><td>○</td></tr> <tr><td>23</td><td>管理道路排水</td><td>○</td></tr> <tr><td>24</td><td>管理道路排水接続管</td><td>○</td></tr> <tr><td>25</td><td>6a道路排水</td><td>○</td></tr> <tr><td>26</td><td>8f道路排水</td><td>○</td></tr> <tr><td>27</td><td>8f道路排水</td><td>○</td></tr> <tr><td>28</td><td>8f道路排水</td><td>○</td></tr> <tr><td>29</td><td>8k道路排水</td><td>○</td></tr> <tr><td>30</td><td>8n道路排水</td><td>○</td></tr> <tr><td>31</td><td>8n道路排水</td><td>○</td></tr> <tr><td>32</td><td>CVケーブルダクト</td><td>×</td></tr> <tr><td>33</td><td>8n道路排水</td><td>○</td></tr> <tr><td>34</td><td>8n道路排水</td><td>○</td></tr> <tr><td>35</td><td>8n道路排水</td><td>○</td></tr> <tr><td>36</td><td>8c道路排水</td><td>○</td></tr> <tr><td>37</td><td>連絡配管ダクトA</td><td>○</td></tr> <tr><td>38</td><td>連絡配管ダクトB</td><td>○</td></tr> <tr><td>39</td><td>8j道路排水</td><td>○</td></tr> <tr><td>40</td><td>8f道路排水</td><td>○</td></tr> <tr><td>41</td><td>8k道路排水</td><td>○</td></tr> <tr><td>42</td><td>8n道路排水</td><td>○</td></tr> <tr><td>43</td><td>8n道路排水</td><td>○</td></tr> <tr><td>44</td><td>管理道路排水</td><td>○</td></tr> <tr><td>45</td><td>8n道路排水</td><td>○</td></tr> <tr><td>46</td><td>8c道路排水</td><td>○</td></tr> <tr><td>47</td><td>伏替給水ビット</td><td>○</td></tr> <tr><td>48</td><td>茶屋人構トンネル</td><td>○</td></tr> <tr><td>49</td><td>8k道路排水</td><td>○</td></tr> <tr><td>50</td><td>8k道路排水</td><td>○</td></tr> <tr><td>51</td><td>8f道路排水</td><td>○</td></tr> <tr><td>52</td><td>6道路排水</td><td>○</td></tr> <tr><td>53</td><td>8n道路排水</td><td>○</td></tr> <tr><td>54</td><td>電気カルバート</td><td>○</td></tr> <tr><td>55</td><td>防雑堤A</td><td>×</td></tr> <tr><td>56</td><td>防雑堤B</td><td>×</td></tr> <tr><td>57</td><td>防雑堤C</td><td>×</td></tr> <tr><td>58</td><td>防雑堤D</td><td>×</td></tr> </tbody> </table> <p>段差対策必要箇所 5 (箇所)</p>	通し番号	名称	車両通行可否			段差15cm以下：○	1	アクセスルートトンネル	○	2	3号炉放水路	○	3	1号炉放水路	○	4	2号炉放水路	○	5	2号炉OFケーブル地ダクト※	○	6	止水壁	○	7	貯油槽トレンチ	○	8	1号炉OFケーブルダクト※	○	9	2号炉OFケーブルダクト※	○	10	2号炉OFケーブルダクト※	○	11	CVケーブルダクト	○	12	連絡配管ダクトA	○	13	2号炉循環水管	○	14	2号炉OFケーブルダクト※	○	15	2号炉循環水管	○	16	2号炉循環水管	○	17	連絡配管ダクトI	○	18	連絡配管ダクトB	○	19	2号炉タービン油計量タンクダクト	○	20	3号炉放水路	○	21	CVケーブルトンネル	○	22	管理道路排水	○	23	管理道路排水	○	24	管理道路排水接続管	○	25	6a道路排水	○	26	8f道路排水	○	27	8f道路排水	○	28	8f道路排水	○	29	8k道路排水	○	30	8n道路排水	○	31	8n道路排水	○	32	CVケーブルダクト	×	33	8n道路排水	○	34	8n道路排水	○	35	8n道路排水	○	36	8c道路排水	○	37	連絡配管ダクトA	○	38	連絡配管ダクトB	○	39	8j道路排水	○	40	8f道路排水	○	41	8k道路排水	○	42	8n道路排水	○	43	8n道路排水	○	44	管理道路排水	○	45	8n道路排水	○	46	8c道路排水	○	47	伏替給水ビット	○	48	茶屋人構トンネル	○	49	8k道路排水	○	50	8k道路排水	○	51	8f道路排水	○	52	6道路排水	○	53	8n道路排水	○	54	電気カルバート	○	55	防雑堤A	×	56	防雑堤B	×	57	防雑堤C	×	58	防雑堤D	×	
通し番号	名称	車両通行可否																																																																																																																																																																																					
		段差15cm以下：○																																																																																																																																																																																					
1	アクセスルートトンネル	○																																																																																																																																																																																					
2	3号炉放水路	○																																																																																																																																																																																					
3	1号炉放水路	○																																																																																																																																																																																					
4	2号炉放水路	○																																																																																																																																																																																					
5	2号炉OFケーブル地ダクト※	○																																																																																																																																																																																					
6	止水壁	○																																																																																																																																																																																					
7	貯油槽トレンチ	○																																																																																																																																																																																					
8	1号炉OFケーブルダクト※	○																																																																																																																																																																																					
9	2号炉OFケーブルダクト※	○																																																																																																																																																																																					
10	2号炉OFケーブルダクト※	○																																																																																																																																																																																					
11	CVケーブルダクト	○																																																																																																																																																																																					
12	連絡配管ダクトA	○																																																																																																																																																																																					
13	2号炉循環水管	○																																																																																																																																																																																					
14	2号炉OFケーブルダクト※	○																																																																																																																																																																																					
15	2号炉循環水管	○																																																																																																																																																																																					
16	2号炉循環水管	○																																																																																																																																																																																					
17	連絡配管ダクトI	○																																																																																																																																																																																					
18	連絡配管ダクトB	○																																																																																																																																																																																					
19	2号炉タービン油計量タンクダクト	○																																																																																																																																																																																					
20	3号炉放水路	○																																																																																																																																																																																					
21	CVケーブルトンネル	○																																																																																																																																																																																					
22	管理道路排水	○																																																																																																																																																																																					
23	管理道路排水	○																																																																																																																																																																																					
24	管理道路排水接続管	○																																																																																																																																																																																					
25	6a道路排水	○																																																																																																																																																																																					
26	8f道路排水	○																																																																																																																																																																																					
27	8f道路排水	○																																																																																																																																																																																					
28	8f道路排水	○																																																																																																																																																																																					
29	8k道路排水	○																																																																																																																																																																																					
30	8n道路排水	○																																																																																																																																																																																					
31	8n道路排水	○																																																																																																																																																																																					
32	CVケーブルダクト	×																																																																																																																																																																																					
33	8n道路排水	○																																																																																																																																																																																					
34	8n道路排水	○																																																																																																																																																																																					
35	8n道路排水	○																																																																																																																																																																																					
36	8c道路排水	○																																																																																																																																																																																					
37	連絡配管ダクトA	○																																																																																																																																																																																					
38	連絡配管ダクトB	○																																																																																																																																																																																					
39	8j道路排水	○																																																																																																																																																																																					
40	8f道路排水	○																																																																																																																																																																																					
41	8k道路排水	○																																																																																																																																																																																					
42	8n道路排水	○																																																																																																																																																																																					
43	8n道路排水	○																																																																																																																																																																																					
44	管理道路排水	○																																																																																																																																																																																					
45	8n道路排水	○																																																																																																																																																																																					
46	8c道路排水	○																																																																																																																																																																																					
47	伏替給水ビット	○																																																																																																																																																																																					
48	茶屋人構トンネル	○																																																																																																																																																																																					
49	8k道路排水	○																																																																																																																																																																																					
50	8k道路排水	○																																																																																																																																																																																					
51	8f道路排水	○																																																																																																																																																																																					
52	6道路排水	○																																																																																																																																																																																					
53	8n道路排水	○																																																																																																																																																																																					
54	電気カルバート	○																																																																																																																																																																																					
55	防雑堤A	×																																																																																																																																																																																					
56	防雑堤B	×																																																																																																																																																																																					
57	防雑堤C	×																																																																																																																																																																																					
58	防雑堤D	×																																																																																																																																																																																					
		※：ダクト内に敷設しているケーブルは、2008年にOFケーブルからCVケーブルへ変更している。																																																																																																																																																																																					

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																
		<p>第2表 地山に勾配を設けて掘削した箇所の評価結果</p> <table border="1" data-bbox="1451 172 1854 351"> <thead> <tr> <th rowspan="2">通し番号</th> <th rowspan="2">掘削勾配*</th> <th>車両通行可否</th> </tr> <tr> <th>傾斜12%以下</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>1:0.3</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>1:0.3</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>1:0.3</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>1:0.3</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table> <p>※：複数の勾配を設けて掘削している箇所は、最も急な勾配を記載</p>	通し番号	掘削勾配*	車両通行可否	傾斜12%以下	1	1:0.3	○	2	1:0.3	○	3	1:0.3	○	4	1:0.3	○	
通し番号	掘削勾配*	車両通行可否																	
		傾斜12%以下																	
1	1:0.3	○																	
2	1:0.3	○																	
3	1:0.3	○																	
4	1:0.3	○																	


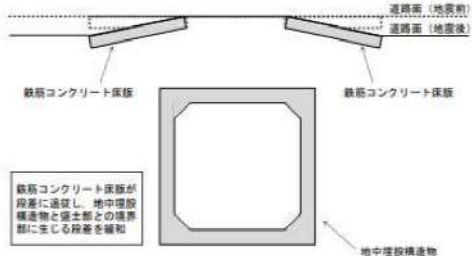
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>1. ルート1の段差・傾斜の評価</p> <p>第2図に示すとおり、ルート1における地下構造物と埋戻部との境界部を25箇所、地山を垂直に掘削した箇所を3箇所抽出し、段差評価を実施した。また、地山に勾配を設けて掘削した箇所を3箇所抽出し、傾斜の評価を実施した。</p> <p>その結果、車両の通行に支障のある段差（15cm以上）の発生が想定される箇所は地下構造物と埋戻部との境界部において4箇所（No. 2, 3, 5, 6）、地山を垂直に掘削した箇所において1箇所であった。車両の通行に支障のある傾斜（16%以上）が発生する箇所はなかった。</p> <p>車両の通行に支障のある段差の発生が想定される箇所については、補強材敷設による事前の段差緩和対策、若しくは段差発生後の重機による段差解消作業により車両の通行性を確保する。</p> <p>2. ルート2の段差・傾斜の評価</p> <p>第3図に示すとおり、ルート2における地下構造物と埋戻部との境界部を8箇所、地山を垂直に掘削した箇所を2箇所抽出し、段差評価を実施した。また、地山に勾配を設けて掘削した箇所を5箇所抽出し、傾斜の評価を実施した。</p> <p>その結果、車両の通行に支障のある段差（15cm以上）の発生が想定される箇所は地下構造物と埋戻部との境界部において2箇所（No. 16, 25）であり、地山を垂直に掘削した箇所において1箇所であった。車両の通行に支障のある傾斜（16%以上）が発生する箇所はなかった。</p> <p>車両の通行に支障のある段差の発生が想定される箇所については、補強材敷設による事前の段差緩和対策、若しくは段差発生後の重機による段差解消作業により車両の通行性を確保する。</p>		<p>1. 設定したルート1の段差・傾斜の評価</p> <p>第2図に示すとおり、設定したルート1における地下構造物等と埋戻部との境界部を58箇所抽出し、段差評価を実施した。また、地山に勾配を設けて掘削した箇所を4箇所抽出し、傾斜の評価を実施した。なお、地山を垂直に掘削した箇所はなかった。</p> <p>その結果、車両の通行に支障のある段差（15cm以上）の発生が想定される箇所は地下構造物と埋戻部との境界部において5箇所（No. 32, 55, 56, 57, 58）であった。車両の通行に支障のある傾斜（12%以上）が発生する箇所はなかった。</p> <p>車両の通行に支障のある段差の発生が想定される箇所については、踏掛版敷設等による事前の段差緩和対策により車両の通行性を確保する。</p>	<p>【女川】記載内容の相違                  ・プラントの相違による評価箇所、評価結果の相違。</p> <p>【女川】対策の相違                  ・泊はすべて事前対策を実施する。</p> <p>【女川】記載内容の相違                  ・プラントの相違による評価箇所の相違。</p>

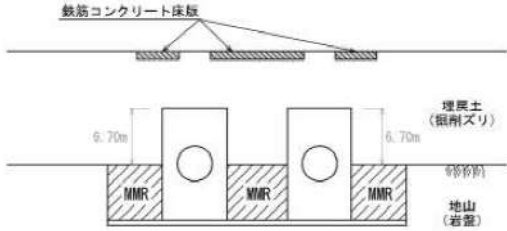
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉 別紙(17)	島根原子力発電所2号炉 別紙(30)	泊発電所3号炉 別紙(16)	相違理由
<p>H形鋼敷設による段差対策について</p>	<p>路盤補強（段差緩和対策）について</p> <p>アクセスルートにおいて、第1図に示す15cmを超える段差発生が想定される箇所がある。これらの箇所に対し、仮復旧を行わずに可搬型設備が2号炉まで寄りつくことが可能となるよう、あらかじめ段差緩和対策を行う。なお、段差緩和対策の評価結果は詳細設計段階で示す。第2図に段差緩和対策例を示す。</p>  <p>第1図 沈下量評価結果</p>  <p>第2図 段差緩和対策例（沈下後）</p>	<p>H形鋼敷設による段差対策について</p>	<p>【島根】記載内容の相違                      ・泊は女川と同様に地下構造物の損壊により発生する段差の対策について記載。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）


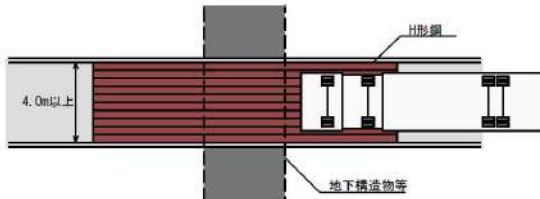
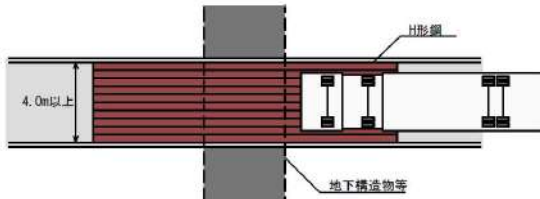
1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>路盤補強（段差緩和対策）の例として、鉄筋コンクリート床版による路盤補強を代表として以下に示す。</p> <p>1. 評価方針                  地中埋設構造物及び地盤改良部と埋戻部との境界部（埋設物等境界部）及び地山と埋戻部との境界部に段差が発生した状態を想定し、可搬型設備の通行時に鉄筋コンクリート床版に作用する曲げ応力、せん断力及びその合力が評価基準値を下回ることを確認する。</p> <p>2. 評価箇所の抽出                  路盤補強（段差緩和対策）を実施する地点のうち、復旧箇所が複数ある2号炉取水槽（取水管取合部）を代表箇所として選択する。</p> <p>3. 評価方法                  a. 構造                  評価箇所（2号炉取水槽（取水管取合部））の断面図を第3図に示す。</p>  <p>第3図 評価箇所断面図</p> <p>b. 評価条件                  ・鉄筋 SD345                  ・コンクリート設計基準強度 24N/mm<sup>2</sup></p> <p>c. 荷重の設定                  ①死荷重                  アスファルト舗装                  鉄筋コンクリート床版</p> <p>今後の設計等により変更となる可能性がある</p>		<p>【島根】記載内容の相違                  ・泊は女川と同様に地下構造物の損壊により発生する段差の対策について記載。</p>




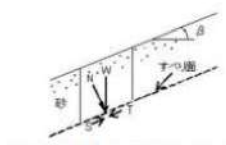

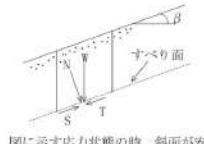
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>地下構造物の損壊により車両通行が困難となり得る箇所については、あらかじめH形鋼を敷設することにより、段差が発生した場合でも車両通行に影響を与えないよう対策を施す。第1図にH形鋼の敷設イメージを示す。</p>  <p>第1図 H形鋼の敷設イメージ図</p> <p>地下構造物の損壊により段差が発生すると考えられる範囲は、地下構造物底版より主働崩壊角60度で想定し、さらに地表面付近の地震時の緩みを考慮してH形鋼のスパン長を設定した。</p> <p>H形鋼のスパン長を設定する手順は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①地下構造物底版より主働崩壊角60度で沈下範囲を想定</li> <li>②地下構造物の損壊による沈下量を算定（地下構造物が損壊した場合、地下構造物上の土砂が損壊構造物内に流入し、流入した土砂の体積分だけ沈下するものと想定）</li> <li>③地下構造物の損壊により沈下した場合、損壊構造物の左右に法面が発生するが、法尻から30度（盛土の安息角<sup>*1</sup>）の範囲は支持地盤への影響がある範囲と想定</li> <li>④上記③により想定した影響範囲の端部より、1mの余裕を考慮した位置をH形鋼の支持点としスパン長を設定</li> </ol> <p>※1 下図に示す安息角と内部摩擦角の関係より、安全率1.0の状態では、内部摩擦角は斜面勾配と等しくなることから、盛土の内部摩擦角30度を安息角として設定している。</p>	<p>地下構造物の損壊により車両通行が困難となり得る箇所については、あらかじめH形鋼等を敷設することにより、段差が発生した場合でも車両通行に影響を与えないよう対策を施す。第1図にH形鋼の敷設イメージを示す。</p>  <p>第1図 H形鋼の敷設イメージ図</p> <p>地下構造物等の損壊により段差が発生すると考えられる範囲は、地下構造物等の底版より主働崩壊角（1、2号埋戻土：63.75度、3号埋戻土：61.85度）で想定し、さらに地表面付近の地震時の緩みを考慮してH形鋼のスパン長を設定した。</p> <p>H形鋼のスパン長を設定する手順は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 地下構造物等の底版より主働崩壊角で沈下範囲を想定</li> <li>② 地下構造物等の損壊による沈下量を算定（地下構造物等が損壊した場合、地下構造物等上の土砂が損壊構造物内に流入し、流入した土砂の体積分だけ沈下するものと想定）</li> <li>③ 地下構造物等の損壊により沈下した場合、損壊構造物の左右に法面が発生するが、埋戻土の安息角<sup>*1</sup>の範囲は支持地盤への影響がある範囲と想定</li> <li>④ 上記③により想定した影響範囲の端部より、1mの余裕を考慮した位置をH形鋼の支持点としスパン長を設定</li> </ol> <p>※1：下図に示す安息角と内部摩擦角の関係より、安全率1.0の状態では、内部摩擦角は斜面勾配と等しくなることから、埋戻土の内部摩擦角（1、2号埋戻土：37.5度、3号埋戻土：33.7度）を安息角として設定している。</p>	<p>地下構造物等の損壊により車両通行が困難となり得る箇所については、あらかじめH形鋼等を敷設することにより、段差が発生した場合でも車両通行に影響を与えないよう対策を施す。第1図にH形鋼の敷設イメージを示す。</p>  <p>第1図 H形鋼の敷設イメージ図</p> <p>地下構造物等の損壊により段差が発生すると考えられる範囲は、地下構造物等の底版より主働崩壊角（1、2号埋戻土：63.75度、3号埋戻土：61.85度）で想定し、さらに地表面付近の地震時の緩みを考慮してH形鋼のスパン長を設定した。</p> <p>H形鋼のスパン長を設定する手順は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 地下構造物等の底版より主働崩壊角で沈下範囲を想定</li> <li>② 地下構造物等の損壊による沈下量を算定（地下構造物等が損壊した場合、地下構造物等上の土砂が損壊構造物内に流入し、流入した土砂の体積分だけ沈下するものと想定）</li> <li>③ 地下構造物等の損壊により沈下した場合、損壊構造物の左右に法面が発生するが、埋戻土の安息角<sup>*1</sup>の範囲は支持地盤への影響がある範囲と想定</li> <li>④ 上記③により想定した影響範囲の端部より、1mの余裕を考慮した位置をH形鋼の支持点としスパン長を設定</li> </ol> <p>※1：下図に示す安息角と内部摩擦角の関係より、安全率1.0の状態では、内部摩擦角は斜面勾配と等しくなることから、埋戻土の内部摩擦角（1、2号埋戻土：37.5度、3号埋戻土：33.7度）を安息角として設定している。</p>	<p>【女川】記載内容の相違・プラントの相違による主働崩壊角、安息角、評価車両の相違。評価方法に相違はない。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

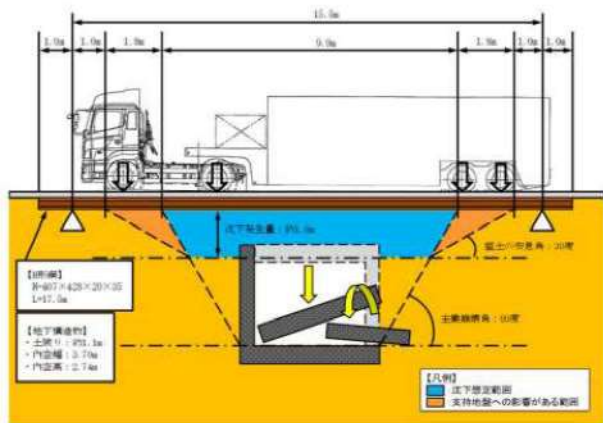
1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<div data-bbox="91 172 689 534" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【安息角】</p>  <p>安息角とは、自然にとりうる土の最大傾斜角である。 ※土質工学会用語集</p> <p>【砂の安息角と内部摩擦角】</p>  <p>β：斜面勾配                  W：砂の重量                  N：垂直応力                  T：すべり力                  S：抵抗力</p> <p>図に示す応力状態の時、斜面が安定するには、すべり力Tと抵抗力Sの間に、<math>T \leq S</math>の条件が成り立つ必要がある。これを展開すると、以下のようになる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <math>W \cdot \sin \beta \leq W \cdot \cos \beta \cdot \tan \phi</math></li> <li>・ <math>\tan \beta \leq \tan \phi</math></li> <li>・ <math>\phi \geq \beta</math></li> </ul> <p>すなわち、内部摩擦角φは斜面勾配β以上の値であり、安全率1.0の極限状態では内部摩擦角φは斜面勾配βと等しくなる。</p> </div> <p>敷設するH形鋼の仕様は地下構造物の寸法に応じて選定するが、地下構造物損壊後のH形鋼スパン長が最大となる箇所を例に、車両が通行する場合の対策工の検討結果を示す。第2図に示す検討箇所では約1.6mの沈下発生を想定し、影響範囲と余裕を考慮してスパン長を15.5mとした。</p> <p>車両重量及び載荷位置を考慮した評価結果を第1表に示す。車両の通行により発生する評価値は評価基準値を下回っていることを確認した。</p> <p>【評価車両（評価値が最大となる車両）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 熱交換器ユニット</li> <li>前輪荷重：前7.82 t、後12.21 t</li> <li>後輪荷重：前11.55 t、後11.55 t</li> </ul>		<div data-bbox="1346 164 1955 499" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【安息角】</p> <p>安息角とは、自然にとりうる土の最大傾斜角である。 ※土質工学会用語集</p>  <p>【砂の安息角と内部摩擦角】</p>  <p>β：斜面勾配                  W：砂の重量                  N：垂直応力                  T：すべり力                  S：抵抗力</p> <p>図に示す応力状態の時、斜面が安定するには、すべり力Tと抵抗力Sの間に、<math>T \leq S</math>の条件が成り立つ必要がある。これを展開すると、以下のようになる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <math>W \cdot \sin \beta \leq W \cdot \cos \beta \cdot \tan \phi</math></li> <li>・ <math>\tan \beta \leq \tan \phi</math></li> <li>・ <math>\phi \geq \beta</math></li> </ul> <p>すなわち、内部摩擦角φは斜面勾配β以上の値であり、安全率1.0の極限状態では内部摩擦角φは斜面勾配βと等しくなる。</p> </div> <p>敷設するH形鋼の仕様は地下構造物等の寸法及び沈下量に応じて選定する。第2図に検討イメージ図を示す。</p> <p>車両重量及び載荷位置を考慮した評価結果を第1表に示す。車両の通行により発生する評価値は評価基準値を下回っていることを確認する。</p> <p>【評価車両（評価値が最大となる車両）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 可搬型代替電源車</li> <li>前前輪荷重：6.085t</li> <li>前後輪荷重：9.955t</li> <li>後前輪荷重：9.840t</li> <li>後後輪荷重：7.460t</li> <li>後後輪荷重：7.465t</li> <li>後後輪荷重：7.410t</li> </ul>	

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉



第2図 検討イメージ図（3T-2 西側）

第1表 検討結果

検討項目	評価値	評価基準値	判定
H形鋼の曲げ応力度	120 N/mm <sup>2</sup>	140 N/mm <sup>2</sup>	○
H形鋼のせん断応力度	29 N/mm <sup>2</sup>	80 N/mm <sup>2</sup>	○
地盤の最大接地圧	0.5 N/mm <sup>2</sup>	0.7 N/mm <sup>2</sup> <sup>※2</sup>	○

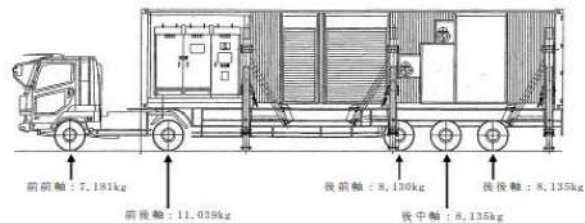
※2 重大事故等時の車両荷重は短期的に作用する荷重であるため、地盤の最大接地圧の照査に用いる許容鉛直支持力は常時の値に対して割増しすることが可能であるが、本検討では保守的に「常時における砂れき地盤の最大地盤反力度」（道路橋示方書・同解説IV下部構造編）を採用した。

島根原子力発電所2号炉

②活荷重

移動式代替熱交換設備

全長	15,500 mm
全幅	2,490 mm
全高	4,090 mm
車両総重量	42,620 kg



第4図 移動式代替熱交換設備

前前軸荷重=7,181kg  
 前後軸荷重=11,039kg

後前軸荷重=8,130kg  
 後中軸荷重=8,135kg

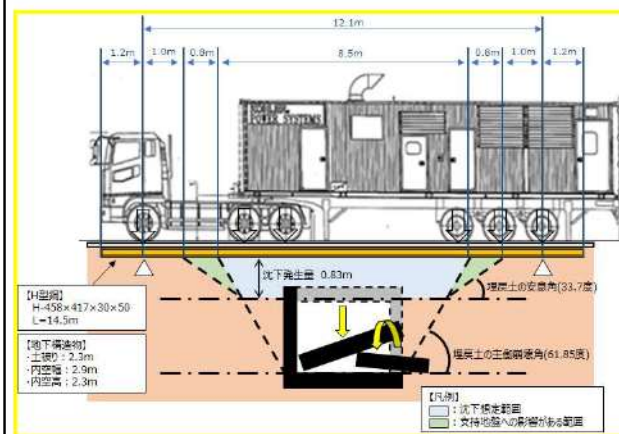
後後軸荷重=8,135kg

衝撃荷重は、「道路橋示方書・同解説Ⅰ共通編（平成14年3月）」に基づき設定する。

d. 評価基準値

鉄筋コンクリート床版に関する評価基準値は、「道路橋示方書・同解説IV下部構造編（平成14年3月）」に基づき設定する。

泊発電所3号炉



第2図 検討イメージ図（No.18 連絡配管ダクトD）

第1表 検討結果


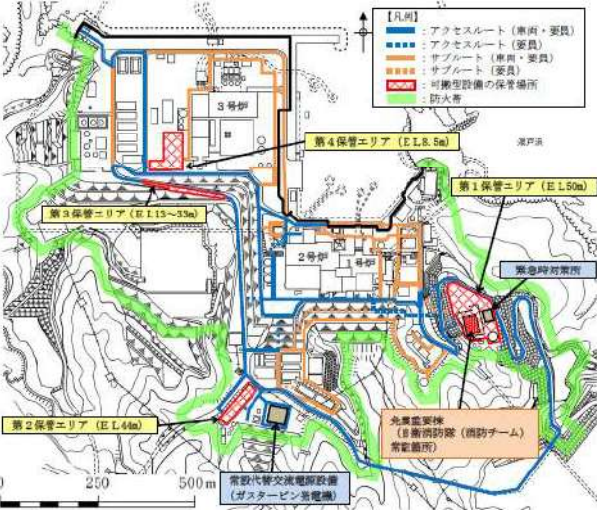

検討項目	評価値	評価基準値	判定
H形鋼の曲げ応力度	13.4 N/mm <sup>2</sup>	125 N/mm <sup>2</sup>	◎
H形鋼のせん断応力度	12.6 N/mm <sup>2</sup>	75 N/mm <sup>2</sup>	◎
地盤の最大接地圧	0.3 N/mm <sup>2</sup>	0.7 N/mm <sup>2</sup>	◎

【女川】記載内容の相違  
 ・プラントの相違による評価結果の相違。



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>別紙(18)</p> <p>消火活動及び事故拡大防止対策等について</p> <p>1. 化学消防自動車の出動の可否について                      発電所内の初期消火活動のため、発電所構内に初期消火要員（10名）が24時間常駐しているが、地震発生後の火災に対して、消火活動が可能であることを以下のとおり確認した。</p> <p>(1) 化学消防自動車の健全性                      耐震性が確保された第3保管エリア及び第4保管エリアに化学消防自動車を1台ずつ配備する。                      なお、消防自動車は地震で転倒しないが、竜巻対策として固縛し、凍結対策として消防自動車内蔵凍結防止ヒータを用いる。</p> <p>消火用の水源としては、防火水槽、耐震性防火水槽、屋外消火栓等を使用する。（第1図参照）</p>  <p>第1図 防火水槽等の配置</p> <p>(2) 初期消火要員の出動性                      初期消火要員のうち化学消防自動車による初期消火活動を実施する6名は耐震性が確認されている事務本館及び事務建屋（別紙(11)参照）に常駐していることから地震時においても出動することが可能である。</p>	<p>別紙(7)</p> <p>自衛消防隊（消防チーム）による消火活動等について</p> <p>1. 自衛消防隊（消防チーム）の出動の可否について                      発電所内の初期消火活動のため、発電所内の免震重要棟に自衛消防隊（消防チーム）が常駐しているが、地震発生後の火災に対して、消火活動が可能であることを以下のとおり確認した。</p> <p>(1) 自衛消防隊（消防チーム）のアクセスルートについて                      火災が発生した場合のアクセスルートについては、第1図に示すとおり、免震重要棟、第1保管エリア及び第4保管エリアから消防活動実施場所へのアクセスルートを確保している。                      なお、車両でのアクセスルートの通行に影響がある場合には、緊急時対策要員によるアクセスルートの復旧を行うとともに、自衛消防隊（消防チーム）は徒歩でのアクセスにより現場付近まで到着後、対応可能な手段により消火活動を行う。</p>  <p>第1図 自衛消防隊（消防チーム）のアクセスルート</p>	<p>別紙(17)</p> <p>消火活動及び事故拡大防止対策等について</p> <p>1. 化学消防自動車等の出動の可否について                      発電所内の初期消火活動のため、発電所構内に初期消火要員（11名）が24時間常駐しているが、地震発生後の火災に対して、消火活動が可能であることを以下のとおり確認した。</p> <p>(1) 化学消防自動車等の健全性                      耐震性が確保された51m倉庫・車庫エリアに化学消防自動車及び水槽付消防ポンプ自動車を各1台配備する。                      なお、化学消防自動車及び水槽付消防ポンプ自動車は地震で転倒しないが、竜巻対策として固縛し、凍結対策として消防自動車内蔵凍結防止ヒータを用いる。                      消火用の水源としては、原水槽、防火水槽及び屋外消火栓を使用する。（第1図参照）</p>  <p>第1図 防火水槽等の配置</p> <p>(2) 初期消火要員の出動性                      初期消火要員のうち化学消防自動車等による初期消火活動を実施する専属消防隊員5名は耐震性が確認されている51m倉庫・車庫及び総合管理事務所（別紙(10)参照）に常駐していることから地震時においても出動することが可能である。</p>	<p>【女川及び島根】 記載表現の相違</p> <p>【島根】記載内容の相違                      ・島根は消防隊のアクセスルートについて記載。泊は女川と同様、消防自動車の健全性について記載。                      【女川】記載表現、設備名称の相違</p> <p>【島根】記載内容の相違                      ・島根は消防車両について記載。泊は女川同様、要員の出動について記載。                      【女川】記載表現の相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）


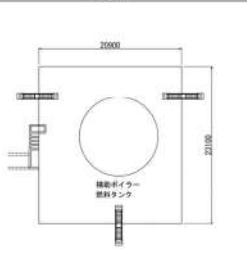

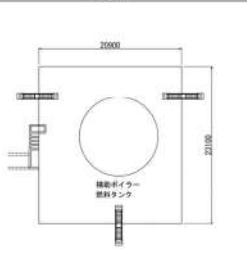

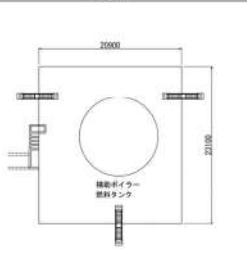
1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																									
	<p>(2) 自衛消防隊（消防チーム）による消火活動について</p> <p>火災が発生した場合の初期消火活動用として、第1表に示すとおり、免震重要棟近傍の第1保管エリア及び第4保管エリアに消防車両と泡消火薬剤を配備し保有している。</p> <p>また、初期消火活動において消火が困難な場合は、継続して周辺施設への延焼防止に努め、被害の拡大防止を図る。</p> <p style="text-align: center;">第1表 消防車両等の保管場所・数量</p> <table border="1" data-bbox="712 459 1317 641"> <thead> <tr> <th colspan="2">第1保管エリア</th> <th colspan="2">第4保管エリア</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・化学消防自動車</td> <td>: 1台</td> <td>・化学消防自動車</td> <td>: 1台</td> </tr> <tr> <td>・小型動力ポンプ付水槽車</td> <td>: 1台</td> <td>・小型動力ポンプ付水槽車</td> <td>: 1台</td> </tr> <tr> <td>・小型放水砲</td> <td>: 1台</td> <td>・小型放水砲</td> <td>: 1台</td> </tr> <tr> <td>・泡消火薬剤（3%）</td> <td>: 1,500L</td> <td>・泡消火薬剤（3%）</td> <td>: 1,500L</td> </tr> <tr> <td>・泡消火薬剤（1%）</td> <td>: 2,000L</td> <td>・泡消火薬剤（1%）</td> <td>: 2,000L</td> </tr> <tr> <td>・泡消火薬剤運搬車</td> <td>: 1台</td> <td>・泡消火薬剤運搬車</td> <td>: 1台</td> </tr> </tbody> </table> <p>2. タンクローリによる燃料給油時の火災防止</p> <p>タンクローリによる燃料給油時の火災防止策として、以下のとおり対応する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・静電気放電による火災防止策として、タンクローリは接地を取る。</li> <li>・万一油が漏えいした場合に備えて、油吸着シート及び消火器を周囲に配備する。</li> <li>・タンクローリから軽油タンクへの接続は接合金具及び電気的導通性のある耐油ホースを用いる。</li> </ul>	第1保管エリア		第4保管エリア		・化学消防自動車	: 1台	・化学消防自動車	: 1台	・小型動力ポンプ付水槽車	: 1台	・小型動力ポンプ付水槽車	: 1台	・小型放水砲	: 1台	・小型放水砲	: 1台	・泡消火薬剤（3%）	: 1,500L	・泡消火薬剤（3%）	: 1,500L	・泡消火薬剤（1%）	: 2,000L	・泡消火薬剤（1%）	: 2,000L	・泡消火薬剤運搬車	: 1台	・泡消火薬剤運搬車	: 1台	<p>(3) 火災発生時の消火活動について</p> <p>火災が発生した場合の初期消火要員による初期消火活動用として、第1表に示すとおり消防車両と泡消火薬剤を配備し保有している。</p> <p>また、災害対策要員による初期消火活動用として、第2表に示すとおり小型放水砲、可搬型大型送水ポンプ車及び泡消火薬剤を配備し保有している。</p> <p>初期消火活動において消火が困難な場合は、継続して周辺施設への延焼防止に努め、被害の拡大防止を図る。</p> <p style="text-align: center;">第1表 消防車両等の保管場所・数量</p> <table border="1" data-bbox="1344 469 1948 622"> <thead> <tr> <th>設備名</th> <th>配備数</th> <th>保管場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・化学消防自動車</td> <td>1台</td> <td rowspan="5">51m倉庫・車庫エリア</td> </tr> <tr> <td>・水槽付消防ポンプ自動車</td> <td>1台</td> </tr> <tr> <td>・大規模火災用消防自動車</td> <td>1台</td> </tr> <tr> <td>・泡消火薬剤（3%）</td> <td>7,200L</td> </tr> <tr> <td>・資機材運搬車</td> <td>1台</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">第2表 小型放水砲等の保管場所・数量</p> <table border="1" data-bbox="1344 695 1948 916"> <thead> <tr> <th>設備名</th> <th>配備数</th> <th>保管場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・可搬型大型送水ポンプ車</td> <td>6台</td> <td rowspan="2">51m倉庫・車庫エリア 2号東側31mエリア(a),(b) 展望台行管理道路脇西側60mエリア</td> </tr> <tr> <td>・ホース延長・回収車（送水車用）</td> <td>6台</td> </tr> <tr> <td>・小型放水砲</td> <td>2台</td> <td rowspan="3">構内保管場所</td> </tr> <tr> <td>・泡消火薬剤（1%）</td> <td>6,000L</td> </tr> <tr> <td>・泡消火薬剤コンテナ式運搬車</td> <td>1台</td> </tr> </tbody> </table>	設備名	配備数	保管場所	・化学消防自動車	1台	51m倉庫・車庫エリア	・水槽付消防ポンプ自動車	1台	・大規模火災用消防自動車	1台	・泡消火薬剤（3%）	7,200L	・資機材運搬車	1台	設備名	配備数	保管場所	・可搬型大型送水ポンプ車	6台	51m倉庫・車庫エリア 2号東側31mエリア(a),(b) 展望台行管理道路脇西側60mエリア	・ホース延長・回収車（送水車用）	6台	・小型放水砲	2台	構内保管場所	・泡消火薬剤（1%）	6,000L	・泡消火薬剤コンテナ式運搬車	1台	<p>【島根】記載箇所の相違          ・泊は「4. 可搬型タンクローリによる燃料給油時の火災防止」に記載。</p>
第1保管エリア		第4保管エリア																																																										
・化学消防自動車	: 1台	・化学消防自動車	: 1台																																																									
・小型動力ポンプ付水槽車	: 1台	・小型動力ポンプ付水槽車	: 1台																																																									
・小型放水砲	: 1台	・小型放水砲	: 1台																																																									
・泡消火薬剤（3%）	: 1,500L	・泡消火薬剤（3%）	: 1,500L																																																									
・泡消火薬剤（1%）	: 2,000L	・泡消火薬剤（1%）	: 2,000L																																																									
・泡消火薬剤運搬車	: 1台	・泡消火薬剤運搬車	: 1台																																																									
設備名	配備数	保管場所																																																										
・化学消防自動車	1台	51m倉庫・車庫エリア																																																										
・水槽付消防ポンプ自動車	1台																																																											
・大規模火災用消防自動車	1台																																																											
・泡消火薬剤（3%）	7,200L																																																											
・資機材運搬車	1台																																																											
設備名	配備数	保管場所																																																										
・可搬型大型送水ポンプ車	6台	51m倉庫・車庫エリア 2号東側31mエリア(a),(b) 展望台行管理道路脇西側60mエリア																																																										
・ホース延長・回収車（送水車用）	6台																																																											
・小型放水砲	2台	構内保管場所																																																										
・泡消火薬剤（1%）	6,000L																																																											
・泡消火薬剤コンテナ式運搬車	1台																																																											



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由						
<p>2. 軽油タンクの消火方法について</p> <p>第3表のとおり、アクセスルートまで隔離距離が確保されており、万一初期消火活動にて消火が完了しなかった場合でも、アクセスルートは放射熱強度が「長時間さらされても苦痛を感じない強度<sup>※1</sup>」である1.6kW/m<sup>2</sup>以下まで低減されることから、通行は可能と考える。</p> <p>軽油タンクが地震により損傷し、防油堤内で火災が発生した場合は化学消防自動車による初期消火活動を実施するが、初期消火活動にて消火が困難な場合には、継続して周辺施設への延焼防止に努め、被害の拡大防止を図るとともに、大容量送水ポンプ、泡消火薬剤混合装置及び放水砲による消火活動を実施する。</p> <p>※1：出典「石油コンビナートの防災アセスメント指針」</p>		<p>2. 3号炉補助ボイラー燃料タンクの消火方法について</p> <p>第2図のとおり、漏えいした重油が防油堤内に全量貯蔵されている状態において火災が発生した場合でも、アクセスルートまでの隔離距離を確保できるよう、防油堤の堰面積の縮小を予定している。</p> <p>第6表のとおり、アクセスルートまで隔離距離が確保することが可能であり、万一初期消火活動にて消火が完了しなかった場合でも、アクセスルートは放射熱（＝輻射）強度が「長時間さらされても苦痛を感じない強度<sup>※1</sup>」である1.6kW/m<sup>2</sup>以下まで低減されることから、通行は可能と考える。</p> <p>3号炉補助ボイラー燃料タンクが地震により損傷し、防油堤内で火災が発生した場合は化学消防自動車等による初期消火活動を実施するが、初期消火活動にて消火が困難な場合には、継続して周辺施設への延焼防止に努め、被害の拡大防止を図るとともに、大規模火災用消防自動車、可搬型大型送水ポンプ車、小型放水砲及び泡消火薬剤による消火活動を実施する。</p> <p>※1：出典「石油コンビナートの防災アセスメント指針」</p> <table border="1" data-bbox="1339 810 1953 1177"> <thead> <tr> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>  </td> <td>  </td> </tr> <tr> <td>                     堰（内側）：(24.2-(0.4×2))×(26.4-(0.4×2))                      堰面積：23.4m×25.6m                      =599.04m<sup>2</sup> </td> <td>                     堰（内側）：20.9m×23.1m                      堰面積：20.9m×23.1m                      =482.79m<sup>2</sup> </td> </tr> </tbody> </table> <p>第2図 3号炉補助ボイラー燃料タンク防油堤外形図</p>	変更前	変更後			堰（内側）：(24.2-(0.4×2))×(26.4-(0.4×2)) 堰面積：23.4m×25.6m =599.04m <sup>2</sup>	堰（内側）：20.9m×23.1m 堰面積：20.9m×23.1m =482.79m <sup>2</sup>	<p>【女川】記載内容の相違                      ・火災想定施設の相違</p> <p>【女川】設計方針の相違                      ・3号補助ボイラー燃料タンク防油堤は、防油堤の堰面積の縮小によりアクセスルートからの隔離距離を確保する予定。</p> <p>【女川】記載表現の相違</p> <p>【女川】記載内容の相違                      ・火災想定施設及び消火活動用の設備の相違。</p>
変更前	変更後								
									
堰（内側）：(24.2-(0.4×2))×(26.4-(0.4×2)) 堰面積：23.4m×25.6m =599.04m <sup>2</sup>	堰（内側）：20.9m×23.1m 堰面積：20.9m×23.1m =482.79m <sup>2</sup>								

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																				
<p>3. 主要変圧器の火災について</p> <p>地震により主要変圧器が損傷、変圧器内の絶縁油が漏えいし火災が発生した場合でも、第3表のとおり、アクセスルートまで離隔距離が確保されており、万一初期消火活動にて消火が完了しなかった場合でも、アクセスルートは放射熱強度が「長時間さらされても苦痛を感じない強度<sup>※1</sup>」である1.6kW/㎡以下まで低減されることから、通行は可能と考える。</p> <p>防油堤内に漏えいした絶縁油は防油堤内の集油マスに流入した後地下の漏油受槽に流下するため、万一火災が発生した場合でもアクセスルートへの影響は考えにくい。(別添-1参照)</p> <p>各排油貯槽は当該変圧器の保有油量の全量を貯留するだけの容量を確保している。</p> <p>※1 出典「石油コンビナートの防災アセスメント指針」</p> <p>第1表 主要変圧器保有油量及び漏油受槽受入量</p> <table border="1" data-bbox="78 694 683 922"> <thead> <tr> <th>変圧器</th> <th>本体油量 [kL]</th> <th>貯槽</th> <th>受入量 [kL]</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1号主変圧器</td> <td>100</td> <td rowspan="2">防油槽</td> <td rowspan="2">176.8</td> </tr> <tr> <td>1号起動変圧器</td> <td>48</td> </tr> <tr> <td>2号主変圧器</td> <td>138</td> <td rowspan="2">排油貯槽</td> <td rowspan="2">294</td> </tr> <tr> <td>2号起動変圧器</td> <td>66</td> </tr> <tr> <td>3号主変圧器</td> <td>138</td> <td>排油貯槽</td> <td>257.4</td> </tr> <tr> <td>3号起動変圧器A/B</td> <td>80</td> <td>排油貯槽</td> <td>124.4</td> </tr> </tbody> </table> <p>なお、主要な変圧器にはそれぞれ水噴霧消火設備が設置されているが、水源タンクや消火ポンプの損傷により消火ができない場合は、初期消火要員による消火活動を実施し、被害の拡大を防止する。また、同時発災した場合は、アクセスルートへの影響の大きい箇所から消火活動を実施する。また、各主要変圧器は別添-2に示すとおり、保護継電器にて保護されており、電気回路故障時の事故拡大防止対策を実施している。</p>	変圧器	本体油量 [kL]	貯槽	受入量 [kL]	1号主変圧器	100	防油槽	176.8	1号起動変圧器	48	2号主変圧器	138	排油貯槽	294	2号起動変圧器	66	3号主変圧器	138	排油貯槽	257.4	3号起動変圧器A/B	80	排油貯槽	124.4	<p>別紙(6)</p> <p>可燃物施設の火災について</p> <p>1. 変圧器の火災について</p> <p>(1) 変圧器の絶縁油の漏えいについて</p> <p>地震により2、3号炉の変圧器が損傷、変圧器内の絶縁油が漏えいし火災が発生した場合、第1図に示すとおり、防油堤内に漏えいした絶縁油は防油堤内の排油溜めに流入する。また、各排油溜めは、各変圧器の保有油量の全量を貯留するだけの容量を有している。</p> <p>よって、地震により2、3号炉の変圧器が損傷した場合においても火災が発生する可能性は少ない。</p>	<p>3. 主要変圧器の火災について</p> <p>地震により主要変圧器が損傷、変圧器内の絶縁油が漏えいし火災が発生した場合でも、第6表のとおり、アクセスルートに必要な道路幅が確保されており、万一初期消火活動にて消火が完了しなかった場合でも、アクセスルートは放射熱強度が「長時間さらされても苦痛を感じない強度<sup>※1</sup>」である1.6kW/㎡以下まで低減されることから、通行は可能と考える。</p> <p>防油堤内に漏えいした絶縁油は防油堤内の排油水槽に流下するため、万一火災が発生した場合でもアクセスルートへの影響は考えにくい。(別添-1参照)</p> <p>各排油水槽は当該変圧器の保有油量の全量を貯留するだけの容量を確保している。</p> <p>※1：出典「石油コンビナートの防災アセスメント指針」</p> <p>第3表 主要変圧器保有油量及び排油水槽受入量</p> <table border="1" data-bbox="1344 694 1948 1002"> <thead> <tr> <th>変圧器</th> <th>本体油量 [kL]</th> <th>水槽</th> <th>受入量 [kL]</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1号主変圧器</td> <td>86.0</td> <td rowspan="3">排油水槽</td> <td rowspan="3">282.0</td> </tr> <tr> <td>1号炉所内変圧器</td> <td>22.0</td> </tr> <tr> <td>1号炉起動変圧器</td> <td>41.0</td> </tr> <tr> <td>2号主変圧器</td> <td>77.0</td> <td rowspan="3">排油水槽</td> <td rowspan="3">282.0</td> </tr> <tr> <td>2号炉所内変圧器</td> <td>22.0</td> </tr> <tr> <td>2号炉起動変圧器</td> <td>41.0</td> </tr> <tr> <td>1号及び2号炉予備変圧器</td> <td>15.9</td> <td>排油水槽</td> <td>128.0</td> </tr> <tr> <td>3号炉主/所内変圧器</td> <td>107.8</td> <td>排油水槽</td> <td>252.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>なお、主要な変圧器にはそれぞれ水噴霧消火設備が設置されているが、水源タンクや消火ポンプの損傷により消火ができない場合は、初期消火要員による消火活動を実施し、被害の拡大を防止する。また、同時発災した場合は、アクセスルートへの影響の大きい箇所から消火活動を実施する。また、各主要変圧器は別添-2に示すとおり、保護継電器にて保護されており、電気回路故障時の事故拡大防止対策を実施している。</p>	変圧器	本体油量 [kL]	水槽	受入量 [kL]	1号主変圧器	86.0	排油水槽	282.0	1号炉所内変圧器	22.0	1号炉起動変圧器	41.0	2号主変圧器	77.0	排油水槽	282.0	2号炉所内変圧器	22.0	2号炉起動変圧器	41.0	1号及び2号炉予備変圧器	15.9	排油水槽	128.0	3号炉主/所内変圧器	107.8	排油水槽	252.0	<p>【島根】記載箇所の相違                  ・泊は女川ベースの資料構成で作成。</p> <p>【島根】記載内容の相違                  ・島根は変圧器火災が発生する可能性が少ないことを記載。泊は女川同様、火災が発生してもアクセスルートへ影響がないことを記載。</p> <p>【女川】記載表現の相違</p> <p>【女川】記載内容の相違                  ・プラントの相違に伴う表の内容の相違。</p>
変圧器	本体油量 [kL]	貯槽	受入量 [kL]																																																				
1号主変圧器	100	防油槽	176.8																																																				
1号起動変圧器	48																																																						
2号主変圧器	138	排油貯槽	294																																																				
2号起動変圧器	66																																																						
3号主変圧器	138	排油貯槽	257.4																																																				
3号起動変圧器A/B	80	排油貯槽	124.4																																																				
変圧器	本体油量 [kL]	水槽	受入量 [kL]																																																				
1号主変圧器	86.0	排油水槽	282.0																																																				
1号炉所内変圧器	22.0																																																						
1号炉起動変圧器	41.0																																																						
2号主変圧器	77.0	排油水槽	282.0																																																				
2号炉所内変圧器	22.0																																																						
2号炉起動変圧器	41.0																																																						
1号及び2号炉予備変圧器	15.9	排油水槽	128.0																																																				
3号炉主/所内変圧器	107.8	排油水槽	252.0																																																				

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

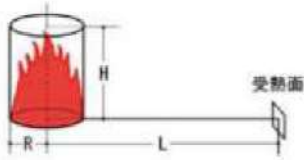
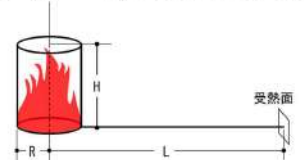
1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>4. タンクローリによる燃料給油時の火災防止                      タンクローリによる燃料給油時の火災防止として、以下のとおり対応する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タンクローリは接地を取り、作業に伴う静電気の発生を防止する。</li> <li>・万一軽油が漏えいした場合を想定し、油拭き取り用ウェス及び消火器を周囲に配備する。</li> <li>・タンクローリから軽油タンク及び大容量電源装置用燃料タンクへの接続はねじ式であり、油の漏えいを予防している。</li> </ul>		<p>4. 可搬型タンクローリによる燃料給油時の火災防止                      可搬型タンクローリによる燃料給油時の火災防止策として、以下のとおり対応する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・静電気放電による火災防止策として、可搬型タンクローリは接地を取る。</li> <li>・万一油が漏えいした場合に備えて、油吸着シート及び消火器を周囲に配備する。</li> <li>・可搬型タンクローリから代替非常用発電機及び可搬型代替電源車への接続はクイックカプラ式であり、油の漏えいを予防している。</li> </ul>	<p>【島根】記載箇所の相違                      【女川】記載表現の相違</p>



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>5. 火災源からの放射熱強度の算出</p> <p>軽油タンク及び各主要変圧器等にて、火災が発生した場合の迂回路の有効性を確認するため「石油コンビナートの防災アセスメント指針」を元に火災の影響範囲を算定した。</p> <p>算出方法及び算定結果は以下のとおり。</p> <p>(1) 形態係数の算出</p> <p>火災源を円筒火災モデル*として設定し、火災源からの受熱側が受け取る放射熱量の割合に関連する形態係数φを算出する。</p> $\phi = \frac{1}{\pi n} \tan^{-1} \left( \frac{m}{\sqrt{n^2 - 1}} \right) + \frac{m}{\pi} \left( \frac{A - 2n}{n\sqrt{AB}} \tan^{-1} \left[ \frac{A(n-1)}{B(n+1)} \right] - \frac{1}{n} \tan^{-1} \left[ \frac{(n-1)}{\sqrt{(n+1)}} \right] \right)$ <p>ただし、<math>m = \frac{H}{R} \approx 3</math>、<math>n = \frac{L}{R}</math>、<math>A = (1+n)^2 + m^2</math>、<math>B = (1-n)^2 + m^2</math></p> <p>※油火災において任意の位置における放射熱（強度）を計算により求めるには、半径が1.5m以上の場合で火災の高さを燃焼半径の3倍とした円筒火災モデルを採用する。</p> <p>なお、燃焼半径Rは次の式から算出する。</p> $R = \sqrt{S/\pi} \quad [m]$ <p>R：燃焼半径[m]、S：防油堤面積又は変圧器投影面積[m<sup>2</sup>]</p>  <p>第2図 円筒火災モデルと受熱面</p>		<p>5. 火災源からの放射熱強度の算出</p> <p>3号炉補助ボイラー燃料タンク及び各主要変圧器等にて、火災が発生した場合のアクセスルートへの影響を確認するため「石油コンビナートの防災アセスメント指針」を元に火災の影響範囲を算定した。</p> <p>算出方法及び算定結果は以下のとおり。</p> <p>(1) 形態係数の算出</p> <p>火災源を円筒火災モデル*として設定し、火災源からの受熱側が受け取る放射量の割合に関連する形態係数φを算出する。</p> $\phi = \frac{1}{\pi n} \tan^{-1} \left( \frac{m}{\sqrt{n^2 - 1}} \right) + \frac{m}{\pi} \left( \frac{A - 2n}{n\sqrt{AB}} \tan^{-1} \left[ \frac{A(n-1)}{B(n+1)} \right] - \frac{1}{n} \tan^{-1} \left[ \frac{(n-1)}{\sqrt{(n+1)}} \right] \right)$ <p><math>m = \frac{H}{R} \approx 3</math>、<math>n = \frac{L}{R}</math>、<math>A = (1+n)^2 + m^2</math>、<math>B = (1-n)^2 + m^2</math></p> <p>※：油火災において任意の位置における放射（強度）を計算により求めるには、半径が1.5m以上の場合で火災の高さを燃焼半径の3倍とした円筒火災モデルを採用する。</p> <p>なお、燃焼半径Rは次の式から算出する。</p> $R = \sqrt{\frac{S}{\pi}} \quad (m)$ <p>R：燃焼半径 (m)、S：防油堤面積又は変圧器投影面積 (m<sup>2</sup>)</p>  <p>第3図 円筒火災モデルと受熱面</p>	<p>【女川】記載表現の相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

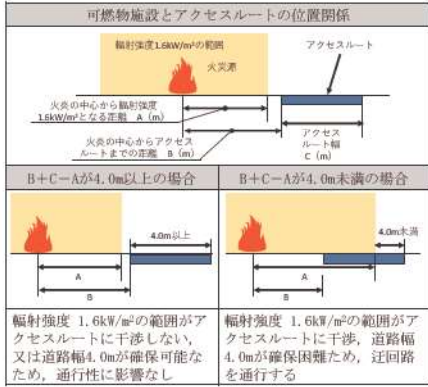
1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																
<p>(2) 放射熱強度の算出</p> <p>火災源の放射発散度 <math>R_f</math> と形態係数 <math>\phi</math> より受熱側の放射熱強度 <math>E</math> を算出する。</p> $E = R_f \times \phi$ <p><math>E</math>: 放射熱強度 (W/m<sup>2</sup>), <math>R_f</math>: 放射発散度 (W/m<sup>2</sup>), <math>\phi</math>: 形態係数</p> <p>液面火災では、火炎面積の直径が 10m を越えると空気供給不足により大量の黒煙が発生し放射発散度は低減する。</p> <p>放射発散度の低減率 <math>r</math> と燃焼容器直径 <math>D</math> の関係は次式で算出する。</p> $r = \exp(-0.06D)$ <p>ただし、<math>r=0.3</math> 程度を下限とする。</p> <p>第2表 主な可燃物の放射発散度</p> <table border="1" data-bbox="85 584 665 794"> <thead> <tr> <th>可燃物</th> <th>放射発散度 (kW/m<sup>2</sup>)</th> <th>可燃物</th> <th>放射発散度 (kW/m<sup>2</sup>)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>カフジ原油</td> <td>41×10<sup>3</sup> (35×10<sup>3</sup>)</td> <td>メタノール</td> <td>9.8×10<sup>3</sup> (8.4×10<sup>3</sup>)</td> </tr> <tr> <td>ガソリン・ナフサ</td> <td>58×10<sup>3</sup> (50×10<sup>3</sup>)</td> <td>エタノール</td> <td>12×10<sup>3</sup> (10×10<sup>3</sup>)</td> </tr> <tr> <td>灯油</td> <td>50×10<sup>3</sup> (43×10<sup>3</sup>)</td> <td>LNG (メタン)</td> <td>76×10<sup>3</sup> (65×10<sup>3</sup>)</td> </tr> <tr> <td>軽油</td> <td>42×10<sup>3</sup> (36×10<sup>3</sup>)</td> <td>エチレン</td> <td>134×10<sup>3</sup> (115×10<sup>3</sup>)</td> </tr> <tr> <td>重油</td> <td>23×10<sup>3</sup> (20×10<sup>3</sup>)</td> <td>プロパン</td> <td>74×10<sup>3</sup> (64×10<sup>3</sup>)</td> </tr> <tr> <td>ベンゼン</td> <td>62×10<sup>3</sup> (53×10<sup>3</sup>)</td> <td>プロピレン</td> <td>73×10<sup>3</sup> (53×10<sup>3</sup>)</td> </tr> <tr> <td>n-ヘキサン</td> <td>85×10<sup>3</sup> (73×10<sup>3</sup>)</td> <td>n-ブタン</td> <td>83×10<sup>3</sup> (71×10<sup>3</sup>)</td> </tr> </tbody> </table> <p>(単位はW/m<sup>2</sup>、括弧内はkcal/m<sup>2</sup>・h)</p>	可燃物	放射発散度 (kW/m <sup>2</sup> )	可燃物	放射発散度 (kW/m <sup>2</sup> )	カフジ原油	41×10 <sup>3</sup> (35×10 <sup>3</sup> )	メタノール	9.8×10 <sup>3</sup> (8.4×10 <sup>3</sup> )	ガソリン・ナフサ	58×10 <sup>3</sup> (50×10 <sup>3</sup> )	エタノール	12×10 <sup>3</sup> (10×10 <sup>3</sup> )	灯油	50×10 <sup>3</sup> (43×10 <sup>3</sup> )	LNG (メタン)	76×10 <sup>3</sup> (65×10 <sup>3</sup> )	軽油	42×10 <sup>3</sup> (36×10 <sup>3</sup> )	エチレン	134×10 <sup>3</sup> (115×10 <sup>3</sup> )	重油	23×10 <sup>3</sup> (20×10 <sup>3</sup> )	プロパン	74×10 <sup>3</sup> (64×10 <sup>3</sup> )	ベンゼン	62×10 <sup>3</sup> (53×10 <sup>3</sup> )	プロピレン	73×10 <sup>3</sup> (53×10 <sup>3</sup> )	n-ヘキサン	85×10 <sup>3</sup> (73×10 <sup>3</sup> )	n-ブタン	83×10 <sup>3</sup> (71×10 <sup>3</sup> )		<p>(2) 放射熱強度の算出</p> <p>火災源の放射発散度 <math>R_f</math> と形態係数 <math>\phi</math> より受熱側の放射熱強度 <math>E</math> を算出する。</p> $E = R_f \times \phi$ <p><math>E</math>: 放射熱強度 (W/m<sup>2</sup>), <math>R_f</math>: 放射発散度 (W/m<sup>2</sup>), <math>\phi</math>: 形態係数</p> <p>液面火災では、火炎面積の直径が 10m を越えると空気供給不足により大量の黒煙が発生し放射発散度は低減する。</p> <p>放射発散度の低減率 <math>r</math> と燃焼容器直径 <math>D</math> の関係は次式で算出する。</p> $r = \exp(-0.06D)$ <p>ただし、<math>r=0.3</math> 程度を下限とする。</p> <p>第4表 主な可燃物の放射発散度</p> <table border="1" data-bbox="1346 584 1955 850"> <thead> <tr> <th>可燃性液体</th> <th>放射発散度 (kW/m<sup>2</sup>)</th> <th>可燃性液体</th> <th>放射発散度 (kW/m<sup>2</sup>)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>カフジ原油</td> <td>41</td> <td>メタノール</td> <td>9.8</td> </tr> <tr> <td>ガソリン・ナフサ</td> <td>58</td> <td>エタノール</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>灯油</td> <td>50</td> <td>LNG (メタン)</td> <td>76</td> </tr> <tr> <td>軽油</td> <td>42</td> <td>エチレン</td> <td>134</td> </tr> <tr> <td>重油</td> <td>23</td> <td>プロパン</td> <td>74</td> </tr> <tr> <td>ベンゼン</td> <td>62</td> <td>プロピレン</td> <td>73</td> </tr> <tr> <td>n-ヘキサン</td> <td>85</td> <td>n-ブタン</td> <td>83</td> </tr> </tbody> </table> <p>出典：「石油コンビナートの防災アセスメント指針」</p>	可燃性液体	放射発散度 (kW/m <sup>2</sup> )	可燃性液体	放射発散度 (kW/m <sup>2</sup> )	カフジ原油	41	メタノール	9.8	ガソリン・ナフサ	58	エタノール	12	灯油	50	LNG (メタン)	76	軽油	42	エチレン	134	重油	23	プロパン	74	ベンゼン	62	プロピレン	73	n-ヘキサン	85	n-ブタン	83	<p>【女川】記載表現の相違</p>
可燃物	放射発散度 (kW/m <sup>2</sup> )	可燃物	放射発散度 (kW/m <sup>2</sup> )																																																																
カフジ原油	41×10 <sup>3</sup> (35×10 <sup>3</sup> )	メタノール	9.8×10 <sup>3</sup> (8.4×10 <sup>3</sup> )																																																																
ガソリン・ナフサ	58×10 <sup>3</sup> (50×10 <sup>3</sup> )	エタノール	12×10 <sup>3</sup> (10×10 <sup>3</sup> )																																																																
灯油	50×10 <sup>3</sup> (43×10 <sup>3</sup> )	LNG (メタン)	76×10 <sup>3</sup> (65×10 <sup>3</sup> )																																																																
軽油	42×10 <sup>3</sup> (36×10 <sup>3</sup> )	エチレン	134×10 <sup>3</sup> (115×10 <sup>3</sup> )																																																																
重油	23×10 <sup>3</sup> (20×10 <sup>3</sup> )	プロパン	74×10 <sup>3</sup> (64×10 <sup>3</sup> )																																																																
ベンゼン	62×10 <sup>3</sup> (53×10 <sup>3</sup> )	プロピレン	73×10 <sup>3</sup> (53×10 <sup>3</sup> )																																																																
n-ヘキサン	85×10 <sup>3</sup> (73×10 <sup>3</sup> )	n-ブタン	83×10 <sup>3</sup> (71×10 <sup>3</sup> )																																																																
可燃性液体	放射発散度 (kW/m <sup>2</sup> )	可燃性液体	放射発散度 (kW/m <sup>2</sup> )																																																																
カフジ原油	41	メタノール	9.8																																																																
ガソリン・ナフサ	58	エタノール	12																																																																
灯油	50	LNG (メタン)	76																																																																
軽油	42	エチレン	134																																																																
重油	23	プロパン	74																																																																
ベンゼン	62	プロピレン	73																																																																
n-ヘキサン	85	n-ブタン	83																																																																





赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉 (3) 離隔距離と放射熱強度の関係 各可燃物施設からアクセスルートまでの離隔距離と放射熱強度が「長時間さらされても苦痛を感じない強度」である 1.6kW/m <sup>2</sup> 以下となる距離を第3表及び第3図に示す。	高根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉 (3) 離隔距離と放射熱強度の関係 可燃物施設火災時の影響評価は、石油コンビナートの防災アセスメント指針を元に「長時間さらされても苦痛を感じない強度」である 1.6kW/m <sup>2</sup> を採用する。各可燃物施設火災時の影響評価方法を第5表、各可燃物施設からアクセスルートまでの離隔距離と放射熱強度を第6表及び第4図に示す。	相違理由 【女川】記載表現の相違  【女川】記載内容の相違・泊は評価方法を明記している。  【女川】記載内容の相違・プラントの相違に伴う評価結果の相違。																																																																																																																	
<p>第3表 可燃物施設の火災による影響範囲とアクセスルートとの離隔距離</p> <table border="1" data-bbox="107 898 629 1406"> <thead> <tr> <th>評価対象</th> <th>火災中心からの距離</th> <th>ルート1又はルート2までの離隔距離<sup>※1</sup></th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1号軽油貯蔵タンク</td><td>約36m</td><td>約241m</td></tr> <tr><td>大容量電源装置</td><td>約24m</td><td>約64m</td></tr> <tr><td>1号主変圧器</td><td>約18m<sup>※2</sup></td><td>約151m</td></tr> <tr><td>1号起動変圧器</td><td>約16m<sup>※2</sup></td><td>約163m</td></tr> <tr><td>1号所内変圧器</td><td>約12m<sup>※2</sup></td><td>約140m</td></tr> <tr><td>2号主変圧器</td><td>約19m<sup>※2</sup></td><td>約140m</td></tr> <tr><td>2号起動変圧器</td><td>約17m<sup>※2</sup></td><td>約123m</td></tr> <tr><td>2号所内変圧器</td><td>約12m<sup>※2</sup></td><td>約127m</td></tr> <tr><td>2号助能電源変圧器</td><td>約10m<sup>※2</sup></td><td>約128m</td></tr> <tr><td>2号補助ボイラー用変圧器</td><td>約13m<sup>※2</sup></td><td>約74m</td></tr> <tr><td>2号PLB-VVVF入力変圧器</td><td>約9m<sup>※2</sup></td><td>約21m</td></tr> <tr><td>3号主変圧器</td><td>約19m<sup>※2</sup></td><td>約28m</td></tr> <tr><td>3号起動変圧器</td><td>約15m<sup>※2</sup></td><td>約37m</td></tr> <tr><td>3号所内変圧器</td><td>約12m<sup>※2</sup></td><td>約33m</td></tr> <tr><td>3号助能電源変圧器</td><td>約10m<sup>※2</sup></td><td>約19m</td></tr> <tr><td>3号補助ボイラー用変圧器</td><td>約10m<sup>※2</sup></td><td>約60m</td></tr> <tr><td>3号PLB-VVVF入力変圧器</td><td>約9m<sup>※2</sup></td><td>約18m</td></tr> </tbody> </table> <p>※1 火災中心からの距離                      ※2 絶縁油の放射熱強度は重油の値を使用して算出</p>	評価対象	火災中心からの距離	ルート1又はルート2までの離隔距離 <sup>※1</sup>	1号軽油貯蔵タンク	約36m	約241m	大容量電源装置	約24m	約64m	1号主変圧器	約18m <sup>※2</sup>	約151m	1号起動変圧器	約16m <sup>※2</sup>	約163m	1号所内変圧器	約12m <sup>※2</sup>	約140m	2号主変圧器	約19m <sup>※2</sup>	約140m	2号起動変圧器	約17m <sup>※2</sup>	約123m	2号所内変圧器	約12m <sup>※2</sup>	約127m	2号助能電源変圧器	約10m <sup>※2</sup>	約128m	2号補助ボイラー用変圧器	約13m <sup>※2</sup>	約74m	2号PLB-VVVF入力変圧器	約9m <sup>※2</sup>	約21m	3号主変圧器	約19m <sup>※2</sup>	約28m	3号起動変圧器	約15m <sup>※2</sup>	約37m	3号所内変圧器	約12m <sup>※2</sup>	約33m	3号助能電源変圧器	約10m <sup>※2</sup>	約19m	3号補助ボイラー用変圧器	約10m <sup>※2</sup>	約60m	3号PLB-VVVF入力変圧器	約9m <sup>※2</sup>	約18m		<p>第5表 可燃物施設火災時の影響評価方法</p>  <p>第6表 可燃物施設の火災による影響範囲とアクセスルートとの離隔距離</p> <table border="1" data-bbox="1346 938 1955 1441"> <thead> <tr> <th>評価対象</th> <th>放射熱強度が1.6kW/m<sup>2</sup>となる火災の中心からの距離(m) : A</th> <th>火災の中心からアクセスルートまでの距離(m) : B</th> <th>アクセスルート幅(m) : C</th> <th>判定値 : B+C-A (4.0m以上 : 影響なし)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1号が主変圧器<sup>※</sup></td><td>17.1</td><td>116.7</td><td>8</td><td>107.6 (影響なし)</td></tr> <tr><td>1号炉所内変圧器<sup>※</sup></td><td>15.5</td><td>101.7</td><td>8</td><td>94.2 (影響なし)</td></tr> <tr><td>1号炉起動変圧器<sup>※</sup></td><td>12.9</td><td>101.5</td><td>8</td><td>96.6 (影響なし)</td></tr> <tr><td>2号炉主変圧器<sup>※</sup></td><td>17.1</td><td>19.5</td><td>12</td><td>14.4 (影響なし)</td></tr> <tr><td>2号炉所内変圧器<sup>※</sup></td><td>12.9</td><td>22.5</td><td>12</td><td>21.6 (影響なし)</td></tr> <tr><td>2号炉起動変圧器<sup>※</sup></td><td>15.5</td><td>10.0</td><td>12</td><td>6.5 (影響なし)</td></tr> <tr><td>1号及び2号炉予備変圧器<sup>※</sup></td><td>12.4</td><td>83.7</td><td>12</td><td>83.3 (影響なし)</td></tr> <tr><td>1号及び2号炉補助ボイラー燃料タンク</td><td>36</td><td>35.5</td><td>8</td><td>7.5 (影響なし)</td></tr> <tr><td>3号炉主/所内変圧器<sup>※</sup></td><td>18.9</td><td>46.7</td><td>10</td><td>37.8 (影響なし)</td></tr> <tr><td>3号炉補助ボイラー燃料タンク</td><td>26.0</td><td>18.3</td><td>14</td><td>6.3 (影響なし)</td></tr> <tr><td>1号炉油計量タンク</td><td>19</td><td>38.4</td><td>7</td><td>26.4 (影響なし)</td></tr> </tbody> </table> <p>※：絶縁油の放射熱強度は物性の近い重油の値を使用して算出</p>	評価対象	放射熱強度が1.6kW/m <sup>2</sup> となる火災の中心からの距離(m) : A	火災の中心からアクセスルートまでの距離(m) : B	アクセスルート幅(m) : C	判定値 : B+C-A (4.0m以上 : 影響なし)	1号が主変圧器 <sup>※</sup>	17.1	116.7	8	107.6 (影響なし)	1号炉所内変圧器 <sup>※</sup>	15.5	101.7	8	94.2 (影響なし)	1号炉起動変圧器 <sup>※</sup>	12.9	101.5	8	96.6 (影響なし)	2号炉主変圧器 <sup>※</sup>	17.1	19.5	12	14.4 (影響なし)	2号炉所内変圧器 <sup>※</sup>	12.9	22.5	12	21.6 (影響なし)	2号炉起動変圧器 <sup>※</sup>	15.5	10.0	12	6.5 (影響なし)	1号及び2号炉予備変圧器 <sup>※</sup>	12.4	83.7	12	83.3 (影響なし)	1号及び2号炉補助ボイラー燃料タンク	36	35.5	8	7.5 (影響なし)	3号炉主/所内変圧器 <sup>※</sup>	18.9	46.7	10	37.8 (影響なし)	3号炉補助ボイラー燃料タンク	26.0	18.3	14	6.3 (影響なし)	1号炉油計量タンク	19	38.4	7	26.4 (影響なし)
評価対象	火災中心からの距離	ルート1又はルート2までの離隔距離 <sup>※1</sup>																																																																																																																		
1号軽油貯蔵タンク	約36m	約241m																																																																																																																		
大容量電源装置	約24m	約64m																																																																																																																		
1号主変圧器	約18m <sup>※2</sup>	約151m																																																																																																																		
1号起動変圧器	約16m <sup>※2</sup>	約163m																																																																																																																		
1号所内変圧器	約12m <sup>※2</sup>	約140m																																																																																																																		
2号主変圧器	約19m <sup>※2</sup>	約140m																																																																																																																		
2号起動変圧器	約17m <sup>※2</sup>	約123m																																																																																																																		
2号所内変圧器	約12m <sup>※2</sup>	約127m																																																																																																																		
2号助能電源変圧器	約10m <sup>※2</sup>	約128m																																																																																																																		
2号補助ボイラー用変圧器	約13m <sup>※2</sup>	約74m																																																																																																																		
2号PLB-VVVF入力変圧器	約9m <sup>※2</sup>	約21m																																																																																																																		
3号主変圧器	約19m <sup>※2</sup>	約28m																																																																																																																		
3号起動変圧器	約15m <sup>※2</sup>	約37m																																																																																																																		
3号所内変圧器	約12m <sup>※2</sup>	約33m																																																																																																																		
3号助能電源変圧器	約10m <sup>※2</sup>	約19m																																																																																																																		
3号補助ボイラー用変圧器	約10m <sup>※2</sup>	約60m																																																																																																																		
3号PLB-VVVF入力変圧器	約9m <sup>※2</sup>	約18m																																																																																																																		
評価対象	放射熱強度が1.6kW/m <sup>2</sup> となる火災の中心からの距離(m) : A	火災の中心からアクセスルートまでの距離(m) : B	アクセスルート幅(m) : C	判定値 : B+C-A (4.0m以上 : 影響なし)																																																																																																																
1号が主変圧器 <sup>※</sup>	17.1	116.7	8	107.6 (影響なし)																																																																																																																
1号炉所内変圧器 <sup>※</sup>	15.5	101.7	8	94.2 (影響なし)																																																																																																																
1号炉起動変圧器 <sup>※</sup>	12.9	101.5	8	96.6 (影響なし)																																																																																																																
2号炉主変圧器 <sup>※</sup>	17.1	19.5	12	14.4 (影響なし)																																																																																																																
2号炉所内変圧器 <sup>※</sup>	12.9	22.5	12	21.6 (影響なし)																																																																																																																
2号炉起動変圧器 <sup>※</sup>	15.5	10.0	12	6.5 (影響なし)																																																																																																																
1号及び2号炉予備変圧器 <sup>※</sup>	12.4	83.7	12	83.3 (影響なし)																																																																																																																
1号及び2号炉補助ボイラー燃料タンク	36	35.5	8	7.5 (影響なし)																																																																																																																
3号炉主/所内変圧器 <sup>※</sup>	18.9	46.7	10	37.8 (影響なし)																																																																																																																
3号炉補助ボイラー燃料タンク	26.0	18.3	14	6.3 (影響なし)																																																																																																																
1号炉油計量タンク	19	38.4	7	26.4 (影響なし)																																																																																																																

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
 <p>第3図 火災想定施設及び火災発生時における放射熱強度</p>		 <p>第4図 火災想定施設及び火災発生時における放射熱強度</p> <p>枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p>	<p>【女川】記載表現の相違・プラントの相違の相違による火災想定施設の相違。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉

第4表 放射熱の影響

(出典：石油コンビナートの防災アセスメント指針)

表 5.17 放射熱の影響

放射熱強度		状況および説明	出典
(kW/m <sup>2</sup> )	(kcal/m <sup>2</sup> h)		
0.9	800	太陽(真夏)放射熱強度	*1)
1.3	1,080	人が長時間暴露されても安全な強度	*2)
1.6	1,400	長時間さらされても苦痛を感じない強度	*5)
2.3	2,000	露出人体に対する危険範囲(接近可能) 1分間以内で痛みを感じる強度 <b>現指針(平成13年)に示されている液面火災の基準値</b>	*3)
2.4	2,050	地震時の市街地大火に対する避難計画で用いられる許容限界	*4)
4.0	3,400	20秒で痛みを感じる強度。皮膚に水疱を生じる場合があるが、致死率0%	*5)
4.6	4,000	10~20秒で苦痛を感じる強度 古い木板が長時間受熱すると引火する強度 フレアスタック直下での熱量規制(高圧ガス保安法他)	*2)
8.1	7,000	10~20秒で火傷となる強度	*2)
9.5	8,200	8秒で痛みの限界に達し、20秒で第2度の火傷(赤く斑点ができ水疱が生じる)を負う	*5)
11.6	10,000	<b>現指針(平成13年)に示されているファイヤーボールの基準値(ファイヤーボールの継続時間は概ね数秒以下と考えられることによる)</b>	*3)
11.6~	10,000~	約15分間に木材繊維などが発火する強度	*2)
12.5	10,800	木片が引火する、あるいはプラスチックチューブが溶ける最小エネルギー	*5)
25.0	21,500	長時間暴露により木片が自然発火する最小エネルギー	*5)
37.5	32,300	プロセス機器に被害を与えるのに十分な強度	*5)

\*1) 理科年表  
 \*2) 高圧ガス保安協会：コンビナート保安・防災技術指針(1974)  
 \*3) 消防庁特殊災害室：石油コンビナートの防災アセスメント指針(2001)  
 \*4) 長谷見雄二、重川希志依：火災時における人間の耐放射線量について、日本火災学会論文集、Vol.31, No.1(1981)  
 \*5) Manual of Industrial Hazard Assessment Techniques, ed.P.J.Kayes, Washington, DC: Office of Environmental and Scientific Affairs, World Bank. (1985)

島根原子力発電所2号炉

泊発電所3号炉

第7表 放射熱強度の影響

(出典：石油コンビナートの防災アセスメント指針)

放射熱強度		状況および説明	出典
(kW/m <sup>2</sup> )	(kcal/m <sup>2</sup> h)		
0.9	800	太陽(真夏)放射熱強度	*1)
1.3	1,080	人が長時間暴露されても安全な強度	*2)
1.6	1,400	長時間さらされても苦痛を感じない強度	*5)
2.3	2,000	露出人体に対する危険範囲(接近可能) 1分間以内で痛みを感じる強度 <b>現指針(平成13年)に示されている液面火災の基準値</b>	*3)
2.4	2,050	地震時の市街地大火に対する避難計画で用いられる許容限界	*4)
4.0	3,400	20秒で痛みを感じる強度。皮膚に水疱を生じる場合があるが、致死率0%	*5)
4.6	4,000	10~20秒で苦痛を感じる強度 古い木板が長時間受熱すると引火する強度 フレアスタック直下での熱量規制(高圧ガス保安法他)	*2)
8.1	7,000	10~20秒で火傷となる強度	*2)
9.5	8,200	8秒で痛みの限界に達し、20秒で第2度の火傷(赤く斑点ができ水疱が生じる)を負う	*5)
11.6	10,000	<b>現指針(平成13年)に示されているファイヤーボールの基準値(ファイヤーボールの継続時間は概ね数秒以下と考えられることによる)</b>	*3)
11.6~	10,000~	約15分間に木材繊維などが発火する強度	*2)
12.5	10,800	木片が引火する、あるいはプラスチックチューブが溶ける最小エネルギー	*5)
25.0	21,500	長時間暴露により木片が自然発火する最小エネルギー	*5)
37.5	32,300	プロセス機器に被害を与えるのに十分な強度	*5)



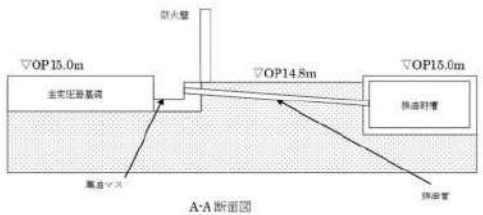
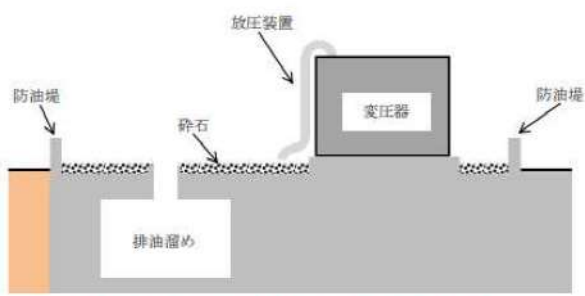

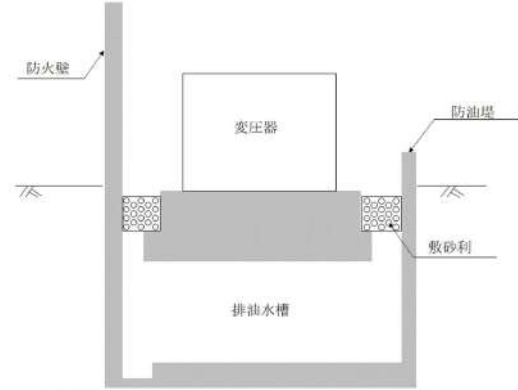
\*1) 理科年表  
 \*2) 高圧ガス保安協会：コンビナート保安・防災技術指針(1974)  
 \*3) 消防庁特殊災害室：石油コンビナートの防災アセスメント指針(2001)  
 \*4) 長谷見雄二、重川希志依：火災時における人間の耐放射線量について、日本火災学会論文集、Vol.31, No.1(1981)  
 \*5) Manual of Industrial Hazard Assessment Techniques, ed.P.J.Kayes, Washington, DC: Office of Environmental and Scientific Affairs, World Bank. (1985)

相違理由

【女川】記載表現の相違

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

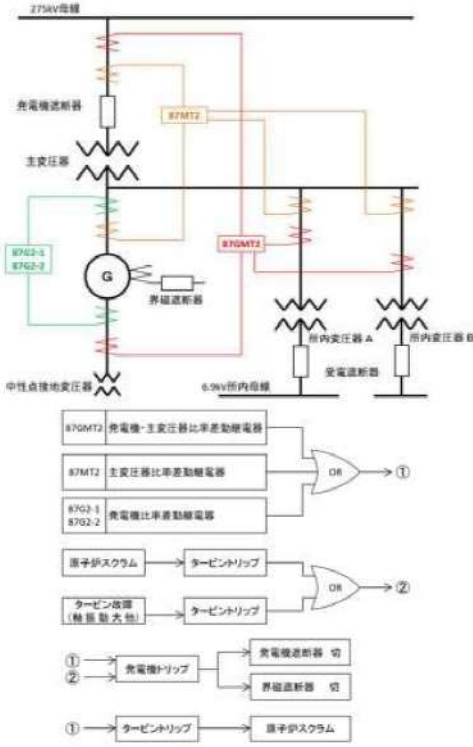
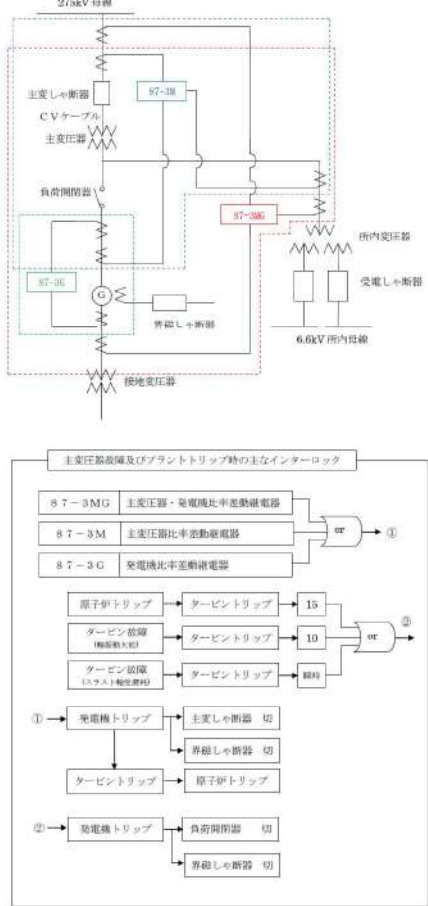
1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p style="text-align: right;">別添-1</p> <p style="text-align: center;">主変圧器、起動用変圧器エリアの防油堤について</p> <p>地震により主変圧器、起動用変圧器が損傷し、変圧器内の絶縁油が漏えいした場合、防油堤内に漏えいした絶縁油は防油堤内の集油マスに流入した後、排油貯槽に流下するため、万一火災が発生した場合でもアクセスルートへの影響は考えにくい。</p>  <p>図 主変圧器、起動用変圧器エリア配置図</p>  <p>図 主変圧器外観</p>  <p>A-A断面図</p>	<p style="text-align: center;">島根原子力発電所2号炉</p>  <p>第1図 変圧器下部構造（防油堤及び排油溜め）</p>	<p style="text-align: right;">別添-1</p> <p style="text-align: center;">変圧器エリアの防油堤について</p> <p>地震により主変圧器、起動変圧器等が損傷し、変圧器内の絶縁油が漏えいした場合、防油堤内に漏えいした絶縁油は防油堤内の排油水槽に流入するため、万一火災が発生した場合でもアクセスルートへの影響は考えにくい。変圧器外観を第1図、変圧器下部構造を第2図に示す。</p>  <p>第1図 変圧器外観</p>  <p>第2図 変圧器下部構造（防油堤及び排油水槽）</p>	<p>【女川】記載内容の相違・設備の相違。                  【女川】記載内容の相違</p> <p>【女川】記載表現の相違・プラントの相違による変圧器下部構造の相違。</p>



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

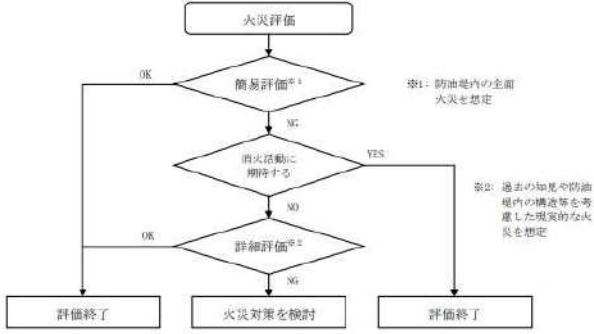
1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p style="text-align: right;">別添-2</p> <p>主変圧器内部故障及び電気回路故障時の事故拡大防止対策</p> <p>変圧器内部の巻線及び電気回路に地震等により短絡が発生すると、主変圧器1次側と2次側の電流の比率が変化することから、比率差動継電器により電流値の比率を監視している。</p> <p>故障を検知した場合は発電機を停止するため瞬時に発電機遮断器及び界磁遮断器を開放することにより、事故点を隔離し、電氣的に遮断するため、万一絶縁油が漏えいしたとしても火災発生リスクは低減されると考える。</p>  <p>主変圧器及びプラントトリップ時の主なインターロック</p>	<p>(2) 変圧器火災の事故拡大防止対策について</p> <p>中越沖地震において、柏崎刈羽原子力発電所3号炉の所内変圧器での火災は、地盤の沈下による相対変位が主な原因であった。</p> <p>島根原子力発電所の2、3号炉の変圧器は、基礎が岩盤又は地盤改良土に設置されていることから地盤の沈下による相対変位は想定されないため、火災が発生する可能性は少ない。</p> <p>1号炉起動変圧器及び予備変圧器は、絶縁母線フレキシブル導体部の絶縁処理による火災の発生防止対策を実施している。</p> <p>また、各変圧器は参考資料-1に示すとおり、保護継電器にて保護されており、電気回路故障時の事故拡大防止対策を実施している。</p>	<p style="text-align: right;">別添-2</p> <p>主変圧器内部故障及び電気回路故障時の事故拡大防止対策</p> <p>変圧器内部の巻線及び電気回路に地震等により短絡が発生すると、主変圧器1次側と2次側の電流の比率が変化することから、比率差動継電器により電流値の比率を監視している。</p> <p>故障を検知した場合は発電機を停止するため瞬時に発電機遮断器及び界磁遮断器を開放することにより、事故点を隔離し、電氣的に遮断するため、万一絶縁油が漏えいしたとしても火災発生リスクは低減されると考える。</p>  <p>第1図 主変圧器及びプラントトリップ時の主なインターロック</p>	<p>【島根】記載表現の相違</p>

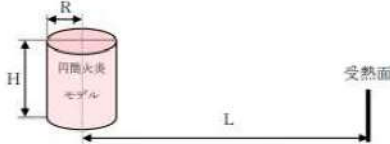


赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																								
	<p>(3) 変圧器火災の評価方法について                      変圧器火災の評価は、第2図のフローに従い行う。</p>  <p>第2図 変圧器の火災評価</p> <p>※1: 防油壁内の全面火災を想定                      ※2: 過去の知見や防油壁内の構造等を考慮した現実的な火災を想定</p> <p>上述したとおり、地震により変圧器が損傷した場合においても火災が発生する可能性は非常に少ないと考えているが、今回の屋外のアクセスルートへの影響については、保守的に簡易評価を採用する。</p> <p>2. 屋外のアクセスルート周辺における変圧器の火災評価                      (1) 変圧器の保有油量及び排油溜め受入量                      第1表にアクセスルート周辺にある変圧器の保有油量及び排油溜め受入量を記す。</p> <p>第1表 アクセスルートに影響を及ぼすおそれのある変圧器保有油量及び排油溜め受入量</p> <table border="1" data-bbox="719 997 1310 1228"> <thead> <tr> <th>変圧器</th> <th>本体貯油量 (kL)</th> <th>排油溜め容積 (m<sup>3</sup>)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>予備変圧器</td> <td>10</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>1号炉 起動変圧器</td> <td>46</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>2号炉 主変圧器</td> <td>77</td> <td rowspan="2">約 317</td> </tr> <tr> <td>2号炉 所内変圧器</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>2号炉 起動変圧器</td> <td>24</td> <td rowspan="3">約 432</td> </tr> <tr> <td>3号炉 補助変圧器</td> <td>37</td> </tr> <tr> <td>3号炉 主変圧器</td> <td>141</td> </tr> <tr> <td>3号炉 所内変圧器</td> <td>21</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 火災源からの放射熱強度の算出                      各変圧器について、火災が発生した場合のアクセスルートにおける作業及び通行の有効性を確認するため、「石油コンビナートの防災アセスメント指針」を基に火災の影響範囲を算出した。                      算出方法及び算定結果は以下のとおり。</p>	変圧器	本体貯油量 (kL)	排油溜め容積 (m <sup>3</sup> )	予備変圧器	10	-	1号炉 起動変圧器	46	-	2号炉 主変圧器	77	約 317	2号炉 所内変圧器	20	2号炉 起動変圧器	24	約 432	3号炉 補助変圧器	37	3号炉 主変圧器	141	3号炉 所内変圧器	21			<p>【島根】記載内容の相違                      ・島根は変圧器火災の評価方法を明確化している。</p> <p>【島根】記載箇所の相違                      ・泊は女川と同様に、「3. 主要変圧器の火災について」及び「5. 火災源からの輻射強度の算出」において同様の内容を記載している。</p>
変圧器	本体貯油量 (kL)	排油溜め容積 (m <sup>3</sup> )																									
予備変圧器	10	-																									
1号炉 起動変圧器	46	-																									
2号炉 主変圧器	77	約 317																									
2号炉 所内変圧器	20																										
2号炉 起動変圧器	24	約 432																									
3号炉 補助変圧器	37																										
3号炉 主変圧器	141																										
3号炉 所内変圧器	21																										

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>a. 形態係数の算出</p> <p>火災源を円筒火炎モデルと仮定し、火災源からの受熱面が受け取る放射熱量の割合に関連する形態係数<math>\Phi</math>を算出する。</p> $\Phi(L) = \frac{1}{m} \left[ 1 - \frac{m}{\sqrt{n^2 + 1}} \right] + \frac{m}{\pi} \left[ \frac{(A - 2n)}{n\sqrt{AB}} \right] \left[ 1 - \frac{1}{\sqrt{B(n+1)}} \right] \left[ \frac{1}{n} \left[ 1 - \frac{m}{\sqrt{n^2 + 1}} \right] \right]$ $m = \frac{H}{R} = 3, \quad n = \frac{L}{R}, \quad A = (1+n)^2 + m^2, \quad B = (1-n)^2 + m^2$ <p>ただし、H:火炎高さ[m]、R:火炎底面半径[m]、L:離隔距離[m]</p> <p>油火災において任意の位置における放射熱強度を計算により求めるには、囲いと同面積の底面をもち、高さが底面半径の3倍(m=H/R=3)の円筒火炎モデルを採用する。</p> <p>なお、燃焼半径は以下の式から算出する。(第3図)</p> $R = \sqrt{S/\pi}$ <p>R:燃焼半径[m]、S:燃料タンク防油堤面積[m<sup>2</sup>]</p>  <p>第3図 円筒火炎モデルと受熱面の関係                  出典：「石油コンビナートの防災アセスメント指針」</p> <p>b. 放射熱強度の算出</p> <p>火災源の放射発散度<math>R_f</math>と形態係数<math>\Phi</math>から、受熱面の放射熱強度Eを算出する。</p> $E = R_f \cdot \Phi$ <p>E:放射熱強度[W/m<sup>2</sup>]、<math>R_f</math>:放射発散度[W/m<sup>2</sup>]、<math>\Phi</math>:形態係数[-] (第2表)</p> <p>液面火災では、火炎面積の直径が10mを超えると空気供給不足により大量の黒煙が発生し放射発散度は低減する。</p> <p>放射発散度の低減率<math>r</math>と燃焼容器直径Dの関係は次式で算出する。</p> $r = \exp(-0.06D)$ <p>ただし、<math>r=0.3</math>程度を下限とする。</p>		<p>【島根】記載箇所の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>泊は女川と同様に、                     <ul style="list-style-type: none"> <li>「3. 主要変圧器の火災について」及び「5. 火災源からの輻射強度の算出」において同様の内容を記載している。</li> </ul> </li> </ul>

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																														
	<p style="text-align: center;">第2表 主な可燃物の放射発散度</p> <table border="1" data-bbox="801 199 1218 384"> <thead> <tr> <th>可燃性液体</th> <th>放射発散度 (kW/m<sup>2</sup>)</th> <th>可燃性液体</th> <th>放射発散度 (kW/m<sup>2</sup>)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>カブジ原油</td> <td>41</td> <td>メタノール</td> <td>9.8</td> </tr> <tr> <td>ガソリン・ナフサ</td> <td>58</td> <td>エタノール</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>灯油</td> <td>50</td> <td>LNG (メタン)</td> <td>76</td> </tr> <tr> <td>軽油</td> <td>42</td> <td>エチレン</td> <td>134</td> </tr> <tr> <td>重油</td> <td>23</td> <td>プロパン</td> <td>74</td> </tr> <tr> <td>ベンゼン</td> <td>62</td> <td>プロピレン</td> <td>73</td> </tr> <tr> <td>n-ヘキサン</td> <td>85</td> <td>n-ブタン</td> <td>83</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">出典：「石油コンビナートの防災アセスメント指針」</p> <p>c. 離隔距離と放射熱強度との関係                      「石油コンビナートの防災アセスメント指針」に記載の放射熱強度とその影響を以下の第3表に示す。</p> <p style="text-align: center;">第3表 放射熱の影響</p> <table border="1" data-bbox="725 644 1312 1104"> <thead> <tr> <th colspan="2">放射熱強度</th> <th rowspan="2">状況および説明</th> <th rowspan="2">出典</th> </tr> <tr> <th>(kW/m<sup>2</sup>)</th> <th>(kcal/m<sup>2</sup>h)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0.9</td> <td>800</td> <td>太陽(真夏)放射熱強度</td> <td>*1)</td> </tr> <tr> <td>1.3</td> <td>1,080</td> <td>人が長時間暴露されても安全な強度</td> <td>*2)</td> </tr> <tr> <td>1.6</td> <td>1,400</td> <td>長時間さらされても苦痛を感じない強度</td> <td>*5)</td> </tr> <tr> <td>2.3</td> <td>2,000</td> <td>露出人体に対する危険範囲(接近可能) 1分以内で痛みを感じる強度 <b>現指針(平成13年)に示されている液面火災の基準値</b></td> <td>*3)</td> </tr> <tr> <td>2.4</td> <td>2,050</td> <td>地震時の市街地大火に対する避難計画で用いられる許容限界</td> <td>*4)</td> </tr> <tr> <td>4.0</td> <td>3,400</td> <td>20秒で痛みを感じる強度。皮膚に水疱を生じる場合があるが、致死率0%</td> <td>*5)</td> </tr> <tr> <td>4.6</td> <td>4,000</td> <td>10~20秒で苦痛を感じる強度 古い木板が長時間受熱すると引火する強度 フレアスタック直下での熱量規制(高圧ガス保安法他)</td> <td>*2)</td> </tr> <tr> <td>8.1</td> <td>7,000</td> <td>10~20秒で大傷となる強度</td> <td>*2)</td> </tr> <tr> <td>9.5</td> <td>8,200</td> <td>8秒で痛みの限界に達し、20秒で第2度の火傷(赤く斑点ができて水疱が生じる)を負う</td> <td>*5)</td> </tr> <tr> <td>11.6</td> <td>10,000</td> <td><b>現指針(平成13年)に示されているファイヤーボールの基準値(ファイヤーボールの継続時間は概ね数秒以下と考えられることによる)</b></td> <td>*3)</td> </tr> <tr> <td>11.6~</td> <td>10,000~</td> <td>約15分間に木材繊維などが発火する強度</td> <td>*2)</td> </tr> <tr> <td>12.5</td> <td>10,800</td> <td>木片が引火する、あるいはプラスチックチューブが溶ける最小エネルギー</td> <td>*5)</td> </tr> <tr> <td>25.0</td> <td>21,500</td> <td>長時間暴露により木片が自然発火する最小エネルギー</td> <td>*5)</td> </tr> <tr> <td>37.5</td> <td>32,300</td> <td>プロセス機器に被害を与えるのに十分な強度</td> <td>*5)</td> </tr> </tbody> </table> <p>*1) 産科年表                      *2) 高圧ガス保安協会：コンビナート保安・防災技術指針(1974)                      *3) 消防庁特殊災害室：石油コンビナートの防災アセスメント指針(2001)                      *4) 長谷見雄二、東川希志依：火災時における人間の耐放射熱限界について、日本火災学会論文集、Vol.31、No.1(1981)                      *5) Manual of Industrial Hazard Assessment Techniques, ed.P.J.Kayes, Washington, DC: Office of Environmental and Scientific Affairs, World Bank. (1985)</p> <p style="text-align: center;">出典：「石油コンビナートの防災アセスメント指針」</p>	可燃性液体	放射発散度 (kW/m <sup>2</sup> )	可燃性液体	放射発散度 (kW/m <sup>2</sup> )	カブジ原油	41	メタノール	9.8	ガソリン・ナフサ	58	エタノール	12	灯油	50	LNG (メタン)	76	軽油	42	エチレン	134	重油	23	プロパン	74	ベンゼン	62	プロピレン	73	n-ヘキサン	85	n-ブタン	83	放射熱強度		状況および説明	出典	(kW/m <sup>2</sup> )	(kcal/m <sup>2</sup> h)	0.9	800	太陽(真夏)放射熱強度	*1)	1.3	1,080	人が長時間暴露されても安全な強度	*2)	1.6	1,400	長時間さらされても苦痛を感じない強度	*5)	2.3	2,000	露出人体に対する危険範囲(接近可能) 1分以内で痛みを感じる強度 <b>現指針(平成13年)に示されている液面火災の基準値</b>	*3)	2.4	2,050	地震時の市街地大火に対する避難計画で用いられる許容限界	*4)	4.0	3,400	20秒で痛みを感じる強度。皮膚に水疱を生じる場合があるが、致死率0%	*5)	4.6	4,000	10~20秒で苦痛を感じる強度 古い木板が長時間受熱すると引火する強度 フレアスタック直下での熱量規制(高圧ガス保安法他)	*2)	8.1	7,000	10~20秒で大傷となる強度	*2)	9.5	8,200	8秒で痛みの限界に達し、20秒で第2度の火傷(赤く斑点ができて水疱が生じる)を負う	*5)	11.6	10,000	<b>現指針(平成13年)に示されているファイヤーボールの基準値(ファイヤーボールの継続時間は概ね数秒以下と考えられることによる)</b>	*3)	11.6~	10,000~	約15分間に木材繊維などが発火する強度	*2)	12.5	10,800	木片が引火する、あるいはプラスチックチューブが溶ける最小エネルギー	*5)	25.0	21,500	長時間暴露により木片が自然発火する最小エネルギー	*5)	37.5	32,300	プロセス機器に被害を与えるのに十分な強度	*5)		<p>【島根】記載箇所の相違                      ・泊は女川と同様に、                      「a. 主要変圧器の火災について」及び「5. 火災源からの放射熱強度の算出」において同様の内容を記載している。</p>
可燃性液体	放射発散度 (kW/m <sup>2</sup> )	可燃性液体	放射発散度 (kW/m <sup>2</sup> )																																																																																														
カブジ原油	41	メタノール	9.8																																																																																														
ガソリン・ナフサ	58	エタノール	12																																																																																														
灯油	50	LNG (メタン)	76																																																																																														
軽油	42	エチレン	134																																																																																														
重油	23	プロパン	74																																																																																														
ベンゼン	62	プロピレン	73																																																																																														
n-ヘキサン	85	n-ブタン	83																																																																																														
放射熱強度		状況および説明	出典																																																																																														
(kW/m <sup>2</sup> )	(kcal/m <sup>2</sup> h)																																																																																																
0.9	800	太陽(真夏)放射熱強度	*1)																																																																																														
1.3	1,080	人が長時間暴露されても安全な強度	*2)																																																																																														
1.6	1,400	長時間さらされても苦痛を感じない強度	*5)																																																																																														
2.3	2,000	露出人体に対する危険範囲(接近可能) 1分以内で痛みを感じる強度 <b>現指針(平成13年)に示されている液面火災の基準値</b>	*3)																																																																																														
2.4	2,050	地震時の市街地大火に対する避難計画で用いられる許容限界	*4)																																																																																														
4.0	3,400	20秒で痛みを感じる強度。皮膚に水疱を生じる場合があるが、致死率0%	*5)																																																																																														
4.6	4,000	10~20秒で苦痛を感じる強度 古い木板が長時間受熱すると引火する強度 フレアスタック直下での熱量規制(高圧ガス保安法他)	*2)																																																																																														
8.1	7,000	10~20秒で大傷となる強度	*2)																																																																																														
9.5	8,200	8秒で痛みの限界に達し、20秒で第2度の火傷(赤く斑点ができて水疱が生じる)を負う	*5)																																																																																														
11.6	10,000	<b>現指針(平成13年)に示されているファイヤーボールの基準値(ファイヤーボールの継続時間は概ね数秒以下と考えられることによる)</b>	*3)																																																																																														
11.6~	10,000~	約15分間に木材繊維などが発火する強度	*2)																																																																																														
12.5	10,800	木片が引火する、あるいはプラスチックチューブが溶ける最小エネルギー	*5)																																																																																														
25.0	21,500	長時間暴露により木片が自然発火する最小エネルギー	*5)																																																																																														
37.5	32,300	プロセス機器に被害を与えるのに十分な強度	*5)																																																																																														

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																											
	<p>「長時間さらされても苦痛を感じない強度」である <math>1.6\text{kW}/\text{m}^2</math> を採用する。</p> <p>各可燃物施設からの放射熱強度を第4表に示す。</p> <p>アクセスルートは各可燃物施設から十分な隔離距離を有しており、アクセスルートでの作業、通行に影響はない。</p> <p>第4表 各施設からの放射熱強度（防油堤全面火災の場合）</p> <table border="1" data-bbox="721 359 1317 646"> <thead> <tr> <th>変圧器</th> <th>放射熱強度が <math>1.6\text{kW}/\text{m}^2</math> となる火炎の中心からの距離 (m)</th> <th>防油堤からアクセスルートまでの距離 (m)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>予備変圧器*</td> <td>約 12</td> <td>約 58</td> </tr> <tr> <td>1号炉 起動変圧器*</td> <td>約 17</td> <td>約 97</td> </tr> <tr> <td>2号炉 主変圧器*</td> <td>約 22</td> <td>約 37</td> </tr> <tr> <td>2号炉 所内変圧器*</td> <td>約 21</td> <td>約 37</td> </tr> <tr> <td>2号炉 起動変圧器*</td> <td>約 20</td> <td>約 37</td> </tr> <tr> <td>3号炉 補助変圧器*</td> <td>約 21</td> <td>約 65</td> </tr> <tr> <td>3号炉 主変圧器*</td> <td>約 23</td> <td>約 82</td> </tr> <tr> <td>3号炉 所内変圧器*</td> <td>約 20</td> <td>約 107</td> </tr> </tbody> </table> <p>※：絶縁油の放射発散度は物性の近い重油の値を使用して算出</p> <p>(3) 変圧器火災の同時発災</p> <p>2、3号炉の変圧器は第4図のとおりそれぞれ隣接して設置されていることから、それぞれの変圧器について同時に火災が発生した場合のアクセスルートに対する影響についても、同様に火災の影響範囲を算定し評価した。</p> <p>なお、それぞれの変圧器の間にはコンクリート壁があるため、アクセスルート上の放射熱強度は低減されることが見込まれるが、壁はないものとし、各変圧器を一体にまとめた大きな火災源であると仮定して評価するため、同時火災の影響評価方法としては保守性を有しており妥当であると考えます。</p> <p>各可燃物施設からアクセスルートまでの隔離距離と放射熱強度が、「長時間さらされても苦痛を感じない程度」である <math>1.6\text{kW}/\text{m}^2</math> 以下となる距離の算定結果を第5表に示す。それぞれの可燃物施設の火災の重量を考慮しても、十分な隔離距離を有し作業・通行に影響のない場所をアクセスルートとして選定している。</p>	変圧器	放射熱強度が $1.6\text{kW}/\text{m}^2$ となる火炎の中心からの距離 (m)	防油堤からアクセスルートまでの距離 (m)	予備変圧器*	約 12	約 58	1号炉 起動変圧器*	約 17	約 97	2号炉 主変圧器*	約 22	約 37	2号炉 所内変圧器*	約 21	約 37	2号炉 起動変圧器*	約 20	約 37	3号炉 補助変圧器*	約 21	約 65	3号炉 主変圧器*	約 23	約 82	3号炉 所内変圧器*	約 20	約 107		<p>【島根】記載箇所の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>泊は女川と同様に、「3. 主要変圧器の火災について」及び「5. 火災源からの放射熱強度の算出」において同様の内容を記載している。</li> </ul> <p>【島根】記載箇所の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>泊は女川と同様に、「補足資料(2)「火災の重量による熱影響評価について」において同様の内容を記載。</li> </ul>
変圧器	放射熱強度が $1.6\text{kW}/\text{m}^2$ となる火炎の中心からの距離 (m)	防油堤からアクセスルートまでの距離 (m)																												
予備変圧器*	約 12	約 58																												
1号炉 起動変圧器*	約 17	約 97																												
2号炉 主変圧器*	約 22	約 37																												
2号炉 所内変圧器*	約 21	約 37																												
2号炉 起動変圧器*	約 20	約 37																												
3号炉 補助変圧器*	約 21	約 65																												
3号炉 主変圧器*	約 23	約 82																												
3号炉 所内変圧器*	約 20	約 107																												

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由									
	<div data-bbox="734 167 1301 619" style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%;"></div> <p data-bbox="922 635 1113 657" style="text-align: center;">第4図 変圧器配置図</p> <p data-bbox="775 721 1261 774" style="text-align: center;">第5表 同時火災発生時における各変圧器の離隔距離と放射熱強度の関係</p> <table border="1" data-bbox="757 775 1274 976"> <thead> <tr> <th>変圧器</th> <th>放射熱強度が1.0kW/m<sup>2</sup>となる火災の中心からの距離 (m)</th> <th>防油堤からアクセスルートまでの距離 (m) ※2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2号炉 主変圧器<sup>※1</sup> 所内変圧器<sup>※1</sup> 起動変圧器<sup>※1</sup></td> <td>約32</td> <td>約37</td> </tr> <tr> <td>3号炉 補助変圧器<sup>※1</sup> 主変圧器<sup>※1</sup> 所内変圧器<sup>※1</sup></td> <td>約32</td> <td>約65</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="745 979 1173 997">※1：絶縁油の放射発散度は物性の近い重油の値を使用して算出</p> <p data-bbox="745 1002 1261 1042">※2：各施設のうちアクセスルートに一番近い2号炉主変圧器及び3号炉補助変圧器の防油堤からの距離を記載</p> <div data-bbox="891 1070 1301 1106" style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;"> <p>本資料のうち、枠囲みの内容は機密に係る事項のため公開できません。</p> </div> <p data-bbox="712 1158 1090 1181">(4) 変圧器火災発生時の消火活動について</p> <p data-bbox="728 1187 1328 1327">変圧器にはそれぞれ水噴霧消火設備が設置されているが、水源タンクや消火ポンプの損傷により消火ができない場合は、自衛消防隊による消火活動を実施し、被害の拡大を防止する。また、万一同時発災した場合は、アクセスルートへの影響の大きい箇所から消火活動を実施する。</p>	変圧器	放射熱強度が1.0kW/m <sup>2</sup> となる火災の中心からの距離 (m)	防油堤からアクセスルートまでの距離 (m) ※2	2号炉 主変圧器 <sup>※1</sup> 所内変圧器 <sup>※1</sup> 起動変圧器 <sup>※1</sup>	約32	約37	3号炉 補助変圧器 <sup>※1</sup> 主変圧器 <sup>※1</sup> 所内変圧器 <sup>※1</sup>	約32	約65		<p data-bbox="1980 140 2157 308">【島根】記載箇所の相違                  ・泊は女川同様、補足資料(2)「火災の重畳による熱影響評価について」において同様の内容を記載。</p>
変圧器	放射熱強度が1.0kW/m <sup>2</sup> となる火災の中心からの距離 (m)	防油堤からアクセスルートまでの距離 (m) ※2										
2号炉 主変圧器 <sup>※1</sup> 所内変圧器 <sup>※1</sup> 起動変圧器 <sup>※1</sup>	約32	約37										
3号炉 補助変圧器 <sup>※1</sup> 主変圧器 <sup>※1</sup> 所内変圧器 <sup>※1</sup>	約32	約65										



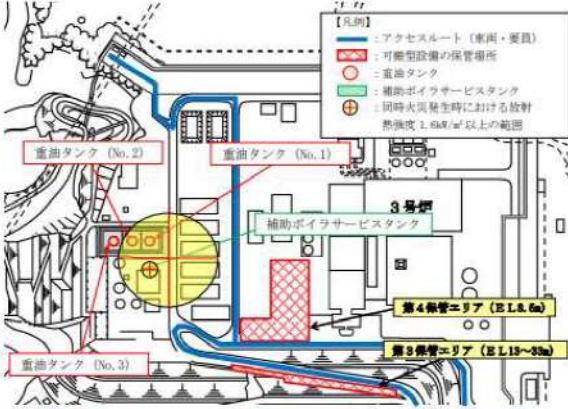

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由														
	<p>3. 重油タンク等の火災について</p> <p>重油タンク (No. 1, No. 2, No. 3), 補助ボイラサービスタンク, OFケーブルタンクの評価は, 第2図のフローに従い行い, 簡易評価を行う。</p> <p>なお, 重油タンク (No. 1, No. 2, No. 3) は第5図のとおり隣接して設置されており, 溢水防止壁も共通であることから, 同時に火災が発生した場合のアクセスルートに対する影響について評価する。</p> <p>OFケーブルタンクは複数のタンク (MTr: 6槽, STr: 3槽) で構成されているが, 第6図のとおり隣接して設置されていることから, 同時に火災が発生した場合のアクセスルートに対する影響について評価する。なお, OFケーブルタンクの周囲にはコンクリート壁があるため, アクセスルート上の放射熱強度は低減されることが見込まれるが, 壁はないものとし評価する。</p> <p>4. アクセスルート周辺における重油タンク等の火災評価</p> <p>(1) 重油タンク等の保有油量</p> <p>第6表にアクセスルート周辺にある重油タンク等の保有油量を記す。</p> <p>第6表 アクセスルートに影響を及ぼすおそれのある各タンク保有油量</p> <table border="1" data-bbox="797 746 1249 975"> <thead> <tr> <th>タンク</th> <th>保有油量 (kL)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>重油タンク (No. 1)</td> <td>900</td> </tr> <tr> <td>重油タンク (No. 2)</td> <td>900</td> </tr> <tr> <td>重油タンク (No. 3)</td> <td>900</td> </tr> <tr> <td>補助ボイラサービスタンク</td> <td>2.0</td> </tr> <tr> <td>OFケーブルタンク (MTr)</td> <td>1.5</td> </tr> <tr> <td>OFケーブルタンク (STr)</td> <td>0.6</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 火災源からの放射熱強度の算出</p> <p>火災が発生した場合のアクセスルートにおける作業及び通行の有効性を確認するため, 「石油コンビナートの防災アセスメント指針」を基に火災の影響範囲を算出した。算出方法は変圧器と同様とする。</p> <p>重油タンク等からの放射熱強度を第7表に示す。</p> <p>アクセスルートは重油タンク等から十分な離隔距離を有しており, アクセスルートでの作業, 通行に影響はない。</p>	タンク	保有油量 (kL)	重油タンク (No. 1)	900	重油タンク (No. 2)	900	重油タンク (No. 3)	900	補助ボイラサービスタンク	2.0	OFケーブルタンク (MTr)	1.5	OFケーブルタンク (STr)	0.6		<p>【島根】記載箇所の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・泊は女川と同様に, 「2. 3号炉補助ボイラ燃料タンクの消火方法について」及び「5. 火災源からの放射熱強度の算出」において同様の内容を記載している。</li> </ul>
タンク	保有油量 (kL)																
重油タンク (No. 1)	900																
重油タンク (No. 2)	900																
重油タンク (No. 3)	900																
補助ボイラサービスタンク	2.0																
OFケーブルタンク (MTr)	1.5																
OFケーブルタンク (STr)	0.6																

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由														
	<p>第7表 各施設からの放射熱強度（防油堤又は溢水防止壁全面火災の場合）</p> <table border="1" data-bbox="734 199 1294 414"> <thead> <tr> <th>タンク</th> <th>放射熱強度が1.6kW/m<sup>2</sup>となる火災の中心からの距離 (m)</th> <th>防油堤又は溢水防止壁からアクセスルートまでの距離 (m)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>重油タンク (No.1)</td> <td rowspan="3">約61</td> <td rowspan="3">約82<sup>※1</sup></td> </tr> <tr> <td>重油タンク (No.2)</td> </tr> <tr> <td>重油タンク (No.3)</td> </tr> <tr> <td>補助ボイラサービスタンク</td> <td>約7</td> <td>約66</td> </tr> <tr> <td>OFケーブルタンク</td> <td>約13</td> <td>約14<sup>※2</sup></td> </tr> </tbody> </table> <p>※1：重油タンクのうちアクセスルートに一番近い重油タンク (No.1) の溢水防止壁からの距離を記載                  ※2：OFケーブルタンクのうちアクセスルートに一番近いMTr用の防油堤からの距離を記載</p>  <p>第5図 重油タンク、補助ボイラサービスタンク配置図</p>  <p>第6図 OFケーブルタンク配置図</p>	タンク	放射熱強度が1.6kW/m <sup>2</sup> となる火災の中心からの距離 (m)	防油堤又は溢水防止壁からアクセスルートまでの距離 (m)	重油タンク (No.1)	約61	約82 <sup>※1</sup>	重油タンク (No.2)	重油タンク (No.3)	補助ボイラサービスタンク	約7	約66	OFケーブルタンク	約13	約14 <sup>※2</sup>		<p>【島根】記載箇所の相違                  ・泊は女川と同様に、「2. 3号炉補助ボイラ燃料タンクの消火方法について」及び「5. 火災源からの放射熱強度の算出」において同様の内容を記載している。</p>
タンク	放射熱強度が1.6kW/m <sup>2</sup> となる火災の中心からの距離 (m)	防油堤又は溢水防止壁からアクセスルートまでの距離 (m)															
重油タンク (No.1)	約61	約82 <sup>※1</sup>															
重油タンク (No.2)																	
重油タンク (No.3)																	
補助ボイラサービスタンク	約7	約66															
OFケーブルタンク	約13	約14 <sup>※2</sup>															

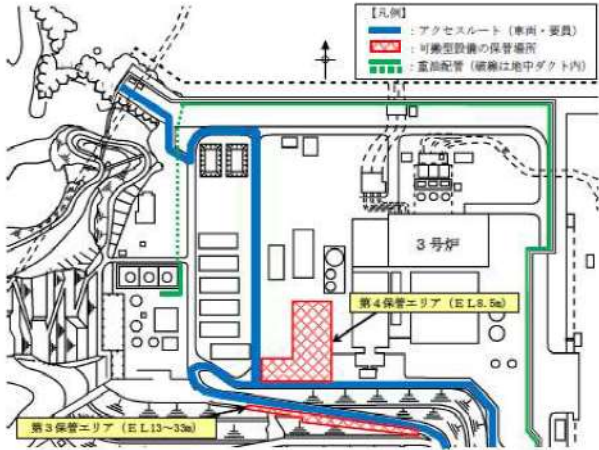
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>(3) 重油タンク等火災発生時の消火活動について</p> <p>重油タンク（No.1, No.2, No.3）には泡消火設備が設置されているが、泡消火設備の損傷により消火ができない場合は、自衛消防隊による消火活動を実施し、被害の拡大を防止する。また、万一同時発災した場合は、アクセスルートの影響の大きい個所から消火活動を実施する。</p> <p>5. OFケーブルの火災による影響について</p> <p>OFケーブルが敷設されているダクトの構内配置を第7図に示す。OFケーブルの火災によるアクセスルートへの影響について以下のとおり評価し、影響のないことを確認している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2号炉西側のOFケーブルダクトは厚さ250mmのコンクリート構造で構成されていること。</li> <li>・基準地震動Ssの転倒防止対策を実施していること。</li> <li>・2号炉西側の法面部以外のケーブルダクトは地中設置であること。</li> </ul> <p>なお、OFケーブルの絶縁油が漏えいした場合には、圧力継電器の作動により異常を早期に検出できる設計としている。</p> <p>また、ケーブルダクト内にて火災が発生した場合、発電所に常駐している自衛消防隊により、消火活動を実施することができる。</p> <div data-bbox="734 778 1294 1236" style="border: 1px solid black; height: 287px; width: 250px; margin: 20px auto;"></div> <p style="text-align: center;">第7図 OFケーブルダクト配置図</p> <div data-bbox="896 1305 1308 1337" style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center; margin: 10px auto; width: 184px;">                     本資料のうち、枠囲みの内容は機密に係る事項のため公開できません。                 </div>		<p>【島根】記載内容の相違                      ・泊にはOFケーブルがない。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

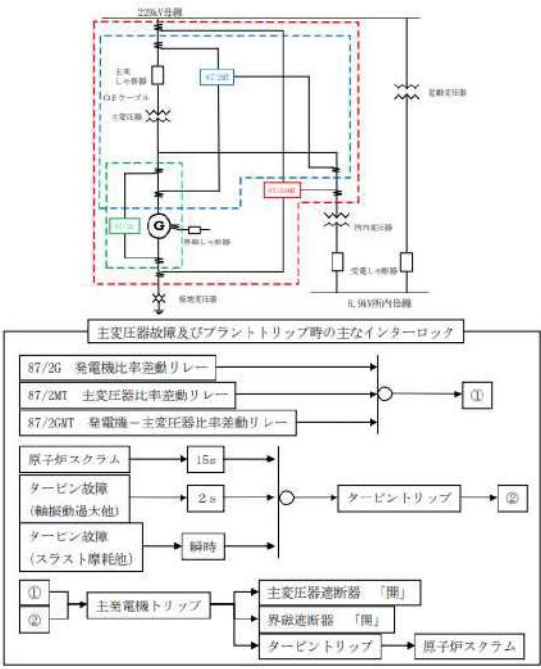
女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>6. 重油配管の火災による影響について</p> <p>重油配管の火災によるアクセスルートへの影響について以下のとおり評価し、影響のないことを確認している。</p> <p>重油配管が敷設されている構内配置を第8図に示す。</p> <p>重油配管のうち地上敷設箇所については、基準地震動Ssにより破損しないため、火災は発生しない。</p> <p>重油配管のうち地中ダクト内敷設箇所については、一部のアクセスルート（車両・要員）と交差しているが、交差部周辺のダクトは厚さ約20cmのコンクリートで構成されているとともに、4.(4)⑦地中埋設構造物の損壊における評価のとおりに損壊しないことから、アクセスルートへの影響はない。</p> <p>なお、地震時には遮断弁の作動により重油配管からの重油の漏えいを防止することが可能である。</p>  <p>第8図 重油配管ダクト配置図</p>		<p>【島根】記載内容の相違                  ・泊には地上に出ている油配管はない。</p>



泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

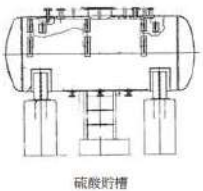
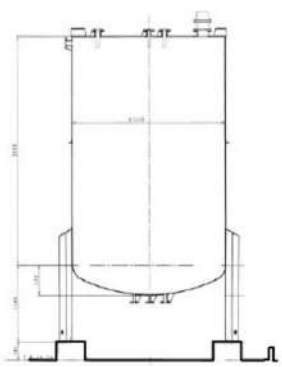
1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p style="text-align: right;">参考資料-1</p> <p style="text-align: center;">主変圧器内部故障及び電気回路故障時の事故拡大防止対策</p> <p>変圧器内部の巻き線及び電気回路に地震等により短絡が発生すると、主変圧器1次側と2次側の電流の比率が変化することから、比率差動継電器により電流値の比率を監視している。</p> <p>故障を検知した場合は、発電機を停止するため瞬時に主発電機しゃ断器及び主発電機界磁しゃ断器を開放することにより、事故点を隔離し、電氣的に遮断するため、万一絶縁油が漏えいしたとしても火災発生リスクは低減されると考える。</p>  <p style="text-align: center;">主変圧器故障及びプラントトリップ時の主なインターロック</p>		<p>【島根】記載箇所の相違              ・泊は女川同様、別添-2              「主変圧器内部故障及び電気回路故障時の事故拡大防止対策」に同様の内容を記載。</p>



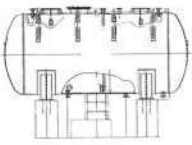
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p style="text-align: right;">別紙(19)</p> <p>復水脱塩装置他薬品タンクの外部への漏えいについて</p> <p>1. 地震時のタンクの転倒による漏えいについて                  地震時に転倒した場合に、その影響が防液堤外に及ぶ可能性のある高基礎の薬品タンクについて、1号炉復水脱塩装置の硫酸貯槽及び苛性ソーダ貯槽を例にその影響を検討した。</p> <p>(1) 1号炉復水脱塩装置硫酸貯槽</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>硫酸貯槽はNPSH確保のため基礎を嵩上げ（約1.3m）している横置円筒形鋼製タンク（t9mm）であり、基礎上に8本の基礎ボルト（M20）で固定されているため、その損傷モードとしては主にタンク基礎ボルトのせん断が想定される。</li> <li>基礎ボルトがせん断した場合、薬品の流出箇所としては配管接続部が考えられることから、大部分は防液堤内に流下するものと思われる。</li> <li>仮に防液堤外に漏えいした場合でも、薬品タンク外周の側溝等に流入することから、アクセスルート上に流出する可能性は低い。さらに薬品防護具を携行することによりアクセスが可能である。</li> </ul>  <p style="text-align: center;">硫酸貯槽</p>	<p style="text-align: center;">該当箇所なし</p>	<p style="text-align: right;">別紙(18)</p> <p>薬品タンクの外部への漏えいについて</p> <p>1. 地震時のタンクの転倒による漏えいについて                  地震時に転倒した場合に、その影響が防液堤外に及ぶ可能性のある高基礎の薬品タンクについて、3号炉給水処理設備の苛性ソーダ貯槽を例にその影響を検討した。</p> <p>(1) 3号炉給水処理設備 苛性ソーダ貯槽</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>苛性ソーダ貯槽は、苛性ソーダ計量槽への水頭差による苛性ソーダの移設を行うため、4本の脚により嵩上げしている鋼製タンク（t6mm）で、1脚当たり1本の基礎ボルト（M24）で固定しており、その損傷モードとしては、脚部の折損による傾斜が考えられる。</li> <li>脚部が折損した場合、薬品の流出箇所としては接続配管の破損箇所が考えられることから、大部分は防液堤内に流下するものと思われる。</li> <li>防液堤内に流下後、地下埋設の中和槽に排水されるため、アクセスルート上に流出する可能性は低い。さらに薬品防護具を着用することによりアクセスが可能である。</li> </ul>  <p style="text-align: center;">第1図 苛性ソーダ貯槽</p>	<p>【女川】記載内容の相違                  ・プラントの相違による薬品タンクの相違。</p> <p>【女川】設備の相違                  ・女川は屋外にタンクを設置している。泊は建屋内に設置されており、防液堤内へ流下した後、地下埋設の中和槽へ排水される構造となっている。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>(2) 1号炉復水脱塩装置苛性ソーダ貯槽</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>苛性ソーダ貯槽はNPSH確保のため基礎を嵩上げ（約1.4m）している横置円筒形鋼製タンク（t12mm、内面ゴムライニング）であり、基礎上に8本の基礎ボルト（M30）で固定されているため、その損傷モードとしては主にタンク基礎ボルトのせん断が想定される。</li> <li>基礎ボルトがせん断した場合、薬品の流出箇所としては配管接続部が考えられることから、大部分は防液堤内に流下する。</li> <li>仮に防液堤外に漏えいした場合でも、薬品タンク外周の側溝等に流入することから、アクセスルート上に流出する可能性は低い。さらに薬品防護具を携行することによりアクセスが可能である。</li> </ul>  <p style="text-align: center;">苛性ソーダ貯槽</p>			<p>【女川】記載内容の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>泊はアクセスルートに影響のある可能性のあるタンクは(1)に示す構造の薬品タンクのみ。</li> </ul>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>2. 薬品関係設備損壊による影響評価</p> <p>薬品関係設備損壊による影響については以下のとおり。</p> <p>①地震の影響により配管接続部より薬品が漏えいする可能性がある。</p> <p>②薬品が漏えいした場合においても防液堤により薬品は貯留される。</p> <p>③万一、防液堤が地震により損壊し、防液堤外に流出したとしても周囲には砂利敷きや排水溝を設置しており、土中への浸透又は排水溝へ排水される。</p>  <p>第1図 薬品関係設備損壊による影響概要図</p> <p>以上により薬品によるアクセスルートへの影響はないと考えるが、万一の場合を考慮し、<b>重大事故等対応要員</b>は薬品防護具を携帯する。</p>		<p>2. 薬品関係施設損壊による影響評価</p> <p>薬品関係施設損壊による影響については以下のとおり。</p> <p>①地震の影響により配管接続部より薬品が漏えいする可能性がある。</p> <p>②薬品が漏えいした場合においても防液堤により薬品は貯留されるとともに、排水溝へ排水され、地下埋設の中和槽へ流下する。</p>  <p>第2図 薬品関係施設損壊による影響概要図</p> <p>以上により薬品によるアクセスルートへの影響はないと考えるが、万一の場合を考慮し、<b>発電所災害対策要員</b>は薬品防護具を携帯する。</p>	<p>相違理由</p> <p>【女川】設備の相違                  ・女川は屋外にタンクを設置している。泊は建屋内に設置されており、防液堤内へ流下した後、地下埋設の中和槽へ排水される構造となっている。</p> <p>【女川】記載表現の相違</p>



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>別紙(20)</p> <p>可搬型設備車両の耐浸水性について</p> <p>屋外タンクが溢水した場合及び降水が継続した場合には、一時的に敷地内に滞留し、可搬型設備のアクセスルート走行に影響を及ぼす可能性が考えられる。</p> <p>具体的な影響としては、水が可搬型設備の機関に浸入し、機関が停止する可能性が考えられるが、以下の理由から可搬型設備の走行、アクセス性に支障はないと考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・屋外タンクからの溢水は、周辺の敷地が平坦かつ広大であり、周辺の道路上及び排水路を自然流下し、比較的短時間で拡散すると考えられること。</li> <li>・可搬型設備を建屋近傍の配置場所に配備するまでの時間に十分余裕（有効性評価では事象発生から約4時間程度を想定）があり、アクセスルートの状況を確認しつつ、走行が可能であること。</li> <li>・すべての溢水源（屋外タンク類）が可搬型設備を設置するO.P.+14.8mに流れ込んだとして評価しても、敷地浸水深は0.16mであり、第1表に示す可搬型設備車両の走行可能水位以下であること。（添付資料1.0.2-72参照）</li> <li>・すべての溢水源（屋外タンク類）から溢水しても、実際には排水路から約19分程度で排水可能であると評価できること。（補足資料(3)参照）</li> <li>・豪雨を想定しても排水路から排水可能であり、排水不足による滞留水の発生はないと評価できること。（別紙(6)参照）</li> </ul>	<p>別紙(8)</p> <p>可搬型設備（車両）の走行について</p> <p>1. 浸水時の可搬型設備の走行性</p> <p>屋外タンクの溢水又は降水が継続した場合には、可搬型設備のアクセスルート走行に影響を及ぼす可能性が考えられる。</p> <p>具体的な影響としては、水が可搬型設備の機関に浸入し、機関が停止する可能性が考えられるが、以下の理由から可搬型設備の走行・アクセス性に支障はないと考える。</p> <p>なお、可搬型設備は、万一機関吸気口が浸水するような状況では使用しない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・屋外タンクからの溢水は、周辺の空地が平坦かつ広大であり、周辺の道路上及び排水設備を自然流下し、拡散すると考えられること（別紙(26)参照）</li> <li>・可搬型設備を使用場所に配備するまでの時間に十分余裕があり、アクセスルートの状況を確認しつつ、走行が可能であること</li> </ul>	<p>別紙(19)</p> <p>可搬型設備車両の耐浸水性について</p> <p>屋外タンクが溢水した場合及び降水が継続した場合には、一時的に敷地内に滞留し、可搬型設備のアクセスルート走行に影響を及ぼす可能性が考えられる。</p> <p>具体的な影響としては、水が可搬型設備の機関に浸入し、機関が停止する可能性が考えられるが、以下の理由から可搬型設備の走行、アクセス性に支障はないと考えられる。</p> <p>なお、可搬型設備は、万一機関吸気口が浸水するような状況では使用しない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・屋外タンクからの溢水は、周辺の空地が平坦かつ広大であり、周辺の道路上及び構内排水設備を自然流下し、比較的短時間で拡散すると考えられること。</li> <li>・可搬型設備を建屋近傍の配置場所に配備するまでの時間に十分余裕（有効性評価では事象発生から約55分程度を想定）があり、アクセスルートの状況を確認しつつ、走行が可能であること。</li> <li>・すべての溢水源（屋外タンク類）が可搬型設備を設置するT.P.10.0mに流れ込んだとして評価しても、敷地浸水深は0.10mであり、第1表に示す可搬型設備車両の走行可能水位以下であること。（補足資料(3)参照）</li> <li>・すべての溢水源（屋外タンク類）から溢水しても、実際には構内排水設備から約23分程度で排水可能であると評価できること。（補足資料(3)参照）</li> <li>・豪雨を想定しても構内排水設備から排水可能であり、排水不足による滞留水の発生はないと評価できること。（別紙(6)参照）</li> </ul>	<p>【島根】記載表現の相違</p> <p>【女川】記載方針の相違                  ・泊は、島根に記載の可搬型設備が浸水するような場合は使用しないことを追記。                  【女川及び島根】記載表現の相違</p> <p>【島根】記載方針の相違                  ・泊は、女川と同様に、敷地浸水深が可搬型設備車両の走行可能水位を下回ることを、屋外タンクからの溢水及び豪雨を想定しても構内排水設備から排水可能であることについて記載。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																	
<p>可搬型設備の機関吸気口又は排気口までの高さを第1表に示す。</p> <p>第1表 可搬型設備車両の走行可能水位</p> <table border="1" data-bbox="152 199 600 561"> <thead> <tr> <th>可搬型設備（車両）</th> <th>機関吸気口高さ<sup>※1</sup> [m]</th> <th>機関排気口高さ<sup>※1</sup> [m]</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>大容量送水ポンプ（タイプⅠ）</td><td>1.07</td><td>0.27</td></tr> <tr><td>大容量送水ポンプ（タイプⅡ）</td><td>1.07</td><td>0.27</td></tr> <tr><td>熱交換器ユニット</td><td>1.25</td><td>0.24</td></tr> <tr><td>電源車</td><td>0.64</td><td>0.22</td></tr> <tr><td>タンクローリ</td><td>0.84</td><td>0.27</td></tr> <tr><td>可搬型窒素ガス供給装置</td><td>1.15</td><td>0.20</td></tr> <tr><td>ホース延長回収車</td><td>1.09</td><td>0.25</td></tr> <tr><td>ブルドーザ<sup>※2</sup></td><td colspan="2">0.45</td></tr> <tr><td>バックホウ<sup>※2</sup></td><td colspan="2">1.06</td></tr> </tbody> </table> <p>※1 吸気口高さ及び排気口高さは、地上面からの測定結果（実測値）。                  ※2 重機については、メーカーカタログより確認した最低地上高を記載。</p>	可搬型設備（車両）	機関吸気口高さ <sup>※1</sup> [m]	機関排気口高さ <sup>※1</sup> [m]	大容量送水ポンプ（タイプⅠ）	1.07	0.27	大容量送水ポンプ（タイプⅡ）	1.07	0.27	熱交換器ユニット	1.25	0.24	電源車	0.64	0.22	タンクローリ	0.84	0.27	可搬型窒素ガス供給装置	1.15	0.20	ホース延長回収車	1.09	0.25	ブルドーザ <sup>※2</sup>	0.45		バックホウ <sup>※2</sup>	1.06		<p>可搬型設備の機関吸気口及び排気口までの高さを第1表に示す。</p> <p>第1表 可搬型設備の機関吸気口及び排気口までの高さ</p> <table border="1" data-bbox="739 199 1254 481"> <thead> <tr> <th>可搬型設備名</th> <th>機関吸気口高さ (cm)<sup>※1</sup></th> <th>機関排気口高さ (cm)<sup>※1</sup></th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>高圧発電機車</td><td>113</td><td>22</td></tr> <tr><td>大量送水車</td><td>95</td><td>25</td></tr> <tr><td>移動式代替熱交換設備</td><td>223</td><td>25</td></tr> <tr><td>可搬式窒素供給装置</td><td>212</td><td>27</td></tr> <tr><td>大型送水ポンプ車</td><td>211</td><td>30</td></tr> <tr><td>第1ペントフィルタ出口水素濃度</td><td>90</td><td>24</td></tr> <tr><td>タンクローリ</td><td>76</td><td>25</td></tr> <tr><td>ホイールローダ</td><td colspan="2">45<sup>※2</sup></td></tr> </tbody> </table> <p>※1：吸気口の高さ及び排気口の高さは地上面からの測定結果。（実測値）                  同一可搬型設備名で複数の車種がある場合には最低値を記載。                  ※2：ホイールローダについては、最低地上高を記載。（実測値）</p> <p>2. 可搬型設備の登坂能力</p> <p>敷地内には緊急時対策所（E L 50m）及び保管場所（E L 8.5m, 13～33m, 44m, 50m）から目的地（保管場所、作業場所（2号炉周辺（E L 15m）、淡水取水場所（E L 44m）、海水取水場所（E L 8.5m）等）、原子炉建物入口（E L 15m）へのルートとして勾配が付いたアクセスルートが設置される。</p> <p>さらに、地震に伴う液状化及び揺すり込みによる沈下により、保管場所の地表面には傾斜の発生が想定される。</p> <p>上記のアクセスルートの勾配や地震後の保管場所の傾斜は、15%（約8.6°）<sup>※1</sup>を下回るような設計を行う<sup>※2</sup>ことから、公道の走行が可能なが確認されている可搬型設備を配備することから走行性は確保される。</p> <p>※1：濱本 敬治, 上坂 克巳, 大脇 鉄也, 木下 立也, 小林 寛：小規模道路の平面線形及び縦断勾配の必要水準に関する基礎的検討, 国土技術政策総合研究所資料, 2012                  ※2：アクセスルートの勾配は最大で10.3%（約5.9°）で設計を実施, 地震後の保管場所の傾斜は評価により最大で4.1%（約2.4°）となる。</p> <p>また、環境条件（積雪、降灰、凍結、降水等）を考慮しても、重大事故等対応で使用する重量が最大の可搬型設備（移動式代替熱交換設備）の登坂能力が20%（約12°）であり、アクセスルートの勾配や地震後の保管場所の傾斜に対して十分に余裕があることから、可搬型設備の走行性に影響はない。</p> <p>万一、局所的な段差や勾配が発生した場合でも、段差の乗越え検証や、砕石等による段差復旧前後の走行性の検証（別紙（10）参照）を実施し、走行性に影響がないことを確認している。</p>	可搬型設備名	機関吸気口高さ (cm) <sup>※1</sup>	機関排気口高さ (cm) <sup>※1</sup>	高圧発電機車	113	22	大量送水車	95	25	移動式代替熱交換設備	223	25	可搬式窒素供給装置	212	27	大型送水ポンプ車	211	30	第1ペントフィルタ出口水素濃度	90	24	タンクローリ	76	25	ホイールローダ	45 <sup>※2</sup>		<p>可搬型設備の機関吸気口及び排気口までの高さを第1表に示す。</p> <p>第1表 可搬型設備車両の走行可能水位</p> <table border="1" data-bbox="1348 199 1953 497"> <thead> <tr> <th>可搬型設備（車両）</th> <th>機関吸気口高さ<sup>※1</sup> [cm]</th> <th>機関排気口高さ<sup>※1</sup> [cm]</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>可搬型大型送水ポンプ車</td><td>156</td><td>21</td></tr> <tr><td>ホース延長・回収車（送水車用）</td><td>147</td><td>37</td></tr> <tr><td>可搬型大容量海水送水ポンプ車</td><td>166</td><td>32</td></tr> <tr><td>可搬型代替電源車</td><td>170</td><td>25</td></tr> <tr><td>可搬型タンクローリ</td><td>129</td><td>35</td></tr> <tr><td>ホイールローダ<sup>※2</sup></td><td colspan="2">41</td></tr> <tr><td>バックホウ<sup>※2</sup></td><td colspan="2">45</td></tr> </tbody> </table> <p>※1：吸気口の高さ及び排気口の高さは地上面からの測定結果。（実測値）                  同一可搬型設備で高さが異なる場合には最低値を記載。                  ※2：重機については、メーカーカタログより確認した最低地上高を記載。</p>	可搬型設備（車両）	機関吸気口高さ <sup>※1</sup> [cm]	機関排気口高さ <sup>※1</sup> [cm]	可搬型大型送水ポンプ車	156	21	ホース延長・回収車（送水車用）	147	37	可搬型大容量海水送水ポンプ車	166	32	可搬型代替電源車	170	25	可搬型タンクローリ	129	35	ホイールローダ <sup>※2</sup>	41		バックホウ <sup>※2</sup>	45		<p>【女川】記載表現の相違                  【女川及び島根】記載内容の相違                  ・可搬型設備の相違。</p>
可搬型設備（車両）	機関吸気口高さ <sup>※1</sup> [m]	機関排気口高さ <sup>※1</sup> [m]																																																																																		
大容量送水ポンプ（タイプⅠ）	1.07	0.27																																																																																		
大容量送水ポンプ（タイプⅡ）	1.07	0.27																																																																																		
熱交換器ユニット	1.25	0.24																																																																																		
電源車	0.64	0.22																																																																																		
タンクローリ	0.84	0.27																																																																																		
可搬型窒素ガス供給装置	1.15	0.20																																																																																		
ホース延長回収車	1.09	0.25																																																																																		
ブルドーザ <sup>※2</sup>	0.45																																																																																			
バックホウ <sup>※2</sup>	1.06																																																																																			
可搬型設備名	機関吸気口高さ (cm) <sup>※1</sup>	機関排気口高さ (cm) <sup>※1</sup>																																																																																		
高圧発電機車	113	22																																																																																		
大量送水車	95	25																																																																																		
移動式代替熱交換設備	223	25																																																																																		
可搬式窒素供給装置	212	27																																																																																		
大型送水ポンプ車	211	30																																																																																		
第1ペントフィルタ出口水素濃度	90	24																																																																																		
タンクローリ	76	25																																																																																		
ホイールローダ	45 <sup>※2</sup>																																																																																			
可搬型設備（車両）	機関吸気口高さ <sup>※1</sup> [cm]	機関排気口高さ <sup>※1</sup> [cm]																																																																																		
可搬型大型送水ポンプ車	156	21																																																																																		
ホース延長・回収車（送水車用）	147	37																																																																																		
可搬型大容量海水送水ポンプ車	166	32																																																																																		
可搬型代替電源車	170	25																																																																																		
可搬型タンクローリ	129	35																																																																																		
ホイールローダ <sup>※2</sup>	41																																																																																			
バックホウ <sup>※2</sup>	45																																																																																			
	<p>【島根】記載箇所の相違                  ・泊は女川同様、本文6. (4)e. (c)に可搬型設備の登坂能力について記載。</p>																																																																																			















赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>該当箇所なし</p>	<p style="text-align: right;">別紙 (10)</p> <p style="text-align: center;">車両走行性能の検証</p> <p>1. 概要 可搬型設備のうち車両を対象として、段差復旧前及び復旧後の走行性能について検証を行った。</p> <p>2. 検証結果 (1) 段差 15cm の走行試験                      ・段差 15 cm 復旧前の走行性能については、第 2 図に示す<b>車両の重量が最も大きい移動式代替熱交換設備を含む可搬型設備</b>を検証する。                      ・検証の結果、車両の重量が最も大きい<b>移動式代替熱交換設備を含む可搬型設備</b>について、約 15cm の段差の乗越え及び乗降りが可能であることを確認し、段差通行後の健全性確認について、<b>機能確認試験を実施し、機能が健全であることを確認した。</b></p> <p>段差 15 cm 復旧前の走行性の検証状況写真を第 1～2 図に示す。</p> <p>【段差状況】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">検証ヤード                      段差復旧前</p> <p style="text-align: center;">第 1 図 検証状況写真（段差状況）</p>	<p style="text-align: right;">別紙 (20)</p> <p style="text-align: center;">車両走行性能の検証</p> <p>1. 概要 可搬型設備のうち車両を対象として、段差復旧前及び復旧後の走行性能について検証を行った。</p> <p>2. 検証結果 (1) 段差 15cm の走行試験                      ・段差 15 cm 復旧前の走行性能については、第 2 図に示す<b>可搬型設備</b>を検証する。                      ・検証の結果、車両の重量が最も大きい<b>可搬型代替電源車を含む可搬型設備</b>について、約 15cm の段差の乗越え及び乗降りが可能であることを確認し、段差通行後の健全性確認について、<b>走行確認及び外観確認を実施し、問題ないことを確認した。</b></p> <p>段差 15 cm 復旧前の走行性の検証状況写真を第 1～2 図に示す。</p> <p>【段差状況】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">検証ヤード                      段差復旧前</p> <p style="text-align: center;">第 1 図 検証状況写真（段差状況）</p>	<p>【島根】記載表現の相違                      ・配備している可搬型設備の相違に伴う表現の相違。</p> <p>【島根】対応方針の相違                      ・段差通行後の健全性確認方法の相違。</p> <p>【島根】記載表現の相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>【段差復旧前の走行性能検証】</p> <p>○移動式代替熱交換設備</p>  <p>○高圧発電機車</p>  <p>○大量送水車</p>  <p>○大型送水ポンプ車</p>  <p>○可搬式窒素供給装置</p>  <p>第2図 段差復旧前の走行性能検証(1/2)</p> <p>○第1ベントフィルタ出口水素濃度</p>  <p>○タンクローリ</p>  <p>第2図 段差復旧前の走行性能検証(2/2)</p>	<p>【段差復旧前の走行性能検証】</p> <p>○可搬型代替電源車</p>  <p>○可搬型大型送水ポンプ車</p>  <p>○可搬型大容量海水送水ポンプ車</p>  <p>○可搬型タンクローリー</p>  <p>○ホース延長・回収車（送水車用）</p>  <p>第2図 段差復旧前の走行性能検証</p>	<p>【島根】記載表現の相違・                      配備している可搬型                      設備の相違に伴う表                      現の相違。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）











1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>(2) 段差40cm復旧後の走行試験</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホイールローダにより40cmの段差にスロープ（勾配約10%）を設置し、段差復旧作業後、可搬型設備の走行試験を実施した。</li> <li>・段差復旧後の走行性能については、第4図に示す可搬型設備を検証する。</li> <li>・検証の結果、車両の重量が最も大きい移動式代替熱交換設備を含む可搬型設備について、スロープ（勾配約10%）の乗越え及び乗降りが可能であることを確認した。</li> </ul> <p>段差及び段差復旧後の走行性の検証状況について、段差40cm復旧後の写真を第3図及び第4図に示す。</p> <p>【段差状況】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">第3図 検証状況写真（段差40cmの状況）</p>	<p>(2) 段差40cm復旧後の走行試験</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バックホウにより40cmの段差にスロープ（勾配約10%）を設置し、段差復旧作業後、可搬型設備の走行試験を実施した。</li> <li>・段差復旧後の走行性能については、第4図に示す可搬型設備を検証する。</li> <li>・検証の結果、車両の重量が最も大きい可搬型代替電源車を含む可搬型設備について、スロープ（勾配約10%）の乗越え及び乗降りが可能であることを確認した。</li> </ul> <p>段差及び段差復旧後の走行性の検証状況について、段差40cm復旧前後の写真を第3図に、段差復旧後の走行性能検証の状況を第4図に示す。</p> <p>【段差状況】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div> <p style="text-align: center;">第3図 検証状況写真（段差40cmの状況）</p>	<p>【島根】記載表現の相違              ・配備している可搬型設備の相違に伴う表現の相違。</p> <p>【島根】記載内容の相違              ・泊は段差復旧後の状況についても記載。</p> <p>【島根】記載内容の相違              ・泊は段差復旧後の状況についても記載。</p>



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

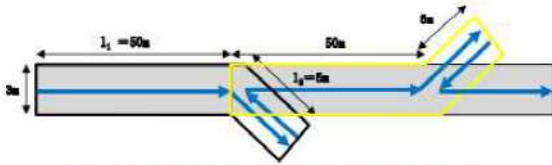
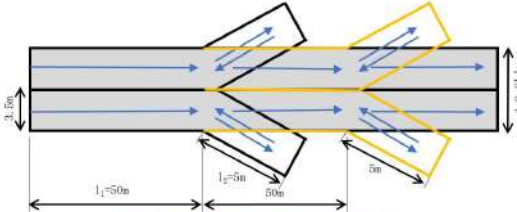
1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>【段差復旧後の走行性能検証】</p> <p>○移動式代替熱交換設備</p>  <p>○高圧発電機車</p>  <p>第4図 段差40cm復旧後の走行性能検証(1/2)</p> <p>○大量送水車</p>  <p>○大型送水ポンプ車</p>  <p>○タンクローリ</p>  <p>第4図 段差40cm復旧後の走行性能検証(2/2)</p>	<p>【段差復旧後の走行性能検証】</p> <p>○可搬型代替電源車</p>  <p>○可搬型大型送水ポンプ車</p>  <p>○可搬型大容量海水送水ポンプ車</p>  <p>○可搬型タンクローリ</p>  <p>○ホース延長・回収車(送水車用)</p>  <p>第4図 段差40cm復旧後の走行性能検証</p>	<p>【島根】記載表現の相違・                  配備している可搬型                  設備の相違に伴う図                  の相違。</p>



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

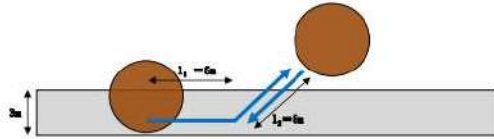
1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>該当なし</p>	<p style="text-align: right;">別紙(12)</p> <p>がれき撤去時のホイールローダ作業量時間について</p> <p>島根原子力発電所に保管されているホイールローダによるがれき撤去に要する時間を以下のとおり算定した。</p> <p>【ホイールローダの仕様】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>最大けん引力：16 t</li> <li>バケット容量：3.4m<sup>3</sup></li> <li>バケット幅：約3.0m (292cm)</li> <li>走行速度（1速）：前進0～6.6km/h、後進0～7.1km/h</li> </ul> <p>【がれき撤去の考え方】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>5t未満のがれきは50m区間毎に道路外へ押し出すことを想定</li> <li>5t未満のがれき撤去時の移動速度は、ホイールローダの1速のカタログ値の平均的な速度から3.3km/h（前進）（=55m/分）、3.5km/h（後進）（=58.3m/分）と設定し、サイクルタイムを算定</li> </ul>  <p style="text-align: center;">第1図 撤去方法イメージ図（5t未満のがれき）</p> <p>サイクルタイム <math>C_m = (l_1 + l_2) \div V_1 + t_g + l_2 \div V_2 + t_g</math>  <math>= 55 \div 55 + 0.1 + 5.0 \div 58.3 + 0.1 \approx 1.3 \text{ 分}/50\text{m}</math>  <u>1kmあたりの撤去時間=26分</u></p> <p><math>C_m</math>：サイクルタイム（分）  <math>l</math>：平均押し出し距離（m）  <math>V_1</math>：前進速度（m/分）  <math>V_2</math>：後退速度（m/分）  <math>t_g</math>：ギア切替に要する時間（分）</p>	<p style="text-align: right;">別紙(21)</p> <p>がれき及び土砂撤去時のホイールローダ作業量時間について</p> <p>泊発電所に保管されているホイールローダによるがれき及び土砂撤去に要する時間を以下のとおり算定した。</p> <p>【ホイールローダの仕様】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>最大押し出し可能重量：4.5t（がれき撤去試験より4.5t押し出せることを確認済み）</li> <li>バケット容量：1.6m<sup>3</sup></li> <li>バケット幅：約3.5m (337cm)</li> <li>走行速度（1速）：前進10km/h、後進10km/h（補足資料(5)参照）</li> </ul> <p>【がれき撤去の作業量の算出】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>最大4.5tのがれきは50m区間ごとに道路外へ押し出すことを想定</li> <li>がれき撤去時の移動速度は、1速の走行速度（前進10km/h、後進10km/h）の平均5.0km/h（前進）（=83.3m/min）、5.0km/h（後進）（=83.3m/min）と設定し、サイクルタイムを算定</li> <li>バケット幅が約3.5mであることから、4.0mの道路を確保するために、第1図のとおり50m区画ごとに2回の撤去作業を行うことを想定するため、1回の撤去作業について時間を評価し、これを2倍することでサイクルタイムを算定</li> </ul>  <p style="text-align: center;">第1図 撤去方法イメージ図</p> <p>サイクルタイム <math>C_m = \{(l_1 + l_2) \div V_1 + t_g + l_2 \div V_2 + t_g\} \times 2</math>  <math>= \{55 \div 83.3 + 0.1 + 5.0 \div 83.3 + 0.1\} \times 2 \approx 1.9 \text{ min}/50\text{m}</math>  <u>1kmあたりの撤去時間=38分</u></p> <p><math>C_m</math>：サイクルタイム（min）  <math>l</math>：平均押し出し距離（m）  <math>V_1</math>：前進速度（m/min）  <math>V_2</math>：後退速度（m/min）  <math>t_g</math>：ギア切替に要する時間（min）</p>	<p>【島根】対応方針の相違              ・泊は、土砂撤去についても作業量時間を算出。</p> <p>【島根】記載内容の相違              ・復旧用重機の相違。</p> <p>【島根】記載内容の相違              ・泊は、走行速度について検証を実施し、補足資料を作成。</p> <p>【島根】記載表現の相違              【島根】記載内容の相違              ・想定するがれきの相違。              ・復旧用重機の相違。</p> <p>【女川及び島根】対応方針の相違              ・泊は、必要な道路幅（4.0m）に対し、バケット幅（約3.5m）が短いため、1区画について2回の撤去作業を実施することで必要な道路幅を確保する。</p> <p>【島根】記載内容の相違              ・復旧用重機の相違に伴う評価結果の相違。</p> <p>【島根】記載表現の相違</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

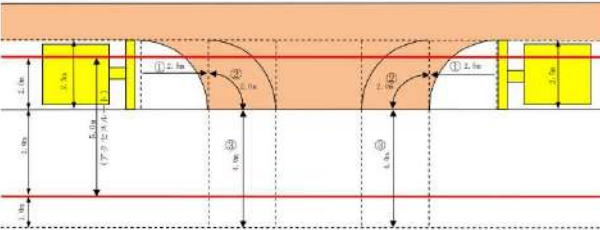
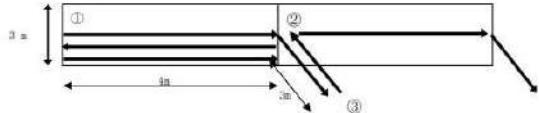
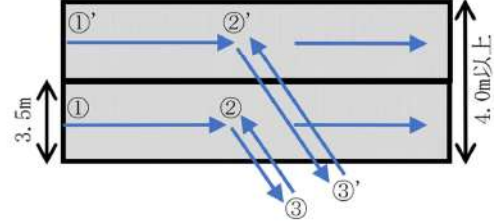
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>・5t以上のがれきは100m区間に1箇所と仮定して道路外へ押し出すことを想定</p> <p>・移動速度は対象が重量物であることを考慮して1速の（前進0～6.6, 後進0～7.1km/h）の平均3.3km/h（前進）, 3.5km/h（後進）の20%程度, 0.6km/h（=10m/分）（前進）, 0.7km/h（=11.6m/分）（後退）と設定し、サイクルタイムを算定</p>  <p>第2図 撤去方法イメージ図（5t以上のがれき）</p> <p>サイクルタイム <math>Cm = (L_1 + L_2) \div V_1 + t_a + L_2 \div V_2 + t_b</math>  <math>= 10 \div 10 + 0.1 + 5.0 \div 11.6 + 0.1 \approx 1.7</math> 分/箇所  <u>1kmあたり（10箇所）の撤去時間=17分</u></p> <p>上記の撤去時間を合成して、がれきの撤去速度は1kmあたり43分、<u>1.3km/h</u>と想定した。</p>		<p>【島根】対応方針の相違</p> <p>・想定するがれきの相違。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉 【東海第二まとめ資料より転載】	島根原子力発電所2号炉 【柏崎6号及び7号炉まとめ資料より転載】	泊発電所3号炉	相違理由
<p>(1) 撤去方法（第3図参照）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アクセスルート上に流入した土砂を押し、集積し、道路脇に撤去する。</li> <li>・1サイクルの作業は、道路上①と②の区間の土砂を押し、集積し、③の区間を走行しアクセスルート外へ土砂を撤去する。</li> <li>・1回の押し出し可能量をバケツ容量の2m<sup>3</sup>とし、2m<sup>3</sup>の土砂を集積し、道路脇へ押し出す作業を1サイクルとして繰り返す。</li> </ul> <p>(2) 各区間での撤去土量と走行距離（第3図参照）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・区間①（前サイクルの取残し部の土量、距離）：0.42m<sup>3</sup>、2.5m</li> <li>・区間②（旋回部の土量、距離）：1.53m<sup>3</sup>、2.0m</li> <li>・区間③（押し出し部の距離）：4.0m</li> </ul> <p>①+②の土量合計1.95m<sup>3</sup>&lt;バケツ容量2m<sup>3</sup></p>  <p>第3図 土砂撤去のサイクル図</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1サイクル当りの移動距離は、                          押し出し（①→②→③）：8.5m                          後進（③→②）：6.0m</li> </ul>	<p>【土砂撤去の考え方】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アクセスルート上に流入した土砂を押し、集積し、道路脇に除去する</li> <li>・1サイクルの作業は、道路上①から②に土砂を押し、集積し、次に道路脇③の方向に除去する</li> <li>・土砂を道路脇に除去した後、道路上の②→①→②の区間において転圧を行うとともに、轍による不陸を低減する。</li> <li>・1回の押し、集積で移動する長さLは、                          バケツ容量3m<sup>3</sup>/流入箇所の平均的な土砂断面積0.825m<sup>2</sup>≒4m                          ※ホイールローダ2台で復旧幅3mを確保する場合の1台分の土砂撤去量</li> </ul> <p>・1サイクル当りの移動距離は、                      A：押し出し（①→②→③）：7m                      B：後進（③→②）：3m                      C：転圧：後進（②→①）：4m                      D：転圧（①→②）：4m</p> 	<p>【土砂撤去の作業量の算出】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アクセスルート上に流入した土砂を押し、集積し、道路脇に撤去する。</li> <li>・1サイクルの作業は、道路上①から②に土砂を押し、集積し、次に道路脇③の方向に撤去する。</li> <li>・1回の押し、集積で移動する長さL（①→②→③）は、土砂撤去作業が万一に備えた対応であり、具体的な土砂崩壊形状を想定しないことから、「道路土工 施工指針（社団法人 日本道路協会、昭和61年11月改訂版）」の記載を参考に8mとする。</li> <li>・崩壊土砂の影響範囲が、バケツ幅（約3.5m）以上に及ぶ場合は、上記と同様の作業（①'→②'→③'）を繰り返し、必要な道路幅（4.0m）を確保する。</li> </ul>  <p>第2図 土砂撤去のサイクル図</p>	<p>【島根】対応方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・泊は、土砂撤去についても作業量時間を算出。</li> </ul>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>【東海第二まとめ資料より転載】</p> <p>5. 土砂撤去作業量算定結果</p> <p>当該作業におけるホイールローダの作業量を決定するに当たり、第1表に示す3つの図書を参考に作業量を算定し、そのうち、作業量が保守的である「土木工事積算基準」の作業量を採用した。</p> <p>作業量及びサイクルタイム算定におけるパラメータの考え方を第2表及び第3表に示す</p>	<p>【柏崎6号及び7号炉まとめ資料より転載】</p> <p>○土砂撤去作業量算定結果：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当該作業におけるホイールローダの作業量を決定するにあたり、以下3つの図書を参考に作業量を算定した</li> <li>・このうち、柏崎刈羽原子力発電所に配備されているホイールローダの規格（バケット容量3m<sup>3</sup>）と同規模の重機を例示している図書のうち、作業量が保守的（小さい）である「土木工事積算基準」の作業量を採用した</li> </ul>	<p>○土砂撤去作業量算定結果</p> <p>当該作業におけるホイールローダの作業量を決定するに当たり、第1表に示す3つの図書を参考に作業量を算定し、そのうち、作業量が保守的である「土木工事積算基準」の作業量53m<sup>3</sup>/hを採用した。</p> <p>作業量及びサイクルタイム算定におけるパラメータの考え方を第2表及び第3表に示す。</p>	<p>【島根】対応方針の相違</p> <p>・泊は、土砂撤去についても作業量時間を算出。</p>



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉

【東海第二まとめ資料より転載】

第1表 各参考図書におけるホイールローダの作業量

参考図書	ダム工事積算の解説 福島/財団法人ダム 技術センター 平成12年度版	土木工事積算基準 国土交通省監修 平成29年度版	道路土工 施工指針 社団法人日本道路協会 昭和41年11月改定版 (平成12年第19刷発行)
図書に提示されている重機の規格(バケット容量)	3.1m <sup>3</sup> ~10.3m <sup>3</sup> 級	1.9m <sup>3</sup> ~2.1m <sup>3</sup> 級	1.0m <sup>3</sup> ~2.1m <sup>3</sup> 級
作業量	67m <sup>3</sup> /h	66m <sup>3</sup> /h	72m <sup>3</sup> /h

第2表 作業量算定におけるパラメータの考え方

項目	ダム工事積算の解説	土木工事積算基準	道路土工 施工指針
作業量Q 算定式	$Q=0.600 \times q \times V \times E / C_0$ ここに q: 運転時間当たり作業量 (m <sup>3</sup> /h) V: 1サイクル当たりの積込量 (m <sup>3</sup> ) E: 作業効率 C <sub>0</sub> : サイクルタイム (sec)	$Q=0.600 \times q \times V \times E / C_0$ ここに q: 運転時間当たり作業量 (m <sup>3</sup> /h) V: バケット容量 (m <sup>3</sup> ) E: バケット係数 F: 土壌係数 I: 作業効率 C <sub>0</sub> : サイクルタイム (sec)	$Q=0.600 \times q \times V \times E / C_0$ ここに q: 運転時間当たり作業量 (m <sup>3</sup> /h) V: バケット容量 (m <sup>3</sup> ) E: バケット係数 F: 土壌係数 I: 作業効率 C <sub>0</sub> : サイクルタイム (sec)
作業量Q	67m <sup>3</sup> /h	66m <sup>3</sup> /h	72m <sup>3</sup> /h
バケット容量 V	各カタログ値から設定	—	—
バケット係数 E	支線の表を参考に算出 【採用値: 0.825】	—	一度切り落された崩壊土であり、不規則な空けきを生じてくバケットに入りやすいものであることから、土質(普通土・砂質土)に応じて土質係を採用 【採用値: 0.800】
1サイクル当たりの積込量 V	$q \times V \times E$ 【採用値: 1.03m <sup>3</sup> 】	$q \times V \times E \times 0.03$ 【採用値: 1.43m <sup>3</sup> 】	—
土壌係数 F	崩壊土砂(ほぐした土質)を作業の対象としており、土質(普通土・砂質土)に応じて最も保守的な値を採用 【採用値: 1.0】	—	—
作業効率 I	平常条件下による状態を考慮し、土質(普通土・砂質土)に応じて最も保守的な値を採用 【採用値: 0.45】	【採用値: 0.45】	【採用値: 0.4】
サイクルタイム C <sub>0</sub>	ホイール型の値を採用 【採用値: 40sec】	支線の算定式より算出 【採用値: 38sec】	—

第3表 サイクルタイム算定におけるパラメータの考え方

項目	ダム工事積算の解説	土木工事積算基準	道路土工 施工指針
サイクルタイム C <sub>0</sub> 算定式	作業時間、土質にかかわらずダンプ型とホイール型により決定	$C_0 = 60 \times (1 + T_1)$ ここに C <sub>0</sub> : トラクションホールのサイクルタイム (sec) T <sub>1</sub> : 片道運搬時間 (sec) T <sub>2</sub> : すくい上げ時間 (sec) T <sub>3</sub> : 積込み、中アの人搬入、取捨りなどに要する時間 (sec) C <sub>0</sub> : サイクルタイム (sec)	$C_0 = 60 \times (1 + T_1)$ ここに C <sub>0</sub> : トラクションホールのサイクルタイム (sec) T <sub>1</sub> : 片道運搬時間 (sec) T <sub>2</sub> : すくい上げ時間 (sec) T <sub>3</sub> : 積込み、中アの人搬入、取捨りなどに要する時間 (sec) C <sub>0</sub> : サイクルタイム (sec)
サイクルタイム C <sub>0</sub>	40sec	38sec	—
運搬距離 L	—	片道運搬距離 L: 第3図 土砂搬のサイクル図の押し出し距離より 【採用値: 8.5m】	—
足回り係数 E	—	ホイール型を採用 【採用値: 1.0m <sup>3</sup> /sec】	—
すくい上げ時間 T <sub>2</sub>	—	崩壊土砂上の作業であり、すくい上げ動作は想定されないため、T <sub>2</sub> のすくい上げ時間は考慮しない 【採用値: 0sec】	—
積込み時間 T <sub>3</sub>	—	運搬距離への積込みはないが、土砂をアクセスロード内へ押し出し、搬出作業が必要のため、保守的に最大値を採用 【採用値: 20sec】	—

島根原子力発電所2号炉

【柏崎6号及び7号炉まとめ資料より転載】

参考図書	ダム技術センター; ダム工事積算の解説 、2011	日本道路協会; 道路土工 施工指針 、1986	東日本高速道路株式会社; 中日本高速道路株式会社; 西日本高速道路株式会社; 土木工事積算基準 、2014
図書に提示されている重機の規格(バケット容量)	3.1m <sup>3</sup> 級~10.3m <sup>3</sup> 級	1.0m <sup>3</sup> 級~2.1m <sup>3</sup> 級	1.3m <sup>3</sup> 級~6.0m <sup>3</sup> 級
作業量	100m <sup>3</sup> /h	84m <sup>3</sup> /h	76m <sup>3</sup> /h

ホイールローダの作業量の採用値: 76m<sup>3</sup>/h

○作業量算定におけるパラメータの考え方(その1)

項目	ダム工事積算の解説	道路土工 施工指針	土木工事積算基準
作業量Q 算定式	$Q=0.600 \times q \times V \times E / C_0$ ここに q: 運転時間当たり作業量 (m <sup>3</sup> /h) V: 1サイクル当たりの積込量 (m <sup>3</sup> ) E: 土壌係数 F: 作業効率 C <sub>0</sub> : サイクルタイム (sec)	$Q=0.600 \times q \times V \times E / C_0$ ここに q: 運転時間当たり作業量 (m <sup>3</sup> /h) V: バケット容量 (m <sup>3</sup> ) E: バケット係数 F: 土壌係数 I: 作業効率 C <sub>0</sub> : サイクルタイム (sec)	$Q=0.600 \times q \times V \times E / C_0$ ここに q: 運転時間当たり作業量 (m <sup>3</sup> /h) V: バケット容量 (m <sup>3</sup> ) E: バケット係数 F: 土壌係数 I: 作業効率 C <sub>0</sub> : サイクルタイム (sec)
作業量Q	100m <sup>3</sup> /h	84m <sup>3</sup> /h	76m <sup>3</sup> /h
バケット容量 V	箱崎川原子力発電所の実績から設定	—	—
バケット係数 E	設定されていないが、簡便式から算定 【採用値: 0.825】	一度切り落された崩壊土であり、不規則な空けきを生じてくバケットに入りやすいものであることから、土質(普通土・砂質土)に応じて土質係を採用 【採用値: 0.800】	【採用値: 3.0m <sup>3</sup> 】
1サイクル当たりの積込量 V	$q \times V \times E$ 【採用値: 2.49m <sup>3</sup> 】	$q \times V \times E$ 【採用値: 2.70m <sup>3</sup> 】	【採用値: 2.40m <sup>3</sup> 】
土壌係数 F	崩壊土砂(ほぐした土質)を作業の対象としており、土質(普通土・砂質土)に応じて最も保守的な値を採用 【採用値: 1.0】	—	—
作業効率 I	崩壊土砂上の作業であり作業効率はかなり低下するもの想定し、土質(普通土・砂質土)に応じて最も保守的な値を採用 【採用値: 0.45】	【採用値: 0.4】	【採用値: 0.4】
サイクルタイム C <sub>0</sub>	ホイール型の値を採用 【採用値: 40sec】	次頁の算定式より算定 【採用値: 40sec】	【採用値: 45sec】

○作業量算定におけるパラメータの考え方(その2)

項目	道路土工 施工指針	土木工事積算基準
サイクルタイム C <sub>0</sub> 算定式	$C_0 = 60 \times (1 + T_1)$ ここに C <sub>0</sub> : トラクションホールのサイクルタイム (sec) T <sub>1</sub> : 片道運搬時間 (sec) T <sub>2</sub> : すくい上げ時間 (sec) T <sub>3</sub> : 積込み及び取捨り作業に要する時間 (sec) C <sub>0</sub> : サイクルタイム (sec)	$C_0 = 60 \times (1 + T_1)$ ここに C <sub>0</sub> : トラクションホールのサイクルタイム (sec) T <sub>1</sub> : 片道運搬時間 (sec) T <sub>2</sub> : すくい上げ時間 (sec) T <sub>3</sub> : 積込み及び取捨り作業に要する時間 (sec) C <sub>0</sub> : サイクルタイム (sec)
運搬距離 L	片道運搬距離 L: 土砂搬入方法及び押し距離から設定 【採用値: 11m】	運搬距離 L <sub>1</sub> : 土砂搬入方法及び押し距離から設定 送り距離 L <sub>2</sub> : 土砂搬入方法及び積込距離から設定 【採用値: 11m, L <sub>2</sub> : 7m】
足回り係数 E	ホイール型を採用 【採用値: 1.0m <sup>3</sup> /sec】	—
すくい上げ時間 T <sub>2</sub>	崩壊土砂上の作業であり、すくい上げ動作は想定されないことから最も保守的な値を採用 【採用値: 20sec】	—
積込み時間 T <sub>3</sub>	運搬距離への積込みは行わないため、下図の半分程度の時間を採用 【採用値: 8sec】	—
運搬速度 V <sub>0</sub>	—	箱崎川原子力発電所の実績から設定 【採用値: 1.1m <sup>3</sup> /sec】
送り速度 V <sub>1</sub>	—	箱崎川原子力発電所の実績から設定 【採用値: 1.1m <sup>3</sup> /sec】

泊発電所3号炉

第1表 各参考図書におけるホイールローダの作業量

参考図書	ダム工事積算の解説 福島/財団法人ダム 技術センター 平成12年度版	土木工事積算基準 国土交通省監修 平成30年度版	道路土工 施工指針 社団法人日本道路協会 昭和41年11月改訂版 (平成12年第19刷発行)
図書に提示されている重機の規格(バケット容量)	3.1m <sup>3</sup> 級~10.3m <sup>3</sup> 級	1.9m <sup>3</sup> 級~2.1m <sup>3</sup> 級	1.0m <sup>3</sup> 級~2.1m <sup>3</sup> 級
作業量	53m <sup>3</sup> /h	53m <sup>3</sup> /h	60m <sup>3</sup> /h

ホイールローダの作業量の採用値: 53m<sup>3</sup>/h

第2表 作業量算定におけるパラメータの考え方

項目	ダム工事積算の解説	土木工事積算基準	道路土工 施工指針
作業量Q 算定式	$Q=0.600 \times q \times V \times E / C_0$ ここに q: 運転時間当たり作業量 (m <sup>3</sup> /h) V: 1サイクル当たりの積込量 (m <sup>3</sup> ) E: 土壌係数 F: 作業効率 C <sub>0</sub> : サイクルタイム (sec)	$Q=0.600 \times q \times V \times E / C_0$ ここに q: 運転時間当たり作業量 (m <sup>3</sup> /h) V: バケット容量 (m <sup>3</sup> ) E: バケット係数 F: 土壌係数 I: 作業効率 C <sub>0</sub> : サイクルタイム (sec)	$Q=0.600 \times q \times V \times E / C_0$ ここに q: 運転時間当たり作業量 (m <sup>3</sup> /h) V: バケット容量 (m <sup>3</sup> ) E: バケット係数 F: 土壌係数 I: 作業効率 C <sub>0</sub> : サイクルタイム (sec)
作業量Q	53m <sup>3</sup> /h	53m <sup>3</sup> /h	60m <sup>3</sup> /h
バケット容量 V	作業用車での53m <sup>3</sup> から設定	—	—
バケット係数 E	設定されていないが、簡便式より算定 【採用値: 0.825】	—	一度切り落された崩壊土であり、不規則な空けきを生じてくバケットに入りやすいものであることから、土質(普通土・砂質土)に応じて土質係を採用 【採用値: 0.800】
1サイクル当たりの積込量 V	$q \times V \times E$ 【採用値: 1.03m <sup>3</sup> 】	$q \times V \times E \times 0.03$ 【採用値: 1.31m <sup>3</sup> 】	—
土壌係数 F	崩壊土砂(ほぐした土質)を作業の対象としており、土質(普通土・砂質土)に応じて最も保守的な値を採用 【採用値: 1.0】	—	—
作業効率 I	道路状況の不確定性を考慮し、土質(普通土・砂質土)に応じて最も保守的な値を採用 【採用値: 0.45】	【採用値: 0.45】	【採用値: 0.4】
サイクルタイム C <sub>0</sub>	ホイール型の値を採用 【採用値: 40sec】	支線の算定式より算出 【採用値: 38.6sec】	—

第3表 サイクルタイム算定におけるパラメータの考え方

項目	ダム工事積算の解説	土木工事積算基準	道路土工 施工指針
サイクルタイム C <sub>0</sub> 算定式	作業時間、土質にかかわらずダンプ型とホイール型により決定	$C_0 = 60 \times (1 + T_1)$ ここに C <sub>0</sub> : トラクションホールのサイクルタイム (sec) T <sub>1</sub> : 片道運搬時間 (sec) T <sub>2</sub> : すくい上げ時間 (sec) T <sub>3</sub> : 積込み及び取捨り作業に要する時間 (sec) C <sub>0</sub> : サイクルタイム (sec)	$C_0 = 60 \times (1 + T_1)$ ここに C <sub>0</sub> : トラクションホールのサイクルタイム (sec) T <sub>1</sub> : 片道運搬時間 (sec) T <sub>2</sub> : すくい上げ時間 (sec) T <sub>3</sub> : 積込み及び取捨り作業に要する時間 (sec) C <sub>0</sub> : サイクルタイム (sec)
運搬距離 L	—	片道運搬距離 L: 土砂搬入方法及び押し距離から設定 【採用値: 8m】	—
足回り係数 E	—	ホイール型を採用 【採用値: 1.0m <sup>3</sup> /sec】	—
すくい上げ時間 T <sub>2</sub>	—	崩壊土砂上の作業であり、すくい上げ動作は想定されないため、T <sub>2</sub> のすくい上げ時間は考慮しない 【採用値: 0sec】	—
積込み時間 T <sub>3</sub>	—	運搬距離への積込みは行わないため、下図の半分程度の時間を考慮し、保守的に最大値を採用 【採用値: 20sec】	—

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

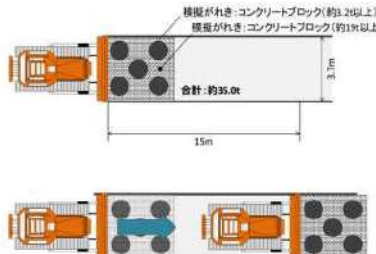


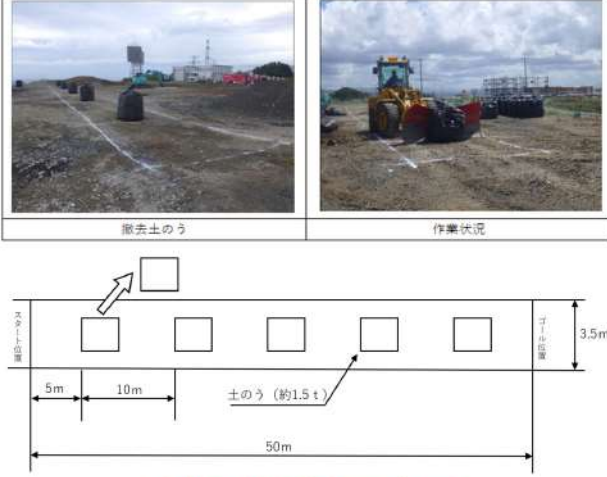


1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p style="text-align: right;">別紙(22)</p> <p style="text-align: center;">アクセスルート仮復旧作業の検証について（がれき撤去作業）</p> <p>1. 検証方法                      3号炉給排水処理建屋損壊及び3号炉開閉所引留鉄構損壊に伴うがれき撤去検証を以下に示す。</p> <p>長さ15mの区間にコンクリートブロック（約35t）を配置して模擬のがれきとし、これらをブルドーザで撤去して幅員3.7m以上の通路を確保するのに要する時間を計測することにより、作業時間評価の妥当性を検証した。                      実証試験に用いるブルドーザは、がれき撤去用として発電所に配備するものと同型のブルドーザとした。</p>	<p style="text-align: right;">別紙(9)</p> <p style="text-align: center;">構内道路補修作業の検証について</p> <p>1. 内容                      がれき撤去及び道路段差復旧に要する時間の検証</p> <p>2. 日時                      (1) がれき撤去                      平成31年2月26日9時30分～16時00分                      (2) 段差解消                      平成31年3月5日9時30分～16時00分</p> <p>3. 場所                      3号機北東道路及び荷揚場前面道路</p> <p>4. 作業員経歴                      (1) がれき撤去（平成31年2月26日時点）                      ・作業員A：勤続8年免許取得後約3年                      ・作業員B：勤続4年免許取得後約4年                      ・作業員C：勤続4年免許取得後約4年                      (2) 段差解消（平成31年3月5日時点）                      ・作業員A：勤続8年免許取得後約3年                      ・作業員B：勤続4年免許取得後約4年                      ・作業員C：勤続4年免許取得後約4年</p> <p>5. 検証概要と測定結果                      (1) がれき撤去                      a. 小型構造物（模擬がれき：土のう）                      (a) 概要                      島根原子力発電所に配備しているホイールローダにより、第1図のとおり、大型土のう（1.5t）5個を「がれき」に見立て、幅員3.0mのアクセスルートを確認した際の作業時間を作業員A、B及びCそれぞれ1回計測した。</p>	<p style="text-align: right;">別紙(22)</p> <p style="text-align: center;">構内道路補修作業の検証について</p> <p>1. 内容                      がれき撤去、土砂撤去及び道路段差復旧に要する時間の検証</p> <p>2. 実施日                      (1) がれき撤去                      令和4年8月23日～令和4年8月26日                      (2) 土砂撤去                      令和4年8月23日～令和4年8月26日                      (3) 段差解消                      令和4年8月23日～令和4年8月26日</p> <p>3. 場所                      泊発電所内土砂仮置き場B</p> <p>4. 作業員経歴                      (1) がれき撤去（令和4年8月23日時点）                      ・作業員A：勤続29年 免許取得後約25年                      ・作業員B：勤続15年 免許取得後約17年                      ・作業員C：勤続21年 免許取得後約20年                      ・作業員D：勤続11年 免許取得後約7年                      ・作業員E：勤続25年 免許取得後約24年                      ・作業員F：勤続21年 免許取得後約10年                      (2) 土砂撤去（令和4年8月23日時点）                      ・作業員G：勤続30年 免許取得後約30年                      ・作業員H：勤続18年 免許取得後約17年                      ・作業員I：勤続34年 免許取得後約21年                      (3) 段差解消（令和4年8月23日時点）                      ・作業員J：勤続30年 免許取得後約23年                      ・作業員K：勤続34年 免許取得後約21年                      ・作業員L：勤続21年 免許取得後約20年</p> <p>5. 検証概要と測定結果                      (1) がれき撤去                      a. 小型構造物（模擬がれき：土のう）                      (a) 概要                      泊発電所に配備しているホイールローダにより、第1図のとおり、土のう（約1.5t）5個を「がれき」に見立て、がれき撤去作業量の算出（別紙(21)）で1回の作業として想定する幅員3.5mのアクセスルートを確認した際の作業時間を作業員A、B及びCそれぞれ1回計測した。</p>	<p>【女川及び島根】                      記載表現の相違</p> <p>【女川】記載内容の相違                      ・泊は実施日、場所を記載。                      【女川】記載箇所の相違                      ・女川は作業員経歴を2.に記載。                      ・女川は段差復旧検証を別紙(23)に記載。                      【島根】記載内容の相違                      ・検証日時、場所及び作業員の相違。</p> <p>【女川及び島根】                      対応方針の相違                      ・泊は、土砂撤去作業の検証を実施。</p> <p>【女川及び島根】                      記載内容の相違                      ・検証条件の相違。</p> <p>【島根】記載表現の相違</p>



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>女川原子力発電所2号炉</p>  <p>第1図 模擬がれき撤去概念図</p> <p>【ブルドーザの仕様】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・機械重量 : 約27t</li> <li>・全長 : 約7.1m</li> <li>・高さ : 約3.3m</li> <li>・ブレード幅 : 約3.7m</li> <li>・ブレード容量 : 約5.2m<sup>3</sup></li> </ul> <p>2. 検証結果</p> <p>3人の作業員の所要時間は、以下のとおりであった。</p> <p>なお、今後の訓練等により作業要員の習熟が期待できることから、作業時間の短縮化を見込むことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作業員A(免許取得後約1年)所要時間 45秒(作業速度約1.2km/h)</li> <li>・作業員B(免許取得後約1年)所要時間 1分21秒(作業速度約0.6km/h)</li> <li>・作業員C(免許取得後約6年)所要時間 1分13秒(作業速度約0.7km/h)</li> </ul> <p>(がれき撤去の平均速度:0.8km/h)</p>  <p>写真1 模擬がれき設置      写真2 作業状況</p> <p>第2図 がれき撤去作業実証試験の状況</p>	<p>島根原子力発電所2号炉</p>  <p>撤去土のう      土のう撤去訓練</p>  <p>第1図 がれき撤去訓練概要図</p> <p>《ホイールローダの仕様》</p> <p>全長: 818cm 全幅: 278cm      高さ: 339cm 運転質量: 約18.0t      バケット容量: 3.4m<sup>3</sup></p> <p>(b) 測定結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作業員A: 2分16秒 (1.3km/h)</li> <li>・作業員B: 1分36秒 (1.8km/h)</li> <li>・作業員C: 2分21秒 (1.2km/h)</li> </ul> <p>【評価値】3分</p>	<p>泊発電所3号炉</p>  <p>撤去土のう      作業状況</p>  <p>第1図 がれき撤去検証の概要図</p> <p>《ホイールローダの仕様》</p> <p>全長: 713cm 全幅: 337cm      高さ: 337cm 車両総重量: 約10.2t      バケット容量: 1.6m<sup>3</sup></p> <p>(b) 測定結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作業員A: 所要時間 1分31秒 (1.9km/h)</li> <li>・作業員B: 所要時間 1分23秒 (2.1km/h)</li> <li>・作業員C: 所要時間 1分42秒 (1.7km/h)</li> </ul> <p>【評価値】2分</p>	<p>相違理由</p> <p>【女川及び島根】      記載内容の相違      ・検証条件の相違。</p> <p>【女川及び島根】      記載内容の相違      ・復旧用重機の相違。</p> <p>【女川及び島根】      記載表現の相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>b. 大型構造物（模擬がれき：<b>コンクリートブロック</b>）</p> <p>(a) 概要                      島根原子力発電所に配備しているホイールローダにより、第2図のとおり、<b>コンクリートブロック（9t）1個</b>を「がれき」に見立て、<b>幅員3.0m</b>のアクセスルートを確認した際の作業時間を作業員A、B及びCそれぞれ1回計測した。</p> <div data-bbox="728 379 1310 614"> <p>撤去コンクリートブロック      コンクリートブロック撤去訓練</p> </div> <div data-bbox="795 630 1187 805"> <p>コンクリートブロック（9t）</p> <p>3.0m</p> <p>20m</p> </div> <p style="text-align: center;">第2図 がれき撤去訓練概要図</p> <p>(b) 測定結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>作業員A：37秒（1.9km/h）</li> <li>作業員B：25秒（2.8km/h）</li> <li>作業員C：39秒（1.8km/h）</li> </ul> <p>【評価値】1分</p>	<p>b. 大型構造物（模擬がれき：<b>大型土のう</b>）</p> <p>(a) 概要                      泊発電所に配備しているホイールローダにより、第2図のとおり、<b>大型土のう（約1.5tの土のう3個を連結）5個</b>を「がれき」に見立て、<b>がれき撤去作業量の算出（別紙(21)）</b>で1回の作業として<b>想定する幅員3.5m</b>のアクセスルートを確認した際の作業時間を作業員D、E及びFそれぞれ1回計測した。</p> <div data-bbox="1355 379 1948 614"> <p>撤去土のう      作業状況</p> </div> <div data-bbox="1355 630 1960 853"> <p>5m      10m      土のう（約4.5t）</p> <p>50m</p> <p>3.5m</p> </div> <p style="text-align: center;">第2図 がれき撤去概要図</p> <p>(b) 測定結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>作業員D：所要時間2分44秒（1.0km/h）</li> <li>作業員E：所要時間1分26秒（2.0km/h）</li> <li>作業員F：所要時間1分33秒（1.9km/h）</li> </ul> <p>【評価値】3分</p>	<p>相違理由</p> <p>【島根】記載内容の相違                      ・検証条件の相違。</p> <p>【島根】記載表現の相違</p>



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>c. 柱状構造物（模擬がれき：電柱）</p> <p>(a) 概要</p> <p>島根原子力発電所に配備しているホイールローダにより、第3図のとおり、電柱3本を「がれき」に見立て、幅員3.0mのアクセスルートを確認した際の作業時間を作業員A、B及びCそれぞれ1回計測した。</p> <div data-bbox="719 328 1312 571"> </div> <div data-bbox="837 592 1182 775"> </div> <p>第3図 がれき撤去訓練概要図</p> <p>(b) 測定結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作業員A：2分35秒（0.4km/h）</li> <li>・作業員B：0分36秒（2.0km/h）</li> <li>・作業員C：1分20秒（0.9km/h）</li> </ul> <p>【評価値】3分</p>		<p>【島根】対応方針の相違</p> <p>・泊は、柱状構造物の撤去については考慮不要であるため実施していない。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

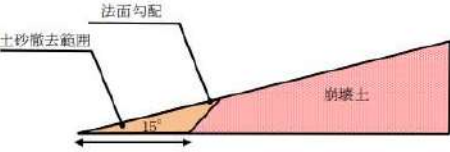

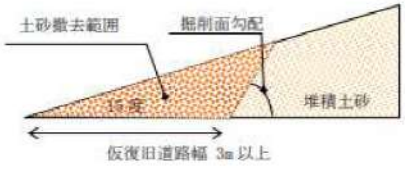


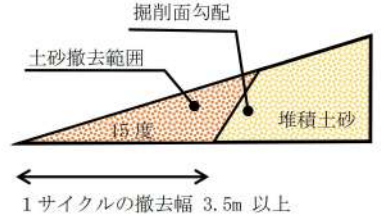


1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																									
<p>【東海第二まとめ資料より転載】</p> <p>5.4 土砂撤去</p> <p>(1) 概要</p> <p>東海第二発電所のT.P.+11mエリアの崩壊土砂を模擬し(第7図)、作業員F、Gがホイールローダ①により第8図のとおり、車両通行とホース等敷設に必要なアクセスルートの幅員5.0m以上を確保するための土砂撤去を行った際の作業時間と撤去土量を計測した。この結果より時間当たりの作業量を算出し、文献に基づき算定した土砂撤去作業量(66m<sup>3</sup>/h)(別紙(23)参照)が確保されていることを検証した。</p>  <p>第7図 模擬崩壊土砂</p> <p>(2) 検証結果</p> <p>上記条件に基づき、崩壊土砂の撤去作業の検証結果は以下のとおりである。</p> <table border="1" data-bbox="78 869 683 997"> <thead> <tr> <th>作業員</th> <th>撤去土量</th> <th>作業時間</th> <th>作業能力 (m<sup>3</sup>/h)</th> <th>目標値</th> <th>復旧道路幅</th> <th>評価</th> <th>(参考)撤去延長</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>F</td> <td>22.49m<sup>3</sup></td> <td>4分51秒</td> <td>278.22</td> <td rowspan="2">66m<sup>3</sup>/h</td> <td>3.65m</td> <td>○</td> <td>15.3m</td> </tr> <tr> <td>G</td> <td>16.84m<sup>3</sup></td> <td>10分11秒</td> <td>78.18</td> <td>2.90m</td> <td>○</td> <td>15.6m</td> </tr> </tbody> </table> <p>(3) 検証状況写真</p> <p>ホイールローダ①において、崩壊土の撤去状況は次のとおりである。</p>  <p>第8図 土砂撤去検証の写真</p>	作業員	撤去土量	作業時間	作業能力 (m <sup>3</sup> /h)	目標値	復旧道路幅	評価	(参考)撤去延長	F	22.49m <sup>3</sup>	4分51秒	278.22	66m <sup>3</sup> /h	3.65m	○	15.3m	G	16.84m <sup>3</sup>	10分11秒	78.18	2.90m	○	15.6m	<p>【柏崎6号及び7号炉まとめ資料より転載】</p> <p>(4) 土砂撤去</p> <p>a. 概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>斜面崩壊後の堆積土砂を模擬(第8図)し、柏崎刈羽原子力発電所に配備しているホイールローダにより、第9図のとおり、アクセスルートとして必要な幅員3m以上を確保するための土砂撤去を行った際の作業時間と撤去土量について作業員(A、B)の組み合わせで計測した。この結果を用いて、時間当たりの作業量を算定し、文献に基づき算出した土砂撤去作業量(76m<sup>3</sup>/h)(別紙15参照)が確保されていることを検証した。</li> </ul>  <p>第8図 斜面崩壊後を模擬した土砂</p>  <p>第9図 仮復旧道路のイメージ</p> <p>b. 検証結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>上記条件に基づいた、土砂撤去作業の検証結果は次のとおりである。</li> </ul> <table border="1" data-bbox="716 869 1321 997"> <thead> <tr> <th>作業員</th> <th>撤去土量</th> <th>作業時間</th> <th>作業能力</th> <th>目標値</th> <th>仮復旧道路幅</th> <th>仮復旧必要道路幅</th> <th>評価</th> <th>(参考)撤去延長</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A、B</td> <td>43.5m<sup>3</sup></td> <td>28分12秒</td> <td>92.6m<sup>3</sup>/h</td> <td>76m<sup>3</sup>/h</td> <td>4.2m</td> <td>3m</td> <td>○</td> <td>15m</td> </tr> </tbody> </table> <p>c. 検証状況写真</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ホイールローダ2台における、土砂撤去状況は次のとおりである。</li> </ul>  <p>第10図 土砂撤去状況写真</p>	作業員	撤去土量	作業時間	作業能力	目標値	仮復旧道路幅	仮復旧必要道路幅	評価	(参考)撤去延長	A、B	43.5m <sup>3</sup>	28分12秒	92.6m <sup>3</sup> /h	76m <sup>3</sup> /h	4.2m	3m	○	15m	<p>(2) 土砂撤去</p> <p>a. 概要</p> <p>斜面崩壊後の堆積土砂を模擬(第3図)し、泊発電所に配備しているホイールローダにより、第4図のとおり、土砂撤去作業量の算出で想定する1サイクルの撤去幅3.5m以上を確保するための土砂撤去を行った際の作業時間と撤去土量について作業員G、H及びIそれぞれ1回計測した。この結果を用いて、時間当たりの作業量を計算し、文献に基づき算出した土砂撤去作業量(53m<sup>3</sup>/h)(別紙(21)参照)が確保されていることを検証した。また、掘削面勾配について、労働安全衛生規則を参考とした勾配が確保されていることを検証した。</p>  <p>第3図 斜面崩壊後を模擬した土砂</p>  <p>第4図 仮復旧のイメージ</p> <p>b. 測定結果</p> <p>上記条件に基づいた、土砂撤去作業の測定結果は次のとおりであり、土砂撤去作業量(53m<sup>3</sup>/h)が確保されていることを確認した。</p> <table border="1" data-bbox="1344 869 1948 997"> <thead> <tr> <th>作業員</th> <th>撤去土量</th> <th>作業時間</th> <th>作業能力</th> <th>目標値</th> <th>仮復旧道路幅</th> <th>仮復旧必要道路幅</th> <th>評価</th> <th>(参考)撤去延長</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>G</td> <td>50.9m<sup>3</sup></td> <td>16分10秒</td> <td>188m<sup>3</sup>/h</td> <td rowspan="3">53m<sup>3</sup>/h</td> <td>4.0m</td> <td rowspan="3">3.5m</td> <td>○</td> <td>15m</td> </tr> <tr> <td>H</td> <td>43.0m<sup>3</sup></td> <td>18分13秒</td> <td>141m<sup>3</sup>/h</td> <td>3.5m</td> <td>○</td> <td>15m</td> </tr> <tr> <td>I</td> <td>44.5m<sup>3</sup></td> <td>25分54秒</td> <td>103m<sup>3</sup>/h</td> <td>4.0m</td> <td>○</td> <td>15m</td> </tr> </tbody> </table> <p>c. 検証状況写真</p> <p>ホイールローダにおける、土砂撤去状況は次のとおりである。</p>  <p>第5図 土砂撤去状況写真</p>	作業員	撤去土量	作業時間	作業能力	目標値	仮復旧道路幅	仮復旧必要道路幅	評価	(参考)撤去延長	G	50.9m <sup>3</sup>	16分10秒	188m <sup>3</sup> /h	53m <sup>3</sup> /h	4.0m	3.5m	○	15m	H	43.0m <sup>3</sup>	18分13秒	141m <sup>3</sup> /h	3.5m	○	15m	I	44.5m <sup>3</sup>	25分54秒	103m <sup>3</sup> /h	4.0m	○	15m	<p>【女川及び島根】          対応方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>泊は、土砂撤去試験を実施。</li> </ul>
作業員	撤去土量	作業時間	作業能力 (m <sup>3</sup> /h)	目標値	復旧道路幅	評価	(参考)撤去延長																																																																					
F	22.49m <sup>3</sup>	4分51秒	278.22	66m <sup>3</sup> /h	3.65m	○	15.3m																																																																					
G	16.84m <sup>3</sup>	10分11秒	78.18		2.90m	○	15.6m																																																																					
作業員	撤去土量	作業時間	作業能力	目標値	仮復旧道路幅	仮復旧必要道路幅	評価	(参考)撤去延長																																																																				
A、B	43.5m <sup>3</sup>	28分12秒	92.6m <sup>3</sup> /h	76m <sup>3</sup> /h	4.2m	3m	○	15m																																																																				
作業員	撤去土量	作業時間	作業能力	目標値	仮復旧道路幅	仮復旧必要道路幅	評価	(参考)撤去延長																																																																				
G	50.9m <sup>3</sup>	16分10秒	188m <sup>3</sup> /h	53m <sup>3</sup> /h	4.0m	3.5m	○	15m																																																																				
H	43.0m <sup>3</sup>	18分13秒	141m <sup>3</sup> /h		3.5m		○	15m																																																																				
I	44.5m <sup>3</sup>	25分54秒	103m <sup>3</sup> /h		4.0m		○	15m																																																																				



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																														
<p>【東海第二まとめ資料より転載】</p> <p>(4) 崩壊土砂撤去作業後の法面勾配の検証                  復旧後の切取斜面勾配は、撤去部における崩壊土砂堆積厚さが最大でも70cm程度であることから、労働安全衛生規則を参考に60度*としている。                  復旧法面のイメージを第9図に示す。</p> <p>※「労働安全衛生規則」第356条において、2m未満の地山（岩盤、固い粘土以外）の掘削法面勾配は（90度）であるが、崩壊土砂の撤去は自然地山の掘削ではないため、同規則における5mの地山（岩盤、固い粘土以外）の掘削面勾配である60度とした。</p>  <p>第9図 復旧法面のイメージ</p> <p>(5) 検証結果                  復旧作業の検証試験において復旧後の切取斜面勾配を確認した結果、60度以上においても形状が保持されていることを確認している。万一、切土法面が崩落しても高さは70cm程度であり、2次的被害は極めて軽微であると予想される。また、ホイールローダによる撤去幅は2.5m以上であり、アクセスルート確保のために撤去が必要な幅である2.0mよりも広く撤去するため問題はないと考える。検証結果を第10図に示す。</p> <table border="1" data-bbox="212 1173 347 1292"> <thead> <tr> <th>作業員</th> <th>切取斜面勾配(°)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>F</td> <td>74.05</td> </tr> <tr> <td>G</td> <td>54.46</td> </tr> <tr> <td>平均</td> <td>64.26</td> </tr> </tbody> </table>  <p>第10図 検証結果</p>	作業員	切取斜面勾配(°)	F	74.05	G	54.46	平均	64.26	<p>【柏崎6号及び7号炉まとめ資料より転載】</p> <p>d. 土砂撤去作業後の掘削面勾配の検証                  ・斜面崩壊後の堆積土砂を模擬（第8図）し、柏崎刈羽原子力発電所に配備しているホイールローダにより復旧した際の掘削面勾配について、作業員（A,B）の組み合わせで1回計測し、労働安全衛生規則を参考とした60度*以下が確保されていることを検証した（第11図）。</p> <p>※撤去部における堆積土砂厚さが最大でも1m程度であることを踏まえれば、労働安全衛生規則第356条より2m未満の地山（岩盤、強い粘土以外）として掘削面勾配は90度となるが、堆積土砂の撤去は自然地山の掘削ではないため、復旧後の掘削面勾配の基準は、同規則における5mの地山（岩盤、強い粘土以外）の掘削面勾配である60度とした。</p>  <p>第11図 掘削面のイメージ</p> <p>e. 検証結果                  ・崩壊土砂撤去作業後の掘削面勾配は次のとおりである。</p> <table border="1" data-bbox="728 965 1310 1029"> <thead> <tr> <th>作業員</th> <th>掘削面勾配</th> <th>目標値</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A, B</td> <td>55度</td> <td>60度</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table> <p>f. 検証状況写真</p>   <p>第12図 検証状況写真</p>	作業員	掘削面勾配	目標値	評価	A, B	55度	60度	○	<p>d. 土砂撤去作業後の掘削面勾配の検証                  斜面崩壊後の堆積土砂を模擬（第3図）し、泊発電所に配備しているホイールローダにより復旧した際の掘削面勾配について、作業員G、H及びIそれぞれ1回計測し、労働安全衛生規則を参考とした60度*以下が確保されていることを検証した（第6図）。</p> <p>※撤去部における堆積土砂厚さが最大で2.0m程度であることを踏まえれば、労働安全衛生規則第356条より2m以上5m未満の地山（岩盤、強い粘土以外）として掘削面勾配は75度となるが、堆積土砂の撤去は自然地山の掘削ではないため、復旧後の掘削面勾配の基準は、同規則における5m以上の地山（岩盤、強い粘土以外）の掘削面勾配である60度とした。</p>  <p>第6図 掘削面のイメージ</p> <p>e. 検証結果                  崩壊土砂撤去作業後の掘削面勾配は次のとおりであり、掘削面勾配について60度以下が確保されていることを確認した。</p> <table border="1" data-bbox="1355 965 1960 1093"> <thead> <tr> <th>作業員</th> <th>掘削面勾配</th> <th>目標値</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>G</td> <td>36度</td> <td rowspan="3">60度</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>H</td> <td>32度</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>I</td> <td>44度</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table> <p>f. 検証状況写真</p>   <p>第7図 検証状況写真</p>	作業員	掘削面勾配	目標値	評価	G	36度	60度	○	H	32度	○	I	44度	○	<p>【女川及び島根】                  対応方針の相違                  ・泊は、土砂撤去試験を実施。</p>
作業員	切取斜面勾配(°)																																
F	74.05																																
G	54.46																																
平均	64.26																																
作業員	掘削面勾配	目標値	評価																														
A, B	55度	60度	○																														
作業員	掘削面勾配	目標値	評価																														
G	36度	60度	○																														
H	32度		○																														
I	44度		○																														

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所 2号炉	島根原子力発電所 2号炉	泊発電所 3号炉	相違理由
<p style="text-align: right;">別紙(23)</p> <p>アクセスルート復旧作業の検証について（段差解消作業）</p> <p>1. 検証方法</p> <p>地下構造物の損壊による陥没を想定した幅 3.5m、深さ 1m の溝を造成し、ブルドーザにより 20m 離れた場所に配置した碎石を陥没箇所へ運搬、埋め戻し、転圧することにより段差を解消し、幅員 4m 以上の通路を確保するのに要する時間を計測することにより、作業時間評価の妥当性を検証した。</p> <p>実証試験に用いるブルドーザは、がれき撤去用として発電所に配備するものと同型のブルドーザとした。</p> <div data-bbox="206 502 582 730"> <p>第1図 段差解消作業概念図</p> </div> <div data-bbox="85 1157 324 1332"> <p>【ブルドーザの仕様】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・機械重量 : 約27t</li> <li>・全長 : 約7.1m</li> <li>・高さ : 約3.3m</li> <li>・ブレード幅 : 約3.7m</li> <li>・ブレード容量 : 約5.2m<sup>3</sup></li> </ul> </div>	<p>(2) 段差復旧</p> <p>a. 概要</p> <p>島根原子力発電所に「段差復旧」用として配備している碎石を用いてホイールローダにより、第4図、第5図、第6図のとおり、碎石を用いて、1箇所40cmの段差を復旧した際の作業時間を作業員A、B及びCそれぞれ1回計測した。</p> <div data-bbox="728 494 1310 718"> <p>第4図 段差解消平面図（概要）</p> </div> <div data-bbox="728 853 1310 1013"> <p>第5図 段差解消断面図（概要）</p> </div>	<p>(3) 段差解消</p> <p>a. 概要</p> <p>泊発電所に「段差復旧」用として配備する碎石を用いてバックホウにより、第8図、第9図、第10図のとおり、1箇所40cmの段差を復旧した際の作業時間を作業員J、K及びLそれぞれ1回計測した。</p> <div data-bbox="1355 494 1937 742"> <p>第8図 段差解消平面図（概要）</p> </div> <div data-bbox="1355 821 1937 1021"> <p>第9図 段差解消断面図（概要）</p> </div>	<p>【女川及び島根】 記載内容の相違 ・検証条件の相違。 【島根】記載表現の相違</p>



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>2. 検証項目</p> <p>ブルドーザの運搬・埋め戻し・転圧の作業能力は、道路土工施工指針に基づき、以下のとおりとする。</p> $Q = \frac{60 \times q \times f \times E}{Cm} = 53 \text{ [m}^3/\text{h]}$ <p>ここに、<math>q</math> : 1台1時間の運搬埋め戻し量 [m<sup>3</sup>/h] <math>q = q_0 \times \rho</math>  <math>q_0 = 5.2</math> : ブレード容量 [m<sup>3</sup>]  <math>\rho = 0.96</math> : 運搬距離・勾配に関する係数 (20m, 平坦)  <math>f = 0.83</math> : 土量換算係数  <math>E = 0.3</math> : 作業効率 (道路土工施工指針記載の最低値)</p> $Cm : \text{サイクルタイム } Cm = \frac{L}{v_1} + \frac{L}{v_2} + T_g = 1.4 \text{ [分]}$ <p><math>L = 20</math> : 平均運搬距離 [m]  <math>v_1 = 27</math> : 前進速度 [m/分] (1速前進 3.3km/hの半分)  <math>v_2 = 36</math> : 後退速度 [m/分] (1速後退 4.4km/hの半分)  <math>T_g = 0.1</math> : ギア入れ替え時間 [分]</p> <p>また、埋め戻す碎石の量は、復旧幅4mに余裕幅2mを見込む。  <math>V = ((3.5m+2.4m)/2 \times \text{高さ } 1.0m) \times \text{復旧幅 } (4m+2m) = 17.7m^3</math>                      以上より、実証試験における作業時間は、  <math>V/Q = 17.7m^3 \div 53m^3/h = 20 \text{ 分}</math>                      と計算されるため、この時間と所定作業の所要時間とを比較し検証を行った。</p>			<p>【女川】記載内容の相違                      ・検証条件の相違。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																										
<p>3. 検証結果</p> <p>3人の作業員の所要時間は、以下のとおりであった。所要時間は、平均で11分56秒、最長でも19分21秒であり、検証時間とした20分を下回っていることから、段差解消作業時間の評価は妥当であることが確認された。</p> <p>なお、今後の訓練等により作業要員の習熟が期待できることから、作業時間の短縮化を見込むことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>作業員A（免許取得後約31年）所要時間7分8秒（作業量約149m<sup>3</sup>/h）</li> <li>作業員B（免許取得後約2年）所要時間9分17秒（作業量約114m<sup>3</sup>/h）</li> <li>作業員C（免許取得後約2年）所要時間19分21秒（作業量約55m<sup>3</sup>/h）</li> </ul> <p>【参考】3人の平均所要時間11分56秒（作業量約89m<sup>3</sup>/h）</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>写真1 作業前状況</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>写真2 碎石運搬・埋め戻し・転圧状況</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>写真3 碎石運搬・埋め戻し・転圧状況</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>写真4 作業完了状況</p> </div> </div> <p>第2図 段差解消作業実証試験の状況</p>	<div style="text-align: center;">  <p>第6図 段差復旧状況</p> </div> <p>b. 測定結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>作業員A：19分44秒</li> <li>作業員B：19分27秒</li> <li>作業員C：18分33秒</li> </ul> <p>【評価値】20分（上り、下り 計2箇所）</p> <p>測定結果より、段差緩和対策を行うものの、万一、段差が発生した場合においても、約10分/箇所で作業を実施できることを確認した。</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>第10図 段差復旧状況</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>第10図 段差復旧状況</p> </div> </div> <p>b. 測定結果</p> <table border="1" data-bbox="1411 497 1890 705"> <thead> <tr> <th></th> <th>復旧箇所</th> <th>復旧幅</th> <th>復旧時間</th> <th>段差幅1m当たりの復旧時間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">作業員J</td> <td>上り</td> <td>3.5m</td> <td rowspan="2">16分31秒</td> <td rowspan="2">2分22秒</td> </tr> <tr> <td>下り</td> <td>3.5m</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">作業員K</td> <td>上り</td> <td>3.8m</td> <td rowspan="2">20分54秒</td> <td rowspan="2">2分45秒</td> </tr> <tr> <td>下り</td> <td>3.8m</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">作業員L</td> <td>上り</td> <td>3.7m</td> <td rowspan="2">16分18秒</td> <td rowspan="2">2分13秒</td> </tr> <tr> <td>下り</td> <td>3.7m</td> </tr> </tbody> </table> <p>測定結果より、段差緩和対策を行うものの、万一、段差が発生した場合においても、段差幅1m当たりの復旧時間が約3分であることから、必要道路幅4.0mを確保する場合、約12分/箇所で作業を実施できることを確認した。</p>		復旧箇所	復旧幅	復旧時間	段差幅1m当たりの復旧時間	作業員J	上り	3.5m	16分31秒	2分22秒	下り	3.5m	作業員K	上り	3.8m	20分54秒	2分45秒	下り	3.8m	作業員L	上り	3.7m	16分18秒	2分13秒	下り	3.7m	<p>【女川及び島根】記載表現の相違</p> <p>【島根】記載方針の相違              ・泊は、実際に復旧した幅及び段差幅1m当たりの復旧時間についても記載。</p>
	復旧箇所	復旧幅	復旧時間	段差幅1m当たりの復旧時間																									
作業員J	上り	3.5m	16分31秒	2分22秒																									
	下り	3.5m																											
作業員K	上り	3.8m	20分54秒	2分45秒																									
	下り	3.8m																											
作業員L	上り	3.7m	16分18秒	2分13秒																									
	下り	3.7m																											

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p style="text-align: right;">別紙(5)</p> <p style="text-align: center;">屋外のアクセスルート 現場確認結果</p> <div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%;"></div> <p style="text-align: center;">第1図 アクセスルート 現場確認結果</p> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; margin: 10px auto; padding: 2px;">                     本資料のうち、枠囲みの内容は機密に係る事項のため公開できません。                 </div>	<p style="text-align: right;">別紙(23)</p> <p style="text-align: center;">屋外のアクセスルート現場確認結果</p> <div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%;"></div> <p style="text-align: center;">第1図 アクセスルート 現場確認結果</p> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; margin: 10px auto; padding: 2px;">                     枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。                 </div>	<p>【島根】記載表現の相違                      ・プラントの相違による                      図の内容の相違。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉

別紙(24)

島根原子力発電所2号炉

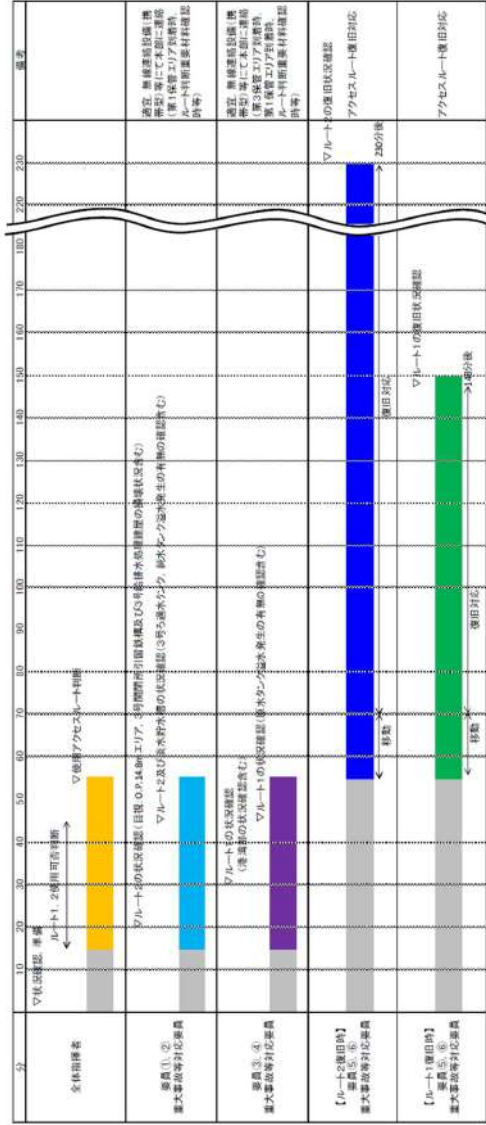
該当箇所なし

泊発電所3号炉

別紙(24)

相違理由

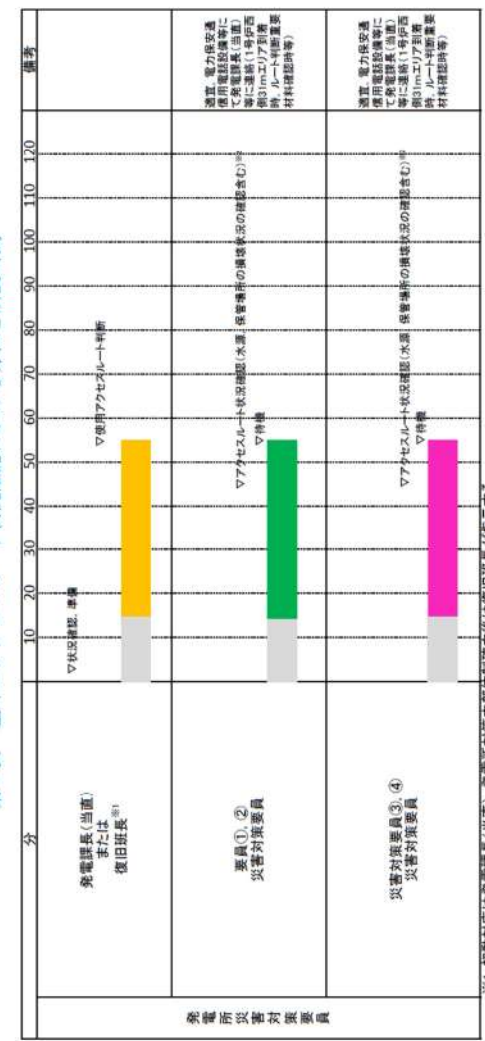
アクセスルート状況確認範囲及び分担範囲



【女川】記載表現の相違  
 【女川】記載内容の相違  
 ・泊は、復旧作業が無い。  
 ・要員名称、要員数、通信設備、及び復旧時間の相違。  
 ・泊は、島根と同様に、初動と体制確立後で指示者が異なる。  
 ・泊は、状況確認の所要時間について算出根拠を記載。

屋外のアクセスルート状況確認範囲及び分担範囲

第1表 屋外のアクセスルート状況確認における分担と所要時間



※1:初動対応は発電所長(当直)、発電所対策本部体制確立後は復旧班長が指示する。  
 ※2:確認ルートの距離約19km(第1回の最も距離が長い場合)と徒歩移動速度40m/h(補足資料(4))から確認に要する時間を算出。



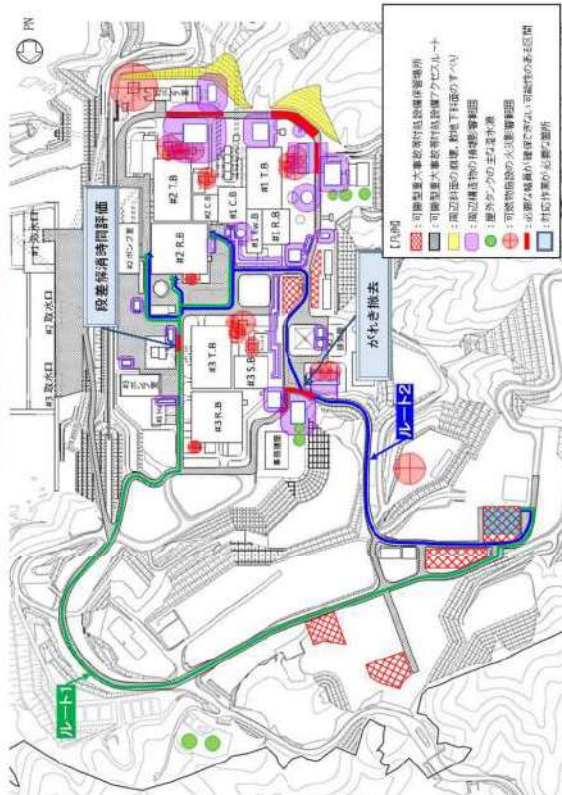
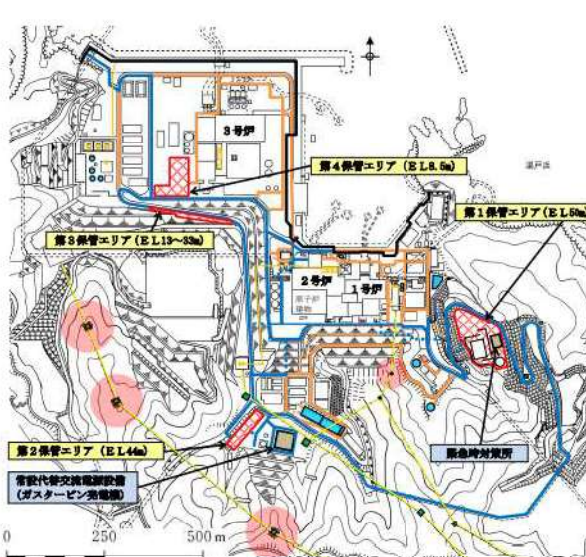
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
			<p>【女川】記載内容の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・泊は水源、及び仮復旧に係る移動ルートについても記載。</li> </ul>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>別紙(25)</p> <p>アクセラートにおける地震後の被害想定</p> 	<p>別紙(19)</p> <p>屋外のアクセラートにおける地震後の被害想定 (一覧)</p>  <p>第1図 アクセラートにおける地震後の被害想定 (一覧)</p>	<p>別紙(25)</p> <p>屋外のアクセラートにおける地震後の被害想定</p> <div style="border: 2px solid black; width: 100%; height: 100%; display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <p>第1図 アクセラートにおける地震後の被害想定 (一覧)</p> </div> <p>枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p>	<p>相違理由</p> <p>【女川及び島根】記載表現の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プラントの相違による被害状況の相違。</li> </ul>



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉 別紙(26)	島根原子力発電所2号炉 該当箇所なし	泊発電所3号炉 別紙(26)	相違理由
<p style="text-align: center;">アクセスルート復旧後における車両の通行量について</p> <p>アクセス道路の復旧については、大型車両が通行できる道幅（約3.7m）を復旧することとしている。道路復旧後の車両の通行量は以下のとおり。</p> <p><b>【アクセスルート復旧後から6時間まで】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大容量送水ポンプ（タイプ1）：1（往路のみ）</li> <li>・熱交換器ユニット：1（往路のみ）</li> <li>・可搬型窒素ガス供給装置：1（往路のみ）</li> <li>・ホース延長回収車（2台）：5往復</li> <li>・タンクローリ：1（往路のみ）</li> </ul> <p><b>【アクセスルート復旧後6時間から15時間まで】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大容量送水ポンプ（タイプ1）：1（往路のみ）</li> <li>・ホース延長回収車：4往復</li> <li>・タンクローリ：1往復</li> <li>・タンクローリ：2往復</li> </ul> <p>以上の結果により、車両の通行量は<b>アクセスルート復旧後6時間まで</b>で、<b>5往復程度</b>であることを確認した。                  アクセスルートは6m以上の幅員の道路であり、可搬型車両のすれ違いは可能である。                  一部<b>段差復旧箇所</b>や<b>がれき発生箇所</b>等、復旧された道路幅では片道通行となるが、<b>発電所対策本部が各車両と無線連絡設備（携帯型）</b>等により相互連絡することにより、車両は徐行運転（10～20km/h）で通行可能であり、車両の離合により時間をロスすることはないため、アクセス時間に影響はないと考える。</p>		<p style="text-align: center;">重大事故等時における車両の通行量について</p> <p>アクセス道路については、<b>重大事故等時においても</b>、大型車両が通行できる道幅（約4.0m）を<b>確保</b>することとしている。<b>重大事故等時</b>の車両の通行量は以下のとおり。</p> <p><b>【重大事故等時から約7時間まで】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・可搬型大型送水ポンプ車（1台）：1（往路のみ）</li> <li>・ホース延長・回収車（送水車用）（1台）：2往復</li> <li>・可搬型タンクローリ（1台）：2往復</li> </ul> <p><b>【重大事故等時約7時間から約11時間まで】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・可搬型大型送水ポンプ車（1台）：1（往路のみ）</li> <li>・ホース延長・回収車（送水車用）（1台）：1往復</li> <li>・可搬型タンクローリ（1台）：3往復</li> </ul> <p>以上の結果により、車両の通行量は<b>重大事故等時から約11時間まで</b>で<b>10往復程度</b>であることを確認した。                  アクセスルートは6m以上の幅員の道路であり、可搬型車両のすれ違いは可能である。                  アクセスルートトンネルや一部<b>がれき発生箇所</b>等の道路幅では片道通行となるが、現場作業員が緊急時対策所又は中央制御室へ衛星電話設備、電力保安通信用電話設備等により相互連絡することにより、車両は徐行運転（10～20km/h）で通行可能であり、車両の離合により時間をロスすることはないため、アクセス時間に影響はないと考える。</p>	<p>【女川】設計方針の相違                  ・泊は、アクセスルートの復旧が無いため、重大事故等時における車両の通行量について記載（以下、赤字箇所について同様）。</p> <p>【女川】記載内容の相違                  ・必要道路幅の相違。</p> <p>【女川】記載内容の相違                  ・車両及び通行量の相違。</p> <p>【女川】記載内容の相違                  ・車両通行量の相違。</p> <p>【女川】記載内容の相違                  ・片側通行箇所の相違。                  ・通信連絡の運用、設備の相違。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p style="text-align: right;">別紙(27)</p> <p>アクセスルート通行時における通信連絡手段及び照明について</p> <p>アクセスルート通行時における通信手段及び照明については、以下のような設備を確保している。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>可搬型照明（懐中電灯）</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>可搬型照明（ヘッドライト）</p> </div> </div> <p style="text-align: center; color: green;">第1図 可搬型照明</p>	<p style="text-align: right;">別紙(16)</p> <p>屋外及び屋内のアクセスルート通行時における通信連絡手段及び照明</p> <p>アクセスルート通行時における通信連絡設備及び照明については、以下のような設備を確保している。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>ヘッドライト</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>懐中電灯</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>LEDライト (ランタンタイプ)</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  <p>LEDライト (三脚タイプ)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>LEDライト (フロアタイプ)</p> </div> </div> <p style="text-align: center; color: green;">第1図 可搬型照明</p> <p>また、通常照明が使用できない場合に使用を期待できる照明器具として、電源内蔵型照明を建物内に設置（別紙(13)参照）している。</p> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;">  </div> <p style="text-align: center; color: blue;">第2図 電源内蔵型照明</p>	<p style="text-align: right;">別紙(27)</p> <p>屋外及び屋内のアクセスルート通行時における通信連絡手段及び照明について</p> <p>アクセスルート通行時における通信手段及び照明については、以下のような設備を確保している。</p> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;">  <p>(ヘッドライト、懐中電灯)</p> </div> <p style="text-align: center; color: green;">第1図 可搬型照明</p>	<p>【女川】記載表現の相違</p> <p>【女川】記載表現の相違・配備する照明の相違。</p> <p>【島根】記載内容の相違・配備する照明の相違。（女川と同様）</p>



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">                       送受話器 (ページング) (警報装置を含む。)                         無線連絡設備 (携帯型)                 </div> <div style="text-align: center;">                       電力保安通信用電話設備 (PHS端末)                         衛星電話設備 (携帯型)                 </div> <div style="text-align: center;">                       携帯型通話装置                 </div> </div> <p style="text-align: center;">第2図 通信連絡設備 (イメージ)</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">                       所内通信連絡設備 (ハンドセットステーション)                         有線式通信設備 (有線式通信機)                 </div> <div style="text-align: center;">                       電力保安通信用電話設備 (PHS端末)                         無線通信設備 (携帯型)                 </div> <div style="text-align: center;">                       衛星電話設備 (携帯型)                 </div> </div> <p style="text-align: center;">第3図 通信連絡設備</p> <p>※有線式通信設備の使用方法                  中央制御室や現場（建物内）の壁面に設置されている専用接続端子に有線式通信機を接続する。通信連絡を必要とする場所が専用接続端子と遠い場合は、コードリール（100m/本、6台設置）を使用することで中央制御室と現場の通信連絡が可能である。</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">                       運転指令設備 (警報装置を含む)                 </div> <div style="text-align: center;">                       電力保安通信用電話設備 保安電話 (携帯)                 </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">                       携帯型通話装置                 </div> <div style="text-align: center;">                       無線連絡設備 (携帯型)                 </div> <div style="text-align: center;">                       衛星電話設備 (携帯型)                 </div> </div> <p style="text-align: center;">第2図 通信連絡設備 (イメージ)</p> <p>※：携帯型通話装置の使用方法                  使用する場所にて、最寄りの通話設備ジャックに端末を接続する。通話連絡を必要とする場所が通話設備ジャックと遠い場合は、通話装置用ケーブルを用いて延長し、複数の端末を接続することで複数者の連絡を可能とする。</p>	<p>【女川及び島根】                  記載表現の相違                  ・プラントの相違による図の内容の相違。</p>

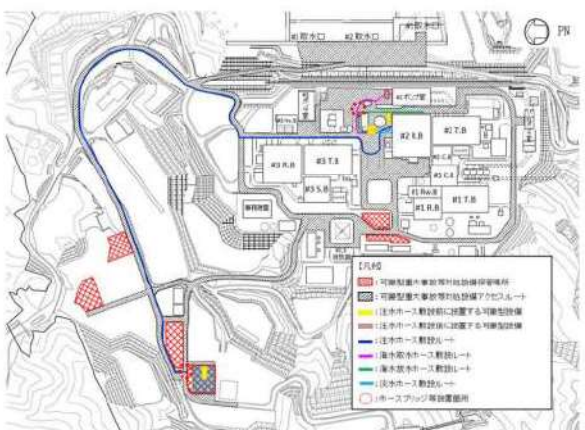

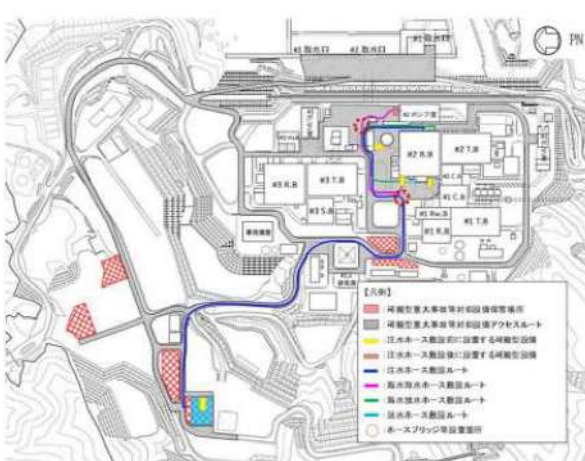
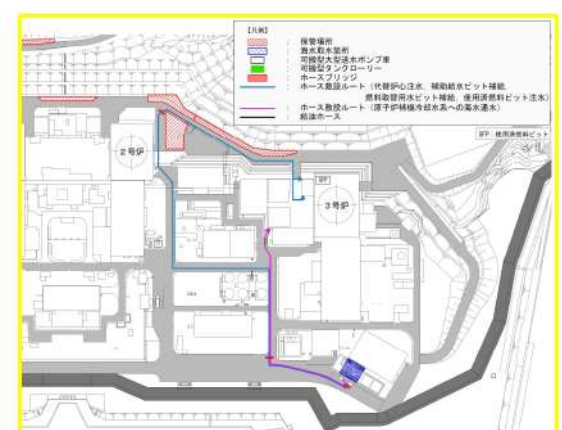
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p style="text-align: right;">別紙(28)</p> <p style="text-align: center;">機材設置後の作業成立性について</p> <p>重大事故等対応のホース等の機材設置後のアクセスルートの通行性については、ホースブリッジ（300Aホース用）等を配備することで、すべての車両が通行可能である。</p> <p>機材設置後のルート図について第1図～第3図に示す。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <p>【300Aホース用ホースブリッジ】</p> <p>【車両通行状況(例)】</p> </div>	<p style="text-align: right;">別紙(20)</p> <p style="text-align: center;">資材設置後の作業成立性</p> <p>重大事故等対処設備である大量送水車、大型送水ポンプ車を用いて、輪谷貯水槽（西1／西2）及び低圧原子炉代替注水槽への補給、燃料プール等への注水を行う。</p> <p>大量送水車の配置場所は輪谷貯水槽（西1／西2）近傍及び原子炉建物近傍、大型送水ポンプ車の配置場所は海水取水箇所近傍となり、ホース敷設ルートは輪谷貯水槽（西1／西2）から原子炉建物近傍まで、海水取水箇所から原子炉建物近傍及び輪谷貯水槽（西1／西2）までとなる。</p> <p>アクセスルート上にホースを敷設する際には、道路の端に敷設することを基本とするため、主要な発電所構内道路への影響は限定的であり、機材を設置することにより通行に支障は来さない。</p> <p>なお、あらゆる悪条件に備えホースブリッジ等の資機材を確保しており緊急時の柔軟な対応に厚みを持たせている。</p> <div style="display: flex; justify-content: center; margin-top: 20px;">  </div> <div style="display: flex; justify-content: center; margin-top: 20px;">  </div> <p style="text-align: center; margin-top: 10px;">第1図 ホースブリッジ</p>	<p style="text-align: right;">別紙(28)</p> <p style="text-align: center;">機材設置後の作業成立性について</p> <p>重大事故等対応の可搬型ホース等の機材設置後のアクセスルートの通行性については、ホースブリッジ等を配備することで、すべての車両が通行可能である（第1図参照）。また、第1表に示すとおり、有効性評価シナリオのうち、可搬型設備の配置数が最も多いシナリオ（全交流動力電源喪失）を選択した場合においても、可搬型設備の配置及び可搬型ホースの敷設が可能である。</p> <p>機材設置後のルート図について第2図及び第3図に、作業の成立性の配置条件を第1表に示す。</p> <div style="display: flex; justify-content: center; margin-top: 20px;">  </div> <div style="display: flex; justify-content: center; margin-top: 20px;">  </div> <p style="text-align: center; margin-top: 10px;">第1図 ホースブリッジの設置状況</p>	<p>【島根】記載表現の相違</p> <p>【島根】記載内容の相違・プラントの相違によるホース敷設ルートの相違。</p> <p>【女川】記載表現の相違</p> <p>【島根】記載表現の相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
			相違理由
<p>第1図 機材設置後の作業成立性（ルート1）</p>		<p>第2図 3号炉原子炉建屋東側を経由したルートの作業の成立性（機材設置あり）</p>	
			<p>【女川】記載内容の相違・プラントの相違によるホースブリッジの設置箇所の相違。</p>
<p>第2図 機材設置後の作業成立性（ルート2）</p>		<p>第3図 3号炉原子炉建屋西側を経由したルートの作業の成立性（機材設置あり）</p>	



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

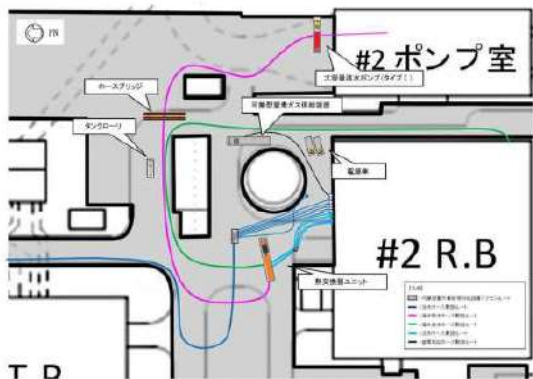
1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉

島根原子力発電所2号炉

泊発電所3号炉

相違理由



第3図 機材設置後の作業成立性（原子炉建屋周辺可搬型設備配置例）

第1表 機材設置後の作業成立性（原子炉建屋周辺可搬型設備配置例）の配置条件

項目	条件
シナリオ	蒸気圧力・温度による静的負荷（格納容器過圧・過温破損）
配置する可搬型設備*	大容量送水ポンプ（タイプ1）：2台（注水設備1台、除熱設備1台） 熱交換器ユニット：1台 電源車（可搬型代替交流電源設備）：2台 電源車（緊急時対策所用）：1台 可搬型窒素ガス供給装置：1台 タンクローリー：1台
注水ルート	ルート1
接続口使用箇所	原子炉建屋北面接続口
海水取水箇所	2号炉海水ポンプ室
ホース敷設前に設置する可搬型設備	熱交換器ユニット：1台 電源車（可搬型代替交流電源設備）：2台 可搬型窒素ガス供給装置：1台

※ 注水設備用の大容量送水ポンプ（タイプ1）は淡水貯水槽、電源車（緊急時対策所用）は緊急時対策所用に設置するため「第3図 機材設置後の作業成立性（原子炉建屋周辺可搬型設備配置例）」には記載していない。

第1表 機材設置後の作業成立性（3号炉原子炉建屋西側を経由したルートの配置例）の配置条件

項目	条件
シナリオ	全交流動力電源喪失
配置する可搬型設備	可搬型大型送水ポンプ車：2台 可搬型タンクローリー：2台
注水ルート	3号炉原子炉建屋西側を経由したルート
接続口使用箇所	可搬型大型送水ポンプ車33m接続口 可搬型大型送水ポンプ車A母管接続口
海水取水箇所	3号炉取水ビットスクリーン室
可搬型ホース敷設前に設置する可搬型設備	なし

【女川】記載内容の相違  
 ・女川は原子炉建屋周辺における機材設置後の可搬型設備の配置を拡大図で明確化している。  
 ・泊は第1図及び第2図に第1表に記載している可搬型設備を示している。

【女川】記載内容の相違  
 ・プラントの相違による表の内容の相違。



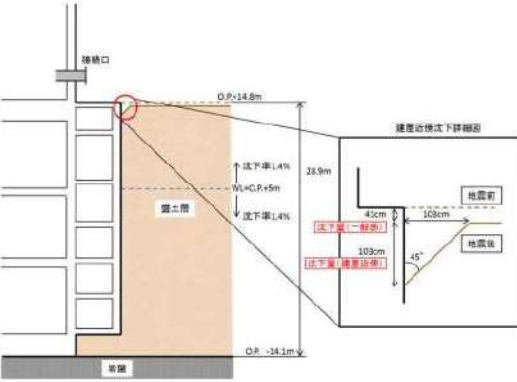
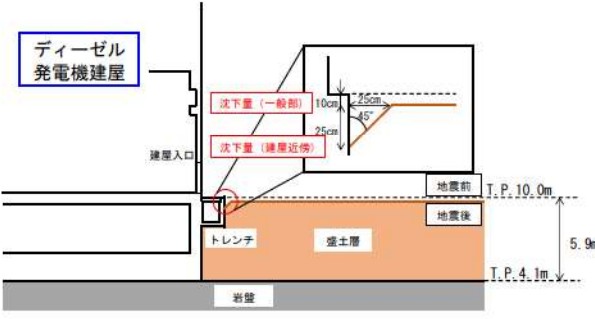
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p style="text-align: right;">別紙(29)</p> <p style="text-align: center;">地震による建屋直近の地盤沈下に伴う 可搬型設備の接続作業への影響について</p> <p>1. 屋外作業に想定される影響と対策</p> <p>原子炉建屋近傍での地盤の沈下が生じた場合には、建屋壁面近傍でのホース等の接続作業に影響が生じると想定される。</p> <p>建屋壁面近傍でのホース等の接続作業については、<b>あらかじめ足場材等を配備しておくことにより</b>、対応操作が可能となるよう対策する。対策例を第1図に示す。</p> <p>なお、接続口位置については別紙(3)参照。</p> <div data-bbox="138 954 638 1337"> </div> <p style="text-align: center;">第1図 足場材等を用いた対策 (例)</p>	<p style="text-align: center;">該当箇所なし</p>	<p style="text-align: right;">別紙(29)</p> <p style="text-align: center;">地震による建屋直近の地盤沈下に伴う 可搬型設備の接続作業への影響について</p> <p>1. 屋外作業に想定される影響と対策</p> <p>ディーゼル発電機建屋及び原子炉補助建屋近傍では、地震時にくさび崩壊<sup>※</sup>に伴う地盤沈下が生じる可能性があり、建屋壁面近傍でのホース等の接続作業に影響が生じると想定される。</p> <p>建屋壁面近傍でのホース等の接続作業については、<b>ホース延長・回収車（送水車用）に積載している土のうを用いて段差を解消することにより</b>、対応操作が可能となるよう対策する。対策例を第1図に示す。</p> <p>なお、接続口位置については別紙(3)参照。</p> <p>※：くさび崩壊とは、構造物と周囲地盤の相対変位に起因する主動状態で生じるすべり破壊をいう。</p> <div data-bbox="1460 635 1841 1343"> </div> <p style="text-align: center;">第1図 土のうを用いた対策 (例)</p>	<p>【女川】記載箇所の相違 ・女川は「別紙(15)」にてくさび崩壊の注釈を記載している。</p> <p>【女川】対応方針の相違 ・くさび崩壊に対する対策の相違。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>(1) 沈下量の想定</p> <p>2011年東北地方太平洋沖地震の実績では、明らかなくさび崩壊に伴う建物近傍の大きな沈下は確認されていないが、本評価においては2007年新潟県中越沖地震における東京電力柏崎刈羽原子力発電所の結果を参照して建屋近傍の沈下量は一般部の3.5倍と想定して評価する。</p> <p>a. 一般部の沈下量</p> <p>原子炉建屋近傍における沈下評価対象層厚は28.9mであり、不飽和盛土及び飽和盛土の沈下率1.4%を考慮し、41cmを想定する。</p> <p>b. 建屋近傍の沈下量</p> <p>建屋近傍の沈下について、一般部の想定41cmの3.5倍である144cmを想定する。</p> <p>c. 地震後の想定地盤形状</p> <p>a. 及びb.の想定を踏まえ、地震後の想定形状を第2図に示す。</p>  <p>第2図 地震後の想定地盤形状</p>		<p>(1) 沈下量の想定</p> <p>本評価においては2007年新潟県中越沖地震における東京電力柏崎刈羽原子力発電所の結果を参照して建屋近傍の沈下量は一般部の3.5倍と想定して評価する。</p> <p>a. 一般部の沈下量</p> <p>ディーゼル発電機建屋近傍における沈下評価対象層厚は5.9mであり、不飽和盛土及び飽和盛土の沈下率1.7%を考慮し、10cmを想定する。</p> <p>原子炉補助建屋近傍における沈下評価対象層厚は9.85mであり、不飽和盛土及び飽和盛土の沈下率1.7%を考慮し、17cmを想定する。</p> <p>b. 建屋近傍の沈下量</p> <p>ディーゼル発電機建屋近傍の沈下について、一般部の想定10cmの3.5倍である35cmを想定する。</p> <p>原子炉補助建屋近傍の沈下について、一般部の想定17cmの3.5倍である60cmを想定する。</p> <p>c. 地震後の想定地盤形状</p> <p>a. 及びb.の想定を踏まえ、各建屋近傍における地震後の想定形状を第2図及び第3図に示す。</p>  <p>第2図 ディーゼル発電機建屋近傍における地震後の想定地盤形状</p>	<p>【女川】記載内容の相違                  ・泊は女川2号炉における東北太平洋沖地震と同様な被害実績はない。</p> <p>【女川】記載内容の相違                  ・プラントの相違に伴う沈下率及び沈下量の相違。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
		<p>第3図 原子炉補助建屋近傍における地震後の想定地盤形状</p>	

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p style="text-align: right;">別紙(30)</p> <p style="text-align: center;">屋内アクセスルートの設定について</p> <p>屋内アクセスルートは、重大事故等時において必要となる現場操作場所まで外部事象を想定しても移動が可能であり、また、移動時間を考慮しても要求される時間までに必要な措置を完了させることが重要である。外部事象のうち一番厳しい事象は地震であり、地震起因による火災、溢水、全交流動力電源の喪失を考慮してもアクセス性に与える影響がないことを確認し設定する。</p> <p>1. 屋内アクセスルート設定における考慮事項                  屋内での各階層におけるアクセスルートを設定する場合の考え方を以下に示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地震、地震随伴火災のおそれがある油内包機器又は水素内包機器<sup>*1</sup>、地震による内部溢水<sup>*2</sup>を考慮しても移動可能なアクセスルートをあらかじめ設定する。</li> <li>原子炉建屋原子炉棟への通行ルートとして、原子炉建屋付属棟を経由し原子炉建屋原子炉棟へ入城するルートをアクセスルートとして設定する。なお、地震による配管破損等の影響により通行できない場合以外に利用可能なルートとして、タービン建屋及び原子炉建屋付属棟（廃棄物処理エリア）を経由し原子炉建屋原子炉棟へ入城するルートを設定する。</li> </ul>	<p style="text-align: right;">別紙(13)</p> <p style="text-align: center;">屋内のアクセスルートの設定について</p> <p>アクセスルートは、重大事故等時において必要となる現場活動場所まで外部事象を想定しても移動が可能であり、また、移動時間を考慮しても要求される時間までに必要な措置を完了させることが重要である。外部事象のうち一番厳しい事象は地震であり、地震起因による火災、溢水、全交流動力電源の喪失を考慮してもアクセス性に与える影響がないことを確認し設定する。</p> <p>1. 屋内のアクセスルート設定における考慮事項                  屋内での各階層におけるアクセスルートを選定する場合、地震随伴火災のおそれがある油内包機器又は水素内包機器<sup>*1</sup>、地震随伴内部溢水<sup>*2</sup>を考慮しても移動可能なアクセスルートをあらかじめ設定する。</p> <p style="text-align: center;">以下に屋内のアクセスルートの選定の考え方を示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>火災発生時にアクセス性が阻害された場合は、迂回路を使用する。</li> </ul>	<p style="text-align: right;">別紙(30)</p> <p style="text-align: center;">屋内のアクセスルートの設定について</p> <p>アクセスルートは、重大事故等時において必要となる現場操作場所まで外部事象を想定しても移動が可能であり、また、移動時間を考慮しても要求される時間までに必要な措置を完了させることが重要である。外部事象のうち一番厳しい事象は地震であり、地震起因による火災、溢水、全交流動力電源の喪失を考慮してもアクセス性に与える影響がないことを確認し設定する。</p> <p>1. 屋内のアクセスルート設定における考慮事項                  屋内での各階層におけるアクセスルートを設定する場合、地震、地震随伴火災のおそれがある油内包機器又は水素内包機器<sup>*1</sup>、地震による内部溢水<sup>*2</sup>を考慮しても移動可能なアクセスルートをあらかじめ設定する。</p> <p>また、原子炉建屋、原子炉補助建屋及びディーゼル発電機建屋の必要な階層を経由し、現場操作場所まで移動するルートをアクセスルートとして設定する。</p> <p style="text-align: center;">以下に屋内のアクセスルートの選定の考え方を示す。</p>	<p>【女川及び島根】記載表現の相違</p> <p>【女川及び島根】記載表現の相違</p> <p>【女川】記載内容の相違                  ・泊は、原子炉建屋内に原子炉棟は無いため現場操作場所までのアクセスルート設定の考え方を記載している。</p> <p>【島根】記載内容の相違                  ・泊は、アクセスルート設定の考え方を記載している。</p> <p>【女川】記載表現の相違                  ・泊は、地震による影響を考慮して移動可能なルートをあらかじめ設定した上で、アクセスルートが、地震による影響を受けた場合のルート選定の考え方を記載した。</p> <p>【島根】記載箇所及び記載表現の相違</p>



泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>・火災発生時にアクセスルートの通行が困難な場合には、迂回路を使用する。</p> <p>※1：火災源となる機器については、別紙(33)「地震随伴火災の影響評価について」参照                  ※2：内部溢水については、別紙(34)「地震による内部溢水の影響評価について」参照</p> <p>2. 屋内アクセスルートの成立性                  技術的能力1.1～1.19で整備した重大事故等時において期待する手順について、外部事象による影響を考慮しても屋内に設定したアクセスルートを通行できることを確認した。その結果を第1表「技術的能力における対応手順と操作・作業場所一覧」に整理する。                  また、移動経路については、第1図「屋内アクセスルート図」に示す。第1図に示した「①～⑦」は、第1表「技術的能力における対応手順と操作・作業場所一覧」の屋内アクセスルートと関連付けがなされている。</p> <p>なお、第1図中の操作対象場所における操作対象機器及び操作項目等を第2表に示す。</p> <p>3. 屋外アクセスルートとの関係                  重大事故等時は屋内での活動はもとより、可搬型重大事故等対処設備の屋外での設置作業との連携が重要である。なお、可搬型重大事故等対処設備を使用する場合には、<b>重大事故等対応要員</b>は滞在場所から現場に向かう。</p>	<p>・原子炉建物、タービン建物、廃棄物処理建物及び制御室建物の各階層を移動するルートは、地震、火災等の被害により、アクセス性が阻害された場合は、影響の小さいルートを使用し操作場所までアクセスする。</p> <p>・地震随伴内部溢水については、アクセスルートの溢水水位を評価した上で影響を受ける可能性がある場合は、必要な措置を講じる。</p> <p>※1：火災源となる機器については、別紙(17)「屋内のアクセスルートにおける地震随伴火災の影響評価」参照                  ※2：内部溢水については、別紙(18)「屋内のアクセスルートにおける地震随伴内部溢水の影響評価」参照</p> <p>2. アクセスルートの成立性                  技術的能力1.1～1.19で整備した重大事故等時において期待する手順について、外部事象による影響を考慮しても屋内に設定したアクセスルートを通行できることを確認した。その結果を第1表「技術的能力における対応手順と操作・作業場所一覧」に整理する。                  また、移動経路については、本別紙第1図「島根原子力発電所2号炉重大事故等時 屋内のアクセスルート」に示す。また、第1図に記した「①～⑩」は、本別紙第1表「技術的能力における対応手順と操作・作業場所一覧」のアクセスルートに記載のある数字と関連づけがなされている。</p> <p>なお、第2表に、第1図中の操作対象箇所における操作対象機器、操作項目等を示す。</p> <p>3. 屋外のアクセスルートとの関係                  重大事故等時は屋内での活動はもとより、可搬型重大事故等対処設備の屋外での設置作業との連携が重要である。そこで、重大事故等対処設備を使用する場合には、<b>緊急時対策要員（現場要員）</b>の滞在場所から現場に向かう。</p>	<p>・原子炉建屋及び原子炉補助建屋の各階層を移動するルートは、地震、溢水の影響により、アクセス性が阻害された場合は、影響の小さいルートを使用し操作場所までアクセスする。</p> <p>・火災発生時にアクセスルートの通行が困難な場合には、迂回路を使用する。</p> <p>・地震による内部溢水については、アクセスルートの溢水水位を評価した上で影響を受ける可能性がある場合は、適切な防護具を着用した上でアクセスする。</p> <p>※1：火災源となる機器については、別紙(33)「屋内のアクセスルートにおける地震随伴火災の影響評価について」参照                  ※2：内部溢水については、別紙(34)「屋内のアクセスルートにおける地震による内部溢水の影響評価について」参照</p> <p>2. アクセスルートの成立性                  技術的能力1.1～1.19で整備した重大事故等時において期待する手順について、外部事象による影響を考慮しても屋内に設定したアクセスルートを通行できることを確認した。その結果を第1表「技術的能力における対応手順と操作・作業場所一覧」に整理する。                  また、移動経路については、第1図「屋内のアクセスルート図」に示す。また、第1図に示した「①～⑩」は、第1表「技術的能力における対応手順と操作・作業場所一覧」のアクセスルートに記載のある数字と関連付けがなされている。</p> <p>なお、第1図中の操作対象場所における操作対象機器及び操作項目等を第2表に示す。</p> <p>3. 屋外のアクセスルートとの関係                  重大事故等時は屋内での活動はもとより、可搬型重大事故等対処設備の屋外での設置作業との連携が重要である。なお、可搬型重大事故等対処設備を使用する場合には、<b>発電所災害対策要員</b>は滞在場所から現場に向かう。</p>	<p>【女川】記載内容の相違                  ・泊は、あらかじめ設定したルートのアクセス性が地震時の影響により仮に阻害された場合のルート選定の考え方を記載している。</p> <p>【島根】記載箇所及び記載表現の相違</p> <p>【女川及び島根】記載内容の相違                  ・泊は、溢水水位の影響を受ける場合は、防護具を着用してアクセスすることを記載した。</p> <p>【女川及び島根】記載表現の相違</p> <p>【女川及び島根】記載表現及び対応要員の名称の相違</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉

第1表 技術的能力における対応手順と操作・作業場所一覧(1/16)

条文	対応手順	操作・作業場所		
		中央	屋内アクセスルート*	屋外アクセスルート**
1.1 緊急停止失敗時に発電用原子炉を未臨界にするための手順等	代替制御挿入機能による制御挿入	○		
	原子炉再循環ポンプ停止による原子炉出力抑制	○		
	自動減圧系作動阻止機能による原子炉出力急上昇防止	○		
	ほう酸水注入	○		
1.2 原子炉冷却材圧力バウンダリ高圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等	中央制御室からの高圧代替注水系起動	○		
	現場手動操作による高圧代替注水系起動	○	【中央制御室→(①→③)→(③階段G④)→(④階段A⑤)→(⑤階段J⑥)→(⑥-3)→(⑥階段J⑦)→(⑦-1)→(⑦階段J⑧)→(⑧-1)→(⑧-2)】	
	現場手動操作による原子炉隔離時冷却系起動	○	【中央制御室→(①→③)→(③階段G④)→(④階段A⑤)→(⑤-1)→(⑤-2)→(⑤階段J⑥)→(⑥階段A⑦)→(⑦-3)→(⑦階段J⑧)→(⑧-6)→(⑧階段J⑨)→(⑨-4)→(⑨階段J⑩)→(⑩-5)→(⑩階段J⑪)→(⑪階段A⑫)→(⑫-30)】	
	ほう酸水注入系貯蔵タンクを水源とした原子炉圧力容器へのほう酸水注入	○		
	原子炉隔離時冷却系による原子炉圧力容器への注水	○		
	高圧炉心スプレイ系による原子炉圧力容器への注水	○		

※1 屋外アクセスルートは、緊急時対策所から保管場所までの移動ルートを示す。

島根原子力発電所2号炉

第1表 島根原子力発電所2号炉 技術的能力における対応手順と操作・作業場所一覧(1/13)

条文	対応手順	操作・作業場所		
		中央	屋内アクセスルート	屋外のアクセスルート*
1.1 緊急停止失敗時に発電用原子炉を未臨界にするための手順等	代替制御挿入機能による制御挿入	○		
	原子炉再循環ポンプ停止による原子炉出力抑制	○		
1.2 原子炉冷却材圧力バウンダリ高圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等	原子炉出力抑制(自動)	○		
	原子炉出力抑制(手動)	○		
	ほう酸水注入	○		
	1次冷却系のフィードバックブリードによる発電用原子炉の冷却	○		
1.3 原子炉冷却材圧力バウンダリ高圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等	現場手動操作によるタービン動機補助給水ポンプの起動	○	【タービン動機補助給水ポンプの起動】 【タービン動機補助給水ポンプの起動】 【タービン動機補助給水ポンプの起動】 【タービン動機補助給水ポンプの起動】 【タービン動機補助給水ポンプの起動】 【タービン動機補助給水ポンプの起動】 【タービン動機補助給水ポンプの起動】	
	現場手動操作による主蒸気発生器の起動	1.3	「原子炉冷却材圧力バウンダリを減圧するための手順等」参照	
	代替発電機設備による電動補助給水ポンプへの給電	○		
	加圧器水位及び蒸気発生器水位の監視又は推定	1.15	「事故時の計装に関する手順等」参照	
	補助給水ポンプの作動状況確認	○	【中央制御室→(①階段E③)→(③-3)→(③-4)】	
	加圧器水位(原子炉水位)の制御	1.4	「原子炉冷却材圧力バウンダリ高圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等」参照	
	蒸気発生器水位の制御	1.2 1.3	「原子炉冷却材圧力バウンダリ高圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等」参照 「原子炉冷却材圧力バウンダリを減圧するための手順等」参照	

※1：屋外のアクセスルートは、緊急時対策所から保管場所までの移動ルートを示す。

泊発電所3号炉

第1表 技術的能力における対応手順と操作・作業場所一覧(1/19)

条文	対応手順	操作・作業場所		
		中央	屋内のアクセスルート	屋外のアクセスルート**
1.1 緊急停止失敗時に発電用原子炉を未臨界にするための手順等	手動による原子炉緊急停止	○		
	原子炉出力抑制(自動)	○		
	原子炉出力抑制(手動)	○		
	ほう酸水注入	○		
1.2 原子炉冷却材圧力バウンダリ高圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等	現場手動操作によるタービン動機補助給水ポンプの起動	○	【タービン動機補助給水ポンプの起動】 【タービン動機補助給水ポンプの起動】 【タービン動機補助給水ポンプの起動】 【タービン動機補助給水ポンプの起動】 【タービン動機補助給水ポンプの起動】 【タービン動機補助給水ポンプの起動】 【タービン動機補助給水ポンプの起動】	
	現場手動操作による主蒸気発生器の起動	1.3	「原子炉冷却材圧力バウンダリを減圧するための手順等」参照	
	代替発電機設備による電動補助給水ポンプへの給電	○		
	加圧器水位及び蒸気発生器水位の監視又は推定	1.15	「事故時の計装に関する手順等」参照	
	補助給水ポンプの作動状況確認	○	【中央制御室→(①階段E③)→(③-3)→(③-4)】	
	加圧器水位(原子炉水位)の制御	1.4	「原子炉冷却材圧力バウンダリ高圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等」参照	
	蒸気発生器水位の制御	1.2 1.3	「原子炉冷却材圧力バウンダリ高圧時に発電用原子炉を冷却するための手順等」参照 「原子炉冷却材圧力バウンダリを減圧するための手順等」参照	

※1：屋外のアクセスルートは、屋内(中央制御室)又は緊急時対策所から保管場所までの移動ルートを示す。

【女川及び島根】記載内容の相違及び記載方針の相違

・設備及び手順等の相違。  
 ・泊は対応手順のうち他条文の手順にて整理している手順については、他条文の対象手順が分かるように記載した。









泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉

第1表 技術的能力における対応手順と操作・作業場所一覧(4/16)

条文	対応手順	操作・作業場所		
		中央	屋内アクセスルート	屋外アクセスルート*
1.4 原子炉冷却材圧力バウダリ低圧時に発電機原子炉を冷却するための手順等	原子炉運転中の低圧炉心スプレィ系電源復旧後の原子炉圧力容器への注水	○		
	原子炉運転中の低圧代替注水系(常設)（復水移送ポンプ）による残存溶融炉心の冷却（残留熱除去系A系注入配管使用の場合）	○		
	原子炉運転中の低圧代替注水系(常設)（復水移送ポンプ）による残存溶融炉心の冷却（残留熱除去系B系注入配管使用の場合）	○		
	原子炉運転中の代替循環冷却系による残存溶融炉心の冷却（残留熱除去系A系注入配管使用の場合）	○		
	原子炉運転中の低圧代替注水系（可搬型）による残存溶融炉心の冷却（残留熱除去系A系注入配管使用の場合）	○	原子炉・格納容器下部注水接続口（建屋内）使用時 【中央制御室→(①)→(③)→(③階段F④)→(④)→(5)】	緊急時対策所→第1保管エリア、第2保管エリア又は第3保管エリア
	原子炉運転中の低圧代替注水系（可搬型）による残存溶融炉心の冷却（残留熱除去系B系注入配管使用の場合）	○	原子炉・格納容器下部注水接続口（建屋内）使用時 【中央制御室→(①)→(③)→(③階段F④)→(④)→(5)】	緊急時対策所→第1保管エリア、第3保管エリア又は第4保管エリア
原子炉停止中の低圧代替注水系(常設)（復水移送ポンプ）による原子炉圧力容器への注水	○			
原子炉停止中の低圧代替注水系(常設)（復水移送ポンプ）による原子炉圧力容器への注水	○	原子炉・格納容器下部注水接続口（建屋内）使用時 【中央制御室→(①)→(③)→(③階段F④)→(④)→(5)】	緊急時対策所→第1保管エリア、第2保管エリア、第3保管エリア又は第4保管エリア	

※1：屋外アクセスルートは、緊急時対策所から保管場所までの移動ルートを示す。

島根原子力発電所2号炉

第1表 島根原子力発電所2号炉 技術的能力における対応手順と操作・作業場所一覧(4/13)

条文	対応手順	操作・作業場所		
		中央	屋内アクセスルート	屋外アクセスルート*
1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等	格納容器内冷却等のための手順等	○		
	格納容器内冷却等のための手順等	○		
	格納容器内冷却等のための手順等	○		
	格納容器内冷却等のための手順等	○		
1.7 原子炉格納容器の過圧復旧等のための手順等	格納容器の過圧復旧等のための手順等	○		
	格納容器の過圧復旧等のための手順等	○		
	格納容器の過圧復旧等のための手順等	○		
	格納容器の過圧復旧等のための手順等	○		

※1：屋外アクセスルートは、緊急時対策所から保管場所までの移動ルートを示す。

※2：本手段におけるアクセスルートは、地震による大型航空機の衝突その他のテロリスクによる影響を考慮した場合に使用可能なルートとして設定する。なお、経済産業省が地震ではないことから、地震時、地震発生時内訳及び地震発生時内訳の影響はなく、アクセスに支障はない。

泊発電所3号炉

第1表 技術的能力における対応手順と操作・作業場所一覧(4/19)

条文	対応手順	操作・作業場所		
		中央	屋内のアクセスルート	屋外のアクセスルート*
1.4 原子炉冷却材圧力バウダリ低圧時に発電機原子炉を冷却するための手順等	格納容器内冷却等のための手順等	○		
	格納容器内冷却等のための手順等	○		
	格納容器内冷却等のための手順等	○		
	格納容器内冷却等のための手順等	○		
	格納容器内冷却等のための手順等	○		
	格納容器内冷却等のための手順等	○		
	格納容器内冷却等のための手順等	○		
	格納容器内冷却等のための手順等	○		
	格納容器内冷却等のための手順等	○		
	格納容器内冷却等のための手順等	○		
1.5 最終ヒートシンクへ熱を輸送するための手順等	最終ヒートシンクへ熱を輸送するための手順等	○		
	最終ヒートシンクへ熱を輸送するための手順等	○		

※1：屋外アクセスルートは、屋内（中央制御室）又は緊急時対策所から保管場所までの移動ルートを示す。

【女川及び島根】記載内容の相違及び記載方針の相違

・設備及び手順等の相違。  
 ・泊は対応手順のうち他条文の手順にて整理している手順については、他条文の対象手順が分かるように記載した。







泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉

第1表 技術的能力における対応手順と操作・作業場所一覧(7/16)

条文	対応手順	操作・作業場所		
		中央	屋内アクセスルート	屋外アクセスルート※1
1.5 最終ヒートシンクへ熱を輸送するための手順等	原子炉補機代替冷却水系による補機冷却水確保 (B系)	○	【中央制御室→(①)階段L④→(④)-33→(④)-44→(④)-32→(④)-33→(④)-34→(④)-35】	緊急時対策所→第1保管エリア、第2保管エリア、第3保管エリア又は第4保管エリア
	原子炉補機冷却水系 (原子炉補機冷却海水系を含む。) による補機冷却水確保	○		
1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等	原子炉格納容器代替スプレイ市却系 (常設) による原子炉格納容器内へのスプレイ	○		
	原子炉格納容器代替スプレイ冷却系 (可搬型) による原子炉格納容器内へのスプレイ	○	格納容器スプレイ接続口 (建屋内) 使用時 【中央制御室→(①)→(③)→(③)階段F④→(④)-67】	緊急時対策所→第1保管エリア、第2保管エリア、第3保管エリア又は第4保管エリア
	残留熱除去系電源復旧後の原子炉格納容器内へのスプレイ	○		
	残留熱除去系 (サブプレッション) によるサブプレッションの除熱	○		
	残留熱除去系 (格納容器スプレイ冷却モード) によるサブプレッションの除熱	○		
	残留熱除去系 (サブプレッション) によるサブプレッションの除熱	○		
	大型航空機による影響を考慮した場合のスプレイ (屋内接続口の使用) ※2	○	原子炉建屋原子炉操作室 【中央制御室→(①)階段L④→(④)-52→(④)-53】 原子炉建屋付属機操作室 【(④)-52→(④)階段L①→(①)-③→(③)階段F④→(④)-54】	緊急時対策所→第1保管エリア、第2保管エリア、第3保管エリア又は第4保管エリア

※1 屋外アクセスルートは、緊急時対策所から保管場所までの移動ルートを示す。  
 ※2 本手段におけるアクセスルートは大型航空機による影響を考慮した場合に使用するルートとして設定する。なお、一部原子炉建屋付属機 (廃棄物処理エリア) を通行することとなるが、起回事象が地震ではないことから配管破損等の影響はなく、アクセスに支障はない。

島根原子力発電所2号炉

第1表 島根原子力発電所2号炉 技術的能力における対応手順と操作・作業場所一覧(7/13)

条文	対応手順	操作・作業場所		
		中央	屋内アクセスルート	屋外アクセスルート※1
1.10 重大事象等の発生に必要なとなる本手段の手順等	格納容器 (図1) 及び格納容器 (図2) を水頭とした大量送水による送水	○		緊急時対策所→第1保管エリア又は第3保管エリア
	格納容器 (図1) 及び格納容器 (図2) を水頭とした大量送水による送水	○		緊急時対策所→第1保管エリア又は第3保管エリア
	格納容器 (図1) 及び格納容器 (図2) を水頭とした大量送水による送水	○		緊急時対策所→第1保管エリア又は第3保管エリア
	格納容器 (図1) 及び格納容器 (図2) を水頭とした大量送水による送水	○		緊急時対策所→第1保管エリア又は第3保管エリア
1.14 電源の確保に関する手順等	格納容器代替冷却回路による給電 【中央制御室→(①)→(③)→(③)階段F④→(④)-67】	○		緊急時対策所→第1保管エリア又は第3保管エリア
	格納容器代替冷却回路による給電 【中央制御室→(①)→(③)→(③)階段F④→(④)-67】	○		緊急時対策所→第1保管エリア又は第3保管エリア

※1：屋外アクセスルートは、緊急時対策所から保管場所までの移動ルートを示す。

泊発電所3号炉

第1表 技術的能力における対応手順と操作・作業場所一覧(7/19)

条文	対応手順	操作・作業場所		
		中央	屋内アクセスルート	屋外アクセスルート※1
1.7 原子炉格納容器の過圧減圧を防止するための手順等	可搬型大型送水ポンプ車日接管接続口 (可搬型) を使用する場合 系統構成、可搬型温度計測装置 (格納容器再循環ユニット) 入口温度/出口温度 取り付 【中央制御室→(①)階段A④→(④)-7→(④)階段E⑤→(④)-2→(④)階段E⑤→(④)階段A④→(④)-8→(④)階段E⑤→(④)-9→(④)階段B⑤→(④)-7→(④)階段B⑤→(④)-2→(④)階段D⑥→(④)-2→(④)階段D⑥→(④)階段A④→(④)-9→(④)階段A④→(④)階段N⑦→(④)-4→(④)階段N⑦→(④)-7→(④)階段E⑤→(④)-9→(④)-11】	○		緊急時対策所→第1保管エリア又は第3保管エリア
	可搬型大型送水ポンプ車日接管接続口 (可搬型) を使用する場合 系統構成、可搬型温度計測装置 (格納容器再循環ユニット) 入口温度/出口温度 取り付 【中央制御室→(①)階段A④→(④)階段A④→(④)-4→(④)階段E⑤→(④)階段E⑤→(④)階段E⑤→(④)階段E⑤→(④)-10】	○		緊急時対策所→第1保管エリア又は第3保管エリア

※1：屋外アクセスルートは、屋内 (中央制御室) 又は緊急時対策所から保管場所までの移動ルートを示す。

【女川及び島根】記載内容の相違・設備及び手順等の相違。



泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉

第1表 技術的能力における対応手順と操作・作業場所一覧(8/16)

条文	対応手順	操作・作業場所		
		中央	屋内アクセスルート*	屋外アクセスルート*
1.7 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための手順等	原子炉格納容器フィルタベント系による原子炉格納容器内の減圧及び閉塞（現場操作含む。）	○	系統構成 【中央制御室→(①→③)→(③)階段F④→(④→25)又は(④→26)】 サブプレッシャリゼーションの場合 【中央制御室→(①→③)→(③)階段F⑤→(⑤→3)】 ドライウェル備の場合 【中央制御室→(①→③)→(③)階段F④→(④→27)】	
	フィルタ装置への水補給	○	【中央制御室→(①→③)→(③)階段F④→(④→20)】	緊急時対策所→第1保管エリア、第2保管エリア、第3保管エリア又は第4保管エリア
	可搬型空素ガス供給装置による原子炉格納容器への空素供給	○	置開放 【中央制御室→(①→③)→(③)階段F④→(④→20)】 系統構成 【中央制御室→(①→③)→(③)階段F④→(④→21)又は(④→22)】	緊急時対策所→第1保管エリア又は第4保管エリア
	原子炉格納容器フィルタベント系停止後の空素バース	○	置開放 【中央制御室→(①→③)→(③)階段F④→(④→20)】 系統構成 【中央制御室→(①→③)→(③)階段F④→(④→21)又は(④→22)→(④→23)→(④→24)→(④→17)→(④→18)→(④→19)】	緊急時対策所→第1保管エリア又は第4保管エリア
1.8 原子炉格納容器下部の容器圧を冷却するための手順等	原子炉格納容器下部注水系（常設）(復水移送ポンプ)による原子炉格納容器下部への注水	○		
	代替循環冷却ポンプによる原子炉格納容器下部への注水	○		

※1 屋外アクセスルートは、緊急時対策所から保管場所までの移動ルートを示す。

島根原子力発電所2号炉

第1表 島根原子力発電所2号炉 技術的能力における対応手順と操作・作業場所一覧(8/13)

条文	対応手段	操作・作業場所		
		中央	屋内アクセスルート*	屋外アクセスルート*
1.14 電源の確保に関する手順等	電源の確保に関する手順等	○	【緊急時対策所(中央制御室)によるMCC系及びMCC-D系受電 MCC系受電の場合 【中央制御室→(①→③)→(③)階段F④→(④→20)】 【屋外→(①)階段F④→(④→20)】 MCC-D系受電の場合 【中央制御室→(①→③)→(③)階段F④→(④→20)】 【屋外→(①)階段F④→(④→20)】	緊急時対策所→第1保管エリア又は第4保管エリア
	可搬型空素ガス供給装置による給電(高圧送電機故障時のプラグイン機能)に接続し、MCC系又はMCC-D系を受電する場合	○	【緊急時対策所(中央制御室)によるMCC系及びMCC-D系受電 MCC系受電の場合 【中央制御室→(①→③)→(③)階段F④→(④→20)】 【屋外→(①)階段F④→(④→20)】 MCC-D系受電の場合 【中央制御室→(①→③)→(③)階段F④→(④→20)】 【屋外→(①)階段F④→(④→20)】	緊急時対策所→第1保管エリア又は第4保管エリア
	可搬型空素ガス供給装置による給電(高圧送電機故障時のプラグイン機能)に接続し、MCC系又はMCC-D系を受電する場合	○	【緊急時対策所(中央制御室)によるMCC系及びMCC-D系受電 MCC系受電の場合 【中央制御室→(①→③)→(③)階段F④→(④→20)】 【屋外→(①)階段F④→(④→20)】 MCC-D系受電の場合 【中央制御室→(①→③)→(③)階段F④→(④→20)】 【屋外→(①)階段F④→(④→20)】	緊急時対策所→第1保管エリア又は第4保管エリア
	原子炉格納容器冷却用電源供給及び閉塞(可搬型空素ガス供給装置による給電)	○	B-110V系電源による給電の場合 【中央制御室→(①→③)→(③)階段F④→(④→20)】 B-110V系電源(SG)による給電の場合 【中央制御室→(①→③)→(③)階段F④→(④→20)】 SG用110V系電源による給電の場合 【中央制御室→(①→③)→(③)階段F④→(④→20)】	
	原子炉格納容器冷却用電源供給による給電	○	B-110V系電源(SG)からB-110V系電源(SG)への受電の場合 【中央制御室→(①→③)→(③)階段F④→(④→20)】	
	可搬型空素ガス供給装置による給電	○	SG用110V系電源による給電 【中央制御室→(①→③)→(③)階段F④→(④→20)】	
	可搬型空素ガス供給装置による給電	○	SG用110V系電源による給電 【中央制御室→(①→③)→(③)階段F④→(④→20)】	
	可搬型空素ガス供給装置による給電	○	B-110V系電源による給電 【中央制御室→(①→③)→(③)階段F④→(④→20)】	
	可搬型空素ガス供給装置による給電	○	B-110V系電源による給電 【中央制御室→(①→③)→(③)階段F④→(④→20)】	
	可搬型空素ガス供給装置による給電	○	B-110V系電源による給電 【中央制御室→(①→③)→(③)階段F④→(④→20)】	

※1 屋外アクセスルートは、緊急時対策所から保管場所までの移動ルートを示す。

※2 本手段におけるアクセスルートは設置による大気航空機衝突の危険な状況(テロリズム)による影響を考慮した場合に使用するルートとして設定する。なお、経路が地盤ではないことから、転倒、地震発生時内部火災及び地震発生時内部設備の影響はなく、アクセスに支障はない。

泊発電所3号炉

第1表 技術的能力における対応手順と操作・作業場所一覧(8/19)

条文	対応手順	操作・作業場所		
		中央	屋内アクセスルート*	屋外アクセスルート*
1.8 原子炉格納容器下部の容器圧を冷却するための手順等	格納容器スプレイポンプによる原子炉格納容器下部への注水	○		
	代替格納容器スプレイポンプによる原子炉格納容器下部への注水(全交直流電源又は原子炉格納容器冷却機能が健全である場合)	○	系統構成、水張り、代替格納容器スプレイポンプ起動 【中央制御室→(①)階段F④→(④→6)→(④)階段F④→(④→20)】 【中央制御室→(①)階段F④→(④→6)→(④)階段F④→(④→20)】 系統構成 【中央制御室→(①)階段F④→(④→10)】	
	代替格納容器スプレイポンプによる原子炉格納容器下部への注水(全交直流電源又は原子炉格納容器冷却機能が健全である場合)	○	系統構成、水張り、代替格納容器スプレイポンプ起動 【中央制御室→(①)階段F④→(④→6)→(④)階段F④→(④→20)】 【中央制御室→(①)階段F④→(④→6)→(④)階段F④→(④→20)】 系統構成 【中央制御室→(①)階段F④→(④→10)】	
	代替格納容器スプレイポンプによる原子炉格納容器下部への注水	○	【中央制御室→(①)階段F④→(④→11)】	
	高圧注入ポンプ又は余熱除去ポンプによる原子炉格納容器への注水	○		
	充てんポンプによる原子炉格納容器への注水	○		
1.9 水素発生による原子炉格納容器内の水素濃度低減	原子炉格納容器内水素濃度低減による原子炉格納容器内の水素濃度低減	○		
	格納容器水素イグナイタによる原子炉格納容器内の水素濃度低減	○		

※1 屋外アクセスルートは、屋内(中央制御室)又は緊急時対策所から保管場所までの移動ルートを示す。

【女川及び島根】記載内容の相違及び記載方針の相違

・設備及び手順等の相違。  
 ・泊は対応手順のうち他条文の手順にて整理している手順については、他条文の対象手順が分かるように記載した。













泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉

第1表 技術的能力における対応手順と操作・作業場所一覧(13/16)

条文	対応手順	操作・作業場所			
		中央	屋内アクセスルート	屋外アクセスルート*	
1.14 電源の確保に関する手順等	可搬型代替直流電源設備による給電	○	・125V 直流主母線盤 2B-1 及び125V 直流主母線盤 2A-1 へ給電する場合 125V 直流主母線盤の給電切替操作 【中央制御室→(①)階段L④→(④)47】→(④)階段L①→中央制御室→(①)階段L④→(④)46】 不要直流負荷切離L 【中央制御室→(①)階段L④→(④)46】→(④)47】 ・120V 直流主母線盤 2A、125V 直流主母線盤 2A-1 及び125V 直流主母線盤 2B-1 へ給電する場合 125V 直流主母線盤の給電切替操作 【中央制御室→(①)階段L④→(④)46】→(④)階段L①→中央制御室→(①)階段L④→(④)47】 不要直流負荷切離L 【中央制御室→(①)階段L④→(④)46】→(④)47】 ・電源車接続口（建屋内）使用時 【中央制御室→(①)→(③)階段F④→(④)45】		緊急時対策所→第2保管エリア、第3保管エリア又は第4保管エリア
		○			
		○			
		○	【中央制御室→(①)→(③)階段F④→(④)45】	緊急時対策所→第3保管エリア、第3保管エリア又は第4保管エリア	
		○		緊急時対策所→第2保管エリア、第3保管エリア又は第4保管エリア	
○		緊急時対策所→第2保管エリア、第3保管エリア又は第4保管エリア			

※1 屋外アクセスルートは、緊急時対策所から保管場所までの移動ルートを示す。

島根原子力発電所2号炉

第1表 島根原子力発電所2号炉 技術的能力における対応手順と操作・作業場所一覧(13/13)

条文	対応手順	操作・作業場所		
		中央	屋内アクセスルート	屋外アクセスルート*
1.18 緊急時対策所の居住性態に関する手順	代替電源設備からの給電手順（緊急時対策所用設備の切替手順）			緊急時対策所→第1保管エリア
1.19 過保護態に関する手順	発電所内の過保護態	○		

※1：屋外のアksesルートは、緊急時対策所から保管場所までの移動ルートを示す。

泊発電所3号炉

第1表 技術的能力における対応手順と操作・作業場所一覧(13/19)

条文	対応手順	操作・作業場所		
		中央	屋内のアクセスルート	屋外のアksesルート*
1.13 重大事故等時に必要となる水の供給手順等	海水を水源とした可搬型大型送水ポンプ車10m 接続口（東側）使用時 系統構成 【中央制御室→(①)→(④)→(④)階段A④→(④)階段B②→(④)階段F②→(②)→(②)3】 保管場所への移動、可搬型ホース敷設、接続 【中央制御室→(④)階段A④→(④)階段B②→屋外A→屋外のアksesルート→屋外C→(④)→(④)8】 可搬型大型送水ポンプ車33m 接続口（西側）使用時 系統構成 【中央制御室→(④)階段A④→(④)階段F②→(②)→(②)3】 保管場所への移動、可搬型ホース敷設、接続 【中央制御室→(④)階段A④→(④)階段B②→屋外A→屋外のアksesルート→屋外D→(④)→(④)3】	○		屋外A→5m 倉庫→車庫エリア又は2号炉東側31m エリア→屋外C又は屋外D
	海水を水源とした可搬型大型送水ポンプ車による補助給水ビットへの補給	○		屋外A→5m 倉庫→車庫エリア又は2号炉東側31m エリア→屋外C又は屋外D
	燃料取替用ホースから補助給水ビットへの切替（原子炉容器への注水時の場合）	○	【中央制御室→(④)→(④)階段A④→(④)→(④)階段F②→(②)→(②)3】 保管場所への移動、可搬型ホース敷設、接続 【中央制御室→(④)階段B②→屋外A→屋外のアksesルート→屋外D→(④)→(④)3】	
燃料取替用ホースから補助給水ビットへの切替（原子炉容器への注水時の場合）	○	【中央制御室→(④)→(④)階段A④→(④)→(④)階段M②→(②)→(②)10】→(②)階段M②→(②)→(②)12】		
燃料取替用ホースから補助給水ビットへの切替（原子炉容器への注水時の場合）	○	【中央制御室→(④)→(④)階段A④→(④)→(④)→(④)12】		

※1：屋外のアksesルートは、屋内（中央制御室）又は緊急時対策所から保管場所までの移動ルートを示す。

相違理由

【女川及び島根】記載内容及び記載方針・設備及び手順等の相違。

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉

島根原子力発電所2号炉

泊発電所3号炉

相違理由

第1表 技術的能力における対応手順と操作・作業場所一覧(14/16)

条文	対応手順	操作・作業場所		
		中央	屋内アクセスルート	屋外アクセスルート※1
1.14 電源の確保に関する手順等	タンクローリから各機器への給油	○		
	非常用交流電源設備による給電	○		
	非常用直流電源設備による給電	○		
1.15 事故時の計装に関する手順等	他チャンネルによる計装、代替パラメータによる推定（計器の故障）	○		
	代替パラメータによる推定（計器の計測範囲を超えた場合）	○		
	可搬型計測器による計装又は監視	○	【[④-52]→(④)階段L①】→中	
	パラメータの記録	○		
1.16 原子制御室の居住性等に関する手順等	中央制御室換気空調系の運転手順	○		
	中央制御室待避所の運用手順	○	【中央制御室→(①)階段L④】→[④-51]→(④)階段L⑤→[⑤-7】	
	中央制御室の原明を確保する手順	○		
	中央制御室の酸素及び二酸化炭素の濃度測定と濃度管理手順	○		
	中央制御室待避所の原明を確保する手順	○		
	中央制御室待避所の酸素及び二酸化炭素の濃度測定と濃度管理手順	○		
	データ表示装置（待避所）によるプラントパラメータ等の監視手順	○		
非常用ガス処理系による運転員等の被ばく防止手順（非常用ガス処理系起動手順）	○			

※1 屋外アクセスルートは、緊急時対策所から保管場所までの移動ルートを示す。

第1表 技術的能力における対応手順と操作・作業場所一覧(14/19)

条文	対応手順	操作・作業場所		
		中央	屋内のアクセスルート	屋外のアクセスルート※1
1.14 電源の確保に関する手順等	代替非常用発電機によるメタクラA系及びメタクラB系受電	○	メタクラB系受電準備、メタクラA系受電準備 【中央制御室→(⑥-16)→(⑥)階段C③】→[⑥-17]→[⑥-20】 メタクラB系受電準備、メタクラA系受電準備 【中央制御室→(⑥)階段C③】→[⑥-17】	緊急時対策所待機所→代替非常用発電機
	可搬型代替電源車によるメタクラA系及びメタクラB系受電	○	メタクラB系受電準備、メタクラA系受電準備 【中央制御室→(⑥-16)→(⑥)階段A③】→[⑥-19】 メタクラB系受電準備、メタクラA系受電準備 【中央制御室→(⑥)階段A③】→[⑥-20】	屋外A→1号伊西側31aエリア又は2号伊東側31aエリア(a)
	所内常設蓄電式直流電源設備による給電	○	不要な直流負荷切離し操作 【S80発生1時間以内】 【中央制御室→(⑥-18】	
	所内常設蓄電式直流電源設備による給電	○	不要な直流負荷切離し操作 【S80発生8.5時間以内】 【中央制御室→(⑥)階段A③】→[⑥-24】	
	所内常設蓄電式直流電源設備による給電（可搬型代替交流電源設備又は可搬型代替交流電源設備による交流電源復旧の場合）	○	蓄電池室排気ファン起動、充電器搬受電準備、直流負荷復旧操作 【中央制御室→(⑥)階段A③】→[⑥-22】→[⑥-23】→[⑥-32】→[⑥)排気A⑥】→[⑥-24】 【中央制御室→(⑥)階段A③】→[⑥-22】	
	可搬型代替直流電源設備による給電	○	直流送電受電準備 【中央制御室→(⑥)階段A③】→[⑥-26】 直流送電給電準備 【中央制御室→(⑥)階段A③】→[⑥-26】→[⑥-27】 保管場所への移動 【中央制御室→(⑥)階段B②】→屋外A】 給電、可搬型直流変換器の起動 ・可搬型直流電源接続（東側）に接続する 【屋外E→[⑥-11]→屋外E→屋外のアクセスルート→屋外E→(⑥)階段G③】→(⑥)階段A③】→[⑥-26】 ・可搬型直流電源接続（西側）に接続する 【屋外D→[⑥-11]→屋外D→屋外のアクセスルート→屋外D→(⑥)階段B②】→(⑥)階段A③】→[⑥-26】	屋外A→1号伊西側31aエリア又は2号伊東側31aエリア→屋外A又は屋外E

※1：屋外のアクセスルートは、屋内（中央制御室）又は緊急時対策所から保管場所までの移動ルートを示す。

【女川及び島根】記載内容の相違・設備及び手順等の相違。



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉

島根原子力発電所2号炉

泊発電所3号炉

相違理由

第1表 技術的能力における対応手順と操作・作業場所一覧(15/16)

条文	対応手順	操作・作業場所		
		中央	屋内アクセスルート <sup>※1</sup>	屋外アクセスルート <sup>※1</sup>
1.16 原子制御室の居住性等に関する手順等	非常用ガス処理系による運転員等の被ばく防止手順（非常用ガス処理系停止手順）	○		
	非常用ガス処理系による運転員等の被ばく防止手順（中央制御室での原子炉建屋ブローアウトパネル部の閉止手順）	○		
	非常用ガス処理系による運転員等の被ばく防止手順（現場での原子炉建屋ブローアウトパネル部の閉止手順）		【中央制御室→(①→⑤)→(③)階段G(④)→(④)階段B(②)→(②)→(①)→(①-2)】	
1.17 監視測定等に関する手順等	可搬型モニタリングポストによる放射線量の測定及び代替測定			緊急時対策所→第1保管エリア、第2保管エリア又は第4保管エリア
	可搬型放射線計測装置による空気中の放射性物質の濃度の代替測定			
	可搬型代替電源車による空気中の放射性物質の濃度の測定			
	可搬型放射線計測装置による土壌中の放射性物質の濃度の測定			
	海上モニタリング			緊急時対策所→第1保管エリア又は第4保管エリア
	代替気象観測設備による気象観測項目の代替測定			緊急時対策所→第2保管エリア又は第4保管エリア

※1 屋外アクセスルートは、緊急時対策所から保管場所までの移動ルートを示す。

第1表 技術的能力における対応手順と操作・作業場所一覧(15/19)

条文	対応手順	操作・作業場所		
		中央	屋内のアクセスルート	屋外のアクセスルート <sup>※1</sup>
1.14 電源の確保に関する手順等	常設直流電源喪失時のA直流母線及びB直流母線受電		1.14 【電源の確保に関する手順等】参照	
	代替非常用発電機による代替非常用発電機への切替・給電（2次系設備）、代替所内電気設備対象負荷の切替・給電（1次系設備）		系統構成 【中央制御室→(③)階段A(②)→(②-26)→(③)階段A(②)→(②-14)】 代替非常用発電機起動、代替所内電気設備対象負荷の切替・給電（2次系設備）、代替所内電気設備対象負荷の切替・給電（1次系設備） 【中央制御室→(③)階段B(②)→(②-25)→(③)階段A(②)→(②-14)→(③)階段B(②)→(②-16)】	屋外A→代替非常用発電機→屋外A
	可搬型代替電源車による代替非常用発電機への切替・給電（1次系設備）、可搬型代替電源車による代替所内電気設備対象負荷の切替・給電（2次系設備）、代替所内電気設備対象負荷の切替・給電（1次系設備）		系統構成、代替所内電気設備対象負荷の切替・給電（1次系設備） 【中央制御室→(③)階段A(②)→(②-16)→(③)階段B(②)→(②-10)→(③)階段B(②)→(②-14)→(③)階段B(②)→(②-16)】	
ディーゼル発電機燃料油貯留槽又は燃料タンク(②)から可搬型タンクローリーへの補給（ディーゼル発電機燃料油貯留槽から補給する場合）	可搬型代替電源車による代替非常用発電機への切替・給電（1次系設備）、可搬型代替電源車による代替所内電気設備対象負荷の切替・給電（2次系設備）、代替所内電気設備対象負荷の切替・給電（1次系設備）		系統構成、保管場所への移動、代替所内電気設備対象負荷の切替・給電（1次系設備） ・可搬型代替電源車接続（東側）に接続する場合 【中央制御室→(③)階段A(②)→(②-16)→(③)階段B(②)→(②-10)→(③)階段B(②)→(②-14)→(③)階段B(②)→(②-16)】 ・可搬型代替電源車接続（西側）に接続する場合 【中央制御室→(③)階段A(②)→(②-16)→(③)階段B(②)→(②-10)→(③)階段B(②)→(②-14)→(③)階段B(②)→(②-16)】	屋外A→1号の西側31mエリア又は2号伊東側31mエリア(a)→屋外A又は屋外E
	ディーゼル発電機燃料油貯留槽又は燃料タンク(②)から可搬型タンクローリーへの補給（ディーゼル発電機燃料油貯留槽から補給する場合）			緊急時対策所→第1号伊東側31mエリア又は2号伊東側31mエリア(b)

※1：屋外のアクセスルートは、屋内（中央制御室）又は緊急時対策所から保管場所までの移動ルートを示す。

【女川及び島根】記載内容の相違  
 ・設備及び手順等の相違。  
 ・泊は対応手順のうち他条文の手順にて整理している手順については、他条文の対応手順が分かるように記載した。





泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																			
		<p>第1表 技術的能力における対応手順と操作・作業場所一覧(17/19)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">条文</th> <th rowspan="2">対応手順</th> <th colspan="3">操作・作業場所</th> </tr> <tr> <th>中央</th> <th>屋内のアクセスルート</th> <th>屋外のアクセスルート</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">1.16 原子炉制御室の居住性等に関する手順等</td> <td>中央制御室空調装置の運転手順（交流動力電源が確保されている場合）</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>中央制御室空調装置の運転手順（所設代替交流電源設備により中央制御室空調装置を復旧する場合）</td> <td>○</td> <td>【中央制御室→⑥階段A④】→④-14】</td> <td></td> </tr> <tr> <td>中央制御室の照明を確保する手順</td> <td>○</td> <td>【中央制御室→⑥-17】→中央制御室】</td> <td></td> </tr> <tr> <td>中央制御室内の酸害及び二酸化炭素の濃度測定と濃度管理手順</td> <td>○</td> <td>【中央制御室→⑥-21】→中央制御室】</td> <td></td> </tr> <tr> <td>チェンジングエリアの設置及び運用手順</td> <td></td> <td>【屋外A→③階段B⑥】→⑥-19】→⑥-20】</td> <td></td> </tr> <tr> <td>アニュラス空気浄化設備の運転手順（交流動力電源及び常設交流電源が健全である場合）</td> <td>1.10</td> <td></td> <td>「水素爆発による原子炉建屋等の損傷を防止するための手順等」参照</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">アニュラス空気浄化設備の運転手順（全交流動力電源又は常設交流電源が喪失した場合）</td> <td></td> <td>○</td> <td>系統構造、アニュラス全量排気等稼働用可搬型酸素ガスボンベ供給操作 【中央制御室→⑥階段A④】→④階段B②】→②-4】 試験用酸素供給用隔離ダンパ閉鎖位置 【中央制御室→⑥階段A④】→④階段B②】→②-5】</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="6">1.17 監視測定等に関する手順等</td> <td>可搬型モニタリングポストによる放射線量の測定及び代替測定</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>放射能測定装置による空気中の放射性物質の濃度の代替測定</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>放射能測定装置による空気中の放射性物質の濃度の測定</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>放射能測定装置による水中の放射性物質の濃度の測定</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>放射能測定装置による土壌中の放射性物質の濃度の測定</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>海上モニタリング測定</td> <td></td> <td></td> <td>緊急時対策所待機所→1号炉西側3mエリア又は2号炉東側3mエリア①)</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1：屋外のアクセスルートは、屋内（中央制御室）又は緊急時対策所から保管場所までの移動ルートを示す。</p>	条文	対応手順	操作・作業場所			中央	屋内のアクセスルート	屋外のアクセスルート	1.16 原子炉制御室の居住性等に関する手順等	中央制御室空調装置の運転手順（交流動力電源が確保されている場合）	○			中央制御室空調装置の運転手順（所設代替交流電源設備により中央制御室空調装置を復旧する場合）	○	【中央制御室→⑥階段A④】→④-14】		中央制御室の照明を確保する手順	○	【中央制御室→⑥-17】→中央制御室】		中央制御室内の酸害及び二酸化炭素の濃度測定と濃度管理手順	○	【中央制御室→⑥-21】→中央制御室】		チェンジングエリアの設置及び運用手順		【屋外A→③階段B⑥】→⑥-19】→⑥-20】		アニュラス空気浄化設備の運転手順（交流動力電源及び常設交流電源が健全である場合）	1.10		「水素爆発による原子炉建屋等の損傷を防止するための手順等」参照	アニュラス空気浄化設備の運転手順（全交流動力電源又は常設交流電源が喪失した場合）		○	系統構造、アニュラス全量排気等稼働用可搬型酸素ガスボンベ供給操作 【中央制御室→⑥階段A④】→④階段B②】→②-4】 試験用酸素供給用隔離ダンパ閉鎖位置 【中央制御室→⑥階段A④】→④階段B②】→②-5】						1.17 監視測定等に関する手順等	可搬型モニタリングポストによる放射線量の測定及び代替測定				放射能測定装置による空気中の放射性物質の濃度の代替測定				放射能測定装置による空気中の放射性物質の濃度の測定				放射能測定装置による水中の放射性物質の濃度の測定				放射能測定装置による土壌中の放射性物質の濃度の測定				海上モニタリング測定			緊急時対策所待機所→1号炉西側3mエリア又は2号炉東側3mエリア①)	<p>【女川及び島根】記載内容の相違及び記載方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・設備及び手順等の相違。</li> <li>・泊は対応手順のうち他条文の手順にて整理している手順については、他条文の対象手順が分かるように記載した。</li> </ul>
条文	対応手順	操作・作業場所																																																																				
		中央	屋内のアクセスルート	屋外のアクセスルート																																																																		
1.16 原子炉制御室の居住性等に関する手順等	中央制御室空調装置の運転手順（交流動力電源が確保されている場合）	○																																																																				
	中央制御室空調装置の運転手順（所設代替交流電源設備により中央制御室空調装置を復旧する場合）	○	【中央制御室→⑥階段A④】→④-14】																																																																			
	中央制御室の照明を確保する手順	○	【中央制御室→⑥-17】→中央制御室】																																																																			
	中央制御室内の酸害及び二酸化炭素の濃度測定と濃度管理手順	○	【中央制御室→⑥-21】→中央制御室】																																																																			
	チェンジングエリアの設置及び運用手順		【屋外A→③階段B⑥】→⑥-19】→⑥-20】																																																																			
	アニュラス空気浄化設備の運転手順（交流動力電源及び常設交流電源が健全である場合）	1.10		「水素爆発による原子炉建屋等の損傷を防止するための手順等」参照																																																																		
アニュラス空気浄化設備の運転手順（全交流動力電源又は常設交流電源が喪失した場合）		○	系統構造、アニュラス全量排気等稼働用可搬型酸素ガスボンベ供給操作 【中央制御室→⑥階段A④】→④階段B②】→②-4】 試験用酸素供給用隔離ダンパ閉鎖位置 【中央制御室→⑥階段A④】→④階段B②】→②-5】																																																																			
1.17 監視測定等に関する手順等	可搬型モニタリングポストによる放射線量の測定及び代替測定																																																																					
	放射能測定装置による空気中の放射性物質の濃度の代替測定																																																																					
	放射能測定装置による空気中の放射性物質の濃度の測定																																																																					
	放射能測定装置による水中の放射性物質の濃度の測定																																																																					
	放射能測定装置による土壌中の放射性物質の濃度の測定																																																																					
	海上モニタリング測定			緊急時対策所待機所→1号炉西側3mエリア又は2号炉東側3mエリア①)																																																																		

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																										
		<p>第1表 技術的能力における対応手順と操作・作業場所一覧(18/19)</p> <table border="1" data-bbox="1344 223 1957 1037"> <thead> <tr> <th rowspan="2">条文</th> <th rowspan="2">対応手順</th> <th colspan="3">操作・作業場所</th> </tr> <tr> <th>中央</th> <th>屋内のアクセスルート</th> <th>屋外のアクセスルート<sup>※1</sup></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">1.17 監視測定等に関する手順等</td> <td>モニタリングポスト及びモニタリングステーションのバックグラウンド低減対策</td> <td>/</td> <td>/</td> <td>/</td> </tr> <tr> <td>可搬型モニタリングポストのバックグラウンド低減対策</td> <td>/</td> <td>/</td> <td>/</td> </tr> <tr> <td>放射性物質の濃度の測定時のバックグラウンド低減対策</td> <td>/</td> <td>/</td> <td>/</td> </tr> <tr> <td>モニタリングポスト及びモニタリングステーションの電源を代替交流電源設備から給電する手順等</td> <td>/</td> <td>/</td> <td>/</td> </tr> <tr> <td>可搬型気象観測設備による気象観測項目の代替測定</td> <td>/</td> <td>/</td> <td>/</td> </tr> <tr> <td>可搬型気象観測設備による緊急時対策時付定の気象観測項目の測定</td> <td>/</td> <td>/</td> <td>/</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">1.18 緊急時対策時の居住性等に関する手順等</td> <td>可搬型空気浄化装置運転手順</td> <td>/</td> <td>/</td> <td>緊急時対策所指所 →指所用空調上屋 緊急時対策所待機所 →待機所用空調上屋</td> </tr> <tr> <td>空気供給装置（空気ポンプ）による空気供給準備手順</td> <td>/</td> <td>/</td> <td>緊急時対策所指所 →指所用空調上屋 緊急時対策所待機所 →待機所用空調上屋</td> </tr> <tr> <td>緊急時対策内の酸素濃度及び二酸化炭素濃度の測定手順</td> <td>/</td> <td>/</td> <td>/</td> </tr> <tr> <td>緊急時対策用可搬型エアモニタの設置手順</td> <td>/</td> <td>/</td> <td>/</td> </tr> <tr> <td>可搬型モニタリングポスト及び可搬型気象観測設備による放射線量の測定手順</td> <td>L.17 「監視測定等に関する手順等」参照</td> <td>/</td> <td>/</td> </tr> <tr> <td>空気供給装置（空気ポンプ）への切替準備手順</td> <td>/</td> <td>/</td> <td>/</td> </tr> <tr> <td>空気供給装置（空気ポンプ）への切替手順</td> <td>/</td> <td>/</td> <td>/</td> </tr> <tr> <td>可搬型空気浄化装置への切替手順</td> <td>/</td> <td>/</td> <td>/</td> </tr> <tr> <td>安全パラメータ表示システム（SIPS）によるプラントパラメータ等の監視手順</td> <td>/</td> <td>/</td> <td>/</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※1：屋外のアクセスルートは、屋内（中央制御室）又は緊急時対策所から配管場所までの移動ルートを示す。</p>	条文	対応手順	操作・作業場所			中央	屋内のアクセスルート	屋外のアクセスルート <sup>※1</sup>	1.17 監視測定等に関する手順等	モニタリングポスト及びモニタリングステーションのバックグラウンド低減対策	/	/	/	可搬型モニタリングポストのバックグラウンド低減対策	/	/	/	放射性物質の濃度の測定時のバックグラウンド低減対策	/	/	/	モニタリングポスト及びモニタリングステーションの電源を代替交流電源設備から給電する手順等	/	/	/	可搬型気象観測設備による気象観測項目の代替測定	/	/	/	可搬型気象観測設備による緊急時対策時付定の気象観測項目の測定	/	/	/	1.18 緊急時対策時の居住性等に関する手順等	可搬型空気浄化装置運転手順	/	/	緊急時対策所指所 →指所用空調上屋 緊急時対策所待機所 →待機所用空調上屋	空気供給装置（空気ポンプ）による空気供給準備手順	/	/	緊急時対策所指所 →指所用空調上屋 緊急時対策所待機所 →待機所用空調上屋	緊急時対策内の酸素濃度及び二酸化炭素濃度の測定手順	/	/	/	緊急時対策用可搬型エアモニタの設置手順	/	/	/	可搬型モニタリングポスト及び可搬型気象観測設備による放射線量の測定手順	L.17 「監視測定等に関する手順等」参照	/	/	空気供給装置（空気ポンプ）への切替準備手順	/	/	/	空気供給装置（空気ポンプ）への切替手順	/	/	/	可搬型空気浄化装置への切替手順	/	/	/	安全パラメータ表示システム（SIPS）によるプラントパラメータ等の監視手順	/	/	/					<p>【女川及び島根】記載内容の相違及び記載方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・設備及び手順等の相違。</li> <li>・泊は対応手順のうち他条文の手順にて整理している手順については、他条文の対象手順が分かるように記載した。</li> </ul>
条文	対応手順	操作・作業場所																																																																											
		中央	屋内のアクセスルート	屋外のアクセスルート <sup>※1</sup>																																																																									
1.17 監視測定等に関する手順等	モニタリングポスト及びモニタリングステーションのバックグラウンド低減対策	/	/	/																																																																									
	可搬型モニタリングポストのバックグラウンド低減対策	/	/	/																																																																									
	放射性物質の濃度の測定時のバックグラウンド低減対策	/	/	/																																																																									
	モニタリングポスト及びモニタリングステーションの電源を代替交流電源設備から給電する手順等	/	/	/																																																																									
	可搬型気象観測設備による気象観測項目の代替測定	/	/	/																																																																									
	可搬型気象観測設備による緊急時対策時付定の気象観測項目の測定	/	/	/																																																																									
1.18 緊急時対策時の居住性等に関する手順等	可搬型空気浄化装置運転手順	/	/	緊急時対策所指所 →指所用空調上屋 緊急時対策所待機所 →待機所用空調上屋																																																																									
	空気供給装置（空気ポンプ）による空気供給準備手順	/	/	緊急時対策所指所 →指所用空調上屋 緊急時対策所待機所 →待機所用空調上屋																																																																									
	緊急時対策内の酸素濃度及び二酸化炭素濃度の測定手順	/	/	/																																																																									
	緊急時対策用可搬型エアモニタの設置手順	/	/	/																																																																									
	可搬型モニタリングポスト及び可搬型気象観測設備による放射線量の測定手順	L.17 「監視測定等に関する手順等」参照	/	/																																																																									
	空気供給装置（空気ポンプ）への切替準備手順	/	/	/																																																																									
	空気供給装置（空気ポンプ）への切替手順	/	/	/																																																																									
	可搬型空気浄化装置への切替手順	/	/	/																																																																									
	安全パラメータ表示システム（SIPS）によるプラントパラメータ等の監視手順	/	/	/																																																																									

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																						
		<p>第1表 技術的能力における対応手順と操作・作業場所一覧(19/19)</p> <table border="1" data-bbox="1344 236 1957 916"> <thead> <tr> <th rowspan="2">条文</th> <th rowspan="2">対応手順</th> <th colspan="3">操作・作業場所</th> </tr> <tr> <th>中央</th> <th>屋内のアクセスルート</th> <th>屋外のアクセスルート※1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="8">1.18 緊急時対策所の居住性等に関する手順等</td> <td>通信連絡に関する手順等</td> <td>1.19 「通信連絡に関する手順等」参照</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>チェンジングエリアの設置及び運用手順</td> <td></td> <td></td> <td>緊急時対策所指揮所→緊急時対策所待機所</td> </tr> <tr> <td>可搬型空気浄化装置の切替手順</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>緊急時対策所用発電機準備手順</td> <td></td> <td></td> <td>緊急時対策所指揮所及び緊急時対策所待機所→緊急時対策所エリア</td> </tr> <tr> <td>緊急時対策所用発電機起動手順</td> <td></td> <td></td> <td>緊急時対策所指揮所及び緊急時対策所待機所→緊急時対策所エリア</td> </tr> <tr> <td>緊急時対策所用発電機の切替手順</td> <td></td> <td></td> <td>緊急時対策所指揮所及び緊急時対策所待機所→緊急時対策所エリア</td> </tr> <tr> <td>緊急時対策所用発電機の特機運転手順</td> <td></td> <td></td> <td>緊急時対策所指揮所及び緊急時対策所待機所→緊急時対策所エリア</td> </tr> <tr> <td>緊急時対策所用発電機の最優先切替手順</td> <td></td> <td></td> <td>緊急時対策所指揮所及び緊急時対策所待機所→緊急時対策所エリア</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">1.19 通信連絡に関する手順等</td> <td>発電所内の通信連絡を必要とする場所と通信連絡を行うための手順等</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>発電所外（社内外）の通信連絡を必要とする場所と通信連絡を行うための手順等</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>代替電源設備から給電する手順等</td> <td>1.14 「電源の確保に関する手順等」参照 1.18 「緊急時対策所の居住性等に関する手順等」参照</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※1：屋外のアクセスルートは、屋内（中央制御室）又は緊急時対策所から保管場所までの移動ルートを示す。</p>	条文	対応手順	操作・作業場所			中央	屋内のアクセスルート	屋外のアクセスルート※1	1.18 緊急時対策所の居住性等に関する手順等	通信連絡に関する手順等	1.19 「通信連絡に関する手順等」参照			チェンジングエリアの設置及び運用手順			緊急時対策所指揮所→緊急時対策所待機所	可搬型空気浄化装置の切替手順				緊急時対策所用発電機準備手順			緊急時対策所指揮所及び緊急時対策所待機所→緊急時対策所エリア	緊急時対策所用発電機起動手順			緊急時対策所指揮所及び緊急時対策所待機所→緊急時対策所エリア	緊急時対策所用発電機の切替手順			緊急時対策所指揮所及び緊急時対策所待機所→緊急時対策所エリア	緊急時対策所用発電機の特機運転手順			緊急時対策所指揮所及び緊急時対策所待機所→緊急時対策所エリア	緊急時対策所用発電機の最優先切替手順			緊急時対策所指揮所及び緊急時対策所待機所→緊急時対策所エリア	1.19 通信連絡に関する手順等	発電所内の通信連絡を必要とする場所と通信連絡を行うための手順等				発電所外（社内外）の通信連絡を必要とする場所と通信連絡を行うための手順等				代替電源設備から給電する手順等	1.14 「電源の確保に関する手順等」参照 1.18 「緊急時対策所の居住性等に関する手順等」参照			<p>【女川及び島根】記載内容の相違          ・設備及び手順等の相違。          ・泊は対応手順のうち他条文の手順にて整理している手順については、他条文の対象手順が分かるように記載した。</p>
条文	対応手順	操作・作業場所																																																							
		中央	屋内のアクセスルート	屋外のアクセスルート※1																																																					
1.18 緊急時対策所の居住性等に関する手順等	通信連絡に関する手順等	1.19 「通信連絡に関する手順等」参照																																																							
	チェンジングエリアの設置及び運用手順			緊急時対策所指揮所→緊急時対策所待機所																																																					
	可搬型空気浄化装置の切替手順																																																								
	緊急時対策所用発電機準備手順			緊急時対策所指揮所及び緊急時対策所待機所→緊急時対策所エリア																																																					
	緊急時対策所用発電機起動手順			緊急時対策所指揮所及び緊急時対策所待機所→緊急時対策所エリア																																																					
	緊急時対策所用発電機の切替手順			緊急時対策所指揮所及び緊急時対策所待機所→緊急時対策所エリア																																																					
	緊急時対策所用発電機の特機運転手順			緊急時対策所指揮所及び緊急時対策所待機所→緊急時対策所エリア																																																					
	緊急時対策所用発電機の最優先切替手順			緊急時対策所指揮所及び緊急時対策所待機所→緊急時対策所エリア																																																					
1.19 通信連絡に関する手順等	発電所内の通信連絡を必要とする場所と通信連絡を行うための手順等																																																								
	発電所外（社内外）の通信連絡を必要とする場所と通信連絡を行うための手順等																																																								
	代替電源設備から給電する手順等	1.14 「電源の確保に関する手順等」参照 1.18 「緊急時対策所の居住性等に関する手順等」参照																																																							



泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<div data-bbox="85 213 577 1102" style="border: 1px solid black; height: 557px; width: 220px;"></div> <div data-bbox="593 432 622 812" style="text-align: center;">                     第1図 屋内アクセスルート ルート図①                 </div> <div data-bbox="645 213 678 624" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">                     枠囲みの内容は防壁上の観点から公開できません。                 </div>	<div data-bbox="714 213 1270 1054" style="border: 1px solid black; height: 527px; width: 248px;"></div> <div data-bbox="1285 233 1314 1007" style="text-align: center;">                     第1図 ①島根原子力発電所2号炉 重大事故等時 屋内のアクセスルート(1/11)                 </div> <div data-bbox="936 1074 1317 1098" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">                     本資料のうち、枠囲みの内容は機密に係る事項のため公開できません。                 </div>	<div data-bbox="1355 225 1868 1107" style="border: 1px solid black; height: 553px; width: 229px;"></div> <div data-bbox="1906 469 1935 903" style="text-align: center;">                     第1図 ①屋内アクセスルート ルート図(1/11)                 </div> <div data-bbox="1350 1171 1924 1197" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">                     枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。                 </div>	<p>【女川及び島根】記載表現の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・建屋レイアウトや設備配置、対応手順等の相違によりプラントごとにアクセスルートは異なるが、記載内容に相違はない。</li> </ul>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<div data-bbox="85 212 591 1118" style="border: 1px solid black; height: 568px; width: 226px;"></div> <div data-bbox="604 488 633 868" style="text-align: center;">第1図 屋内アクセスルート ルート図②</div> <div data-bbox="651 212 687 619" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">枠囲みの内容は防護上の観点から公開できません。</div>	<div data-bbox="716 212 1272 1102" style="border: 1px solid black; height: 558px; width: 248px;"></div> <div data-bbox="1288 256 1317 1035" style="text-align: center;">第1図 ②島根原子力発電所2号炉 重大事故等時 屋内のアクセスルート(2/11)</div> <div data-bbox="943 1118 1319 1145" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">本資料のうち、枠囲みの内容は機密に係る事項のため公開できません。</div>	<div data-bbox="1357 212 1868 1110" style="border: 1px solid black; height: 563px; width: 228px;"></div> <div data-bbox="1906 413 1935 852" style="text-align: center;">第1図 ②屋内アクセスルート ルート図(2/11)</div> <div data-bbox="1357 1169 1928 1197" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</div>	<p>【女川及び島根】記載表現の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・建屋レイアウトや設備配置、対応手順等の相違によりプラントごとにアクセスルートは異なるが、記載内容に相違はない。</li> </ul>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<div data-bbox="76 213 593 1043" style="border: 1px solid black; height: 500px; width: 100%;"></div> <div data-bbox="600 448 631 828" style="text-align: center;">                     第1図 屋内アクセスルート ルート図③                 </div> <div data-bbox="645 209 685 616" style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">                     枠囲みの内容は防護上の観点から公開できません。                 </div>	<div data-bbox="714 209 1279 1091" style="border: 1px solid black; height: 500px; width: 100%;"></div> <div data-bbox="1285 252 1317 1027" style="text-align: center;">                     第1図 ③島根原子力発電所2号炉 重大事故等時 屋内のアクセスルート(3/11)                 </div> <div data-bbox="938 1107 1319 1134" style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">                     本資料のうち、枠囲みの内容は機密に係る事項のため公開できません。                 </div>	<div data-bbox="1364 233 1892 1082" style="border: 1px solid black; height: 500px; width: 100%;"></div> <div data-bbox="1899 427 1930 863" style="text-align: center;">                     第1図 ③屋内アクセスルート ルート図(3/11)                 </div> <div data-bbox="1348 1155 1921 1182" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">                     枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。                 </div>	<p>【女川及び島根】記載表現の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・建屋レイアウトや設備配置、対応手順等の相違によりプラントごとにアクセスルートは異なるが、記載内容に相違はない。</li> </ul>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<div data-bbox="78 207 593 1013" style="border: 1px solid black; height: 505px; width: 230px;"></div> <div data-bbox="604 399 638 782" style="text-align: center;">                     第1図 屋内アクセスルート ルート図④                 </div> <div data-bbox="649 207 683 614" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">                     枠囲みの内容は防護上の観点から公開できません。                 </div>	<div data-bbox="716 215 1276 1101" style="border: 1px solid black; height: 555px; width: 250px;"></div> <div data-bbox="1288 271 1321 1045" style="text-align: center;">                     第1図 ④島根原子力発電所2号炉 重大事故等時 屋内のアクセスルート(4/11)                 </div> <div data-bbox="940 1109 1310 1141" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">                     本資料のうち、枠囲みの内容は機密に係る事項のため公開できません。                 </div>	<div data-bbox="1388 207 1892 1029" style="border: 1px solid black; height: 515px; width: 225px;"></div> <div data-bbox="1915 399 1948 837" style="text-align: center;">                     第1図 ④屋内アクセスルート ルート図(4/11)                 </div> <div data-bbox="1355 1109 1926 1141" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">                     枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。                 </div>	<p>【女川及び島根】記載表現の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・建屋レイアウトや設備配置、対応手順等の相違によりプラントごとにアクセスルートは異なるが、記載内容に相違はない。</li> </ul>



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<div data-bbox="91 209 600 1043" style="border: 1px solid black; height: 500px; width: 100%;"></div> <div data-bbox="613 427 645 807" style="text-align: center;"> <p>第1図 屋内アクセスルート ルート図⑤</p> </div> <div data-bbox="658 209 689 616" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>枠囲みの内容は防護上の観点から公開できません。</p> </div>	<div data-bbox="719 201 1272 1082" style="border: 1px solid black; height: 500px; width: 100%;"></div> <div data-bbox="1285 256 1317 1031" style="text-align: center;"> <p>第1図 ⑤島根原子力発電所2号炉 屋内のアクセスルート(5/11)</p> </div> <div data-bbox="943 1094 1317 1114" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>本資料のうち、枠囲みの内容は機密に係る事項のため公開できません。</p> </div>	<div data-bbox="1361 233 1899 1098" style="border: 1px solid black; height: 500px; width: 100%;"></div> <div data-bbox="1912 472 1944 906" style="text-align: center;"> <p>第1図 ⑤屋内アクセスルート ルート図(5/11)</p> </div> <div data-bbox="1352 1174 1926 1203" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p> </div>	<p>【女川及び島根】記載表現の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・建屋レイアウトや設備配置、対応手順等の相違によりプラントごとにアクセスルートは異なるが、記載内容に相違はない。</li> </ul>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<div data-bbox="85 217 600 1062" style="border: 1px solid black; height: 530px; width: 230px;"></div> <div data-bbox="611 421 642 802" style="text-align: center;">第1図 屋内アクセスルート ルート図⑥</div> <div data-bbox="658 252 689 603" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">枠囲みの内容は防護上の観点から公開できません。</div>	<div data-bbox="716 217 1272 1098" style="border: 1px solid black; height: 552px; width: 248px;"></div> <div data-bbox="1283 268 1314 1046" style="text-align: center;">第1図 ⑥島根原子力発電所2号炉 重大事故等時 屋内のアクセスルート(6/11)</div> <div data-bbox="943 1110 1319 1134" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">本資料のうち、枠囲みの内容は機密に係る事項のため公開できません。</div>	<div data-bbox="1361 217 1890 1075" style="border: 1px solid black; height: 538px; width: 236px;"></div> <div data-bbox="1910 443 1942 882" style="text-align: center;">第1図 ⑥屋内アクセスルート ルート図(6/11)</div> <div data-bbox="1350 1169 1924 1198" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</div>	<p>【女川及び島根】記載表現の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・建屋レイアウトや設備配置、対応手順等の相違によりプラントごとにアクセスルートは異なるが、記載内容に相違はない。</li> </ul>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<div data-bbox="80 217 602 1067" style="border: 1px solid black; height: 500px; width: 100%;"></div> <div data-bbox="609 456 638 834" style="text-align: center;"> <p>第1図 屋内アクセスルート ルート図⑦</p> </div> <div data-bbox="656 217 689 624" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>枠囲みの内容は防壁上の観点から公開できません。</p> </div>	<div data-bbox="714 212 1274 1098" style="border: 1px solid black; height: 500px; width: 100%;"></div> <div data-bbox="1283 260 1314 1037" style="text-align: center;"> <p>第1図 ⑦島根原子力発電所2号炉 重大事故等時 屋内のアクセスルート(7/11)</p> </div> <div data-bbox="938 1114 1319 1137" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>本資料のうち、枠囲みの内容は機密に係る事項のため公開できません。</p> </div>	<div data-bbox="1355 225 1890 1090" style="border: 1px solid black; height: 500px; width: 100%;"></div> <div data-bbox="1906 446 1937 885" style="text-align: center;"> <p>第1図 ⑦屋内アクセスルート ルート図(7/11)</p> </div> <div data-bbox="1355 1169 1928 1197" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p> </div>	<p>【女川及び島根】記載表現の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・建屋レイアウトや設備配置、対応手順等の相違によりプラントごとにアクセスルートは異なるが、記載内容に相違はない。</li> </ul>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

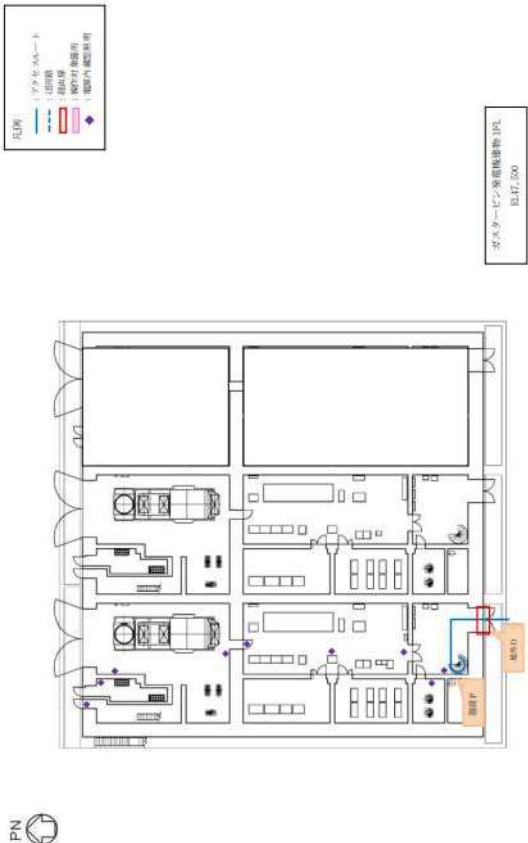
女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<div data-bbox="719 213 1274 1094" style="border: 1px solid black; height: 550px; width: 100%;"></div> <div data-bbox="1285 252 1317 1031" style="writing-mode: vertical-rl; position: absolute; right: 10px; top: 158px;">第1図 ⑧島根原子力発電所2号炉 重大事故等時 屋内のアクセスルート(8/11)</div> <div data-bbox="943 1107 1319 1134" style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center; margin-top: 10px;">本資料のうち、枠囲みの内容は機密に係る事項のため公開できません。</div>	<div data-bbox="1361 240 1890 1086" style="border: 1px solid black; height: 530px; width: 100%;"></div> <div data-bbox="1906 464 1937 903" style="writing-mode: vertical-rl; position: absolute; right: 10px; top: 291px;">第1図 ⑧屋内アクセスルート 図(8/11)</div> <div data-bbox="1350 1206 1921 1233" style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center; margin-top: 10px;">枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</div>	<p>【女川及び島根】記載表現の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・建屋レイアウトや設備配置、対応手順等の相違によりプラントごとにアクセスルートは異なるが、記載内容に相違はない。</li> </ul>



泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

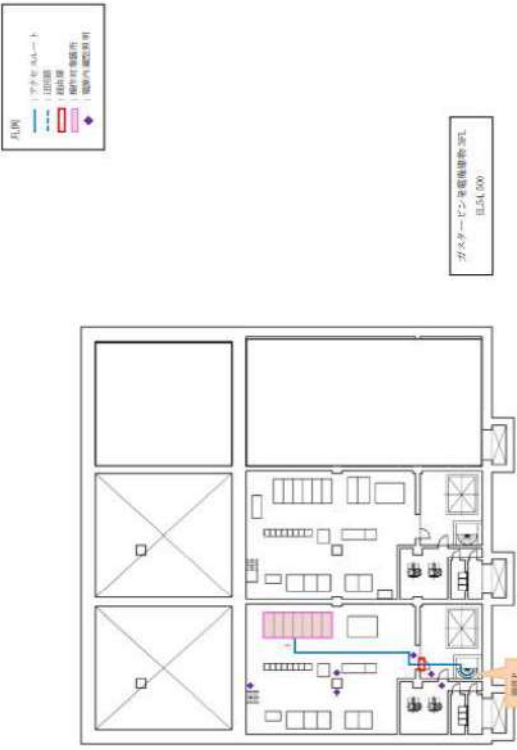

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	 <p>第1図 ⑨島根原子力発電所2号炉 重大事故等時 屋内のアクセスルート(9/11)</p>	<div style="border: 2px solid black; height: 500px; width: 100%;"></div> <p>第1図 ⑨屋内アクセスルート ルート図(9/11)</p> <p>□ 枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p>	<p>【女川及び島根】記載表現の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・建屋レイアウトや設備配置、対応手順等の相違によりプラントごとにアクセスルートは異なるが、記載内容に相違はない。</li> </ul>



泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	 <p>第1図 ①島根原子力発電所2号炉 重大事故等時 屋内のアクセスルート(1.1.11)</p>	 <p>第1図 ①屋内アクセスルート ルート図(1.1.11)</p> <p>枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p>	<p>【女川及び島根】記載表現の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・建屋レイアウトや設備配置、対応手順等の相違によりプラントごとにアクセスルートは異なるが、記載内容に相違はない。</li> </ul>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉

島根原子力発電所2号炉

泊発電所3号炉

相違理由

第2表 操作対象機器及び操作項目一覧(1/3)

第2表 操作対象機器一覧(1/2)

第2表 操作対象機器及び操作項目一覧(1/13)

ルート図	対象場所	操作対象機器及び操作項目	
①	1	ホースの敷設、接続	
	2	原子炉建屋ブローアウトパネル閉止装置	
	③	1	PCV 耐圧強化ベント用連絡配管隔離弁
		2	PCV 耐圧強化ベント用連絡配管止め弁
		3	MCC: 2G-1
		4	主蒸気逃がし安全弁用可搬型蓄電池
		5	中央制御室端子盤
6	非常用ガス処理系フィルタ装置出口弁 (A)		
7	非常用ガス処理系フィルタ装置出口弁 (B)		
④	1	HPIN 常用非常用窒素ガス連絡弁 (A)	
	2	HPIN 常用非常用窒素ガス連絡弁 (B)	
	3	HPIN 非常用窒素ガス入口弁 (A)	
	4	HPIN 非常用窒素ガス入口弁 (B)	
	5	代替高圧窒素ガス供給系 (A) 高圧窒素ガスポンペ	
	6	作動窒素供給用ホース及び安全弁用ホース接続	
	7	代替 HPIN 高圧窒素ガスポンベラック安全弁出口ライン止め弁 (A)	
	8	代替 HPIN 窒素ガスポンベ供給止め弁 (A)	
	9	代替 HPIN 窒素ガスポンベラック供給弁 (A)	
	10	代替 HPIN 窒素ガス供給止め弁 (A)	
	11	代替高圧窒素ガス供給系 (B) 高圧窒素ガスポンペ	
	12	作動窒素供給用ホース及び安全弁用ホース接続	
13	代替 HPIN 高圧窒素ガスポンベラック安全弁出口ライン止め弁 (B)		
14	代替 HPIN 窒素ガスポンベ供給止め弁 (B)		
15	代替 HPIN 窒素ガスポンベラック供給弁 (B)		
16	代替 HPIN 窒素ガス供給止め弁 (B)		
17	フィルタ装置出口水素濃度計ドレン排出弁		
18	フィルタ装置出口水素濃度計入口弁		
19	フィルタ装置出口水素濃度計出口弁		
20	扉開放		
21	PSA 窒素供給ライン元弁		
22	建屋内 PSA 窒素供給ライン元弁		
23	FCVS 側 PSA 窒素供給ライン元弁		
24	FCVS PSA 側窒素供給ライン止め弁		
25	FCVS ベントライン隔離弁 (A)		

①-1	高圧注水用配管止水弁	①-2	原子炉建屋ブローアウトパネル閉止装置
①-3	RCV A-BEG 合流体入口弁 (V214-35A)	①-4	RCV B-BEG 合流体入口弁 (V214-35B)
②-1	RCV 注水弁 (M221-4)	②-2	A-BEG 常用連絡冷却水出口切替弁 (M214-1A)
②-3	B-BEG 常用連絡冷却水出口切替弁 (M214-1B)	②-4	D-1 冷却水
③-1	B-115V 系充電電機 (常電) B1-115V 系充電電機 (SA) SA 用 115V 系充電電機	③-2	B-115V 系充電電機 B-115V 系充電電機 (C) B1-115V 系充電電機 (常電) SA 用 115V 系充電電機 (常電) 電機の特電 230V 系充電電機 (常電) 電機の特電 230V 系充電電機 (C)
④-3	230V 系充電電機 (C/C) 230V 系充電電機 (常電) 230V 系充電電機 (常電) B-非常用非常電機	④-2	NOX No.1 ーラス出口隔離弁 (通風機用) 隔離弁 A-BEG B-非常用非常電機 (常電) 電機の特電 (V214-3)
④-1	RCV A-A/B 戻り配管止め弁 (V214-53)	④-4	A-BEG B-非常用非常電機 (常電) 電機の特電 (V214-3)
④-3	高圧外周隔離弁 (M221-21)	④-4	A-BEG B-非常用非常電機 (常電) 電機の特電 (V214-3)
④-5	A-非常用注水弁 (M222-5A)	④-6	A-BEG B-戻り配管止め弁 (V214-53)
④-7	FLSR 注水隔離弁 (M222-4)	④-8	FLSR 注水弁 (M222-2)
④-9	RCV A-A/B 供給配管止め弁 (V214-52)	④-10	主蒸気逃がし安全弁用蓄電池 (補助電機) A-B 自動充電電機 (補助電機) 重大事故後復旧用 A-B 原子炉プロセス計装機 B-中央分電盤、切替スイッチ (計装給電機) ドライウェル水位計、レバスタル水位計 (計装電機) 盤
④-11	可搬型計装機	④-12	A-115V 系充電電機、A-115V 系充電電機 A-非常用 C、C-非常用電機、A-非常用電機 一相計装電機
④-13	チェンジングエリア	④-14	可搬型スプレッド/スローホース
④-15	1.内周注水 (A) 入口弁 (V217-10A) 1.内周注水 (B) 入口弁 (V217-10B)	④-16	変気ポンベラック (1) 出口止め弁 (V217-1)
④-17	変気ポンベラック (2) 出口止め弁 (V217-2)	④-18	変気ポンベラック (3) 出口止め弁 (V217-3)
④-19	変気ポンベラック (4) 出口止め弁 (V217-4)	④-20	変気ポンベラック (5) 出口止め弁 (V217-5)
④-21	高圧注水用配管止水弁 (可搬型) 接続口 (緑字) FLSR 注水隔離弁 B-注水ライン止め弁 (V232-103B) RCV 注水弁 (可搬型) 接続口 (緑字) ACS B-注水ライン止め弁 (V232-25)	④-22	原子炉建屋ブローアウトパネル閉止装置 (緑字)
④-23	レバスタル水位計注水弁 (可搬型) 接続口 (緑字) AFS B-注水ライン止め弁 (V232-26)		
④-24	格納容器フィルタベント系窒素ガス供給用接続口 (緑字) 窒素ガス供給用レバスタル水位計 (可搬型) 接続口 (緑字) 窒素ガス供給用レバスタル水位計 (可搬型) 接続口 (緑字) FCVS 建屋内窒素ガス供給用元弁 (V232-38) ANI 建屋内窒素ガス供給用元弁 (D/N 側) (V232-6) ANI 建屋内窒素ガス供給用元弁 (D/N 側) (V232-16)	⑤-2	B-窒素ガス供給装置出口截止弁 (V227-18)
⑤-1	ABS 窒素ガスポンベ (A 系)	⑤-4	B-RCV 常用連絡冷却水出口切替弁 (M214-3B)
⑤-3	A-BEG 常用連絡冷却水出口切替弁 (M214-3A) A-BEG 冷却水出口弁 (V214-67A) RCV B-A/B 冷却水戻り配管止め弁 (V214-4) A-BEG B-非常用非常電機 (常電) 電機の特電 (V214-3)	⑤-6	ABS 窒素ガスポンベ (A 系)
⑤-5	A-窒素ガス供給装置出口截止弁 (V227-1A)	⑤-8	C-M/C
⑤-7	C-L/C	⑤-10	D-L/C
⑤-9	メタクワリ機	⑤-12	メタクワリ機
⑤-11	D-M/C	⑤-14	A-非常用ドライウェル第1スプレイ弁 (M222-3A) A-非常用ドライウェル第2スプレイ弁 (M222-4A)
⑤-13	D2-R/B-C, D3-R/B-C	⑤-16	B-非常用注水弁 (M222-3B) B-非常用注水弁 (M222-4B) C-非常用注水弁 (M222-5C)
⑤-15	B-非常用ドライウェル第1スプレイ弁 (M222-3B) B-非常用ドライウェル第2スプレイ弁 (M222-4B)	⑤-18	格納容器外周隔離ダンパ (V264-17) 通風機用格納容器外周隔離ダンパ (V264-18)
⑤-17	NOX No.1 ーラス出口隔離弁 通風機用格納容器外周隔離ダンパ (V264-17)	⑤-20	RCV B-中圧格納容器冷熱体入口弁 (V214-20B)
⑤-19	RCV A-中圧格納容器冷熱体入口弁 (V214-20A)	⑤-22	格納容器外周隔離ダンパ (V264-5) 格納容器外周隔離ダンパ (V264-6)
⑤-21	C1-R/B-C		
⑤-23	B-BEG 冷却水出口弁 (V214-67B)		
⑤-1	C2-R/B-C, C3-R/B-C		

ルート図	対象場所	操作内容	操作対象機器及び操作項目
①	1	C、D-格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却 原子炉補機冷却水系加圧機作機	・ホース接続 ・配管接続 ・原子炉補機冷却水サージタンク圧力 (可搬型) ・原子炉補機冷却水サージタンク圧力 (可搬型) 取付箇所 ・原子炉補機冷却水サージタンク加圧用可搬型窒素ガスポンペ ・原子炉補機冷却水サージタンク加圧用窒素供給パネル ・原子炉補機冷却水サージタンクベント弁用ミニチュア弁
	2	C、D-格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却 原子炉補機冷却水系加圧機	・原子炉補機冷却水サージタンク電圧追加口電圧止め弁 ・原子炉補機冷却水サージタンク電圧追加口電圧止め弁 ・原子炉補機冷却水サージタンク可搬型圧力計接続用配管窒素供給止め弁加圧機
	3	可搬型大型送水ポンプ車による A-高圧注入ポンプへの補機冷却水 (海水) 通水 系統構成	・原子炉補機冷却水 A-サージライン止め弁 ・原子炉補機冷却水 B-サージライン止め弁 ・原子炉補機冷却水系統 A 戻り排水ライン第1止め弁 (SA 対策) ・原子炉補機冷却水系統 A 戻り排水ライン第2止め弁 (SA 対策)
	4	可搬型大型送水ポンプ車を用いた C、D-格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却 系統構成	・原子炉補機冷却水 A-サージライン止め弁 ・原子炉補機冷却水 B-サージライン止め弁
②	1	海水を用いた可搬型大型送水ポンプ車による原子炉容器への注水 系統構成	・ECT フラックアクセスリア側可搬型ポンプ車接続用ライン止め弁 (SA 対策)
	2	海水を水源とした可搬型大型送水ポンプ車による補助給水ビットへの補給 系統構成	・ECT フラックアクセスリア側可搬型ポンプ車接続用ライン止め弁 (SA 対策)
	3	海水を水源とした可搬型大型送水ポンプ車による燃料取扱用ビットへの補給 系統構成	・ECT フラックアクセスリア側可搬型ポンプ車接続用ライン止め弁 (SA 対策) ・燃料取扱用ビットオーバーフローライン海水供給止め弁 ・燃料取扱用ビット給水ライン止め弁 (SA 対策)
	4	日-エアニューラス空気浄化設備動作弁代替窒素供給及びダンパ手動開操作	・3V-VS-102B 制御用空気供給弁 ・エアニューラス全量排気弁等動作用窒素供給パネル ・3V-VS-102B 窒素供給弁 (SA 対策) ・エアニューラス全量排気弁等動作用可搬型窒素ガスポンペ
	5	試料採取室排気隔離ダンパ閉鎖	・3D-VS-653 制御用空気供給弁 ・試料採取室排気隔離ダンパ ・窒素機
③	1	現場手動操作による主蒸気逃がし弁の機能回復 主蒸気逃がし弁開放、角度調整	・A-主蒸気逃がし弁 ・B-主蒸気逃がし弁 ・C-主蒸気逃がし弁
	2	破損箇所窒素発生器主蒸気隔離弁増し締め操作	・A-主蒸気隔離弁 ・B-主蒸気隔離弁 ・C-主蒸気隔離弁
	3	可搬型大型送水ポンプ車 32m 接続口	・可搬型大型送水ポンプ車 32m 接続口 ・ホース接続
	4	格納容器エアロック閉止	・非常用エアロック
	5	海水を用いた可搬型大型送水ポンプ車による使用済燃料ビットへの注水	・可搬型ホース敷設、接続

【女川及び島根】記載表現の相違  
 ・泊は、操作内容を記載することで、各階層で実施する作業概要が分かるように記載している。



泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉

島根原子力発電所2号炉

泊発電所3号炉

相違理由

第2表 操作対象機器及び操作項目一覧(2/3)

第2表 操作対象機器一覧(2/2)

第2表 操作対象機器及び操作項目一覧(2/13)

ルート図	対象場所	操作対象機器及び操作項目
	26	FCVSベントライン隔離弁(B)
	27	D/Wベント用出口隔離弁
	28	RCW代替冷却水 ⅡR 負荷供給側連絡弁(A)
	29	RCW代替冷却水 ⅡR 負荷戻り側連絡弁(A)
	30	RCW代替冷却水 FPC 他負荷供給側連絡弁(A)
	31	RCW代替冷却水 FPC 他負荷戻り側連絡弁(A)
	32	RCW代替冷却水 ⅡR 負荷供給側連絡弁(B)
	33	RCW代替冷却水 ⅡR 負荷戻り側連絡弁(B)
	34	RCW代替冷却水 FPC 他負荷供給側連絡弁(B)
	35	RCW代替冷却水 FPC 他負荷戻り側連絡弁(B)
	36	RCW代替冷却水 ⅡR 負荷供給側連絡弁(C)
	37	RCW代替冷却水 ⅡR 負荷戻り側連絡弁(C)
	38	RCW代替冷却水 FPC 他負荷供給側連絡弁(C)
	39	RCW代替冷却水 FPC 他負荷戻り側連絡弁(C)
	40	原子炉建屋大物搬入口開放
	41	原子炉建屋扉開放
④	42	R/B MCC 2D-5
	43	原子炉補機代替冷却水系A系ベント弁
	44	原子炉補機代替冷却水系B系ベント弁
	45	扉開放
	46	125V 直流主母線盤2A-1
	47	125V 直流主母線盤2B-1
	48	D/G(B)制御盤
	49	D/G(A)制御盤
	50	RCIC タービン入口蒸気ライン第二隔離弁
	51	高圧空気ポンプユニット接続停止弁
	52	扉開放
	53	ホース敷設用貫通孔
	54	注水系屋内接続口
	55	高圧窒素ガス供給系(A)高圧窒素ガスポンプ
	56	高圧窒素ガス供給系(B)高圧窒素ガスポンプ
	57	扉開放

①-1	燃料プール監視カメラ用冷却機	①-2	MCC 非常用ガス処理入口隔離弁、MCC 非常用ガス処理入口隔離弁/レイバ弁/送排気機/排気機
①-3	SA 電源の解放 A	①-4	SA 電源の解放 B
①-5	RCW A-FPC 熱交換器入口弁(V214-390) RCW B-FPC 熱交換器入口弁(V214-390)	①-6	SA2C/C
②-1	可搬型スプレイ/ノズル・ホース設置箇所	②-2	可搬型スプレイ/ノズル・ホース設置箇所
③-3	原子炉補機燃料取扱機/ブローアウトバルブ停止装置	③-4	原子炉補機燃料取扱機/ブローアウトバルブ停止装置
④-1	緊急用メタクラ		

ルート図	対象場所	操作内容	操作対象機器及び操作項目
	6	節水を用いた可搬型大型送水ポンプ車及び可搬型スプレイノズルによる使用済燃料ピットへのスプレイ	・可搬型ホース敷設、接続 ・可搬型スプレイノズル設置
	7	可搬型水位計選搬、設置	・使用済燃料ピット水位(可搬型) ・使用済燃料ピット水位(可搬型)付風呂収納箱 ・ワイヤ接続 ・ケーブル接続 ・使用済燃料ピット水位(可搬型)設置箇所
③	8	監視カメラ空冷装置準備、起動	・SFP 監視設備電源確保 ・使用済燃料ピット監視カメラ空冷装置設置箇所 ・ホース接続 ・SFP 監視カメラ空冷装置空冷装置出口ケーブル接続 ・使用済燃料ピット監視カメラ空冷装置
	9	可搬型エリアモニタ選搬、設置	・SFP 監視設備電源確保 ・可搬型エリアモニタ機器収納 ・使用済燃料ピット可搬型エリアモニタ設置箇所 ・ケーブル接続 ・使用済燃料ピット可搬型エリアモニタ ・箱遮蔽
	10	代替非常用発電機又は可搬型代替電源車による代替格納容器スプレイポンプ変圧器盤及び代替所内電気設備分電盤給電 系統構成	・SA 用代替電源中継接続盤2
	11	可搬型代替直流電源設備による給電 系統受電準備	・ケーブル敷設
	1	現場手動操作によるタービン動補給水ポンプの起動 系統構成	・補助給水ピットタービン動補給水ポンプ側出口弁 ・タービン動補給水ポンプ駆動蒸気B 主蒸気ライン弁 ・タービン動補給水ポンプ駆動蒸気C 主蒸気ライン弁
	2	主給水隔離弁停止操作 (隔離弁の電源が印復していない場合)	・A-主給水隔離弁 ・B-主給水隔離弁 ・C-主給水隔離弁
	3	1次冷却ポンプ列水ライン隔離弁等停止操作及び格納容器隔離弁停止操作 (隔離弁の電源が印復していない場合)	・A、D-C/V 再循環ユニット補機冷却水入口 C/V 外側隔離弁 ・A-C/V 再循環ユニット補機冷却水出口 C/V 外側隔離弁 ・B-C/V 再循環ユニット補機冷却水出口 C/V 外側隔離弁 ・C、D-C/V 再循環ユニット補機冷却水入口 C/V 外側隔離弁 ・C-C/V 再循環ユニット補機冷却水出口 C/V 外側隔離弁 ・D-C/V 再循環ユニット補機冷却水出口 C/V 外側隔離弁
④	4	格納容器エアロック閉止	・通常用エアロック
	5	代替格納容器スプレイポンプによる原子炉容器への注水起動準備	・代替格納容器スプレイポンプ入口第1止め弁 ・代替格納容器スプレイポンプ入口第2止め弁 ・A-燃料取替用水ポンプ出口ベント弁
	6	代替格納容器スプレイポンプによる原子炉格納容器内のスプレイ起動準備又は代替格納容器スプレイポンプによる原子炉格納容器下部への注水起動準備	・代替格納容器スプレイポンプ入口第1止め弁 ・代替格納容器スプレイポンプ入口第2止め弁 ・A-燃料取替用水ポンプ出口ベント弁

【女川及び島根】記載表現の相違  
 ・泊は、操作内容を記載することで、各階層で実施する作業概要が分かるように記載している。



泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																	
		<p style="text-align: center;">第2表 操作対象機器及び操作項目一覧(4/13)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 5%;">ルート 図</th> <th style="width: 5%;">対象 場所</th> <th style="width: 35%;">操作内容</th> <th style="width: 55%;">操作対象機器及び操作項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4" style="text-align: center; vertical-align: middle;">④</td> <td rowspan="4" style="text-align: center; vertical-align: middle;">14</td> <td style="text-align: center;">中央制御室空調装置ダンパ開 及び閉処置</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・A-中央制御室非常用循環ファン入口ダンパ用ミニチュア弁</li> <li>・A-中央制御室給気ファン出口ダンパ用ミニチュア弁</li> <li>・A-中央制御室循環ファン入口ダンパ用ミニチュア弁</li> <li>・A-中央制御室非常用循環ファン入口ダンパ</li> <li>・A-中央制御室給気ファン出口ダンパ</li> <li>・A-中央制御室循環ファン入口ダンパ</li> <li>・B-中央制御室非常用循環ファン入口ダンパ用ミニチュア弁</li> <li>・B-中央制御室給気ファン出口ダンパ用ミニチュア弁</li> <li>・B-中央制御室循環ファン入口ダンパ用ミニチュア弁</li> <li>・B-中央制御室非常用循環ファン入口ダンパ</li> <li>・B-中央制御室給気ファン出口ダンパ</li> <li>・A-中央制御室外気取入風量調節ダンパ用ミニチュア弁</li> <li>・A-中央制御室精電風量調節ダンパ用ミニチュア弁</li> <li>・A-中央制御室事故時外気取入風量調節ダンパ用ミニチュア弁</li> <li>・B-中央制御室外気取入風量調節ダンパ用ミニチュア弁</li> <li>・B-中央制御室精電風量調節ダンパ用ミニチュア弁</li> <li>・B-中央制御室事故時外気取入風量調節ダンパ用ミニチュア弁</li> <li>・A-中央制御室外気取入ダンパ用ミニチュア弁</li> <li>・A-中央制御室排気風量調節ダンパ用ミニチュア弁</li> <li>・B-中央制御室外気取入ダンパ</li> <li>・A-中央制御室外気取入風量調節ダンパ</li> <li>・A-中央制御室精電風量調節ダンパ</li> <li>・A-中央制御室事故時外気取入風量調節ダンパ</li> <li>・A-中央制御室外気取入ダンパ</li> <li>・A-中央制御室排気風量調節ダンパ</li> <li>・B-中央制御室外気取入ダンパ</li> <li>・B-中央制御室排気風量調節ダンパ</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">15</td> <td style="text-align: center;">安全補機閉器室外気取入ダ ンパ開操作</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資機材</li> <li>・A-安全補機閉器室外気取入ダンパ用ミニチュア弁</li> <li>・A-安全補機閉器室外気取入ダンパ</li> <li>・B-安全補機閉器室外気取入ダンパ用ミニチュア弁</li> <li>・B-安全補機閉器室外気取入ダンパ</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">16</td> <td style="text-align: center;">代替非常用発電機又は可搬型 代替電源車による代替格納容 器スプレイポンプ変圧器盤及 び代替所内電気設備分電盤給 電 系統機成</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SA 用代替電源中継接続盤 1</li> <li>・SA 用電動弁操作ケーブル収納箱</li> <li>・格納容器電源貫通部端子箱</li> <li>・SA 用電動弁操作盤</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">17</td> <td style="text-align: center;">原子炉格納容器隔離弁の閉止</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・燃料移送管仕切弁</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table>	ルート 図	対象 場所	操作内容	操作対象機器及び操作項目	④	14	中央制御室空調装置ダンパ開 及び閉処置	<ul style="list-style-type: none"> <li>・A-中央制御室非常用循環ファン入口ダンパ用ミニチュア弁</li> <li>・A-中央制御室給気ファン出口ダンパ用ミニチュア弁</li> <li>・A-中央制御室循環ファン入口ダンパ用ミニチュア弁</li> <li>・A-中央制御室非常用循環ファン入口ダンパ</li> <li>・A-中央制御室給気ファン出口ダンパ</li> <li>・A-中央制御室循環ファン入口ダンパ</li> <li>・B-中央制御室非常用循環ファン入口ダンパ用ミニチュア弁</li> <li>・B-中央制御室給気ファン出口ダンパ用ミニチュア弁</li> <li>・B-中央制御室循環ファン入口ダンパ用ミニチュア弁</li> <li>・B-中央制御室非常用循環ファン入口ダンパ</li> <li>・B-中央制御室給気ファン出口ダンパ</li> <li>・A-中央制御室外気取入風量調節ダンパ用ミニチュア弁</li> <li>・A-中央制御室精電風量調節ダンパ用ミニチュア弁</li> <li>・A-中央制御室事故時外気取入風量調節ダンパ用ミニチュア弁</li> <li>・B-中央制御室外気取入風量調節ダンパ用ミニチュア弁</li> <li>・B-中央制御室精電風量調節ダンパ用ミニチュア弁</li> <li>・B-中央制御室事故時外気取入風量調節ダンパ用ミニチュア弁</li> <li>・A-中央制御室外気取入ダンパ用ミニチュア弁</li> <li>・A-中央制御室排気風量調節ダンパ用ミニチュア弁</li> <li>・B-中央制御室外気取入ダンパ</li> <li>・A-中央制御室外気取入風量調節ダンパ</li> <li>・A-中央制御室精電風量調節ダンパ</li> <li>・A-中央制御室事故時外気取入風量調節ダンパ</li> <li>・A-中央制御室外気取入ダンパ</li> <li>・A-中央制御室排気風量調節ダンパ</li> <li>・B-中央制御室外気取入ダンパ</li> <li>・B-中央制御室排気風量調節ダンパ</li> </ul>	15	安全補機閉器室外気取入ダ ンパ開操作	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資機材</li> <li>・A-安全補機閉器室外気取入ダンパ用ミニチュア弁</li> <li>・A-安全補機閉器室外気取入ダンパ</li> <li>・B-安全補機閉器室外気取入ダンパ用ミニチュア弁</li> <li>・B-安全補機閉器室外気取入ダンパ</li> </ul>	16	代替非常用発電機又は可搬型 代替電源車による代替格納容 器スプレイポンプ変圧器盤及 び代替所内電気設備分電盤給 電 系統機成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SA 用代替電源中継接続盤 1</li> <li>・SA 用電動弁操作ケーブル収納箱</li> <li>・格納容器電源貫通部端子箱</li> <li>・SA 用電動弁操作盤</li> </ul>	17	原子炉格納容器隔離弁の閉止	<ul style="list-style-type: none"> <li>・燃料移送管仕切弁</li> </ul>	<p>【女川及び島根】記載表 現の相違</p> <p>・泊は、操作内容を記載 することで、各階層で 実施する作業概要が分 かるように記載してい る。</p>
ルート 図	対象 場所	操作内容	操作対象機器及び操作項目																	
④	14	中央制御室空調装置ダンパ開 及び閉処置	<ul style="list-style-type: none"> <li>・A-中央制御室非常用循環ファン入口ダンパ用ミニチュア弁</li> <li>・A-中央制御室給気ファン出口ダンパ用ミニチュア弁</li> <li>・A-中央制御室循環ファン入口ダンパ用ミニチュア弁</li> <li>・A-中央制御室非常用循環ファン入口ダンパ</li> <li>・A-中央制御室給気ファン出口ダンパ</li> <li>・A-中央制御室循環ファン入口ダンパ</li> <li>・B-中央制御室非常用循環ファン入口ダンパ用ミニチュア弁</li> <li>・B-中央制御室給気ファン出口ダンパ用ミニチュア弁</li> <li>・B-中央制御室循環ファン入口ダンパ用ミニチュア弁</li> <li>・B-中央制御室非常用循環ファン入口ダンパ</li> <li>・B-中央制御室給気ファン出口ダンパ</li> <li>・A-中央制御室外気取入風量調節ダンパ用ミニチュア弁</li> <li>・A-中央制御室精電風量調節ダンパ用ミニチュア弁</li> <li>・A-中央制御室事故時外気取入風量調節ダンパ用ミニチュア弁</li> <li>・B-中央制御室外気取入風量調節ダンパ用ミニチュア弁</li> <li>・B-中央制御室精電風量調節ダンパ用ミニチュア弁</li> <li>・B-中央制御室事故時外気取入風量調節ダンパ用ミニチュア弁</li> <li>・A-中央制御室外気取入ダンパ用ミニチュア弁</li> <li>・A-中央制御室排気風量調節ダンパ用ミニチュア弁</li> <li>・B-中央制御室外気取入ダンパ</li> <li>・A-中央制御室外気取入風量調節ダンパ</li> <li>・A-中央制御室精電風量調節ダンパ</li> <li>・A-中央制御室事故時外気取入風量調節ダンパ</li> <li>・A-中央制御室外気取入ダンパ</li> <li>・A-中央制御室排気風量調節ダンパ</li> <li>・B-中央制御室外気取入ダンパ</li> <li>・B-中央制御室排気風量調節ダンパ</li> </ul>																	
		15	安全補機閉器室外気取入ダ ンパ開操作	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資機材</li> <li>・A-安全補機閉器室外気取入ダンパ用ミニチュア弁</li> <li>・A-安全補機閉器室外気取入ダンパ</li> <li>・B-安全補機閉器室外気取入ダンパ用ミニチュア弁</li> <li>・B-安全補機閉器室外気取入ダンパ</li> </ul>																
		16	代替非常用発電機又は可搬型 代替電源車による代替格納容 器スプレイポンプ変圧器盤及 び代替所内電気設備分電盤給 電 系統機成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SA 用代替電源中継接続盤 1</li> <li>・SA 用電動弁操作ケーブル収納箱</li> <li>・格納容器電源貫通部端子箱</li> <li>・SA 用電動弁操作盤</li> </ul>																
		17	原子炉格納容器隔離弁の閉止	<ul style="list-style-type: none"> <li>・燃料移送管仕切弁</li> </ul>																

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																	
		<p style="text-align: center;">第2表 操作対象機器及び操作項目一覧(5/13)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>ルート区</th> <th>対象場所</th> <th>操作内容</th> <th>操作対象機器及び操作項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">⑤</td> <td>1</td> <td>可搬型格納容器内水素濃度計測ユニットによる原子炉格納容器内の水素濃度監視 起動準備</td> <td>・3V-R9-015 制御用空気供給弁 ・ホース接続 ・3V-R9-015 窒素ガス供給弁 (SA対策)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>1次冷却材ポンプ封水ライン隔離弁等閉止操作（隔離弁の電氣が回復していない場合）</td> <td>・1次冷却材ポンプ封水戻りラインC/V 外側隔離弁 ・B-1次冷却材ポンプ封水注入ラインC/V 外側隔離弁 ・A-1次冷却材ポンプ封水注入ラインC/V 外側隔離弁 ・C-1次冷却材ポンプ封水注入ラインC/V 外側隔離弁</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>原子炉格納容器隔離弁閉止操作（隔離弁の電氣が回復していない場合）</td> <td>・1次冷却材ポンプ補機冷却水入口止め弁 ・1次冷却材ポンプ補機冷却水出口C/V 外側隔離弁 ・1次冷却材ポンプ補機冷却水出口C/V 外側隔離弁 ・余熱抽出冷却器等補機冷却水出口C/V 外側隔離弁 ・余熱抽出冷却器等補機冷却水入口C/V 外側隔離弁 ・充てんラインC/V 外側隔離弁</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>原子炉格納容器隔離弁の閉止</td> <td>・原子炉格納容器内脱塩水補給ラインC/V 外側隔離弁</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">⑥</td> <td>1</td> <td>加圧器速がし弁操作用可搬型窒素ガスボンベによる加圧器速がし弁の機能回復 開放準備</td> <td>・加圧器速がし弁操作用可搬型窒素ガスボンベ ・A-原子炉格納容器内制御用空気供給弁 ・ホース接続 ・B-原子炉格納容器内制御用空気供給弁 ・加圧器速がし弁操作用窒素供給パネル ・A-制御用空気C/V 外側隔離弁 T.V 弁 ・B-制御用空気C/V 外側隔離弁 T.V 弁</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>海水を用いた可搬型大型送水ポンプ車による原子炉容器への注水 系統構成</td> <td>・R3 東側可搬型ポンプ車接続用ライン止め弁 (SA対策) ・補助給水ビット-燃料取替用水ビット給水連絡ライン止め弁 (SA対策)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>海水を水源とした可搬型大型送水ポンプ車による補助給水ビットへの補給 系統構成</td> <td>・R3 東側可搬型ポンプ車接続用ライン止め弁 (SA対策) ・補助給水ビット給水ライン止め弁 (SA対策) ・補助給水ビットブローライン給水止め弁 (SA対策) ・補助給水ビット-燃料取替用水ビット給水連絡ライン止め弁 (SA対策)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>海水を水源とした可搬型大型送水ポンプ車による燃料取替用水ビットへの補給 系統構成</td> <td>・補助給水ビット-燃料取替用水ビット給水連絡ライン止め弁 (SA対策) ・R3 東側可搬型ポンプ車接続用ライン止め弁 (SA対策)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>燃料取替用水ビットから補助給水ビットへの切替え（原子炉容器への注水中の場合又は原子炉格納容器内へのスプレイ中の場合） 系統構成</td> <td>・代替格納容器スプレイポンプ補助給水ビット側入口止め弁 ・代替格納容器スプレイポンプ入口テスト止め弁</td> </tr> </tbody> </table>	ルート区	対象場所	操作内容	操作対象機器及び操作項目	⑤	1	可搬型格納容器内水素濃度計測ユニットによる原子炉格納容器内の水素濃度監視 起動準備	・3V-R9-015 制御用空気供給弁 ・ホース接続 ・3V-R9-015 窒素ガス供給弁 (SA対策)	2	1次冷却材ポンプ封水ライン隔離弁等閉止操作（隔離弁の電氣が回復していない場合）	・1次冷却材ポンプ封水戻りラインC/V 外側隔離弁 ・B-1次冷却材ポンプ封水注入ラインC/V 外側隔離弁 ・A-1次冷却材ポンプ封水注入ラインC/V 外側隔離弁 ・C-1次冷却材ポンプ封水注入ラインC/V 外側隔離弁	3	原子炉格納容器隔離弁閉止操作（隔離弁の電氣が回復していない場合）	・1次冷却材ポンプ補機冷却水入口止め弁 ・1次冷却材ポンプ補機冷却水出口C/V 外側隔離弁 ・1次冷却材ポンプ補機冷却水出口C/V 外側隔離弁 ・余熱抽出冷却器等補機冷却水出口C/V 外側隔離弁 ・余熱抽出冷却器等補機冷却水入口C/V 外側隔離弁 ・充てんラインC/V 外側隔離弁	4	原子炉格納容器隔離弁の閉止	・原子炉格納容器内脱塩水補給ラインC/V 外側隔離弁	⑥	1	加圧器速がし弁操作用可搬型窒素ガスボンベによる加圧器速がし弁の機能回復 開放準備	・加圧器速がし弁操作用可搬型窒素ガスボンベ ・A-原子炉格納容器内制御用空気供給弁 ・ホース接続 ・B-原子炉格納容器内制御用空気供給弁 ・加圧器速がし弁操作用窒素供給パネル ・A-制御用空気C/V 外側隔離弁 T.V 弁 ・B-制御用空気C/V 外側隔離弁 T.V 弁	2	海水を用いた可搬型大型送水ポンプ車による原子炉容器への注水 系統構成	・R3 東側可搬型ポンプ車接続用ライン止め弁 (SA対策) ・補助給水ビット-燃料取替用水ビット給水連絡ライン止め弁 (SA対策)	3	海水を水源とした可搬型大型送水ポンプ車による補助給水ビットへの補給 系統構成	・R3 東側可搬型ポンプ車接続用ライン止め弁 (SA対策) ・補助給水ビット給水ライン止め弁 (SA対策) ・補助給水ビットブローライン給水止め弁 (SA対策) ・補助給水ビット-燃料取替用水ビット給水連絡ライン止め弁 (SA対策)	4	海水を水源とした可搬型大型送水ポンプ車による燃料取替用水ビットへの補給 系統構成	・補助給水ビット-燃料取替用水ビット給水連絡ライン止め弁 (SA対策) ・R3 東側可搬型ポンプ車接続用ライン止め弁 (SA対策)	5	燃料取替用水ビットから補助給水ビットへの切替え（原子炉容器への注水中の場合又は原子炉格納容器内へのスプレイ中の場合） 系統構成	・代替格納容器スプレイポンプ補助給水ビット側入口止め弁 ・代替格納容器スプレイポンプ入口テスト止め弁	<p>【女川及び島根】記載表現の相違</p> <p>・泊は、操作内容を記載することで、各階層で実施する作業概要が分かるように記載している。</p>
ルート区	対象場所	操作内容	操作対象機器及び操作項目																																	
⑤	1	可搬型格納容器内水素濃度計測ユニットによる原子炉格納容器内の水素濃度監視 起動準備	・3V-R9-015 制御用空気供給弁 ・ホース接続 ・3V-R9-015 窒素ガス供給弁 (SA対策)																																	
	2	1次冷却材ポンプ封水ライン隔離弁等閉止操作（隔離弁の電氣が回復していない場合）	・1次冷却材ポンプ封水戻りラインC/V 外側隔離弁 ・B-1次冷却材ポンプ封水注入ラインC/V 外側隔離弁 ・A-1次冷却材ポンプ封水注入ラインC/V 外側隔離弁 ・C-1次冷却材ポンプ封水注入ラインC/V 外側隔離弁																																	
	3	原子炉格納容器隔離弁閉止操作（隔離弁の電氣が回復していない場合）	・1次冷却材ポンプ補機冷却水入口止め弁 ・1次冷却材ポンプ補機冷却水出口C/V 外側隔離弁 ・1次冷却材ポンプ補機冷却水出口C/V 外側隔離弁 ・余熱抽出冷却器等補機冷却水出口C/V 外側隔離弁 ・余熱抽出冷却器等補機冷却水入口C/V 外側隔離弁 ・充てんラインC/V 外側隔離弁																																	
	4	原子炉格納容器隔離弁の閉止	・原子炉格納容器内脱塩水補給ラインC/V 外側隔離弁																																	
⑥	1	加圧器速がし弁操作用可搬型窒素ガスボンベによる加圧器速がし弁の機能回復 開放準備	・加圧器速がし弁操作用可搬型窒素ガスボンベ ・A-原子炉格納容器内制御用空気供給弁 ・ホース接続 ・B-原子炉格納容器内制御用空気供給弁 ・加圧器速がし弁操作用窒素供給パネル ・A-制御用空気C/V 外側隔離弁 T.V 弁 ・B-制御用空気C/V 外側隔離弁 T.V 弁																																	
	2	海水を用いた可搬型大型送水ポンプ車による原子炉容器への注水 系統構成	・R3 東側可搬型ポンプ車接続用ライン止め弁 (SA対策) ・補助給水ビット-燃料取替用水ビット給水連絡ライン止め弁 (SA対策)																																	
	3	海水を水源とした可搬型大型送水ポンプ車による補助給水ビットへの補給 系統構成	・R3 東側可搬型ポンプ車接続用ライン止め弁 (SA対策) ・補助給水ビット給水ライン止め弁 (SA対策) ・補助給水ビットブローライン給水止め弁 (SA対策) ・補助給水ビット-燃料取替用水ビット給水連絡ライン止め弁 (SA対策)																																	
	4	海水を水源とした可搬型大型送水ポンプ車による燃料取替用水ビットへの補給 系統構成	・補助給水ビット-燃料取替用水ビット給水連絡ライン止め弁 (SA対策) ・R3 東側可搬型ポンプ車接続用ライン止め弁 (SA対策)																																	
	5	燃料取替用水ビットから補助給水ビットへの切替え（原子炉容器への注水中の場合又は原子炉格納容器内へのスプレイ中の場合） 系統構成	・代替格納容器スプレイポンプ補助給水ビット側入口止め弁 ・代替格納容器スプレイポンプ入口テスト止め弁																																	



泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																								
		<p style="text-align: center;">第2表 操作対象機器及び操作項目一覧(6/13)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="1346 236 1391 256">ルート区</th> <th data-bbox="1391 236 1435 256">対象場所</th> <th data-bbox="1435 236 1585 256">操作内容</th> <th data-bbox="1585 236 1955 256">操作対象機器及び操作項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>6</td> <td>原子炉格納容器隔離弁の閉止</td> <td>・原子炉格納容器内所内用空気供給ラインC/V 外側隔離弁</td> </tr> <tr> <td></td> <td>7</td> <td>可搬型大型送水ポンプ車によるA-高圧注入ポンプへの補機冷却水（海水）通水 系統構成</td> <td>・A-サンプル冷却器補機冷却水入口弁 ・B-サンプル冷却器補機冷却水入口弁</td> </tr> <tr> <td></td> <td>8</td> <td>C、D-格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却 系統構成</td> <td>・可搬型温度計測装置（格納容器再循環ユニット入口温度/出口温度）</td> </tr> <tr> <td></td> <td>9</td> <td>可搬型大型送水ポンプ車を用いたC、D-格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却 系統構成</td> <td>・A-サンプル冷却器補機冷却水入口弁 ・B-サンプル冷却器補機冷却水入口弁 ・可搬型温度計測装置（格納容器再循環ユニット入口温度/出口温度） ・A-ディーゼル発電機燃料油サービスタンク室二酸化炭素消火設備放出ロック盤</td> </tr> <tr> <td></td> <td>10</td> <td>可搬型大型送水ポンプ車を用いたC、D-格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却 海水通水</td> <td>・C、D-格納容器再循環ユニット補機冷却水排水ライン止め弁 (SA対策) ・C、D-格納容器再循環ユニット補機冷却水排水ライン絞り弁 (SA対策)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>11</td> <td>可搬型大型送水ポンプ車を用いたC、D-格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却 可搬型温度計測装置取付け（排水側）</td> <td>・可搬型温度計測装置（格納容器再循環ユニット入口温度/出口温度） （排水側）取付箇所</td> </tr> <tr> <td></td> <td>12</td> <td>ディーゼル発電機燃料油貯油槽又は燃料タンク (SA) から可搬型タンクローリーへの補給（ディーゼル発電機燃料油貯油槽からディーゼル発電機燃料油移送ポンプにより補給する場合） 系統構成</td> <td>・A-ディーゼル発電機燃料油サービスタンク室二酸化炭素消火設備放出ロック盤 ・B-ディーゼル発電機燃料油サービスタンク室二酸化炭素消火設備放出ロック盤 ・B-燃料油移送ポンプ出口B側連絡弁 ・A-燃料油サービスタンク入口弁 ・A-燃料油サービスタンク油面制御弁 ・A-燃料油移送ポンプ出口A側連絡弁 ・燃料油移送ポンプ出口連絡サブリング弁 ・ホース敷設 ・B-燃料油サービスタンク入口弁 ・B-燃料油サービスタンク油面制御弁</td> </tr> <tr> <td></td> <td>13</td> <td>ディーゼル発電機燃料油貯油槽から又は燃料タンク (SA) 可搬型タンクローリーへの補給（ディーゼル発電機燃料油貯油槽からディーゼル発電機燃料油移送ポンプにより補給する場合） ホース接続口</td> <td>・3V-06-333 接続口 ・ホース接続</td> </tr> <tr> <td></td> <td>14</td> <td>代替非常用発電機又は可搬型代替電源車による代替格納容器スプレッドポンプ電圧器及び代替用内電圧器電圧器系統構成</td> <td>・代替用内電圧器分電盤 ・B-アジェラック空気浄化ファン駆動機回路 ・SA用電動弁操作ケーブル収納箱 ・格納容器電圧器分電盤端子箱 ・SA用電動弁操作盤</td> </tr> </tbody> </table>	ルート区	対象場所	操作内容	操作対象機器及び操作項目		6	原子炉格納容器隔離弁の閉止	・原子炉格納容器内所内用空気供給ラインC/V 外側隔離弁		7	可搬型大型送水ポンプ車によるA-高圧注入ポンプへの補機冷却水（海水）通水 系統構成	・A-サンプル冷却器補機冷却水入口弁 ・B-サンプル冷却器補機冷却水入口弁		8	C、D-格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却 系統構成	・可搬型温度計測装置（格納容器再循環ユニット入口温度/出口温度）		9	可搬型大型送水ポンプ車を用いたC、D-格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却 系統構成	・A-サンプル冷却器補機冷却水入口弁 ・B-サンプル冷却器補機冷却水入口弁 ・可搬型温度計測装置（格納容器再循環ユニット入口温度/出口温度） ・A-ディーゼル発電機燃料油サービスタンク室二酸化炭素消火設備放出ロック盤		10	可搬型大型送水ポンプ車を用いたC、D-格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却 海水通水	・C、D-格納容器再循環ユニット補機冷却水排水ライン止め弁 (SA対策) ・C、D-格納容器再循環ユニット補機冷却水排水ライン絞り弁 (SA対策)		11	可搬型大型送水ポンプ車を用いたC、D-格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却 可搬型温度計測装置取付け（排水側）	・可搬型温度計測装置（格納容器再循環ユニット入口温度/出口温度） （排水側）取付箇所		12	ディーゼル発電機燃料油貯油槽又は燃料タンク (SA) から可搬型タンクローリーへの補給（ディーゼル発電機燃料油貯油槽からディーゼル発電機燃料油移送ポンプにより補給する場合） 系統構成	・A-ディーゼル発電機燃料油サービスタンク室二酸化炭素消火設備放出ロック盤 ・B-ディーゼル発電機燃料油サービスタンク室二酸化炭素消火設備放出ロック盤 ・B-燃料油移送ポンプ出口B側連絡弁 ・A-燃料油サービスタンク入口弁 ・A-燃料油サービスタンク油面制御弁 ・A-燃料油移送ポンプ出口A側連絡弁 ・燃料油移送ポンプ出口連絡サブリング弁 ・ホース敷設 ・B-燃料油サービスタンク入口弁 ・B-燃料油サービスタンク油面制御弁		13	ディーゼル発電機燃料油貯油槽から又は燃料タンク (SA) 可搬型タンクローリーへの補給（ディーゼル発電機燃料油貯油槽からディーゼル発電機燃料油移送ポンプにより補給する場合） ホース接続口	・3V-06-333 接続口 ・ホース接続		14	代替非常用発電機又は可搬型代替電源車による代替格納容器スプレッドポンプ電圧器及び代替用内電圧器電圧器系統構成	・代替用内電圧器分電盤 ・B-アジェラック空気浄化ファン駆動機回路 ・SA用電動弁操作ケーブル収納箱 ・格納容器電圧器分電盤端子箱 ・SA用電動弁操作盤	<p>【女川及び島根】記載表現の相違          ・泊は、操作内容を記載することで、各階層で実施する作業概要が分かるように記載している。</p>
ルート区	対象場所	操作内容	操作対象機器及び操作項目																																								
	6	原子炉格納容器隔離弁の閉止	・原子炉格納容器内所内用空気供給ラインC/V 外側隔離弁																																								
	7	可搬型大型送水ポンプ車によるA-高圧注入ポンプへの補機冷却水（海水）通水 系統構成	・A-サンプル冷却器補機冷却水入口弁 ・B-サンプル冷却器補機冷却水入口弁																																								
	8	C、D-格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却 系統構成	・可搬型温度計測装置（格納容器再循環ユニット入口温度/出口温度）																																								
	9	可搬型大型送水ポンプ車を用いたC、D-格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却 系統構成	・A-サンプル冷却器補機冷却水入口弁 ・B-サンプル冷却器補機冷却水入口弁 ・可搬型温度計測装置（格納容器再循環ユニット入口温度/出口温度） ・A-ディーゼル発電機燃料油サービスタンク室二酸化炭素消火設備放出ロック盤																																								
	10	可搬型大型送水ポンプ車を用いたC、D-格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却 海水通水	・C、D-格納容器再循環ユニット補機冷却水排水ライン止め弁 (SA対策) ・C、D-格納容器再循環ユニット補機冷却水排水ライン絞り弁 (SA対策)																																								
	11	可搬型大型送水ポンプ車を用いたC、D-格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却 可搬型温度計測装置取付け（排水側）	・可搬型温度計測装置（格納容器再循環ユニット入口温度/出口温度） （排水側）取付箇所																																								
	12	ディーゼル発電機燃料油貯油槽又は燃料タンク (SA) から可搬型タンクローリーへの補給（ディーゼル発電機燃料油貯油槽からディーゼル発電機燃料油移送ポンプにより補給する場合） 系統構成	・A-ディーゼル発電機燃料油サービスタンク室二酸化炭素消火設備放出ロック盤 ・B-ディーゼル発電機燃料油サービスタンク室二酸化炭素消火設備放出ロック盤 ・B-燃料油移送ポンプ出口B側連絡弁 ・A-燃料油サービスタンク入口弁 ・A-燃料油サービスタンク油面制御弁 ・A-燃料油移送ポンプ出口A側連絡弁 ・燃料油移送ポンプ出口連絡サブリング弁 ・ホース敷設 ・B-燃料油サービスタンク入口弁 ・B-燃料油サービスタンク油面制御弁																																								
	13	ディーゼル発電機燃料油貯油槽から又は燃料タンク (SA) 可搬型タンクローリーへの補給（ディーゼル発電機燃料油貯油槽からディーゼル発電機燃料油移送ポンプにより補給する場合） ホース接続口	・3V-06-333 接続口 ・ホース接続																																								
	14	代替非常用発電機又は可搬型代替電源車による代替格納容器スプレッドポンプ電圧器及び代替用内電圧器電圧器系統構成	・代替用内電圧器分電盤 ・B-アジェラック空気浄化ファン駆動機回路 ・SA用電動弁操作ケーブル収納箱 ・格納容器電圧器分電盤端子箱 ・SA用電動弁操作盤																																								

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																												
		<p style="text-align: center;">第2表 操作対象機器及び操作項目一覧(7/13)</p> <table border="1" data-bbox="1344 223 1957 1002"> <thead> <tr> <th>ルート</th> <th>対象箇所</th> <th>操作内容</th> <th>操作対象機器及び操作項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>15</td> <td>可搬型計測器によるパラメータ許容又は監視</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>可搬型計測器</li> <li>原子炉安全保護盤（チャンネルI）</li> <li>原子炉安全保護盤（チャンネルII）</li> <li>原子炉安全保護盤（チャンネルIII）</li> <li>原子炉安全保護盤（チャンネルIV）</li> <li>シビアアクシデント監視盤</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td></td> <td>16</td> <td>携帯型電話装置による連絡手段の確保</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>資機材</li> <li>携帯型電話装置</li> <li>携帯型電話装置ジャック箱</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td></td> <td>17</td> <td>可搬型照明（SA）の設置・点灯操作</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>資機材</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td></td> <td>18</td> <td>不要直流負荷切離し操作</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>安全系現場制御監視盤（トレンB）</li> <li>原子炉安全保護盤（チャンネルIV）</li> <li>安全系FIPプロセス（トレンB）</li> <li>安全系FIPプロセス（トレンA）</li> <li>安全系現場制御監視盤（トレンA）</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td></td> <td>19</td> <td>チェンジングエリアの設置 資機材準備</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>資機材</li> <li>可搬型照明（SA）</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td></td> <td>20</td> <td>チェンジングエリアの設置 エリア設置</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>チェンジングエリア</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td></td> <td>21</td> <td>中央制御室内の酸素及び二酸化炭素の濃度測定</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>酸素濃度・二酸化炭素濃度計</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td></td> <td>22</td> <td>代替原子炉補機冷却水ライン接続口</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>代替原子炉補機冷却水ライン接続口</li> <li>ホース接続</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td></td> <td>23</td> <td>ディーゼル発電機燃料油貯油機又は燃料タンク（SA）から可搬型タンクローリーへの供給（ディーゼル発電機燃料油貯油槽からディーゼル発電機燃料油移送ポンプにより供給する場合） ホース接続口</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>燃料油移送配管室内接続口</li> <li>ホース接続</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td></td> <td>24</td> <td>直流負荷復旧操作</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>安全系FIPプロセス（トレンA）</li> <li>安全系現場制御監視盤（トレンA）</li> <li>安全系FIPプロセス（トレンB）</li> <li>安全系現場制御監視盤（トレンB）</li> <li>原子炉安全保護盤（チャンネルIV）</li> <li>共通要因故障対策盤（自動制御盤）</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table>	ルート	対象箇所	操作内容	操作対象機器及び操作項目		15	可搬型計測器によるパラメータ許容又は監視	<ul style="list-style-type: none"> <li>可搬型計測器</li> <li>原子炉安全保護盤（チャンネルI）</li> <li>原子炉安全保護盤（チャンネルII）</li> <li>原子炉安全保護盤（チャンネルIII）</li> <li>原子炉安全保護盤（チャンネルIV）</li> <li>シビアアクシデント監視盤</li> </ul>		16	携帯型電話装置による連絡手段の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>資機材</li> <li>携帯型電話装置</li> <li>携帯型電話装置ジャック箱</li> </ul>		17	可搬型照明（SA）の設置・点灯操作	<ul style="list-style-type: none"> <li>資機材</li> </ul>		18	不要直流負荷切離し操作	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全系現場制御監視盤（トレンB）</li> <li>原子炉安全保護盤（チャンネルIV）</li> <li>安全系FIPプロセス（トレンB）</li> <li>安全系FIPプロセス（トレンA）</li> <li>安全系現場制御監視盤（トレンA）</li> </ul>		19	チェンジングエリアの設置 資機材準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>資機材</li> <li>可搬型照明（SA）</li> </ul>		20	チェンジングエリアの設置 エリア設置	<ul style="list-style-type: none"> <li>チェンジングエリア</li> </ul>		21	中央制御室内の酸素及び二酸化炭素の濃度測定	<ul style="list-style-type: none"> <li>酸素濃度・二酸化炭素濃度計</li> </ul>		22	代替原子炉補機冷却水ライン接続口	<ul style="list-style-type: none"> <li>代替原子炉補機冷却水ライン接続口</li> <li>ホース接続</li> </ul>		23	ディーゼル発電機燃料油貯油機又は燃料タンク（SA）から可搬型タンクローリーへの供給（ディーゼル発電機燃料油貯油槽からディーゼル発電機燃料油移送ポンプにより供給する場合） ホース接続口	<ul style="list-style-type: none"> <li>燃料油移送配管室内接続口</li> <li>ホース接続</li> </ul>		24	直流負荷復旧操作	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全系FIPプロセス（トレンA）</li> <li>安全系現場制御監視盤（トレンA）</li> <li>安全系FIPプロセス（トレンB）</li> <li>安全系現場制御監視盤（トレンB）</li> <li>原子炉安全保護盤（チャンネルIV）</li> <li>共通要因故障対策盤（自動制御盤）</li> </ul>	<p>【女川及び島根】記載表現の相違</p> <p>・泊は、操作内容を記載することで、各階層で実施する作業概要が分かるように記載している。</p>
ルート	対象箇所	操作内容	操作対象機器及び操作項目																																												
	15	可搬型計測器によるパラメータ許容又は監視	<ul style="list-style-type: none"> <li>可搬型計測器</li> <li>原子炉安全保護盤（チャンネルI）</li> <li>原子炉安全保護盤（チャンネルII）</li> <li>原子炉安全保護盤（チャンネルIII）</li> <li>原子炉安全保護盤（チャンネルIV）</li> <li>シビアアクシデント監視盤</li> </ul>																																												
	16	携帯型電話装置による連絡手段の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>資機材</li> <li>携帯型電話装置</li> <li>携帯型電話装置ジャック箱</li> </ul>																																												
	17	可搬型照明（SA）の設置・点灯操作	<ul style="list-style-type: none"> <li>資機材</li> </ul>																																												
	18	不要直流負荷切離し操作	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全系現場制御監視盤（トレンB）</li> <li>原子炉安全保護盤（チャンネルIV）</li> <li>安全系FIPプロセス（トレンB）</li> <li>安全系FIPプロセス（トレンA）</li> <li>安全系現場制御監視盤（トレンA）</li> </ul>																																												
	19	チェンジングエリアの設置 資機材準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>資機材</li> <li>可搬型照明（SA）</li> </ul>																																												
	20	チェンジングエリアの設置 エリア設置	<ul style="list-style-type: none"> <li>チェンジングエリア</li> </ul>																																												
	21	中央制御室内の酸素及び二酸化炭素の濃度測定	<ul style="list-style-type: none"> <li>酸素濃度・二酸化炭素濃度計</li> </ul>																																												
	22	代替原子炉補機冷却水ライン接続口	<ul style="list-style-type: none"> <li>代替原子炉補機冷却水ライン接続口</li> <li>ホース接続</li> </ul>																																												
	23	ディーゼル発電機燃料油貯油機又は燃料タンク（SA）から可搬型タンクローリーへの供給（ディーゼル発電機燃料油貯油槽からディーゼル発電機燃料油移送ポンプにより供給する場合） ホース接続口	<ul style="list-style-type: none"> <li>燃料油移送配管室内接続口</li> <li>ホース接続</li> </ul>																																												
	24	直流負荷復旧操作	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全系FIPプロセス（トレンA）</li> <li>安全系現場制御監視盤（トレンA）</li> <li>安全系FIPプロセス（トレンB）</li> <li>安全系現場制御監視盤（トレンB）</li> <li>原子炉安全保護盤（チャンネルIV）</li> <li>共通要因故障対策盤（自動制御盤）</li> </ul>																																												

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																						
		<p style="text-align: center;">第2表 操作対象機器及び操作項目一覧(8/13)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>ルート 図</th> <th>対象 箇所</th> <th>操作内容</th> <th>操作対象機器及び操作項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="11">①</td> <td>1</td> <td>現場手動操作によるタービン動補給水ポンプの起動 系統構成</td> <td>・タービン動補給水ポンプ駆動蒸気入口弁A ・タービン動補給水ポンプ駆動蒸気入口弁B</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>C、D-格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却 可搬型温度計測装置取付け（供給側）</td> <td>・可搬型温度計測装置（格納容器再循環ユニット入口温度/出口温度）（供給側）取付箇所</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>C、D-格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却 可搬型温度計測装置取付け（戻り側）</td> <td>・可搬型温度計測装置（格納容器再循環ユニット入口温度/出口温度）（戻り側）取付箇所</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>可搬型大型送水ポンプ車を用いたC、D-格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却 可搬型温度計測装置取付け（供給側）</td> <td>・可搬型温度計測装置（格納容器再循環ユニット入口温度/出口温度）（供給側）取付箇所</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>B-充てんポンプ（自己冷却）による原子炉容器への注水系統構成</td> <td>・充てんポンプ入口ベントライン止め弁 ・管機材 ・B-充てんポンプ自冷水供給ライン絞り弁（SA対策） ・B-充てんポンプ自冷水供給ライン止め弁（SA対策） ・B-充てんポンプ自冷水入口弁（SA対策） ・B-充てんポンプ自冷水入口ベント弁（SA対策） ・B-充てんポンプ自冷水戻りライン第2止め弁（SA対策） ・B-充てんポンプ自冷水出口弁（SA対策） ・B-充てんポンプ自冷水出口ラインベント弁（SA対策） ・B-充てんポンプ自冷水戻りライン第1止め弁（SA対策） ・充てんライン流量制御弁第2バイパスライン絞り弁（SA対策） ・B-充てんポンプミニフローライン止め弁 ・充てんライン流量制御弁前弁</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>代替格納容器スプレイポンプによる原子炉容器への注水起動準備</td> <td>・B-余熱除去冷却器出口格納容器スプレイ水注入ライン止め弁（SA対策）</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>B-格納容器スプレイポンプ（DBS-CSS 連絡ライン使用）による原子炉容器への注水系統構成</td> <td>・B-余熱除去冷却器出口格納容器スプレイ水注入ライン止め弁（SA対策）</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>海水を用いた可搬型大型送水ポンプ車による原子炉容器への注水 系統構成</td> <td>・B-余熱除去冷却器出口格納容器スプレイ水注入ライン止め弁（SA対策）</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>B-格納容器スプレイポンプ（DBS-CSS 連絡ライン使用）による代替再循環運転 系統構成</td> <td>・B-余熱除去冷却器出口格納容器スプレイ水注入ライン止め弁（SA対策）</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>燃料取替用水ピットから補助給水ピットへの切替え（原子炉容器への注水時の場合）系統構成</td> <td>・B-余熱除去冷却器出口格納容器スプレイ水注入ライン止め弁（SA対策）</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>代替格納容器スプレイポンプによる原子炉容器への注水（原子炉格納容器注水から原子炉容器注水への切替え）</td> <td>・B-余熱除去冷却器出口格納容器スプレイ水注入ライン止め弁（SA対策）</td> </tr> </tbody> </table>	ルート 図	対象 箇所	操作内容	操作対象機器及び操作項目	①	1	現場手動操作によるタービン動補給水ポンプの起動 系統構成	・タービン動補給水ポンプ駆動蒸気入口弁A ・タービン動補給水ポンプ駆動蒸気入口弁B	2	C、D-格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却 可搬型温度計測装置取付け（供給側）	・可搬型温度計測装置（格納容器再循環ユニット入口温度/出口温度）（供給側）取付箇所	3	C、D-格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却 可搬型温度計測装置取付け（戻り側）	・可搬型温度計測装置（格納容器再循環ユニット入口温度/出口温度）（戻り側）取付箇所	4	可搬型大型送水ポンプ車を用いたC、D-格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却 可搬型温度計測装置取付け（供給側）	・可搬型温度計測装置（格納容器再循環ユニット入口温度/出口温度）（供給側）取付箇所	5	B-充てんポンプ（自己冷却）による原子炉容器への注水系統構成	・充てんポンプ入口ベントライン止め弁 ・管機材 ・B-充てんポンプ自冷水供給ライン絞り弁（SA対策） ・B-充てんポンプ自冷水供給ライン止め弁（SA対策） ・B-充てんポンプ自冷水入口弁（SA対策） ・B-充てんポンプ自冷水入口ベント弁（SA対策） ・B-充てんポンプ自冷水戻りライン第2止め弁（SA対策） ・B-充てんポンプ自冷水出口弁（SA対策） ・B-充てんポンプ自冷水出口ラインベント弁（SA対策） ・B-充てんポンプ自冷水戻りライン第1止め弁（SA対策） ・充てんライン流量制御弁第2バイパスライン絞り弁（SA対策） ・B-充てんポンプミニフローライン止め弁 ・充てんライン流量制御弁前弁	6	代替格納容器スプレイポンプによる原子炉容器への注水起動準備	・B-余熱除去冷却器出口格納容器スプレイ水注入ライン止め弁（SA対策）	7	B-格納容器スプレイポンプ（DBS-CSS 連絡ライン使用）による原子炉容器への注水系統構成	・B-余熱除去冷却器出口格納容器スプレイ水注入ライン止め弁（SA対策）	8	海水を用いた可搬型大型送水ポンプ車による原子炉容器への注水 系統構成	・B-余熱除去冷却器出口格納容器スプレイ水注入ライン止め弁（SA対策）	9	B-格納容器スプレイポンプ（DBS-CSS 連絡ライン使用）による代替再循環運転 系統構成	・B-余熱除去冷却器出口格納容器スプレイ水注入ライン止め弁（SA対策）	10	燃料取替用水ピットから補助給水ピットへの切替え（原子炉容器への注水時の場合）系統構成	・B-余熱除去冷却器出口格納容器スプレイ水注入ライン止め弁（SA対策）	11	代替格納容器スプレイポンプによる原子炉容器への注水（原子炉格納容器注水から原子炉容器注水への切替え）	・B-余熱除去冷却器出口格納容器スプレイ水注入ライン止め弁（SA対策）	<p>【女川及び島根】記載表現の相違          ・泊は、操作内容を記載することで、各階層で実施する作業概要が分かるように記載している。</p>
ルート 図	対象 箇所	操作内容	操作対象機器及び操作項目																																						
①	1	現場手動操作によるタービン動補給水ポンプの起動 系統構成	・タービン動補給水ポンプ駆動蒸気入口弁A ・タービン動補給水ポンプ駆動蒸気入口弁B																																						
	2	C、D-格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却 可搬型温度計測装置取付け（供給側）	・可搬型温度計測装置（格納容器再循環ユニット入口温度/出口温度）（供給側）取付箇所																																						
	3	C、D-格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却 可搬型温度計測装置取付け（戻り側）	・可搬型温度計測装置（格納容器再循環ユニット入口温度/出口温度）（戻り側）取付箇所																																						
	4	可搬型大型送水ポンプ車を用いたC、D-格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却 可搬型温度計測装置取付け（供給側）	・可搬型温度計測装置（格納容器再循環ユニット入口温度/出口温度）（供給側）取付箇所																																						
	5	B-充てんポンプ（自己冷却）による原子炉容器への注水系統構成	・充てんポンプ入口ベントライン止め弁 ・管機材 ・B-充てんポンプ自冷水供給ライン絞り弁（SA対策） ・B-充てんポンプ自冷水供給ライン止め弁（SA対策） ・B-充てんポンプ自冷水入口弁（SA対策） ・B-充てんポンプ自冷水入口ベント弁（SA対策） ・B-充てんポンプ自冷水戻りライン第2止め弁（SA対策） ・B-充てんポンプ自冷水出口弁（SA対策） ・B-充てんポンプ自冷水出口ラインベント弁（SA対策） ・B-充てんポンプ自冷水戻りライン第1止め弁（SA対策） ・充てんライン流量制御弁第2バイパスライン絞り弁（SA対策） ・B-充てんポンプミニフローライン止め弁 ・充てんライン流量制御弁前弁																																						
	6	代替格納容器スプレイポンプによる原子炉容器への注水起動準備	・B-余熱除去冷却器出口格納容器スプレイ水注入ライン止め弁（SA対策）																																						
	7	B-格納容器スプレイポンプ（DBS-CSS 連絡ライン使用）による原子炉容器への注水系統構成	・B-余熱除去冷却器出口格納容器スプレイ水注入ライン止め弁（SA対策）																																						
	8	海水を用いた可搬型大型送水ポンプ車による原子炉容器への注水 系統構成	・B-余熱除去冷却器出口格納容器スプレイ水注入ライン止め弁（SA対策）																																						
	9	B-格納容器スプレイポンプ（DBS-CSS 連絡ライン使用）による代替再循環運転 系統構成	・B-余熱除去冷却器出口格納容器スプレイ水注入ライン止め弁（SA対策）																																						
	10	燃料取替用水ピットから補助給水ピットへの切替え（原子炉容器への注水時の場合）系統構成	・B-余熱除去冷却器出口格納容器スプレイ水注入ライン止め弁（SA対策）																																						
	11	代替格納容器スプレイポンプによる原子炉容器への注水（原子炉格納容器注水から原子炉容器注水への切替え）	・B-余熱除去冷却器出口格納容器スプレイ水注入ライン止め弁（SA対策）																																						

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																												
		<p style="text-align: center;"><b>第2表 操作対象機器及び操作項目一覧(9/13)</b></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 5%;">ルート 図</th> <th style="width: 10%;">対象 場所</th> <th style="width: 30%;">操作内容</th> <th style="width: 55%;">操作対象機器及び操作項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>1</td> <td>現場手動操作によるタービン 動補助給水ポンプの起動、系 統構成</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タービン動補助給水ポンプ入口弁</li> <li>・ホース接続</li> <li>・専用工具取付</li> <li>・タービン動補助給水ポンプタンクドレン弁</li> <li>・タービン動補助給水ポンプ起動速度制御ピストン 液供給電線弁パイパス弁</li> <li>・タービン動補助給水ポンプ軸受油止め弁</li> <li>・タービン動補助給水ポンプ起動速度制御ピストン</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td></td> <td>2</td> <td>現場手動操作によるタービン 動補助給水ポンプの起動、系 統構成</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タービン動補助給水ポンプ蒸気加熱弁</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td></td> <td>3</td> <td>タービン動補助給水ポンプ作 動状況確認</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タービン動補助給水ポンプ</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td></td> <td>4</td> <td>電動補助給水ポンプ作動状況 確認</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・B-電動補助給水ポンプ</li> <li>・A-電動補助給水ポンプ</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td></td> <td>5</td> <td>高水を用いた可搬型大型送水 ポンプ車による原子炉容器へ の注水、系統構成</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・代替格納容器スプレイポンプ接続ライン止め弁</li> <li>・代替格納容器スプレイポンプ出口弁心注水用絞り弁</li> <li>・代替格納容器スプレイポンプ出口格納容器スプレイ用絞り弁</li> <li>・代替格納容器スプレイポンプ出口可搬型ポンプ車接続ライン止め弁 (SA 制御)</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td></td> <td>6</td> <td>可搬型大型送水ポンプ車によ るA-高圧注入ポンプへの補 給冷却水（海水）通水、系統 構成</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・B-充てんポンプ、電動機補給冷却水A供給ライン第1切替弁</li> <li>・B-充てんポンプ、電動機補給冷却水A供給ライン第2切替弁</li> <li>・A-充てんポンプ、電動機補給冷却水出口弁</li> <li>・B-充てんポンプ、電動機補給冷却水B供給ライン第1切替弁</li> <li>・B-充てんポンプ、電動機補給冷却水B供給ライン第2切替弁</li> <li>・C-充てんポンプ、電動機補給冷却水出口弁</li> <li>・A-初期用空気圧縮装置補給冷却水入口弁</li> <li>・B-初期用空気圧縮装置補給冷却水入口弁</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td></td> <td>7</td> <td>可搬型大型送水ポンプ車を用 いたC、D-格納容器内循環 ユニットによる格納容器内自 然対流冷却、系統構成</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・B-充てんポンプ、電動機補給冷却水A供給ライン第1切替弁</li> <li>・B-充てんポンプ、電動機補給冷却水A供給ライン第2切替弁</li> <li>・A-充てんポンプ、電動機補給冷却水出口弁</li> <li>・B-充てんポンプ、電動機補給冷却水B供給ライン第1切替弁</li> <li>・B-充てんポンプ、電動機補給冷却水B供給ライン第2切替弁</li> <li>・C-充てんポンプ、電動機補給冷却水出口弁</li> <li>・A-初期用空気圧縮装置補給冷却水入口弁</li> <li>・B-初期用空気圧縮装置補給冷却水入口弁</li> <li>・A-ディーゼル発電機室二酸化炭素消火設備放出ロック錠</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td></td> <td>8</td> <td>可搬型大型送水ポンプ車 10m 接続口</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・可搬型大型送水ポンプ車 10m 接続口</li> <li>・ホース接続</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td></td> <td>9</td> <td>代替格納容器スプレイポンプ による原子炉容器への注水 起動準備</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・代替格納容器スプレイポンプ出口格納容器スプレイ用絞り弁</li> <li>・代替格納容器スプレイポンプ出口心注水用絞り弁</li> <li>・代替格納容器スプレイポンプ接続ライン止め弁</li> <li>・代替格納容器スプレイポンプ出口ベント弁</li> <li>・代替格納容器スプレイポンプ出口ベント弁</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td></td> <td>10</td> <td>代替格納容器スプレイポンプ による原子炉格納容器内への スプレイ起動準備又は代替格 納容器スプレイポンプによる 原子炉格納容器下部への注水 起動準備</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・代替格納容器スプレイポンプ接続ライン止め弁</li> <li>・代替格納容器スプレイポンプ出口ベント弁</li> <li>・代替格納容器スプレイポンプ出口ベント弁</li> <li>・代替格納容器スプレイポンプ出口格納容器スプレイ用絞り弁</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table>	ルート 図	対象 場所	操作内容	操作対象機器及び操作項目		1	現場手動操作によるタービン 動補助給水ポンプの起動、系 統構成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タービン動補助給水ポンプ入口弁</li> <li>・ホース接続</li> <li>・専用工具取付</li> <li>・タービン動補助給水ポンプタンクドレン弁</li> <li>・タービン動補助給水ポンプ起動速度制御ピストン 液供給電線弁パイパス弁</li> <li>・タービン動補助給水ポンプ軸受油止め弁</li> <li>・タービン動補助給水ポンプ起動速度制御ピストン</li> </ul>		2	現場手動操作によるタービン 動補助給水ポンプの起動、系 統構成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タービン動補助給水ポンプ蒸気加熱弁</li> </ul>		3	タービン動補助給水ポンプ作 動状況確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タービン動補助給水ポンプ</li> </ul>		4	電動補助給水ポンプ作動状況 確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>・B-電動補助給水ポンプ</li> <li>・A-電動補助給水ポンプ</li> </ul>		5	高水を用いた可搬型大型送水 ポンプ車による原子炉容器へ の注水、系統構成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・代替格納容器スプレイポンプ接続ライン止め弁</li> <li>・代替格納容器スプレイポンプ出口弁心注水用絞り弁</li> <li>・代替格納容器スプレイポンプ出口格納容器スプレイ用絞り弁</li> <li>・代替格納容器スプレイポンプ出口可搬型ポンプ車接続ライン止め弁 (SA 制御)</li> </ul>		6	可搬型大型送水ポンプ車によ るA-高圧注入ポンプへの補 給冷却水（海水）通水、系統 構成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・B-充てんポンプ、電動機補給冷却水A供給ライン第1切替弁</li> <li>・B-充てんポンプ、電動機補給冷却水A供給ライン第2切替弁</li> <li>・A-充てんポンプ、電動機補給冷却水出口弁</li> <li>・B-充てんポンプ、電動機補給冷却水B供給ライン第1切替弁</li> <li>・B-充てんポンプ、電動機補給冷却水B供給ライン第2切替弁</li> <li>・C-充てんポンプ、電動機補給冷却水出口弁</li> <li>・A-初期用空気圧縮装置補給冷却水入口弁</li> <li>・B-初期用空気圧縮装置補給冷却水入口弁</li> </ul>		7	可搬型大型送水ポンプ車を用 いたC、D-格納容器内循環 ユニットによる格納容器内自 然対流冷却、系統構成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・B-充てんポンプ、電動機補給冷却水A供給ライン第1切替弁</li> <li>・B-充てんポンプ、電動機補給冷却水A供給ライン第2切替弁</li> <li>・A-充てんポンプ、電動機補給冷却水出口弁</li> <li>・B-充てんポンプ、電動機補給冷却水B供給ライン第1切替弁</li> <li>・B-充てんポンプ、電動機補給冷却水B供給ライン第2切替弁</li> <li>・C-充てんポンプ、電動機補給冷却水出口弁</li> <li>・A-初期用空気圧縮装置補給冷却水入口弁</li> <li>・B-初期用空気圧縮装置補給冷却水入口弁</li> <li>・A-ディーゼル発電機室二酸化炭素消火設備放出ロック錠</li> </ul>		8	可搬型大型送水ポンプ車 10m 接続口	<ul style="list-style-type: none"> <li>・可搬型大型送水ポンプ車 10m 接続口</li> <li>・ホース接続</li> </ul>		9	代替格納容器スプレイポンプ による原子炉容器への注水 起動準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・代替格納容器スプレイポンプ出口格納容器スプレイ用絞り弁</li> <li>・代替格納容器スプレイポンプ出口心注水用絞り弁</li> <li>・代替格納容器スプレイポンプ接続ライン止め弁</li> <li>・代替格納容器スプレイポンプ出口ベント弁</li> <li>・代替格納容器スプレイポンプ出口ベント弁</li> </ul>		10	代替格納容器スプレイポンプ による原子炉格納容器内への スプレイ起動準備又は代替格 納容器スプレイポンプによる 原子炉格納容器下部への注水 起動準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・代替格納容器スプレイポンプ接続ライン止め弁</li> <li>・代替格納容器スプレイポンプ出口ベント弁</li> <li>・代替格納容器スプレイポンプ出口ベント弁</li> <li>・代替格納容器スプレイポンプ出口格納容器スプレイ用絞り弁</li> </ul>	<p>【女川及び島根】記載表 現の相違 ・泊は、操作内容を記載 することで、各階層で 実施する作業概要が分 かるように記載してい る。</p>
ルート 図	対象 場所	操作内容	操作対象機器及び操作項目																																												
	1	現場手動操作によるタービン 動補助給水ポンプの起動、系 統構成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タービン動補助給水ポンプ入口弁</li> <li>・ホース接続</li> <li>・専用工具取付</li> <li>・タービン動補助給水ポンプタンクドレン弁</li> <li>・タービン動補助給水ポンプ起動速度制御ピストン 液供給電線弁パイパス弁</li> <li>・タービン動補助給水ポンプ軸受油止め弁</li> <li>・タービン動補助給水ポンプ起動速度制御ピストン</li> </ul>																																												
	2	現場手動操作によるタービン 動補助給水ポンプの起動、系 統構成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タービン動補助給水ポンプ蒸気加熱弁</li> </ul>																																												
	3	タービン動補助給水ポンプ作 動状況確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タービン動補助給水ポンプ</li> </ul>																																												
	4	電動補助給水ポンプ作動状況 確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>・B-電動補助給水ポンプ</li> <li>・A-電動補助給水ポンプ</li> </ul>																																												
	5	高水を用いた可搬型大型送水 ポンプ車による原子炉容器へ の注水、系統構成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・代替格納容器スプレイポンプ接続ライン止め弁</li> <li>・代替格納容器スプレイポンプ出口弁心注水用絞り弁</li> <li>・代替格納容器スプレイポンプ出口格納容器スプレイ用絞り弁</li> <li>・代替格納容器スプレイポンプ出口可搬型ポンプ車接続ライン止め弁 (SA 制御)</li> </ul>																																												
	6	可搬型大型送水ポンプ車によ るA-高圧注入ポンプへの補 給冷却水（海水）通水、系統 構成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・B-充てんポンプ、電動機補給冷却水A供給ライン第1切替弁</li> <li>・B-充てんポンプ、電動機補給冷却水A供給ライン第2切替弁</li> <li>・A-充てんポンプ、電動機補給冷却水出口弁</li> <li>・B-充てんポンプ、電動機補給冷却水B供給ライン第1切替弁</li> <li>・B-充てんポンプ、電動機補給冷却水B供給ライン第2切替弁</li> <li>・C-充てんポンプ、電動機補給冷却水出口弁</li> <li>・A-初期用空気圧縮装置補給冷却水入口弁</li> <li>・B-初期用空気圧縮装置補給冷却水入口弁</li> </ul>																																												
	7	可搬型大型送水ポンプ車を用 いたC、D-格納容器内循環 ユニットによる格納容器内自 然対流冷却、系統構成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・B-充てんポンプ、電動機補給冷却水A供給ライン第1切替弁</li> <li>・B-充てんポンプ、電動機補給冷却水A供給ライン第2切替弁</li> <li>・A-充てんポンプ、電動機補給冷却水出口弁</li> <li>・B-充てんポンプ、電動機補給冷却水B供給ライン第1切替弁</li> <li>・B-充てんポンプ、電動機補給冷却水B供給ライン第2切替弁</li> <li>・C-充てんポンプ、電動機補給冷却水出口弁</li> <li>・A-初期用空気圧縮装置補給冷却水入口弁</li> <li>・B-初期用空気圧縮装置補給冷却水入口弁</li> <li>・A-ディーゼル発電機室二酸化炭素消火設備放出ロック錠</li> </ul>																																												
	8	可搬型大型送水ポンプ車 10m 接続口	<ul style="list-style-type: none"> <li>・可搬型大型送水ポンプ車 10m 接続口</li> <li>・ホース接続</li> </ul>																																												
	9	代替格納容器スプレイポンプ による原子炉容器への注水 起動準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・代替格納容器スプレイポンプ出口格納容器スプレイ用絞り弁</li> <li>・代替格納容器スプレイポンプ出口心注水用絞り弁</li> <li>・代替格納容器スプレイポンプ接続ライン止め弁</li> <li>・代替格納容器スプレイポンプ出口ベント弁</li> <li>・代替格納容器スプレイポンプ出口ベント弁</li> </ul>																																												
	10	代替格納容器スプレイポンプ による原子炉格納容器内への スプレイ起動準備又は代替格 納容器スプレイポンプによる 原子炉格納容器下部への注水 起動準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・代替格納容器スプレイポンプ接続ライン止め弁</li> <li>・代替格納容器スプレイポンプ出口ベント弁</li> <li>・代替格納容器スプレイポンプ出口ベント弁</li> <li>・代替格納容器スプレイポンプ出口格納容器スプレイ用絞り弁</li> </ul>																																												



泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																				
		<p style="text-align: center;">第2表 操作対象機器及び操作項目一覧(10/13)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 5%;">ルート</th> <th style="width: 5%;">対象場所</th> <th style="width: 35%;">操作内容</th> <th style="width: 55%;">操作対象機器及び操作項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>11</td> <td>代替格納容器スプレイポンプによる原子格納容器内へのスプレイ又は代替格納容器スプレイポンプによる原子格納容器下部への注水（原子格納容器から原子格納容器への切替え）</td> <td>・代替格納容器スプレイポンプ出口格納容器スプレイ用絞り弁 ・代替格納容器スプレイポンプ出口中心注水用絞り弁</td> </tr> <tr> <td></td> <td>12</td> <td>代替格納容器スプレイポンプ起動</td> <td>・代替格納容器スプレイポンプ操作盤</td> </tr> <tr> <td></td> <td>13</td> <td>B-充てんポンプ（自己冷却）による原子格納容器への注水系構成</td> <td>・B-充てんポンプ、電動機補機冷却水B供給ライン第1切替弁 ・B-充てんポンプ、電動機補機冷却水B供給ライン第2切替弁 ・B-充てんポンプ、電動機補機冷却水B戻りライン第1切替弁 ・B-充てんポンプ、電動機補機冷却水B戻りライン第2切替弁 ・B-充てんポンプ、電動機補機冷却水A供給ライン第1切替弁 ・B-充てんポンプ、電動機補機冷却水A供給ライン第2切替弁 ・B-充てんポンプ、電動機補機冷却水A戻りライン第1切替弁 ・B-充てんポンプ、電動機補機冷却水A戻りライン第2切替弁</td> </tr> <tr> <td></td> <td>14</td> <td>燃料取替用水ピットから補助給水ピットへの切替え（原子格納容器への注水の場合又は原子格納容器内へのスプレイ中の場合） 系構成</td> <td>・代替格納容器スプレイポンプ接続ライン止め弁 ・代替格納容器スプレイポンプ出口バント元弁 ・代替格納容器スプレイポンプ出口バント弁 ・代替格納容器スプレイポンプ出口格納容器スプレイ用絞り弁 ・代替格納容器スプレイポンプ出口中心注水用絞り弁</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15</td> <td>加圧器逃がし弁操作用バッテリーによる加圧器逃がし弁の機能回復 電源隔離</td> <td>・ソレノイド分電盤トレンA1 ・ソレノイド分電盤トレンB1</td> </tr> <tr> <td></td> <td>16</td> <td>加圧器逃がし弁操作用バッテリーによる加圧器逃がし弁の機能回復 ケーブル及び加圧器逃がし弁操作用バッテリー接続</td> <td>・加圧器逃がし弁操作用可搬型バッテリー ・ケーブル接続 ・ソレノイド分電盤トレンA1 ・ソレノイド分電盤トレンB1</td> </tr> <tr> <td></td> <td>17</td> <td>代替非常用発電機によるメタクラA系及びメタクラB系受電 受電解除</td> <td>・A1-パワーコントロールセンタ ・A2-パワーコントロールセンタ ・A-直流コントロールセンタ ・B2-原子炉コントロールセンタ ・A2-原子炉コントロールセンタ ・A1-原子炉コントロールセンタ ・B-直流コントロールセンタ ・B2-パワーコントロールセンタ ・B1-原子炉コントロールセンタ</td> </tr> <tr> <td></td> <td>18</td> <td>代替非常用発電機によるメタクラA系及びメタクラB系受電 受電操作</td> <td>・B-メタクラ ・B2-パワーコントロールセンタ ・B1-原子炉コントロールセンタ ・A-メタクラ ・A1-パワーコントロールセンタ ・A2-パワーコントロールセンタ ・B1-パワーコントロールセンタ ・A2-原子炉コントロールセンタ</td> </tr> </tbody> </table>	ルート	対象場所	操作内容	操作対象機器及び操作項目		11	代替格納容器スプレイポンプによる原子格納容器内へのスプレイ又は代替格納容器スプレイポンプによる原子格納容器下部への注水（原子格納容器から原子格納容器への切替え）	・代替格納容器スプレイポンプ出口格納容器スプレイ用絞り弁 ・代替格納容器スプレイポンプ出口中心注水用絞り弁		12	代替格納容器スプレイポンプ起動	・代替格納容器スプレイポンプ操作盤		13	B-充てんポンプ（自己冷却）による原子格納容器への注水系構成	・B-充てんポンプ、電動機補機冷却水B供給ライン第1切替弁 ・B-充てんポンプ、電動機補機冷却水B供給ライン第2切替弁 ・B-充てんポンプ、電動機補機冷却水B戻りライン第1切替弁 ・B-充てんポンプ、電動機補機冷却水B戻りライン第2切替弁 ・B-充てんポンプ、電動機補機冷却水A供給ライン第1切替弁 ・B-充てんポンプ、電動機補機冷却水A供給ライン第2切替弁 ・B-充てんポンプ、電動機補機冷却水A戻りライン第1切替弁 ・B-充てんポンプ、電動機補機冷却水A戻りライン第2切替弁		14	燃料取替用水ピットから補助給水ピットへの切替え（原子格納容器への注水の場合又は原子格納容器内へのスプレイ中の場合） 系構成	・代替格納容器スプレイポンプ接続ライン止め弁 ・代替格納容器スプレイポンプ出口バント元弁 ・代替格納容器スプレイポンプ出口バント弁 ・代替格納容器スプレイポンプ出口格納容器スプレイ用絞り弁 ・代替格納容器スプレイポンプ出口中心注水用絞り弁		15	加圧器逃がし弁操作用バッテリーによる加圧器逃がし弁の機能回復 電源隔離	・ソレノイド分電盤トレンA1 ・ソレノイド分電盤トレンB1		16	加圧器逃がし弁操作用バッテリーによる加圧器逃がし弁の機能回復 ケーブル及び加圧器逃がし弁操作用バッテリー接続	・加圧器逃がし弁操作用可搬型バッテリー ・ケーブル接続 ・ソレノイド分電盤トレンA1 ・ソレノイド分電盤トレンB1		17	代替非常用発電機によるメタクラA系及びメタクラB系受電 受電解除	・A1-パワーコントロールセンタ ・A2-パワーコントロールセンタ ・A-直流コントロールセンタ ・B2-原子炉コントロールセンタ ・A2-原子炉コントロールセンタ ・A1-原子炉コントロールセンタ ・B-直流コントロールセンタ ・B2-パワーコントロールセンタ ・B1-原子炉コントロールセンタ		18	代替非常用発電機によるメタクラA系及びメタクラB系受電 受電操作	・B-メタクラ ・B2-パワーコントロールセンタ ・B1-原子炉コントロールセンタ ・A-メタクラ ・A1-パワーコントロールセンタ ・A2-パワーコントロールセンタ ・B1-パワーコントロールセンタ ・A2-原子炉コントロールセンタ	<p>【女川及び島根】記載表現の相違              ・泊は、操作内容を記載することで、各階層で実施する作業概要が分かるように記載している。</p>
ルート	対象場所	操作内容	操作対象機器及び操作項目																																				
	11	代替格納容器スプレイポンプによる原子格納容器内へのスプレイ又は代替格納容器スプレイポンプによる原子格納容器下部への注水（原子格納容器から原子格納容器への切替え）	・代替格納容器スプレイポンプ出口格納容器スプレイ用絞り弁 ・代替格納容器スプレイポンプ出口中心注水用絞り弁																																				
	12	代替格納容器スプレイポンプ起動	・代替格納容器スプレイポンプ操作盤																																				
	13	B-充てんポンプ（自己冷却）による原子格納容器への注水系構成	・B-充てんポンプ、電動機補機冷却水B供給ライン第1切替弁 ・B-充てんポンプ、電動機補機冷却水B供給ライン第2切替弁 ・B-充てんポンプ、電動機補機冷却水B戻りライン第1切替弁 ・B-充てんポンプ、電動機補機冷却水B戻りライン第2切替弁 ・B-充てんポンプ、電動機補機冷却水A供給ライン第1切替弁 ・B-充てんポンプ、電動機補機冷却水A供給ライン第2切替弁 ・B-充てんポンプ、電動機補機冷却水A戻りライン第1切替弁 ・B-充てんポンプ、電動機補機冷却水A戻りライン第2切替弁																																				
	14	燃料取替用水ピットから補助給水ピットへの切替え（原子格納容器への注水の場合又は原子格納容器内へのスプレイ中の場合） 系構成	・代替格納容器スプレイポンプ接続ライン止め弁 ・代替格納容器スプレイポンプ出口バント元弁 ・代替格納容器スプレイポンプ出口バント弁 ・代替格納容器スプレイポンプ出口格納容器スプレイ用絞り弁 ・代替格納容器スプレイポンプ出口中心注水用絞り弁																																				
	15	加圧器逃がし弁操作用バッテリーによる加圧器逃がし弁の機能回復 電源隔離	・ソレノイド分電盤トレンA1 ・ソレノイド分電盤トレンB1																																				
	16	加圧器逃がし弁操作用バッテリーによる加圧器逃がし弁の機能回復 ケーブル及び加圧器逃がし弁操作用バッテリー接続	・加圧器逃がし弁操作用可搬型バッテリー ・ケーブル接続 ・ソレノイド分電盤トレンA1 ・ソレノイド分電盤トレンB1																																				
	17	代替非常用発電機によるメタクラA系及びメタクラB系受電 受電解除	・A1-パワーコントロールセンタ ・A2-パワーコントロールセンタ ・A-直流コントロールセンタ ・B2-原子炉コントロールセンタ ・A2-原子炉コントロールセンタ ・A1-原子炉コントロールセンタ ・B-直流コントロールセンタ ・B2-パワーコントロールセンタ ・B1-原子炉コントロールセンタ																																				
	18	代替非常用発電機によるメタクラA系及びメタクラB系受電 受電操作	・B-メタクラ ・B2-パワーコントロールセンタ ・B1-原子炉コントロールセンタ ・A-メタクラ ・A1-パワーコントロールセンタ ・A2-パワーコントロールセンタ ・B1-パワーコントロールセンタ ・A2-原子炉コントロールセンタ																																				

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																				
		<p style="text-align: center;">第2表 操作対象機器及び操作項目一覧(11/13)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 5%;">ルート 図</th> <th style="width: 10%;">対象 箇所</th> <th style="width: 20%;">操作内容</th> <th style="width: 65%;">操作対象機器及び操作項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>19</td> <td>可搬型代替電源車によるメタタラA系及びメタタラB系受電 受電準備</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・H-直流コントロールセンタ</li> <li>・A-直流コントロールセンタ</li> <li>・A1-パワーコントロールセンタ</li> <li>・B2-パワーコントロールセンタ</li> <li>・B1-原子炉コントロールセンタ</li> <li>・B2-原子炉コントロールセンタ</li> <li>・A2-原子炉コントロールセンタ</li> <li>・A1-原子炉コントロールセンタ</li> <li>・A2-パワーコントロールセンタ</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td></td> <td>20</td> <td>可搬型代替電源車によるメタタラA系及びメタタラB系受電 受電操作</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・H-メタタラ</li> <li>・H2-パワーコントロールセンタ</li> <li>・H2-原子炉コントロールセンタ</li> <li>・A-メタタラ</li> <li>・A1-パワーコントロールセンタ</li> <li>・A2-パワーコントロールセンタ</li> <li>・B1-パワーコントロールセンタ</li> <li>・A2-原子炉コントロールセンタ</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td></td> <td>21</td> <td>代替格納容器スプレイポンプ受電準備、受電操作（交流動力電源及び原子炉補機冷却機能が健全時である場合）</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・H-メタタラ</li> <li>・A-メタタラ</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td></td> <td>22</td> <td>蓄電直垂排気ファンコントロールセンタコネクタ熱替え、蓄電池充填気ファン起動</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・B2-原子炉コントロールセンタ</li> <li>・A2-原子炉コントロールセンタ</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td></td> <td>23</td> <td>充電器受電操作</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・H1-原子炉コントロールセンタ</li> <li>・A1-原子炉コントロールセンタ</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td></td> <td>24</td> <td>不要直流負荷切離し操作</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・A-直流コントロールセンタ</li> <li>・B-直流コントロールセンタ</li> <li>・A1-計装用交流分電盤</li> <li>・B1-計装用交流分電盤</li> <li>・D1-計装用交流分電盤</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td></td> <td>25</td> <td>代替非常用発電機又は可搬型代替電源車による代替格納容器スプレイポンプ系に緊急及び代替所内電気設備分電盤給電 系統構成</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・A1-原子炉コントロールセンタ</li> <li>・A2-原子炉コントロールセンタ</li> <li>・A-計装用インバータ交流電源切替器盤</li> <li>・H1-原子炉コントロールセンタ</li> <li>・C-計装用インバータ交流電源切替器盤</li> <li>・B-計装用インバータ交流電源切替器盤</li> <li>・D-計装用インバータ交流電源切替器盤</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td></td> <td>26</td> <td>可搬型代替直流電源設備による給電 直流母線受電準備</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・H-後備蓄電池接続盤</li> <li>・A-後備蓄電池接続盤</li> <li>・B-補助建屋直流分電盤</li> <li>・B-直流コントロールセンタ</li> <li>・H-直流コントロールセンタ電源盤</li> <li>・A-直流コントロールセンタ</li> <li>・A-直流コントロールセンタ電源盤</li> <li>・可搬型直流変換器</li> <li>・可搬型交流電源用ケーブル収納箱</li> <li>・ケーブル接続</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table>	ルート 図	対象 箇所	操作内容	操作対象機器及び操作項目		19	可搬型代替電源車によるメタタラA系及びメタタラB系受電 受電準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H-直流コントロールセンタ</li> <li>・A-直流コントロールセンタ</li> <li>・A1-パワーコントロールセンタ</li> <li>・B2-パワーコントロールセンタ</li> <li>・B1-原子炉コントロールセンタ</li> <li>・B2-原子炉コントロールセンタ</li> <li>・A2-原子炉コントロールセンタ</li> <li>・A1-原子炉コントロールセンタ</li> <li>・A2-パワーコントロールセンタ</li> </ul>		20	可搬型代替電源車によるメタタラA系及びメタタラB系受電 受電操作	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H-メタタラ</li> <li>・H2-パワーコントロールセンタ</li> <li>・H2-原子炉コントロールセンタ</li> <li>・A-メタタラ</li> <li>・A1-パワーコントロールセンタ</li> <li>・A2-パワーコントロールセンタ</li> <li>・B1-パワーコントロールセンタ</li> <li>・A2-原子炉コントロールセンタ</li> </ul>		21	代替格納容器スプレイポンプ受電準備、受電操作（交流動力電源及び原子炉補機冷却機能が健全時である場合）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H-メタタラ</li> <li>・A-メタタラ</li> </ul>		22	蓄電直垂排気ファンコントロールセンタコネクタ熱替え、蓄電池充填気ファン起動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・B2-原子炉コントロールセンタ</li> <li>・A2-原子炉コントロールセンタ</li> </ul>		23	充電器受電操作	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H1-原子炉コントロールセンタ</li> <li>・A1-原子炉コントロールセンタ</li> </ul>		24	不要直流負荷切離し操作	<ul style="list-style-type: none"> <li>・A-直流コントロールセンタ</li> <li>・B-直流コントロールセンタ</li> <li>・A1-計装用交流分電盤</li> <li>・B1-計装用交流分電盤</li> <li>・D1-計装用交流分電盤</li> </ul>		25	代替非常用発電機又は可搬型代替電源車による代替格納容器スプレイポンプ系に緊急及び代替所内電気設備分電盤給電 系統構成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・A1-原子炉コントロールセンタ</li> <li>・A2-原子炉コントロールセンタ</li> <li>・A-計装用インバータ交流電源切替器盤</li> <li>・H1-原子炉コントロールセンタ</li> <li>・C-計装用インバータ交流電源切替器盤</li> <li>・B-計装用インバータ交流電源切替器盤</li> <li>・D-計装用インバータ交流電源切替器盤</li> </ul>		26	可搬型代替直流電源設備による給電 直流母線受電準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H-後備蓄電池接続盤</li> <li>・A-後備蓄電池接続盤</li> <li>・B-補助建屋直流分電盤</li> <li>・B-直流コントロールセンタ</li> <li>・H-直流コントロールセンタ電源盤</li> <li>・A-直流コントロールセンタ</li> <li>・A-直流コントロールセンタ電源盤</li> <li>・可搬型直流変換器</li> <li>・可搬型交流電源用ケーブル収納箱</li> <li>・ケーブル接続</li> </ul>	<p>【女川及び島根】記載表現の相違</p> <p>・泊は、操作内容を記載することで、各階層で実施する作業概要が分かるように記載している。</p>
ルート 図	対象 箇所	操作内容	操作対象機器及び操作項目																																				
	19	可搬型代替電源車によるメタタラA系及びメタタラB系受電 受電準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H-直流コントロールセンタ</li> <li>・A-直流コントロールセンタ</li> <li>・A1-パワーコントロールセンタ</li> <li>・B2-パワーコントロールセンタ</li> <li>・B1-原子炉コントロールセンタ</li> <li>・B2-原子炉コントロールセンタ</li> <li>・A2-原子炉コントロールセンタ</li> <li>・A1-原子炉コントロールセンタ</li> <li>・A2-パワーコントロールセンタ</li> </ul>																																				
	20	可搬型代替電源車によるメタタラA系及びメタタラB系受電 受電操作	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H-メタタラ</li> <li>・H2-パワーコントロールセンタ</li> <li>・H2-原子炉コントロールセンタ</li> <li>・A-メタタラ</li> <li>・A1-パワーコントロールセンタ</li> <li>・A2-パワーコントロールセンタ</li> <li>・B1-パワーコントロールセンタ</li> <li>・A2-原子炉コントロールセンタ</li> </ul>																																				
	21	代替格納容器スプレイポンプ受電準備、受電操作（交流動力電源及び原子炉補機冷却機能が健全時である場合）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H-メタタラ</li> <li>・A-メタタラ</li> </ul>																																				
	22	蓄電直垂排気ファンコントロールセンタコネクタ熱替え、蓄電池充填気ファン起動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・B2-原子炉コントロールセンタ</li> <li>・A2-原子炉コントロールセンタ</li> </ul>																																				
	23	充電器受電操作	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H1-原子炉コントロールセンタ</li> <li>・A1-原子炉コントロールセンタ</li> </ul>																																				
	24	不要直流負荷切離し操作	<ul style="list-style-type: none"> <li>・A-直流コントロールセンタ</li> <li>・B-直流コントロールセンタ</li> <li>・A1-計装用交流分電盤</li> <li>・B1-計装用交流分電盤</li> <li>・D1-計装用交流分電盤</li> </ul>																																				
	25	代替非常用発電機又は可搬型代替電源車による代替格納容器スプレイポンプ系に緊急及び代替所内電気設備分電盤給電 系統構成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・A1-原子炉コントロールセンタ</li> <li>・A2-原子炉コントロールセンタ</li> <li>・A-計装用インバータ交流電源切替器盤</li> <li>・H1-原子炉コントロールセンタ</li> <li>・C-計装用インバータ交流電源切替器盤</li> <li>・B-計装用インバータ交流電源切替器盤</li> <li>・D-計装用インバータ交流電源切替器盤</li> </ul>																																				
	26	可搬型代替直流電源設備による給電 直流母線受電準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H-後備蓄電池接続盤</li> <li>・A-後備蓄電池接続盤</li> <li>・B-補助建屋直流分電盤</li> <li>・B-直流コントロールセンタ</li> <li>・H-直流コントロールセンタ電源盤</li> <li>・A-直流コントロールセンタ</li> <li>・A-直流コントロールセンタ電源盤</li> <li>・可搬型直流変換器</li> <li>・可搬型交流電源用ケーブル収納箱</li> <li>・ケーブル接続</li> </ul>																																				

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																	
		<p style="text-align: center;">第2表 操作対象機器及び操作項目一覧(12/13)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 5%;">ルート 図</th> <th style="width: 5%;">対象 箇所</th> <th style="width: 35%;">操作内容</th> <th style="width: 55%;">操作対象機器及び操作項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6" style="text-align: center; vertical-align: middle;">㉓</td> <td style="text-align: center;">27</td> <td>可搬型代替直流電源設備による給電</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ B-1後係留電池接続盤</li> <li>・ B-充電器盤</li> <li>・ A-後係留電池接続盤</li> <li>・ A-充電器盤</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">28</td> <td>ディーゼル発電機燃料油貯油槽又は燃料タンク(SA)から可搬型タンクローリーへの補給(ディーゼル発電機燃料油貯油槽からディーゼル発電機燃料油移送ポンプにより補給する場合) 系統構成</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ A-ディーゼル発電機室二酸化炭素消火設備放出ロック盤</li> <li>・ B-ディーゼル発電機室二酸化炭素消火設備放出ロック盤</li> <li>・ A-ディーゼル発電機コントロールセンター</li> <li>・ A-1-原子炉コントロールセンター</li> <li>・ B-ディーゼル発電機コントロールセンター</li> <li>・ B-1-原子炉コントロールセンター</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">29</td> <td>ディーゼル発電機燃料油移送ポンプ起動・停止</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ A-ディーゼル発電機コントロールセンター</li> <li>・ B-ディーゼル発電機コントロールセンター</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">30</td> <td>携行型通話装置による連絡手段の確保</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 携行型通話装置ジャック箱</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">31</td> <td>破損系列の余熱除去系隔離操作</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 余熱除去ポンプ入口弁操作用可搬型空気ポンプ</li> <li>・ 余熱除去ポンプ入口弁遠隔操作スイッチ</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">32</td> <td>直流負荷復帰操作</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ A-直流コントロールセンター</li> <li>・ B-直流コントロールセンター</li> <li>・ B-1-計装用交流分電盤</li> <li>・ D-1-計装用交流分電盤</li> <li>・ A-1-計装用交流分電盤</li> <li>・ C-計装用インバータ</li> <li>・ B-補助建屋直流分電盤</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td rowspan="3" style="text-align: center; vertical-align: middle;">㉔</td> <td style="text-align: center;">1</td> <td>可搬型大型送水ポンプ車によるA-高圧注入ポンプへの補機冷却水(海水) 通水 系統構成</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 原子炉補機冷却水モニタBライン入口止め弁</li> <li>・ C、D-原子炉補機冷却水ポンプ電動機補機冷却水出口弁</li> <li>・ 原子炉補機冷却水モニタBライン戻り弁</li> <li>・ 原子炉補機冷却水モニタAライン戻り弁</li> <li>・ A、B-原子炉補機冷却水ポンプ電動機補機冷却水出口弁</li> <li>・ C-原子炉補機冷却水供給管止め弁</li> <li>・ 原子炉補機冷却水モニタAライン入口止め弁</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>可搬型大型送水ポンプ車を用いたC、D-熱納容器再蒸発ユニットによる熱納容器内自然対流冷却 系統構成</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 原子炉補機冷却水モニタBライン入口止め弁</li> <li>・ C、D-原子炉補機冷却水ポンプ電動機補機冷却水出口弁</li> <li>・ 原子炉補機冷却水モニタBライン戻り弁</li> <li>・ 原子炉補機冷却水モニタAライン戻り弁</li> <li>・ A、B-原子炉補機冷却水ポンプ電動機補機冷却水出口弁</li> <li>・ C-原子炉補機冷却水供給管止め弁</li> <li>・ 原子炉補機冷却水モニタAライン入口止め弁</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>ディーゼル発電機燃料油貯油槽から又は燃料タンク(SA)可搬型タンクローリーへの補給(ディーゼル発電機燃料油貯油槽からディーゼル発電機燃料油移送ポンプにより補給する場合) 系統構成</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ A-燃料油手動ポンプ出口弁</li> <li>・ A-燃料油移送ポンプ入口弁</li> <li>・ A-燃料油移送ポンプ出口弁</li> <li>・ B-燃料油手動ポンプ出口弁</li> <li>・ B-燃料油移送ポンプ入口弁</li> <li>・ B-燃料油移送ポンプ出口弁</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table>	ルート 図	対象 箇所	操作内容	操作対象機器及び操作項目	㉓	27	可搬型代替直流電源設備による給電	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ B-1後係留電池接続盤</li> <li>・ B-充電器盤</li> <li>・ A-後係留電池接続盤</li> <li>・ A-充電器盤</li> </ul>	28	ディーゼル発電機燃料油貯油槽又は燃料タンク(SA)から可搬型タンクローリーへの補給(ディーゼル発電機燃料油貯油槽からディーゼル発電機燃料油移送ポンプにより補給する場合) 系統構成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ A-ディーゼル発電機室二酸化炭素消火設備放出ロック盤</li> <li>・ B-ディーゼル発電機室二酸化炭素消火設備放出ロック盤</li> <li>・ A-ディーゼル発電機コントロールセンター</li> <li>・ A-1-原子炉コントロールセンター</li> <li>・ B-ディーゼル発電機コントロールセンター</li> <li>・ B-1-原子炉コントロールセンター</li> </ul>	29	ディーゼル発電機燃料油移送ポンプ起動・停止	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ A-ディーゼル発電機コントロールセンター</li> <li>・ B-ディーゼル発電機コントロールセンター</li> </ul>	30	携行型通話装置による連絡手段の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 携行型通話装置ジャック箱</li> </ul>	31	破損系列の余熱除去系隔離操作	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 余熱除去ポンプ入口弁操作用可搬型空気ポンプ</li> <li>・ 余熱除去ポンプ入口弁遠隔操作スイッチ</li> </ul>	32	直流負荷復帰操作	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ A-直流コントロールセンター</li> <li>・ B-直流コントロールセンター</li> <li>・ B-1-計装用交流分電盤</li> <li>・ D-1-計装用交流分電盤</li> <li>・ A-1-計装用交流分電盤</li> <li>・ C-計装用インバータ</li> <li>・ B-補助建屋直流分電盤</li> </ul>	㉔	1	可搬型大型送水ポンプ車によるA-高圧注入ポンプへの補機冷却水(海水) 通水 系統構成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 原子炉補機冷却水モニタBライン入口止め弁</li> <li>・ C、D-原子炉補機冷却水ポンプ電動機補機冷却水出口弁</li> <li>・ 原子炉補機冷却水モニタBライン戻り弁</li> <li>・ 原子炉補機冷却水モニタAライン戻り弁</li> <li>・ A、B-原子炉補機冷却水ポンプ電動機補機冷却水出口弁</li> <li>・ C-原子炉補機冷却水供給管止め弁</li> <li>・ 原子炉補機冷却水モニタAライン入口止め弁</li> </ul>	2	可搬型大型送水ポンプ車を用いたC、D-熱納容器再蒸発ユニットによる熱納容器内自然対流冷却 系統構成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 原子炉補機冷却水モニタBライン入口止め弁</li> <li>・ C、D-原子炉補機冷却水ポンプ電動機補機冷却水出口弁</li> <li>・ 原子炉補機冷却水モニタBライン戻り弁</li> <li>・ 原子炉補機冷却水モニタAライン戻り弁</li> <li>・ A、B-原子炉補機冷却水ポンプ電動機補機冷却水出口弁</li> <li>・ C-原子炉補機冷却水供給管止め弁</li> <li>・ 原子炉補機冷却水モニタAライン入口止め弁</li> </ul>	3	ディーゼル発電機燃料油貯油槽から又は燃料タンク(SA)可搬型タンクローリーへの補給(ディーゼル発電機燃料油貯油槽からディーゼル発電機燃料油移送ポンプにより補給する場合) 系統構成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ A-燃料油手動ポンプ出口弁</li> <li>・ A-燃料油移送ポンプ入口弁</li> <li>・ A-燃料油移送ポンプ出口弁</li> <li>・ B-燃料油手動ポンプ出口弁</li> <li>・ B-燃料油移送ポンプ入口弁</li> <li>・ B-燃料油移送ポンプ出口弁</li> </ul>	<p>【女川及び島根】記載表現の相違</p> <p>・ 泊は、操作内容を記載することで、各階層で実施する作業概要が分かるように記載している。</p>
ルート 図	対象 箇所	操作内容	操作対象機器及び操作項目																																	
㉓	27	可搬型代替直流電源設備による給電	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ B-1後係留電池接続盤</li> <li>・ B-充電器盤</li> <li>・ A-後係留電池接続盤</li> <li>・ A-充電器盤</li> </ul>																																	
	28	ディーゼル発電機燃料油貯油槽又は燃料タンク(SA)から可搬型タンクローリーへの補給(ディーゼル発電機燃料油貯油槽からディーゼル発電機燃料油移送ポンプにより補給する場合) 系統構成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ A-ディーゼル発電機室二酸化炭素消火設備放出ロック盤</li> <li>・ B-ディーゼル発電機室二酸化炭素消火設備放出ロック盤</li> <li>・ A-ディーゼル発電機コントロールセンター</li> <li>・ A-1-原子炉コントロールセンター</li> <li>・ B-ディーゼル発電機コントロールセンター</li> <li>・ B-1-原子炉コントロールセンター</li> </ul>																																	
	29	ディーゼル発電機燃料油移送ポンプ起動・停止	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ A-ディーゼル発電機コントロールセンター</li> <li>・ B-ディーゼル発電機コントロールセンター</li> </ul>																																	
	30	携行型通話装置による連絡手段の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 携行型通話装置ジャック箱</li> </ul>																																	
	31	破損系列の余熱除去系隔離操作	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 余熱除去ポンプ入口弁操作用可搬型空気ポンプ</li> <li>・ 余熱除去ポンプ入口弁遠隔操作スイッチ</li> </ul>																																	
	32	直流負荷復帰操作	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ A-直流コントロールセンター</li> <li>・ B-直流コントロールセンター</li> <li>・ B-1-計装用交流分電盤</li> <li>・ D-1-計装用交流分電盤</li> <li>・ A-1-計装用交流分電盤</li> <li>・ C-計装用インバータ</li> <li>・ B-補助建屋直流分電盤</li> </ul>																																	
㉔	1	可搬型大型送水ポンプ車によるA-高圧注入ポンプへの補機冷却水(海水) 通水 系統構成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 原子炉補機冷却水モニタBライン入口止め弁</li> <li>・ C、D-原子炉補機冷却水ポンプ電動機補機冷却水出口弁</li> <li>・ 原子炉補機冷却水モニタBライン戻り弁</li> <li>・ 原子炉補機冷却水モニタAライン戻り弁</li> <li>・ A、B-原子炉補機冷却水ポンプ電動機補機冷却水出口弁</li> <li>・ C-原子炉補機冷却水供給管止め弁</li> <li>・ 原子炉補機冷却水モニタAライン入口止め弁</li> </ul>																																	
	2	可搬型大型送水ポンプ車を用いたC、D-熱納容器再蒸発ユニットによる熱納容器内自然対流冷却 系統構成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 原子炉補機冷却水モニタBライン入口止め弁</li> <li>・ C、D-原子炉補機冷却水ポンプ電動機補機冷却水出口弁</li> <li>・ 原子炉補機冷却水モニタBライン戻り弁</li> <li>・ 原子炉補機冷却水モニタAライン戻り弁</li> <li>・ A、B-原子炉補機冷却水ポンプ電動機補機冷却水出口弁</li> <li>・ C-原子炉補機冷却水供給管止め弁</li> <li>・ 原子炉補機冷却水モニタAライン入口止め弁</li> </ul>																																	
	3	ディーゼル発電機燃料油貯油槽から又は燃料タンク(SA)可搬型タンクローリーへの補給(ディーゼル発電機燃料油貯油槽からディーゼル発電機燃料油移送ポンプにより補給する場合) 系統構成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ A-燃料油手動ポンプ出口弁</li> <li>・ A-燃料油移送ポンプ入口弁</li> <li>・ A-燃料油移送ポンプ出口弁</li> <li>・ B-燃料油手動ポンプ出口弁</li> <li>・ B-燃料油移送ポンプ入口弁</li> <li>・ B-燃料油移送ポンプ出口弁</li> </ul>																																	

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																											
		<p style="text-align: center;">第2表 操作対象機器及び操作項目一覧(13/13)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="1346 197 1424 223">シート 順</th> <th data-bbox="1424 197 1563 223">対象 場所</th> <th data-bbox="1563 197 1688 223">操作内容</th> <th data-bbox="1688 197 1955 223">操作対象機器及び操作項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">前</td> <td>1</td> <td>可搬型大型送水ポンプ車B母管接続口</td> <td>・可搬型大型送水ポンプ車B母管接続口 ・ホース接続</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>可搬型大型送水ポンプ車A母管接続口</td> <td>・可搬型大型送水ポンプ車A母管接続口 ・ホース接続</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>可搬型大型送水ポンプ車によるA-高圧注入ポンプへの補機冷却水（海水）通水 系統構成</td> <td>・D-原子炉補機冷却水冷却器出口海水供給ライン止め弁 (SA対策) ・A-原子炉補機冷却水冷却器出口海水供給ライン止め弁 (SA対策)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>可搬型大型送水ポンプ車を用いたC、D-格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却 系統構成</td> <td>・D-原子炉補機冷却水冷却器出口海水供給ライン止め弁 (SA対策) ・A-原子炉補機冷却水冷却器出口海水供給ライン止め弁 (SA対策)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>可搬型大型送水ポンプ車によるA-高圧注入ポンプへの補機冷却水（海水）通水 通水操作</td> <td>・D-原子炉補機冷却水冷却器出口海水供給ライン止め弁 (SA対策) ・A-原子炉補機冷却水冷却器出口海水供給ライン止め弁 (SA対策)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">中</td> <td>1</td> <td>可搬型大型送水ポンプ車によるA-高圧注入ポンプへの補機冷却水（海水）通水 系統構成</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・B-高圧注入ポンプ電動機補機冷却水出口弁</li> <li>・B-高圧注入ポンプ、油冷却器補機冷却水出口弁</li> <li>・B-格納容器スプレイポンプ補機冷却水出口止め弁</li> <li>・B-余熱除去ポンプ電動機補機冷却水出口弁</li> <li>・B-余熱除去ポンプ補機冷却水出口弁</li> <li>・A-余熱除去ポンプ電動機補機冷却水出口弁</li> <li>・A-余熱除去ポンプ補機冷却水出口弁</li> <li>・A-格納容器スプレイポンプ電動機補機冷却水出口弁</li> <li>・A-格納容器スプレイポンプ補機冷却水出口弁</li> <li>・A-高圧注入ポンプ電動機補機冷却水出口弁</li> <li>・A-高圧注入ポンプ、油冷却器補機冷却水出口弁</li> <li>・A-高圧注入ポンプ電動機補機冷却水流量 (AM用)</li> <li>・A-高圧注入ポンプ及び油冷却器補機冷却水流量 (AM用)</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>可搬型大型送水ポンプ車を用いたC、D-格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却 系統構成</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・B-高圧注入ポンプ電動機補機冷却水出口弁</li> <li>・B-高圧注入ポンプ、油冷却器補機冷却水出口弁</li> <li>・B-格納容器スプレイポンプ補機冷却水出口止め弁</li> <li>・B-余熱除去ポンプ電動機補機冷却水出口弁</li> <li>・B-余熱除去ポンプ補機冷却水出口弁</li> <li>・A-余熱除去ポンプ電動機補機冷却水出口弁</li> <li>・A-余熱除去ポンプ補機冷却水出口弁</li> <li>・A-格納容器スプレイポンプ電動機補機冷却水出口弁</li> <li>・A-格納容器スプレイポンプ補機冷却水出口弁</li> <li>・A-高圧注入ポンプ電動機補機冷却水出口弁</li> <li>・A-高圧注入ポンプ、油冷却器補機冷却水出口弁</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table>	シート 順	対象 場所	操作内容	操作対象機器及び操作項目	前	1	可搬型大型送水ポンプ車B母管接続口	・可搬型大型送水ポンプ車B母管接続口 ・ホース接続	2	可搬型大型送水ポンプ車A母管接続口	・可搬型大型送水ポンプ車A母管接続口 ・ホース接続	3	可搬型大型送水ポンプ車によるA-高圧注入ポンプへの補機冷却水（海水）通水 系統構成	・D-原子炉補機冷却水冷却器出口海水供給ライン止め弁 (SA対策) ・A-原子炉補機冷却水冷却器出口海水供給ライン止め弁 (SA対策)	4	可搬型大型送水ポンプ車を用いたC、D-格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却 系統構成	・D-原子炉補機冷却水冷却器出口海水供給ライン止め弁 (SA対策) ・A-原子炉補機冷却水冷却器出口海水供給ライン止め弁 (SA対策)	5	可搬型大型送水ポンプ車によるA-高圧注入ポンプへの補機冷却水（海水）通水 通水操作	・D-原子炉補機冷却水冷却器出口海水供給ライン止め弁 (SA対策) ・A-原子炉補機冷却水冷却器出口海水供給ライン止め弁 (SA対策)	中	1	可搬型大型送水ポンプ車によるA-高圧注入ポンプへの補機冷却水（海水）通水 系統構成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・B-高圧注入ポンプ電動機補機冷却水出口弁</li> <li>・B-高圧注入ポンプ、油冷却器補機冷却水出口弁</li> <li>・B-格納容器スプレイポンプ補機冷却水出口止め弁</li> <li>・B-余熱除去ポンプ電動機補機冷却水出口弁</li> <li>・B-余熱除去ポンプ補機冷却水出口弁</li> <li>・A-余熱除去ポンプ電動機補機冷却水出口弁</li> <li>・A-余熱除去ポンプ補機冷却水出口弁</li> <li>・A-格納容器スプレイポンプ電動機補機冷却水出口弁</li> <li>・A-格納容器スプレイポンプ補機冷却水出口弁</li> <li>・A-高圧注入ポンプ電動機補機冷却水出口弁</li> <li>・A-高圧注入ポンプ、油冷却器補機冷却水出口弁</li> <li>・A-高圧注入ポンプ電動機補機冷却水流量 (AM用)</li> <li>・A-高圧注入ポンプ及び油冷却器補機冷却水流量 (AM用)</li> </ul>	2	可搬型大型送水ポンプ車を用いたC、D-格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却 系統構成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・B-高圧注入ポンプ電動機補機冷却水出口弁</li> <li>・B-高圧注入ポンプ、油冷却器補機冷却水出口弁</li> <li>・B-格納容器スプレイポンプ補機冷却水出口止め弁</li> <li>・B-余熱除去ポンプ電動機補機冷却水出口弁</li> <li>・B-余熱除去ポンプ補機冷却水出口弁</li> <li>・A-余熱除去ポンプ電動機補機冷却水出口弁</li> <li>・A-余熱除去ポンプ補機冷却水出口弁</li> <li>・A-格納容器スプレイポンプ電動機補機冷却水出口弁</li> <li>・A-格納容器スプレイポンプ補機冷却水出口弁</li> <li>・A-高圧注入ポンプ電動機補機冷却水出口弁</li> <li>・A-高圧注入ポンプ、油冷却器補機冷却水出口弁</li> </ul>	<p>【女川及び島根】記載表現の相違</p> <p>・泊は、操作内容を記載することで、各階層で実施する作業概要が分かるように記載している。</p>
シート 順	対象 場所	操作内容	操作対象機器及び操作項目																											
前	1	可搬型大型送水ポンプ車B母管接続口	・可搬型大型送水ポンプ車B母管接続口 ・ホース接続																											
	2	可搬型大型送水ポンプ車A母管接続口	・可搬型大型送水ポンプ車A母管接続口 ・ホース接続																											
	3	可搬型大型送水ポンプ車によるA-高圧注入ポンプへの補機冷却水（海水）通水 系統構成	・D-原子炉補機冷却水冷却器出口海水供給ライン止め弁 (SA対策) ・A-原子炉補機冷却水冷却器出口海水供給ライン止め弁 (SA対策)																											
	4	可搬型大型送水ポンプ車を用いたC、D-格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却 系統構成	・D-原子炉補機冷却水冷却器出口海水供給ライン止め弁 (SA対策) ・A-原子炉補機冷却水冷却器出口海水供給ライン止め弁 (SA対策)																											
	5	可搬型大型送水ポンプ車によるA-高圧注入ポンプへの補機冷却水（海水）通水 通水操作	・D-原子炉補機冷却水冷却器出口海水供給ライン止め弁 (SA対策) ・A-原子炉補機冷却水冷却器出口海水供給ライン止め弁 (SA対策)																											
中	1	可搬型大型送水ポンプ車によるA-高圧注入ポンプへの補機冷却水（海水）通水 系統構成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・B-高圧注入ポンプ電動機補機冷却水出口弁</li> <li>・B-高圧注入ポンプ、油冷却器補機冷却水出口弁</li> <li>・B-格納容器スプレイポンプ補機冷却水出口止め弁</li> <li>・B-余熱除去ポンプ電動機補機冷却水出口弁</li> <li>・B-余熱除去ポンプ補機冷却水出口弁</li> <li>・A-余熱除去ポンプ電動機補機冷却水出口弁</li> <li>・A-余熱除去ポンプ補機冷却水出口弁</li> <li>・A-格納容器スプレイポンプ電動機補機冷却水出口弁</li> <li>・A-格納容器スプレイポンプ補機冷却水出口弁</li> <li>・A-高圧注入ポンプ電動機補機冷却水出口弁</li> <li>・A-高圧注入ポンプ、油冷却器補機冷却水出口弁</li> <li>・A-高圧注入ポンプ電動機補機冷却水流量 (AM用)</li> <li>・A-高圧注入ポンプ及び油冷却器補機冷却水流量 (AM用)</li> </ul>																											
	2	可搬型大型送水ポンプ車を用いたC、D-格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却 系統構成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・B-高圧注入ポンプ電動機補機冷却水出口弁</li> <li>・B-高圧注入ポンプ、油冷却器補機冷却水出口弁</li> <li>・B-格納容器スプレイポンプ補機冷却水出口止め弁</li> <li>・B-余熱除去ポンプ電動機補機冷却水出口弁</li> <li>・B-余熱除去ポンプ補機冷却水出口弁</li> <li>・A-余熱除去ポンプ電動機補機冷却水出口弁</li> <li>・A-余熱除去ポンプ補機冷却水出口弁</li> <li>・A-格納容器スプレイポンプ電動機補機冷却水出口弁</li> <li>・A-格納容器スプレイポンプ補機冷却水出口弁</li> <li>・A-高圧注入ポンプ電動機補機冷却水出口弁</li> <li>・A-高圧注入ポンプ、油冷却器補機冷却水出口弁</li> </ul>																											



泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>別紙(31)</p> <p>屋内アクセスルート確認状況（地震時の影響）</p> <div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%;"></div> <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">屋内アクセスルート 現場確認結果①</p> <p style="font-size: small;">枠囲みの内容は防護上の観点から公開できません。</p>	<p>別紙(14)</p> <p>屋内のアクセスルート確認状況（地震時の影響）</p> <div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%;"></div> <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">第1図 ①島根原子力発電所2号炉 重大事故等時 アクセスルート 現場確認結果(1/8)</p> <p style="font-size: small;">本資料のうち、枠囲みの内容は機密に係る事項のため公開できません。</p>	<p>別紙(31)</p> <p>屋内のアクセスルート確認状況（地震時の影響）</p> <div style="border: 1px dashed red; width: 100%; height: 100%;"></div> <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">第1図 ①屋内のアクセスルート 現場確認結果(1/11)</p> <p style="font-size: small;">[ ] : 評価結果に係る部分は別途ご説明する</p> <p style="font-size: small;">[ ] 枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p>	<p>相違理由</p> <p>【女川】記載表現の相違</p> <p>【女川及び島根】記載内容の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各プラントによる設備及び対応手順が異なることによるアクセスルートの相違。</li> </ul>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<div data-bbox="91 188 607 1118" style="border: 1px solid black; height: 583px; width: 230px;"></div> <div data-bbox="618 464 645 794" style="text-align: center;"> <p>屋内アクセスルート 現場確認結果②</p> </div> <div data-bbox="656 188 689 595" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>枠囲みの内容は防護上の観点から公開できません。</p> </div>	<div data-bbox="719 188 1272 1070" style="border: 1px solid black; height: 553px; width: 247px;"></div> <div data-bbox="1279 225 1305 1059" style="text-align: center;"> <p>第1図 ②島根原子力発電所2号炉 重大事故等時 アクセスルート 現場確認結果(2/8)</p> </div> <div data-bbox="927 1110 1308 1142" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>本資料のうち、枠囲みの内容は機密に係る事項のため公開できません。</p> </div>	<div data-bbox="1357 217 1877 1046" style="border: 1px dashed red; padding: 5px;"> <div data-bbox="1357 217 1877 1046" style="border: 1px solid black; height: 520px; width: 232px;"></div> <div data-bbox="1890 352 1917 847" style="text-align: center;"> <p>第1図 ②屋内のアクセスルート 現場確認結果(2/11)</p> </div> </div> <div data-bbox="1424 1110 1883 1142" style="border: 1px dashed red; padding: 2px;"> <p>：評価結果に係る部分は別途ご説明する</p> </div> <div data-bbox="1352 1166 1924 1193" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p> </div>	<p>【女川及び島根】記載内容の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各プラントによる設備及び対応手順が異なることによるアクセスルートの相違。</li> </ul>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<div data-bbox="91 188 607 1023" style="border: 1px solid black; height: 500px; width: 100%;"></div> <div data-bbox="616 443 645 774" style="text-align: center;">                     屋内アクセスルート 現場確認結果③                 </div> <div data-bbox="654 188 689 595" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">                     枠囲みの内容は防護上の観点から公開できません。                 </div>	<div data-bbox="719 188 1279 1066" style="border: 1px solid black; height: 500px; width: 100%;"></div> <div data-bbox="1288 193 1317 1034" style="text-align: center;">                     第1図 ③島根原子力発電所2号炉 重大事故等時 アクセスルート 現場確認結果(3/8)                 </div> <div data-bbox="943 1082 1323 1121" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">                     本資料のうち、枠囲みの内容は機密に係る事項のため公開できません。                 </div>	<div data-bbox="1361 212 1872 1038" style="border: 1px solid black; height: 500px; width: 100%;"></div> <div data-bbox="1883 341 1912 837" style="text-align: center;">                     第1図 ③屋内のアクセスルート 現場確認結果(3/11)                 </div> <div data-bbox="1424 1082 1883 1121" style="border: 1px dashed red; padding: 2px;">                     : 評価結果に係る部分は別途ご説明する                 </div> <div data-bbox="1352 1155 1924 1182" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">                     枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。                 </div>	<p>【女川及び島根】記載内容の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各プラントによる設備及び対応手順が異なることによるアクセスルートの相違。</li> </ul>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<div data-bbox="85 193 600 975" style="border: 1px solid black; height: 490px; width: 230px;"></div> <div data-bbox="607 403 638 734" style="text-align: center;"> <p>屋内アクセスルート 現場確認結果④</p> </div> <div data-bbox="651 193 685 598" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>枠囲みの内容は防護上の観点から公開できません。</p> </div>	<div data-bbox="719 193 1272 1077" style="border: 1px solid black; height: 554px; width: 247px;"></div> <div data-bbox="1285 209 1317 1045" style="text-align: center;"> <p>第1図 ④島根原子力発電所2号炉 重大事故等時 アクセスルート 現場確認結果(4/8)</p> </div> <div data-bbox="943 1086 1317 1110" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>本資料のうち、枠囲みの内容は機密に係る事項のため公開できません。</p> </div>	<div data-bbox="1361 167 1928 1082" style="border: 2px dashed red; height: 573px; width: 253px;"></div> <div data-bbox="1883 403 1915 898" style="text-align: center;"> <p>第4図 ④屋内のアクセスルート 現場確認結果(4/11)</p> </div> <div data-bbox="1413 1102 1877 1142" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p><span style="border: 2px dashed red; padding: 2px;"> </span>：評価結果に係る部分は別途ご説明する</p> </div> <div data-bbox="1361 1174 1928 1198" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> </span> 枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p> </div>	<p>【女川及び島根】記載内容の相違                  ・各プラントによる設備及び対応手順が異なることによるアクセスルートの相違。</p>



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<div data-bbox="80 193 602 1007" style="border: 1px solid black; height: 500px;"></div> <div data-bbox="611 443 640 775" style="text-align: center;">屋内アクセスルート 現場確認結果⑤</div> <div data-bbox="651 188 687 596" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">枠囲みの内容は防護上の観点から公開できません。</div>	<div data-bbox="719 188 1279 1074" style="border: 1px solid black; height: 550px;"></div> <div data-bbox="1288 204 1317 1043" style="text-align: center;">第1図 ⑤島根原子力発電所2号炉 重大事故等時 アクセスルート 現場確認結果(5/8)</div> <div data-bbox="943 1086 1323 1114" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">本資料のうち、枠囲みの内容は機密に係る事項のため公開できません。</div>	<div data-bbox="1361 172 1944 1118" style="border: 2px dashed red; padding: 10px;"> <div data-bbox="1361 213 1877 1002" style="border: 1px solid black; height: 490px;"></div> <div data-bbox="1886 424 1915 919" style="text-align: center;">第1図 ⑤屋内のアクセスルート 現場確認結果(5/11)</div> </div> <div data-bbox="1417 1134 1877 1171" style="border: 1px solid red; padding: 2px;">: 評価結果に係る部分は別途ご説明する</div> <div data-bbox="1350 1214 1921 1241" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</div>	<p>【女川及び島根】記載内容の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各プラントによる設備及び対応手順が異なることによるアクセスルートの相違。</li> </ul>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p style="text-align: center;">屋内アクセスルート 現場確認結果⑥</p> <p style="text-align: center;">枠囲みの内容は防護上の観点から公開できません。</p>	<p style="text-align: center;">第1図 ⑥島根原子力発電所2号炉 重大事故等時 アクセスルート 現場確認結果(6/8)</p> <p style="text-align: center;">本資料のうち、枠囲みの内容は機密に係る事項のため公開できません。</p>	<p style="text-align: center;">第1図 ⑥屋内のアクセスルート 現場確認結果(6/11)</p> <p style="text-align: center;">[ ] : 評価結果に係る部分は別途ご説明する</p> <p style="text-align: center;">[ ] 枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p>	<p>【女川及び島根】記載内容の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各プラントによる設備及び対応手順が異なることによるアクセスルートの相違。</li> </ul>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<div data-bbox="85 188 607 1062" style="border: 1px solid black; height: 548px;"></div> <div data-bbox="611 459 645 794" style="text-align: center;">                     屋内アクセスルート 現場確認結果⑦                 </div> <div data-bbox="651 188 689 595" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">                     枠囲みの内容は防壁上の観点から公開できません。                 </div>	<div data-bbox="719 188 1272 1062" style="border: 1px solid black; height: 548px;"></div> <div data-bbox="1283 204 1317 1042" style="text-align: center;">                     第1図 ⑦島根原子力発電所2号炉 重大事故等時 アクセスルート 現場確認結果(7/8)                 </div> <div data-bbox="943 1086 1317 1118" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">                     本資料のうち、枠囲みの内容は機密に係る事項のため公開できません。                 </div>	<div data-bbox="1357 204 1872 1031" style="border: 1px solid black; height: 518px;"></div> <div data-bbox="1883 424 1917 922" style="text-align: center;">                     第1図 ⑦屋内のアクセスルート 現場確認結果(7/11)                 </div> <div data-bbox="1429 1102 1883 1142" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <span style="border: 1px dashed red; padding: 2px;"> </span> : 評価結果に係る部分は別途ご説明する                 </div> <div data-bbox="1350 1174 1921 1206" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">                     枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。                 </div>	<p>【女川及び島根】記載内容の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各プラントによる設備及び対応手順が異なることによるアクセスルートの相違。</li> </ul>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<div data-bbox="719 204 1272 1082" style="border: 1px solid black; height: 550px; width: 100%;"></div> <div data-bbox="1283 220 1317 1058" style="writing-mode: vertical-rl; position: absolute; right: 10px; top: 10px;">第1図 ⑧島根原子力発電所2号炉 重大事故等時 アクセスルート 現場確認結果(8/8)</div> <div data-bbox="943 1106 1323 1134" style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 10px;">本資料のうち、枠囲みの内容は機密に係る事項のため公開できません。</div>	<div data-bbox="1361 164 1933 1066" style="border: 1px dashed red; padding: 10px;"> <div data-bbox="1361 204 1877 1034" style="border: 1px solid black; height: 520px; width: 100%;"></div> <div data-bbox="1888 403 1921 906" style="writing-mode: vertical-rl; position: absolute; right: 10px; top: 10px;">第1図 ⑧屋内のアクセスルート 現場確認結果(8/11)</div> </div> <div data-bbox="1413 1106 1877 1134" style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 10px;"> <span style="border: 1px dashed red; padding: 2px;"> </span>：評価結果に係る部分は別途ご説明する                 </div> <div data-bbox="1357 1169 1928 1198" style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 10px;"> <span style="border: 1px solid black; display: inline-block; width: 30px; height: 15px;"></span> 枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。                 </div>	<p>【女川及び島根】記載内容の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各プラントによる設備及び対応手順が異なることによるアクセスルートの相違。</li> </ul>



泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
		<div style="border: 1px dashed red; padding: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%;"></div> <p style="text-align: right; color: blue; font-size: small;">第1図 ⑨屋内のアクセスルート 現場確認結果(9/11)</p> </div> <div style="border: 1px dashed red; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> <span style="border: 1px dashed red; padding: 2px;"> </span> : 評価結果に係る部分は別途ご説明する                 </div> <div style="margin-top: 10px;"> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> </span> 枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。                 </div>	<p style="color: blue; font-size: small;">【女川及び島根】記載内容の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 各プラントによる設備及び対応手順が異なることによるアクセスルートの相違。</li> </ul>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
		<div style="border: 2px solid black; width: 100%; height: 100%;"></div> <p style="text-align: right; color: red; font-size: small;">第1図 ①屋内のアクセスルート 現場確認結果(10/11)</p> <p style="margin-top: 10px;"> <span style="border: 1px dashed red; padding: 2px;"> </span> : 評価結果に係る部分は別途ご説明する  <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> </span> 枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。                 </p>	<p>【女川及び島根】記載内容の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 各プラントによる設備及び対応手順が異なることによるアクセスルートの相違。</li> </ul>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）































1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
		<div data-bbox="1344 151 1937 1053" style="border: 1px solid black; height: 565px; width: 265px; margin: 0 auto;"></div> <div data-bbox="1881 351 1915 861" style="text-align: center; color: red; font-size: small;">第1図 ①屋内のアクセスルート 現場確認結果(11/11)</div> <div data-bbox="1411 1077 1870 1125" style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <span style="border: 1px dashed red; padding: 2px;"> </span> : 評価結果に係る部分は別途ご説明する                 </div> <div data-bbox="1344 1157 1926 1189" style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 10px auto; width: fit-content;">                     枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。                 </div>	<p>【女川及び島根】記載内容の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各プラントによる設備及び対応手順が異なることによるアクセスルートの相違。</li> </ul>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																										
<p>別紙(32)</p>	<p>別紙(15)</p>	<p>別紙(32)</p>																																											
<p>屋内アクセスルートにおける資機材の転倒等による影響について</p>	<p>屋内のアクセスルートにおける資機材設備の転倒等による影響について</p>	<p>屋内のアクセスルートにおける資機材の転倒等による影響について</p>	<p>【島根】記載表現の相違</p>																																										
<p>1. 屋内アクセスルート上の現場ウォークダウン時転倒影響確認例</p>		<p>1. 屋内のアクセスルート上の現場ウォークダウン時転倒影響確認例</p>	<p>【島根】記載内容の相違</p>																																										
<p>屋内アクセスルート上の現場ウォークダウン時転倒影響確認例を以下の第1表に記す。</p>		<p>屋内のアクセスルート上の現場ウォークダウン時転倒影響確認例を以下の第1表に記す。</p>	<p>・章立ての相違。</p>																																										
<p>第1表 現場ウォークダウン時転倒影響確認例</p>		<p>第1表 現場ウォークダウン時転倒影響確認例</p>	<p>【女川】記載内容の相違</p>																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>設置箇所</th> <th>対応内容</th> <th>対応前</th> <th>対応後</th> <th>評価結果</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ヘルメット置き場</td> <td>制御室 地上1階 (O.P.16000) 南側通路</td> <td>ヘルメット置き場をアクセスルートに影響がない箇所へ移動することにより、アクセス性に与える影響がないことを確認した。</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>非常用ディーゼル発電設備点検工具・資材</td> <td>原子炉建屋 地上1階 (O.P.16000) 非常用ディーゼル発電機(B)室</td> <td>非常用ディーゼル発電設備点検工具・資材をアクセスルートに影響がない箇所へ移動することにより、アクセス性に与える影響がないことを確認した。</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>点検工具資材ラック</td> <td>原子炉建屋 地上1階 (O.P.16000) 非常用ディーゼル発電機(B)室</td> <td>点検工具資材ラックをアクセスルートに影響がない箇所へ移動することにより、アクセス性に与える影響がないことを確認した。</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>	項目	設置箇所	対応内容	対応前	対応後	評価結果	ヘルメット置き場	制御室 地上1階 (O.P.16000) 南側通路	ヘルメット置き場をアクセスルートに影響がない箇所へ移動することにより、アクセス性に与える影響がないことを確認した。			○	非常用ディーゼル発電設備点検工具・資材	原子炉建屋 地上1階 (O.P.16000) 非常用ディーゼル発電機(B)室	非常用ディーゼル発電設備点検工具・資材をアクセスルートに影響がない箇所へ移動することにより、アクセス性に与える影響がないことを確認した。			○	点検工具資材ラック	原子炉建屋 地上1階 (O.P.16000) 非常用ディーゼル発電機(B)室	点検工具資材ラックをアクセスルートに影響がない箇所へ移動することにより、アクセス性に与える影響がないことを確認した。			○		<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>設置箇所</th> <th>対応内容</th> <th>対応前</th> <th>対応後</th> <th>評価結果</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>移動式架台</td> <td>原子炉建屋 (T.P.2.3m) (中間床) B-原子炉補機冷却水冷却器廻り</td> <td>移動式架台をアクセスルートに影響がない箇所に設置されていた踏み台と配置を入れ替えることで移設し、アクセス性に与える影響がないことを確認した。</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>ボンベ</td> <td>原子炉建屋 (T.P.17.8m) 南側通路</td> <td>ボンベが転倒した場合の影響を考慮して、移設したことから、アクセス性に影響がないことを確認した。</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>	項目	設置箇所	対応内容	対応前	対応後	評価結果	移動式架台	原子炉建屋 (T.P.2.3m) (中間床) B-原子炉補機冷却水冷却器廻り	移動式架台をアクセスルートに影響がない箇所に設置されていた踏み台と配置を入れ替えることで移設し、アクセス性に与える影響がないことを確認した。			○	ボンベ	原子炉建屋 (T.P.17.8m) 南側通路	ボンベが転倒した場合の影響を考慮して、移設したことから、アクセス性に影響がないことを確認した。			○	<p>【女川】記載内容の相違</p> <p>・ウォークダウンの確認結果の相違。</p> <p>【島根】記載箇所の相違</p>
項目	設置箇所	対応内容	対応前	対応後	評価結果																																								
ヘルメット置き場	制御室 地上1階 (O.P.16000) 南側通路	ヘルメット置き場をアクセスルートに影響がない箇所へ移動することにより、アクセス性に与える影響がないことを確認した。			○																																								
非常用ディーゼル発電設備点検工具・資材	原子炉建屋 地上1階 (O.P.16000) 非常用ディーゼル発電機(B)室	非常用ディーゼル発電設備点検工具・資材をアクセスルートに影響がない箇所へ移動することにより、アクセス性に与える影響がないことを確認した。			○																																								
点検工具資材ラック	原子炉建屋 地上1階 (O.P.16000) 非常用ディーゼル発電機(B)室	点検工具資材ラックをアクセスルートに影響がない箇所へ移動することにより、アクセス性に与える影響がないことを確認した。			○																																								
項目	設置箇所	対応内容	対応前	対応後	評価結果																																								
移動式架台	原子炉建屋 (T.P.2.3m) (中間床) B-原子炉補機冷却水冷却器廻り	移動式架台をアクセスルートに影響がない箇所に設置されていた踏み台と配置を入れ替えることで移設し、アクセス性に与える影響がないことを確認した。			○																																								
ボンベ	原子炉建屋 (T.P.17.8m) 南側通路	ボンベが転倒した場合の影響を考慮して、移設したことから、アクセス性に影響がないことを確認した。			○																																								
		<p>○：評価結果に係る部分は別途ご説明する</p>																																											



泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉

2. 屋内アクセスルート上の機器等の転倒防止処置確認結果

屋内アクセスルート上の機器等の転倒防止処置確認結果及び転倒防止処置の例を以下の第2表に記す。

第2表 機器等の転倒防止処置確認例（類似処置は代表例の写真を示す。）(1/2)

項目	設置箇所	評価結果
CRD補修設備ポンプ室前 ・原子炉建屋補修用具収納箱	原子炉建屋 地下1階 O.P.6000	・一般的な転倒防止対策を実施 ・転倒した場合でも通行可能な通路幅、迂回又は乗り越えが可能なためアクセス性の問題なし (第3表 転倒防止処置例 写真1参照)
北側通路 ・原子炉建屋補修用具収納箱	原子炉建屋 地下1階 O.P.6000	・一般的な転倒防止対策を実施 ・転倒した場合でも通行可能な通路幅、迂回又は乗り越えが可能なためアクセス性の問題なし (第3表 転倒防止処置例 写真1参照)
西側通路 ・工具箱	原子炉建屋 地上1階 O.P.15000	・一般的な転倒防止対策を実施 ・転倒した場合でも通行可能な通路幅、迂回又は乗り越えが可能なためアクセス性の問題なし (第3表 転倒防止処置例 写真2参照)
R/A No.2 EV 車 ・放射線測定器収納箱	原子炉建屋 地上1階 O.P.15000	・一般的な転倒防止対策を実施 ・転倒した場合でも通行可能な通路幅、迂回又は乗り越えが可能なためアクセス性の問題なし (第3表 転倒防止処置例 写真2参照)
T/B MCC 2C-2エリア ・放射線測定器収納箱	タービン建屋 地上1階 O.P.15000	・一般的な転倒防止対策を実施 ・転倒した場合でも通行可能な通路幅、迂回又は乗り越えが可能なためアクセス性の問題なし (第3表 転倒防止処置例 写真2参照)
送風機エリア ・移動式架台	原子炉建屋 地上2階 O.P.99500	・一般的な転倒防止対策を実施 ・転倒した場合でも通行可能な通路幅、迂回又は乗り越えが可能なためアクセス性の問題なし (第3表 転倒防止処置例 写真3参照)
HECV 汚染機(A)(C)室 ・移動式架台	原子炉建屋 地上2階 O.P.22500	・一般的な転倒防止対策を実施 ・転倒した場合でも通行可能な通路幅、迂回又は乗り越えが可能なためアクセス性の問題なし (第3表 転倒防止処置例 写真3参照)
原子炉補修室送風機エリア ・移動式架台	原子炉建屋 地上2階 O.P.22500	・一般的な転倒防止対策を実施 ・転倒した場合でも通行可能な通路幅、迂回又は乗り越えが可能なためアクセス性の問題なし (第3表 転倒防止処置例 写真3参照)
D/G (HES) 室 ・移動式架台	原子炉建屋 地上1階 O.P.15000	・一般的な転倒防止対策を実施 ・転倒した場合でも通行可能な通路幅、迂回又は乗り越えが可能なためアクセス性の問題なし (第3表 転倒防止処置例 写真3参照)

島根原子力発電所2号炉

1. アクセスルート上の機器等の転倒防止処置等確認結果

アクセスルート上の機器等の転倒防止処置等確認結果及び転倒防止処置の例を以下の第1表に記す。

第1表 機器等の転倒防止処置等確認結果(1/2)

項目	設置箇所	評価結果	評価結果	
備・ラック等	原子炉建屋南東エリア ・手摺	原子炉建物 原子炉棟4階 E.L.42.8m	・転倒防止策を実施 ・転倒した場合でも通行可能な通路幅が確保可能なためアクセス性に問題なし (転倒防止処置例は写真1参照)	○
	原子炉建物北通路 ・手摺	原子炉建物 付属棟3階 E.L.34.8m	・転倒した場合、通行可能な通路幅が確保できないため、アクセスルートに影響を与えない箇所へ移動する	○
	原子炉建物北通路 ・資機材保管箱	原子炉建物 付属棟3階 E.L.34.8m	・転倒防止策を実施 ・転倒した場合でも通行可能な通路幅が確保可能なためアクセス性に問題なし (転倒防止処置例は写真2参照)	○
	原子炉棟防護風障 ・資機材保管車	原子炉建物 付属棟2階 E.L.23.8m	・転倒防止策を実施 ・転倒した場合でも通行可能な通路幅が確保可能なためアクセス性に問題なし (転倒防止処置例は写真3参照)	○
	西側 PCV ベネトレーション室前 ・資機材	原子炉建物 原子炉棟2階 E.L.23.8m	・転倒した場合、通行可能な通路幅が確保できないため撤去する	○
	A-非常用電気室 ・資機材保管車	原子炉建物 付属棟2階 E.L.23.8m	・転倒防止策を実施 ・転倒した場合でも通行可能な通路幅が確保可能なためアクセス性に問題なし (転倒防止処置例は写真3参照)	○
E-非常用電気室 ・踏み台	原子炉建物 付属棟2階 E.L.23.8m	・転倒防止策を実施 ・転倒した場合でも通行可能な通路幅が確保可能なためアクセス性に問題なし (転倒防止処置例は写真1参照)	○	

※類似の転倒防止処置例は代表例の写真を示す

泊発電所3号炉

2. アクセスルート上の機器等の転倒防止処置確認結果

アクセスルート上の機器等の転倒防止処置確認結果及び転倒防止処置の例を以下の第2表に記す。

第2表 機器等の転倒防止処置確認例（類似処置は代表例の写真を示す。）(1/2)

項目	設置箇所	評価結果	評価結果
北側通路 ・キャビネット	原子炉補助建屋 T.P.10.3m	・一般的な転倒防止対策を実施 ・転倒した場合でも通行可能な通路幅、排除又は乗り越えが可能なためアクセス性の問題なし (第3表 転倒防止処置例 写真1参照)	○
A-安全補機閉閉器室前通路 ・靴箱	原子炉補助建屋 T.P.10.3m	・一般的な転倒防止対策を実施 ・転倒した場合でも通行可能な通路幅、排除又は乗り越えが可能なためアクセス性の問題なし (第3表 転倒防止処置例 写真4参照)	○
A-安全補機閉閉器室内 ・メタフ用真空遮断器	原子炉補助建屋 T.P.10.3m	・一般的な転倒防止対策を実施 ・転倒した場合でも通行可能な通路幅、排除又は乗り越えが可能なためアクセス性の問題なし (第3表 転倒防止処置例 写真2参照)	○
B-安全補機閉閉器室内 ・キャビネット	原子炉補助建屋 T.P.10.3m	・一般的な転倒防止対策を実施 ・転倒した場合でも通行可能な通路幅、排除又は乗り越えが可能なためアクセス性の問題なし (第3表 転倒防止処置例 写真1参照)	○
北側通路 ・ガスモニタ用収納箱	原子炉補助建屋 T.P.17.8m	・一般的な転倒防止対策を実施 ・転倒した場合でも通行可能な通路幅、排除又は乗り越えが可能なためアクセス性の問題なし (第3表 転倒防止処置例 写真2参照)	○
北側通路 ・パレタレーナ	原子炉補助建屋 T.P.24.8m	・一般的な転倒防止対策を実施 ・転倒した場合でも通行可能な通路幅、排除又は乗り越えが可能なためアクセス性の問題なし (第3表 転倒防止処置例 写真2参照)	○
エレベータ前通路 ・ドラム缶	原子炉補助建屋 T.P.24.8m	・一般的な転倒防止対策を実施 ・転倒した場合でも通行可能な通路幅、排除又は乗り越えが可能なためアクセス性の問題なし (第3表 転倒防止処置例 写真3参照)	○
階段室前通路 ・担架格納箱	原子炉補助建屋 T.P.40.3m	・一般的な転倒防止対策を実施 ・転倒した場合でも通行可能な通路幅、排除又は乗り越えが可能なためアクセス性の問題なし (第3表 転倒防止処置例 写真1参照)	○

○：評価結果に係る部分は別途ご説明する

【島根】記載表現の相違

【女川及び島根】記載内容の相違  
 ・各プラントによる機器等の転倒防止処置確認例の相違。

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉

第2表 機器等の転倒防止処置確認例（類似処置は代表例の写真を示す。）(2/2)

項目	設置箇所	評価結果
区分II非常用電気品室 ・ACB試験用制御盤	原子炉建屋 地下1階 0.P.6000	・一般的な転倒防止対策を実施 ・転倒した場合でも通行可能な通路幅、迂回又は乗り越えが可能なためアクセス性の問題なし (第3表 転倒防止処置例 写真3参照)
区分IIIHPCS電気品室 ・ハンドリフター	原子炉建屋 地下1階 0.P.6000	・一般的な転倒防止対策を実施 ・転倒した場合でも通行可能な通路幅、迂回又は乗り越えが可能なためアクセス性の問題なし (第3表 転倒防止処置例 写真3参照)
R/W熱交換器(A)(C)エリア ・移動式笨台	原子炉建屋 地下3階 0.P.-8100	・一般的な転倒防止対策を実施 ・転倒した場合でも通行可能な通路幅、迂回又は乗り越えが可能なためアクセス性の問題なし (第3表 転倒防止処置例 写真3参照)
R/W熱交換器(D)(D)エリア ・移動式笨台	原子炉建屋 地下3階 0.P.-8100	・一般的な転倒防止対策を実施 ・転倒した場合でも通行可能な通路幅、迂回又は乗り越えが可能なためアクセス性の問題なし (第3表 転倒防止処置例 写真3参照)
MCR入口扉前 ・移動式笨台	制御建屋 地上3階 0.P.23300	・一般的な転倒防止対策を実施 ・転倒した場合でも通行可能な通路幅、迂回又は乗り越えが可能なためアクセス性の問題なし (第3表 転倒防止処置例 写真3参照)

島根原子力発電所2号炉

第1表 機器等の転倒防止処置等確認結果(2/2)

項目	設置箇所	評価結果	評価結果	
ボ ン ペ	A-事故時 シンプリング室 ・空素ガスボンベ	原子炉建屋 付属棟1階 E.L.15.3m	・アクセスルートに影響を与えない箇所へ移動することによりアクセス性に問題なし	○
機 ・ ク ラ ク 等	原子炉建屋南東エリア ・清掃用具保管庫	原子炉建屋 原子炉棟1階 E.L.15.3m	・転倒防止策を実施 ・転倒した場合でも通行可能な通路幅が確保可能なためアクセス性に問題なし (転倒防止処置例は写真3参照)	○
	原子炉建屋南東エリア ・踏み台	原子炉建屋 付属棟地下1階 E.L.8.9m	・転倒防止策を実施 ・転倒した場合でも通行可能な通路幅が確保可能なためアクセス性に問題なし (転倒防止処置例は写真1参照)	○
	原子炉建屋北東エリア ・点検資機材	原子炉建屋 原子炉棟地下1階 E.L.8.9m	・転倒防止策を実施 ・転倒した場合でも通行可能な通路幅が確保可能なためアクセス性に問題なし (転倒防止処置例は写真1参照)	○
	中央制御室非常用再循環送風機室 ・資機材保管庫	廃棄物処理建物 2階 E.L.22.1m	・転倒防止策を実施 ・転倒した場合でも通行可能な通路幅が確保可能なためアクセス性に問題なし (転倒防止処置例は写真3参照)	○
	燃料送達室連絡通路 ・資機材保管庫	廃棄物処理建物 1階 E.L.16.9m	・転倒防止策を実施 ・転倒した場合でも通行可能な通路幅が確保可能なためアクセス性に問題なし (転倒防止処置例は写真3参照)	○
	光電管室 ・踏み台	廃棄物処理建物 地下半1階 E.L.12.3m	・転倒防止策を実施 ・転倒した場合でも通行可能な通路幅が確保可能なためアクセス性に問題なし (転倒防止処置例は写真1参照)	○
	制御室建物北西エリア ・ロッカー	制御室建物 2階 E.L.8.9m	・転倒防止策を実施 ・転倒した場合でも通行可能な通路幅が確保可能なためアクセス性に問題なし (転倒防止処置例は写真3参照)	○

※類似の転倒防止処置例は代表例の写真を示す

泊発電所3号炉

第2表 機器等の転倒防止処置確認例（類似処置は代表例の写真を示す。）(2/2)

項目	設置箇所	評価結果	評価結果
B-原子炉補機冷却水冷却器 ・移動式笨台	原子炉建屋 T.P.2.3m (中間床)	・転倒した場合、通行可能な通路幅が確保できないため、アクセスルートに影響を与えない箇所へ移動する	○
A-制御用空気圧縮機室前通 ・呼吸器保管庫	原子炉建屋 T.P.10.3m	・一般的な転倒防止対策を実施 ・転倒した場合でも通行可能な通路幅、排除又は乗り越えが可能なためアクセス性の問題なし (第3表 転倒防止処置例 写真1参照)	○
北側通路 ・ロッカー	原子炉建屋 T.P.17.8m	・一般的な転倒防止対策を実施 ・転倒した場合でも通行可能な通路幅、排除又は乗り越えが可能なためアクセス性の問題なし (第3表 転倒防止処置例 写真1参照)	○
1次冷却材ポンプモータ保修 エリア前通路 ・ハイドロタワー	原子炉建屋 T.P.17.8m	・一般的な転倒防止対策を実施 ・転倒した場合でも通行可能な通路幅、排除又は乗り越えが可能なためアクセス性の問題なし (第3表 転倒防止処置例 写真2参照)	○
エレベータ前通路 ・ボンベ	原子炉建屋 T.P.40.3m	・鋼材及びボルトにより固定されているため、転倒しないことからアクセス性の問題なし (第3表 転倒防止処置例 写真5参照)	○

：評価結果に係る部分は別途ご説明する

【女川及び島根】  
 記載内容の相違  
 ・各プラントによる機器等の転倒防止処置確認例の相違。



泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉

第3表 転倒防止処置例

	設置物の外観	転倒防止対策
(写真1)		
(写真2)		
(写真3)		

写真1：壁面からのアンカーを用いた固縛  
 写真2、3：チェーンを用いた固縛

島根原子力発電所2号炉

	設置物の外観	転倒防止対策
棚・ラック等（写真1）		
棚・ラック等（写真2）		
棚・ラック等（写真3）		

第1図 転倒防止処置例

泊発電所3号炉

第3表 転倒防止処置例(1/2)

	設置物の外観	転倒防止対策
(写真1)		
(写真2)		
(写真3)		

写真1：壁面又は床面からのアンカーを用いた固縛  
 写真2：チェーン、ワイヤ等を用いた固縛  
 写真3：ベルトによる固縛

：評価結果に係る部分は別途ご説明する

【女川及び島根】  
 記載内容の相違  
 ・各プラントによる機器等の転倒防止処置確認例の相違。

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由						
<p>女川原子力発電所の常設物品、仮置物品については、地震等による転倒によって、重大事故等対応の障害になることを防止するため、常設物品、仮置物品の設置に対する運用、管理を手順書に基づき実施する。</p>	<p>島根原子力発電所の屋内設置物（常置品、仮置資機材）については、地震等による転倒によって、重大事故等対応の障害になることを防止するため、常置品、仮置資機材の設置に対する運用、管理を社内規程に基づき実施する。</p>	<p>第3表 転倒防止処置例(2/2)</p> <table border="1" data-bbox="1346 212 1955 651"> <thead> <tr> <th data-bbox="1346 212 1671 244">設置物の外観</th> <th data-bbox="1671 212 1955 244">転倒防止対策</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="1346 244 1671 443"> <p>(写真4)</p>  </td> <td data-bbox="1671 244 1955 443">  </td> </tr> <tr> <td data-bbox="1346 443 1671 651"> <p>(写真5)</p>  </td> <td data-bbox="1671 443 1955 651">  </td> </tr> </tbody> </table> <p>写真4：転倒防止ベルトを用いた固縛                  写真5：鋼材及びボルトによる固定</p>	設置物の外観	転倒防止対策	<p>(写真4)</p> 		<p>(写真5)</p> 		<p>【女川及び島根】記載内容の相違                      ・各プラントによる機器等の転倒防止処置確認例の相違。</p> <p>【島根】記載箇所の相違                      ・泊のガスボンベの移動は「第1表 現場ウォークダウン時転倒影響確認例」に記載している。</p> <p>【島根】記載内容の相違                      ・章立ての相違。</p> <p>【女川及び島根】記載名称の相違</p>
		設置物の外観	転倒防止対策						
<p>(写真4)</p> 									
<p>(写真5)</p> 									
<table border="1" data-bbox="714 791 1323 1050"> <thead> <tr> <th data-bbox="714 791 808 842"></th> <th data-bbox="808 791 1066 842">移動前</th> <th data-bbox="1066 791 1323 842">移動後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="714 842 808 1050">窒素ガスボンベ</td> <td data-bbox="808 842 1066 1050"></td> <td data-bbox="1066 842 1323 1050"></td> </tr> </tbody> </table>		移動前	移動後	窒素ガスボンベ			<p>第2図 窒素ガスボンベ移動状況</p> <p>2.まとめ</p>	<p>泊発電所の常設物、仮置物については、地震等による転倒によって、重大事故等対応の障害になることを防止するため、常設物、仮置物の設置に対する運用、管理を社内規程類に基づき実施する。</p>	<p>【女川及び島根】記載名称の相違</p>
	移動前	移動後							
窒素ガスボンベ									

評価結果に係る部分は別途ご説明する



泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

柏崎刈羽原子力発電所6号及び7号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>2. 屋内アクセスルートにおける資機材設備の転倒等による影響について</p> <p>屋内アクセスルートにおける資機材設備の転倒等による影響について、有効性評価の時間余裕が短い場合であっても時間内にアクセス可能であることを、以下のとおり評価した。</p> <p>[評価対象操作]                  有効性評価の各事象の対応操作において、最も時間的余裕がなく、現場への移動を要する操作として、ガスタービン発電設備から交流電源を受電するための非常用電源室での操作とする。</p> <p>[評価条件]                  ・アクセスルート近傍の設置物は、転倒防止処置を施している物を含めすべて転倒するものとする。                  ・設置物が転倒した際、最も通路がふさがれるパターンを想定しても通行可能な幅が30cmあれば通過可能とする。                  ・設置物が転倒した際に設置物の移動が可能な場合（重量物でない場合）は、通過可能とする。                  ・転倒した設置物の乗り越え通過時間については、アクセス通路上で乗り越える設置物のうち最大のものについて乗り越え通過時間を計測し、その計測時間をその他の乗り越え設置物の通過時間とする（アクセスルート上で5つの設置物を乗り越える場合、最大の設置物を5回乗り越えるものとする。）。</p> <p>[評価結果]                  中央制御室から非常用電源室までのアクセスルートにおいて、乗り越えないと通過できないものの中で最大のものは、サービス建屋地下1階に設置されている工具棚であった。                  （棚の寸法、高さ約1,900mm、奥行き約900mm、幅約1,150mm）                  この工具棚が転倒したことを想定し、操作員6名による乗り越え時間を測定した結果、最も時間を要した操作員の乗り越え時間は5.4秒であった。</p>	<p>3. 屋内のアクセスルートにおける資機材の転倒等による影響について</p> <p>屋内のアクセスルートにおける資機材の転倒等による影響について、有効性評価の時間余裕が短い場合であっても時間内にアクセス可能であることを以下のとおり評価した。</p> <p>[評価対象操作]                  有効性評価の各事象の対応操作において、最も時間的余裕がなく、現場への移動を要する操作として、主蒸気逃がし弁を開放するための主蒸気管室での操作とする。</p> <p>[評価条件]                  ・アクセスルート近傍の設置物は、一般的な転倒防止処置を施している物を含めすべて転倒するものとする。                  ・設置物が転倒した際、最も通路がふさがれるパターンを想定しても通行可能な幅が30cmあれば通過可能とする。                  ・設置物が転倒した際に設置物の移動が可能な場合（重量物でない場合）は、通過可能とする。                  ・転倒した設置物の乗り越え高さが100cm以下であれば通行可能とする。                  ・転倒した設置物の乗り越え通過時間については、乗り越え高さが約100cmとなる模擬資機材（乗り越え高さ約1,040mm、奥行き約2,180mm、幅1,090mm）について運転員7名による乗り越え通過時間を計測し、最も時間を要した運転員の計測時間4.7秒を設置物の乗り越え通過時間とする（アクセスルート上で5つの設置物を乗り越える場合、模擬資機材を5回乗り越えるものとする）。模擬資機材の乗り越え時間の計測結果については、第1図に示す。</p> <p>[評価結果]                  中央制御室から主蒸気管室までのアクセスルートにおいて、乗り越えないと通過できないものの中で最大のものは、原子炉建屋T.P.17.8mに設置されているボンベラック（ラックの寸法、高さ約1,800mm、奥行き約500mm、幅約950mm）であり、乗り越え高さ100cm以下であることから、乗り越え可能である。</p>	<p>【女川及び島根】記載内容の相違                  ・泊は、資機材を乗り越える場合の時間影響を確認した。                  このため、本項については、同様の影響評価を実施している柏崎6,7号炉との比較を行った。</p> <p>【柏崎】記載表現の相違</p> <p>【柏崎】記載内容の相違                  ・プラントの対応手段の相違。</p> <p>【柏崎】運用の相違                  ・泊は乗り越え可能な高さを100cm以下とし、乗り越え高さが約100cmとなる模擬資機材の乗り越え時間を乗り越え通過時間とした。</p> <p>【柏崎】記載箇所の相違                  ・泊は、本文中において第1図との紐づけを明確にした。</p> <p>【柏崎】記載内容の相違                  ・プラントの対応手段の相違及び設置物の相違。</p> <p>【柏崎】運用の相違                  ・泊は乗り越え可能な高さを100cm以下とし、乗り越え高さが100cmとなる模擬資機材の乗り越え時間を乗り越え通過時間とした。</p>

：評価結果に係る部分は別途ご説明する





泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p style="text-align: right;">別紙(33)</p> <p style="text-align: center;">地震随伴火災の影響評価について</p> <p>屋内アクセスルート近傍の地震随伴火災の発生可能性がある機器について、以下のとおり抽出・評価を実施した。なお、抽出フローを第1図に、また、抽出したアクセスルート近傍の回転機器リストを第1表に、抽出した機器の配置を第2図に示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>重要事故シーケンスごとに必要な対応処置のためのアクセスルートをルート図上に描画し、ルート近傍の回転機器を抽出する。</li> <li>耐震Sクラス機器又は基準地震動 <math>S_s</math> にて耐震性が確認された機器は損壊しないものとし、内包油による地震随伴火災は発生しないものとする。</li> <li>耐震Sクラス機器でない、かつ基準地震動 <math>S_s</math> にて耐震性がない機器のうち、油を内包する機器又は水素を内包する機器については地震により支持構造物が損壊し、漏えいした油又は水素（4 vol%以上）に着火する可能性があるため、火災源として耐震評価を実施する。</li> <li>耐震評価はSクラス機器と同様に基準地震動 <math>S_s</math> で評価し、JEAG4601に従った評価を実施する。</li> <li>耐震裕度を有するものについては地震により損壊しないものと考え、火災源としての想定は不要とする。</li> <li>盤火災は鋼製の盤内で発生し、外部への影響が少ないため除外*する。また、ケーブル火災はケーブルトレイが天井付近に設置されており、下部通路への影響は少ないこと、又は難燃性ケーブルを使用していることから、大規模な延焼が考えにくいため除外する。</li> </ul>	<p style="text-align: right;">別紙(17)</p> <p style="text-align: center;">屋内のアクセスルートにおける地震随伴火災の影響評価</p> <p>アクセスルート近傍の地震随伴火災の発生可能性がある機器について、以下のとおり抽出・評価を実施した。なお、抽出フローを第1図に、また、抽出した火災源となる機器リストを第1表に、抽出した機器の配置を第2図に示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事故シーケンスごとに必要な対応処置のためのアクセスルートをルート図上に描画し、ルート近傍の回転機器*を抽出する。</li> <li>耐震Sクラス機器、又は基準地震動 <math>S_s</math> にて耐震性があると確認された機器は地震により損壊しないものとし、内包油による地震随伴火災は発生しないものとする。</li> <li>耐震Sクラス機器でない、又は基準地震動 <math>S_s</math> にて耐震性がない機器のうち、油を内包する機器及び水素ガスを内包する機器については地震により支持構造物が損壊し漏えいした油又は水素ガス（4 vol%以上）に着火する可能性があるため、火災源として耐震評価を実施する。</li> <li>耐震評価はSクラスの機器と同様に基準地震動 <math>S_s</math> で評価し、JEAG4601に従った評価を実施する。</li> <li>耐震裕度を有するものについては地震により損壊しないものと考え、火災源としての想定は不要とする。</li> <li>※：盤火災は鋼製の盤内で発生し、外部への影響が少ないため除外する。また、ケーブル火災はケーブルトレイが天井付近に設置されており、下部通路への影響は少ないこと、又は難燃性ケーブルを使用していることから、大規模な延焼が考えにくいことから除外する。</li> </ul>	<p style="text-align: right;">別紙(33)</p> <p style="text-align: center;">屋内のアクセスルートにおける地震随伴火災の影響評価について</p> <p>アクセスルート近傍の地震随伴火災の発生可能性がある機器について、以下のとおり抽出・評価を実施した。なお、抽出フローを第1図に、また、抽出したアクセスルート近傍の回転機器リストを第1表に、抽出した機器の配置を第2図に示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>重要事故シーケンスごとに必要な対応処置のためのアクセスルートをルート図上に描画し、ルート近傍の回転機器を抽出する。</li> <li>耐震Sクラス機器、又は基準地震動にて耐震性が確認された機器は損壊しないものとし、内包油による地震随伴火災は発生しないものとする。</li> <li>耐震Sクラス機器でない、かつ基準地震動にて耐震性がない機器のうち、油を内包する機器又は水素を内包する機器については地震により支持構造物が損壊し、漏えいした油又は水素（4 vol%以上）に着火する可能性があるため、火災源として耐震評価を実施する。</li> <li>耐震評価はSクラス機器と同様に基準地震動で評価し、JEAG4601に従った評価を実施する。</li> <li>耐震裕度を有するものについては地震により損壊しないものと考え、火災源としての想定は不要とする。</li> <li>盤火災は鋼製の盤内で発生し、外部への影響が少ないため除外する。また、ケーブル火災はケーブルトレイが天井付近に設置されており、下部通路への影響は少ないこと、又は難燃性ケーブルを使用していることから、大規模な延焼が考えにくいため除外する。</li> </ul>	<p>【女川及び島根】 記載表現の相違</p> <p>【島根】記載方針の相違 ・泊は火災源か否かによらず回転機器を第1表に抽出した上で、火災源を整理している（女川と同様）。（島根は火災源となる油・水素を内包する回転機器を第1表に整理している。）</p> <p>【女川及び島根】 記載表現の相違</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>なお、火災時の煙充満による影響が考えられる箇所については、自動消火による固定式消火設備により速やかに消火することから通行に影響があるほどの煙の発生はないと考えられる。                      また、通行が困難な場合には迂回ルートを使用する。</p> <p>※2011年東北地方太平洋沖地震により、女川原子力発電所1号炉では、常用系の高圧電源盤で短絡・地絡による火災が発生し、発煙による視界不良を経験しているが、設備対策実施済（別紙(9)参照）。</p>		<p>なお、火災時の煙充満による影響が考えられる箇所については、自動消火設備により速やかに消火することから通行に影響があるほどの煙の発生はないと考えられる。                      また、通行が困難な場合には迂回路を使用する。</p>	<p>【島根】記載内容の相違                      ・泊は、煙が充満する影響について記載している。（女川と同様）</p> <p>【女川】記載内容の相違                      ・泊は、常用系の高圧電源盤が設置された電気種屋内にアクセスルートはない。なお、泊では、火災の推定原因とされている吊り下げ設置型高圧遮断器については使用していない。</p>



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>第1図 地震に伴う火災対象機器抽出フロー図</p>	<p>第1図 地震に伴う火災評価対象機器抽出フロー図</p>	<p>第1図 地震に伴う火災対象機器抽出フロー図</p>	
<p>アクセスルート近傍より抽出された回転機器について評価した結果、耐震B、Cクラス機器のうち油内包回転機器又は水素内包機器については耐震評価を実施し、耐震裕度がない機器については耐震補強を実施することで、地震に伴う火災の想定は不要となり、アクセスルートのアクセス性に与える影響がないことを確認した。</p>	<p>アクセスルート近傍より抽出された回転機器について評価した結果、耐震B、Cクラス機器のうち油内包回転機器又は水素内包機器については基準地震動Ssにて耐震評価を実施し、アクセスルートのアクセス性に与える影響がないことを確認した。</p> <p>なお、評価結果により耐震補強を実施する機器はない。</p>	<p>アクセスルート近傍より抽出された回転機器について評価した結果、耐震B、Cクラス機器のうち油内包回転機器又は水素内包機器については基準地震動にて耐震評価を実施し、耐震裕度がない機器については耐震補強を実施することで、地震に伴う火災の想定は不要となり、アクセスルートのアクセス性に与える影響がないことを確認した。</p> <p style="border: 1px dashed red; padding: 2px;">: 評価結果に係る部分は別途ご説明する</p>	<p>【女川及び島根】 記載表現の相違</p> <p>【島根】対応方針の相違 ・泊は、アクセスルート上で地震に伴う火災が想定される機器については耐震補強を実施することでアクセス性に影響を与えない。（女川と同様）</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉

第1表 アクセスルート近傍の回転機器リスト (1/2)

番号 <sup>※1</sup>	設備名称	設備区分
①	換気空調補機非常用冷却水系冷凍機(B)	Sクラス
①	換気空調補機非常用冷却水系冷凍機(D)	Sクラス
①	換気空調補機非常用冷却水系冷水ポンプ(B)	Sクラス
①	換気空調補機非常用冷却水系冷水ポンプ(D)	Sクラス
②	換気空調補機非常用冷却水系冷凍機(A)	Sクラス
②	換気空調補機非常用冷却水系冷凍機(C)	Sクラス
②	換気空調補機非常用冷却水系冷水ポンプ(A)	Sクラス
②	換気空調補機非常用冷却水系冷水ポンプ(C)	Sクラス
③	原子炉補機(B)室送風機(A)	Sクラス
③	原子炉補機(D)室送風機(B)	Sクラス
④	タービン建屋送風機(A) (油・水素なし)	BCクラス
④	タービン建屋送風機(B) (油・水素なし)	BCクラス
④	タービン建屋送風機(C) (油・水素なし)	BCクラス
④	送風機室空調機(A) (油・水素なし)	BCクラス
④	送風機室空調機(B) (油・水素なし)	BCクラス
④	廃棄物処理区域送風機(A) (油・水素なし)	BCクラス
④	廃棄物処理区域送風機(B) (油・水素なし)	BCクラス
④	原子炉棟送風機(A) (油・水素なし)	BCクラス
④	原子炉棟送風機(B) (油・水素なし)	BCクラス
④	原子炉棟送風機(C) (油・水素なし)	BCクラス
⑤	非常用ディーゼル発電機(A)	Sクラス
⑤	燃料油ドレンポンプ(A) (耐震評価対象機器 <sup>※2</sup> )	BCクラス
⑤	ターニング装置(A) (油・水素なし)	BCクラス
⑥	非常用ディーゼル発電機(B)	Sクラス
⑥	燃料油ドレンポンプ(B) (耐震評価対象機器 <sup>※2</sup> )	BCクラス

※1 第2図地震に伴う火災源の抽出機器配置図を参照。

※2 耐震評価を実施し、耐震裕度がない場合については耐震補強を実施する。

島根原子力発電所2号炉

第1表 地震に伴う火災を考慮する機器リスト(1/2)

No	設備名称	損傷モード	評価部位	応力分類	発生頻度(E/a)	許容基準値(E/a)	設備区分
①	原子炉補機冷却ポンプ	-	-	-	-	-	Sクラス
①	原子炉補機冷却ポンプ	-	-	-	-	-	Sクラス
①	タービン	-	-	-	-	-	Sクラス
①	BCICタービン油ポンプ	-	-	-	-	-	Sクラス
①	BCICタービン真空ポンプ	-	-	-	-	-	Sクラス
①	BCICタービン復水ポンプ	-	-	-	-	-	Sクラス
①	A-換気空調冷却水ポンプ	-	-	-	-	-	Sクラス
①	A-換気空調給水ポンプ	-	-	-	-	-	Sクラス
①	C-換気空調給水ポンプ	-	-	-	-	-	Sクラス
①	A-ディーゼル発電機	-	-	-	-	-	Sクラス
①	A-空圧圧縮機 (ディーゼル発電機)	-	-	-	-	-	Sクラス
①	A-ターニング装置 (ディーゼル発電機)	-	-	-	-	-	Sクラス
①	B-ディーゼル発電機	-	-	-	-	-	Sクラス
①	B-空圧圧縮機 (ディーゼル発電機)	-	-	-	-	-	Sクラス
①	B-ターニング装置 (ディーゼル発電機)	-	-	-	-	-	Sクラス
①	A-原子炉補機冷却ポンプ	-	-	-	-	-	Sクラス
①	C-原子炉補機冷却ポンプ	-	-	-	-	-	Sクラス
①	B-原子炉補機冷却ポンプ	-	-	-	-	-	Sクラス
①	D-原子炉補機冷却ポンプ	-	-	-	-	-	Sクラス
①	A-空調換気設備冷却水循環ポンプ	構造損傷	基礎ボルト	引張	17	190	B、Cクラス (耐震裕度有)
				せん断	23	146	
		構造損傷	ポンプ 取付ボルト	引張	83	183	
			せん断	11	118		
		構造損傷	駆動機 取付ボルト	引張	36	190	
				せん断	22	146	
①	B-空調換気設備冷却水循環ポンプ	構造損傷	基礎ボルト	引張	17	190	B、Cクラス (耐震裕度有)
				せん断	23	146	
		構造損傷	ポンプ 取付ボルト	引張	83	183	
				せん断	11	118	
		構造損傷	駆動機 取付ボルト	引張	36	190	
				せん断	22	146	
①	A-空調換気設備冷却水循環機	構造損傷	基礎ボルト	引張	182	199	D、Cクラス (耐震裕度有)
				せん断	59	161	
①	B-空調換気設備冷却水循環機	構造損傷	基礎ボルト	引張	182	199	D、Cクラス (耐震裕度有)
				せん断	59	161	

泊発電所3号炉

第1表 アクセスルート近傍の回転機器リスト(1/4)

番号 <sup>※1</sup>	設置名称	設備区分
①	A-格納容器排気ファン	BCクラス (油・水素なし)
①	B-格納容器排気ファン	BCクラス (油・水素なし)
②	可搬型ガスサンプリング冷却器用冷却ポンプ	重大事故等対処設備
②	可搬型ガスサンプリング冷却器用冷却ポンプ(予備)	重大事故等対処設備
②	可搬型代替ガスサンプリング圧縮装置	重大事故等対処設備
②	可搬型代替ガスサンプリング圧縮装置(予備)	重大事故等対処設備
③	A-補助建屋排気ファン	BCクラス (油・水素なし)
③	B-補助建屋排気ファン	BCクラス (油・水素なし)
④	リン酸ソーダ注入ポンプ	BCクラス (耐震評価対象機器 <sup>※2</sup> )
⑤	中央制御室排気ファン	BCクラス (油・水素なし)
⑤	A-補助建屋給気ファン	BCクラス (油・水素なし)
⑤	B-補助建屋給気ファン	BCクラス (油・水素なし)
⑤	A-試料採取室給気ファン	BCクラス (油・水素なし)
⑤	B-試料採取室給気ファン	BCクラス (油・水素なし)
⑤	A-補助建屋非管理区域排気ファン	BCクラス (油・水素なし)
⑤	B-補助建屋非管理区域排気ファン	BCクラス (油・水素なし)
⑥	A-蓄電池室排気ファン	BCクラス (油・水素なし)
⑥	B-蓄電池室排気ファン	BCクラス (油・水素なし)
⑦	A-中央制御室給気ファン	Sクラス
⑦	B-中央制御室給気ファン	Sクラス

※1：第2図 地震に伴う火災源の抽出機器配置図を参照。

※2：耐震評価を実施し、耐震裕度がない場合については耐震補強を実施する。

：評価結果に係る部分は別途ご説明する

【女川及び島根】  
 記載内容の相違  
 ・各プラントによる地震  
 に伴う火災を考慮する  
 機器の相違。



泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉

第1表 アクセスルート近傍の回転機器リスト (2/2)

番号 <sup>※1</sup>	設備名称	設備区分
⑥	ターニング装置(B)	BCクラス (油、水素なし)
⑦	高圧炉心スプレィ系ディーゼル発電機	Sクラス
⑦	潤滑油ブライミングポンプ(HPCS)	Sクラス
⑦	清水加熱器ポンプ(HPCS)	Sクラス
⑦	空気圧縮機(H-1)	BCクラス (耐震評価対象機器 <sup>※2</sup> )
⑦	空気圧縮機(H-2)	BCクラス (耐震評価対象機器 <sup>※2</sup> )
⑦	潤滑油補給ポンプ	BCクラス (耐震評価対象機器 <sup>※2</sup> )
⑦	燃料油ドレンポンプ(HPCS)	BCクラス (耐震評価対象機器 <sup>※2</sup> )
⑦	ターニング装置(HPCS)	BCクラス (油、水素なし)
⑧	潤滑油ブライミングポンプ(B)	Sクラス
⑧	清水加熱器ポンプ(B)	Sクラス
⑧	非常用ディーゼル発電設備空気圧縮機(B-1)	BCクラス (耐震評価対象機器 <sup>※2</sup> )
⑧	非常用ディーゼル発電設備空気圧縮機(B-2)	BCクラス (耐震評価対象機器 <sup>※2</sup> )
⑨	高圧代替注水系ポンプ	BCクラス (油、水素なし)
⑩	中央制御室再循環送風機(A)	Sクラス
⑩	中央制御室排風機(A)	Sクラス
⑩	中央制御室送風機(A)	Sクラス
⑩	計測制御電源(A)室排風機(A)	Sクラス
⑩	計測制御電源(A)室排風機(B)	Sクラス
⑩	計測制御電源(A)室送風機(A)	Sクラス
⑩	計測制御電源(A)室送風機(B)	Sクラス
⑪	燃料プール補給水ポンプ	BCクラス (耐震評価対象機器 <sup>※2</sup> )
⑫	原子炉隔離時冷却系ポンプ	Sクラス

※1 第2図地震随伴火災源の抽出機器配置図を参照。

※2 耐震評価を実施し、耐震裕度がない場合については耐震補強を実施する。

島根原子力発電所2号炉

第1表 地震随伴火災を考慮する機器リスト(2/2)

No.	設備名称	損傷モード	評価部位	応力分類	発生確率 (1/a)	許容基準値 (Pa)	設備区分
A	A-炉子炉排換気機	構造損傷	基礎ボルト	引張	178	193	B、Cクラス (耐震裕度有)
			せん断	98	161		
			ケーシング	引張	199	219	
			基礎ボルト	せん断	31	161	
B	B-炉子炉排換気機	構造損傷	原動機	引張	56	488	B、Cクラス (耐震裕度有)
			取付ボルト	せん断	14	375	
			基礎ボルト	引張	240	247	
			せん断	91	161		
C	C-中央制御室送風機	構造損傷	ケーシング	引張	142	219	B、Cクラス (耐震裕度有)
			基礎ボルト	せん断	29	161	
			原動機	引張	56	488	
			取付ボルト	せん断	14	375	
④	A-中央制御室送風機	-	-	-	-	-	Sクラス
④	B-中央制御室送風機	-	-	-	-	-	Sクラス
④	A-中央制御室冷水循環ポンプ	-	-	-	-	-	Sクラス
④	B-中央制御室冷水循環ポンプ	-	-	-	-	-	Sクラス
④	A-中央制御室冷凍機	-	-	-	-	-	Sクラス
④	B-中央制御室冷凍機	-	-	-	-	-	Sクラス
D	ドライケル冷媒循環ポンプ	構造損傷	基礎ボルト	引張	24	190	B、Cクラス (耐震裕度有)
			せん断	14	146		
			ポンプ	引張	67	153	
E	ドライケル冷媒循環ポンプ	構造損傷	取付ボルト	せん断	11	118	B、Cクラス (耐震裕度有)
			原動機	引張	39	190	
			取付ボルト	せん断	21	146	
F	ドライケル冷媒機	構造損傷	基礎ボルト	引張	134	152	B、Cクラス (耐震裕度有)
			せん断	10	146		
			引張	72	216		
G	H2ガス製造装置空気圧縮機	構造損傷	基礎ボルト	引張	157	193	B、Cクラス (耐震裕度有)
			せん断	19	166		
			圧縮機	引張	157	193	
			取付ボルト	せん断	14	148	
H	A、B-1Aコンプレッサ	構造損傷	原動機	引張	28	103	B、Cクラス (耐震裕度有)
			取付ボルト	せん断	8	148	
			引張	75	189		
			せん断	21	146		
I	A、B-1Aコンプレッサ	構造損傷	取付ボルト	引張	114	189	B、Cクラス (耐震裕度有)
			せん断	30	146		
			送風機	引張	14	207	
			取付ボルト	せん断	18	189	
J	A、B計装用空気製装置	構造損傷	取付ボルト	引張	30	198	B、Cクラス (耐震裕度有)
			せん断	7	152		
			原動機	引張	10	207	
			取付ボルト	せん断	6	159	
K	A、B-1Aコンプレッサ	構造損傷	取付ボルト	引張	75	189	B、Cクラス (耐震裕度有)
			せん断	21	146		
			引張	114	189		
			せん断	30	146		

泊発電所3号炉

第1表 アクセスルート近傍の回転機器リスト(2/4)

番号 <sup>※1</sup>	設備名称	設備区分
⑦	A-中央制御室非常用循環ファン	Sクラス
⑦	B-中央制御室非常用循環ファン	Sクラス
⑧	A-安全補機開閉器室給気ファン	BCクラス (油・水素なし)
⑧	B-安全補機開閉器室給気ファン	BCクラス (油・水素なし)
⑧	A-安全補機開閉器室排気ファン	BCクラス (油・水素なし)
⑧	B-安全補機開閉器室排気ファン	BCクラス (油・水素なし)
⑧	A-格納容器給気ファン	BCクラス (油・水素なし)
⑧	B-格納容器給気ファン	BCクラス (油・水素なし)
⑩	A-燃料取替用水ポンプ	Sクラス
⑩	B-燃料取替用水ポンプ	Sクラス
⑩	SG直接給水用高圧ポンプ	自主対策設備 (耐震評価対象機器 <sup>※2</sup> )
⑩	A-試料採取室排気ファン	BCクラス (油・水素なし)
⑩	B-試料採取室排気ファン	BCクラス (油・水素なし)
⑫	A-中央制御室循環ファン	Sクラス
⑫	B-中央制御室循環ファン	Sクラス
⑬	A-ディーゼル発電機室給気ファン	BCクラス (油・水素なし)
⑬	B-ディーゼル発電機室給気ファン	BCクラス (油・水素なし)
⑬	A-電動補助給水ポンプ室給気ファン	BCクラス (油・水素なし)
⑬	B-電動補助給水ポンプ室給気ファン	BCクラス (油・水素なし)
⑬	A-制御用空気圧縮機室給気ファン	BCクラス (油・水素なし)
⑬	B-制御用空気圧縮機室給気ファン	BCクラス (油・水素なし)

※1：第2図 地震随伴火災源の抽出機器配置図を参照。

※2：耐震評価を実施し、耐震裕度がない場合については耐震補強を実施する。

評価結果に係る部分は別途ご説明する

【女川及び島根】  
 記載内容の相違  
 ・各プラントによる地震随伴火災を考慮する機器の相違。

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																															
		<p style="text-align: center;">第1表 アクセスルート近傍の回転機器リスト(3/4)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号<sup>※1</sup></th> <th style="width: 60%;">設置名称</th> <th style="width: 30%;">設備区分</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>⑬</td> <td>A-重鉛注入ポンプ</td> <td>BCクラス (耐震評価対象機器<sup>※2</sup>)</td> </tr> <tr> <td>⑭</td> <td>B-重鉛注入ポンプ</td> <td>BCクラス (耐震評価対象機器<sup>※2</sup>)</td> </tr> <tr> <td>⑮</td> <td>代替格納容器スプレイポンプ</td> <td>重大事故等対処設備</td> </tr> <tr> <td>⑯</td> <td>A-電動補助給水ポンプ</td> <td>Sクラス</td> </tr> <tr> <td>⑰</td> <td>B-電動補助給水ポンプ</td> <td>Sクラス</td> </tr> <tr> <td>⑱</td> <td>A-制御用空気圧縮機</td> <td>Sクラス</td> </tr> <tr> <td>⑲</td> <td>B-制御用空気圧縮機</td> <td>Sクラス</td> </tr> <tr> <td>㉑</td> <td>タービン駆動補助給水ポンプ</td> <td>Sクラス</td> </tr> <tr> <td>㉒</td> <td>A-ディーゼル発電機</td> <td>Sクラス</td> </tr> <tr> <td>㉓</td> <td>A-温水循環ポンプ</td> <td>Sクラス</td> </tr> <tr> <td>㉔</td> <td>B-ディーゼル発電機</td> <td>Sクラス</td> </tr> <tr> <td>㉕</td> <td>B-温水循環ポンプ</td> <td>Sクラス</td> </tr> <tr> <td>㉖</td> <td>A-原子炉補機冷却水ポンプ</td> <td>Sクラス</td> </tr> <tr> <td>㉗</td> <td>B-原子炉補機冷却水ポンプ</td> <td>Sクラス</td> </tr> <tr> <td>㉘</td> <td>C-原子炉補機冷却水ポンプ</td> <td>Sクラス</td> </tr> <tr> <td>㉙</td> <td>D-原子炉補機冷却水ポンプ</td> <td>Sクラス</td> </tr> <tr> <td>㉚</td> <td>A-空調用冷凍機</td> <td>BCクラス (耐震評価対象機器<sup>※2</sup>)</td> </tr> <tr> <td>㉛</td> <td>B-空調用冷凍機</td> <td>BCクラス (耐震評価対象機器<sup>※2</sup>)</td> </tr> <tr> <td>㉜</td> <td>A-空調用冷水ポンプ</td> <td>BCクラス (耐震評価対象機器<sup>※2</sup>)</td> </tr> <tr> <td>㉝</td> <td>B-空調用冷水ポンプ</td> <td>BCクラス (耐震評価対象機器<sup>※2</sup>)</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1：第2図 地震に伴う火災源の抽出機器配置図を参照。                  ※2：耐震評価を実施し、耐震裕度がない場合については耐震補強を実施する。</p> <div style="border: 1px dashed red; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> <span style="color: red;">■</span>：評価結果に係る部分は別途ご説明する             </div>	番号 <sup>※1</sup>	設置名称	設備区分	⑬	A-重鉛注入ポンプ	BCクラス (耐震評価対象機器 <sup>※2</sup> )	⑭	B-重鉛注入ポンプ	BCクラス (耐震評価対象機器 <sup>※2</sup> )	⑮	代替格納容器スプレイポンプ	重大事故等対処設備	⑯	A-電動補助給水ポンプ	Sクラス	⑰	B-電動補助給水ポンプ	Sクラス	⑱	A-制御用空気圧縮機	Sクラス	⑲	B-制御用空気圧縮機	Sクラス	㉑	タービン駆動補助給水ポンプ	Sクラス	㉒	A-ディーゼル発電機	Sクラス	㉓	A-温水循環ポンプ	Sクラス	㉔	B-ディーゼル発電機	Sクラス	㉕	B-温水循環ポンプ	Sクラス	㉖	A-原子炉補機冷却水ポンプ	Sクラス	㉗	B-原子炉補機冷却水ポンプ	Sクラス	㉘	C-原子炉補機冷却水ポンプ	Sクラス	㉙	D-原子炉補機冷却水ポンプ	Sクラス	㉚	A-空調用冷凍機	BCクラス (耐震評価対象機器 <sup>※2</sup> )	㉛	B-空調用冷凍機	BCクラス (耐震評価対象機器 <sup>※2</sup> )	㉜	A-空調用冷水ポンプ	BCクラス (耐震評価対象機器 <sup>※2</sup> )	㉝	B-空調用冷水ポンプ	BCクラス (耐震評価対象機器 <sup>※2</sup> )	<p>【女川及び島根】                  記載内容の相違                  ・各プラントによる地震                  に伴う火災を考慮する                  機器の相違。</p>
番号 <sup>※1</sup>	設置名称	設備区分																																																																
⑬	A-重鉛注入ポンプ	BCクラス (耐震評価対象機器 <sup>※2</sup> )																																																																
⑭	B-重鉛注入ポンプ	BCクラス (耐震評価対象機器 <sup>※2</sup> )																																																																
⑮	代替格納容器スプレイポンプ	重大事故等対処設備																																																																
⑯	A-電動補助給水ポンプ	Sクラス																																																																
⑰	B-電動補助給水ポンプ	Sクラス																																																																
⑱	A-制御用空気圧縮機	Sクラス																																																																
⑲	B-制御用空気圧縮機	Sクラス																																																																
㉑	タービン駆動補助給水ポンプ	Sクラス																																																																
㉒	A-ディーゼル発電機	Sクラス																																																																
㉓	A-温水循環ポンプ	Sクラス																																																																
㉔	B-ディーゼル発電機	Sクラス																																																																
㉕	B-温水循環ポンプ	Sクラス																																																																
㉖	A-原子炉補機冷却水ポンプ	Sクラス																																																																
㉗	B-原子炉補機冷却水ポンプ	Sクラス																																																																
㉘	C-原子炉補機冷却水ポンプ	Sクラス																																																																
㉙	D-原子炉補機冷却水ポンプ	Sクラス																																																																
㉚	A-空調用冷凍機	BCクラス (耐震評価対象機器 <sup>※2</sup> )																																																																
㉛	B-空調用冷凍機	BCクラス (耐震評価対象機器 <sup>※2</sup> )																																																																
㉜	A-空調用冷水ポンプ	BCクラス (耐震評価対象機器 <sup>※2</sup> )																																																																
㉝	B-空調用冷水ポンプ	BCクラス (耐震評価対象機器 <sup>※2</sup> )																																																																



泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																			
		<p style="text-align: center;">第1表 アクセスルート近傍の回転機器リスト(4/4)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号<sup>※1</sup></th> <th style="width: 60%;">設置名称</th> <th style="width: 30%;">設備区分</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>㊸</td><td>C-空調用冷凍機</td><td>BCクラス (耐震評価対象機器<sup>※2</sup>)</td></tr> <tr><td>㊹</td><td>D-空調用冷凍機</td><td>BCクラス (耐震評価対象機器<sup>※2</sup>)</td></tr> <tr><td>㊺</td><td>C-空調用冷水ポンプ</td><td>BCクラス (耐震評価対象機器<sup>※2</sup>)</td></tr> <tr><td>㊻</td><td>D-空調用冷水ポンプ</td><td>BCクラス (耐震評価対象機器<sup>※2</sup>)</td></tr> <tr><td>㊼</td><td>A-空気圧縮機</td><td>BCクラス (耐震評価対象機器<sup>※2</sup>)</td></tr> <tr><td>㊽</td><td>A-燃料油移送ポンプ</td><td>Sクラス</td></tr> <tr><td>㊾</td><td>A-潤滑油プライミングポンプ</td><td>Sクラス</td></tr> <tr><td>㊿</td><td>B-空気圧縮機</td><td>BCクラス (耐震評価対象機器<sup>※2</sup>)</td></tr> <tr><td>㊻</td><td>B-燃料油移送ポンプ</td><td>Sクラス</td></tr> <tr><td>㊼</td><td>B-潤滑油プライミングポンプ</td><td>Sクラス</td></tr> <tr><td>㊽</td><td>A-廃液蒸留水ポンプ</td><td>BCクラス (耐震評価対象機器<sup>※2</sup>)</td></tr> <tr><td>㊾</td><td>B-廃液蒸留水ポンプ</td><td>BCクラス (耐震評価対象機器<sup>※2</sup>)</td></tr> <tr><td>㊿</td><td>洗浄排水蒸留水ポンプ</td><td>DCクラス (耐震評価対象機器<sup>※2</sup>)</td></tr> <tr><td>㊻</td><td>洗浄排水ポンプ</td><td>BCクラス (耐震評価対象機器<sup>※2</sup>)</td></tr> <tr><td>㊼</td><td>A-補助蒸気ドレンポンプ</td><td>BCクラス (耐震評価対象機器<sup>※2</sup>)</td></tr> <tr><td>㊽</td><td>B-補助蒸気ドレンポンプ</td><td>BCクラス (耐震評価対象機器<sup>※2</sup>)</td></tr> </tbody> </table> <p>※1：第2図 地震に伴う火災源の抽出機器配置図を参照。                  ※2：耐震評価を実施し、耐震裕度がない場合については耐震補強を実施する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;">                     !: 評価結果に係る部分は別途ご説明する                 </div>	番号 <sup>※1</sup>	設置名称	設備区分	㊸	C-空調用冷凍機	BCクラス (耐震評価対象機器 <sup>※2</sup> )	㊹	D-空調用冷凍機	BCクラス (耐震評価対象機器 <sup>※2</sup> )	㊺	C-空調用冷水ポンプ	BCクラス (耐震評価対象機器 <sup>※2</sup> )	㊻	D-空調用冷水ポンプ	BCクラス (耐震評価対象機器 <sup>※2</sup> )	㊼	A-空気圧縮機	BCクラス (耐震評価対象機器 <sup>※2</sup> )	㊽	A-燃料油移送ポンプ	Sクラス	㊾	A-潤滑油プライミングポンプ	Sクラス	㊿	B-空気圧縮機	BCクラス (耐震評価対象機器 <sup>※2</sup> )	㊻	B-燃料油移送ポンプ	Sクラス	㊼	B-潤滑油プライミングポンプ	Sクラス	㊽	A-廃液蒸留水ポンプ	BCクラス (耐震評価対象機器 <sup>※2</sup> )	㊾	B-廃液蒸留水ポンプ	BCクラス (耐震評価対象機器 <sup>※2</sup> )	㊿	洗浄排水蒸留水ポンプ	DCクラス (耐震評価対象機器 <sup>※2</sup> )	㊻	洗浄排水ポンプ	BCクラス (耐震評価対象機器 <sup>※2</sup> )	㊼	A-補助蒸気ドレンポンプ	BCクラス (耐震評価対象機器 <sup>※2</sup> )	㊽	B-補助蒸気ドレンポンプ	BCクラス (耐震評価対象機器 <sup>※2</sup> )	<p>【女川及び島根】                  記載内容の相違                  ・各プラントによる地震に伴う火災を考慮する機器の相違。</p>
番号 <sup>※1</sup>	設置名称	設備区分																																																				
㊸	C-空調用冷凍機	BCクラス (耐震評価対象機器 <sup>※2</sup> )																																																				
㊹	D-空調用冷凍機	BCクラス (耐震評価対象機器 <sup>※2</sup> )																																																				
㊺	C-空調用冷水ポンプ	BCクラス (耐震評価対象機器 <sup>※2</sup> )																																																				
㊻	D-空調用冷水ポンプ	BCクラス (耐震評価対象機器 <sup>※2</sup> )																																																				
㊼	A-空気圧縮機	BCクラス (耐震評価対象機器 <sup>※2</sup> )																																																				
㊽	A-燃料油移送ポンプ	Sクラス																																																				
㊾	A-潤滑油プライミングポンプ	Sクラス																																																				
㊿	B-空気圧縮機	BCクラス (耐震評価対象機器 <sup>※2</sup> )																																																				
㊻	B-燃料油移送ポンプ	Sクラス																																																				
㊼	B-潤滑油プライミングポンプ	Sクラス																																																				
㊽	A-廃液蒸留水ポンプ	BCクラス (耐震評価対象機器 <sup>※2</sup> )																																																				
㊾	B-廃液蒸留水ポンプ	BCクラス (耐震評価対象機器 <sup>※2</sup> )																																																				
㊿	洗浄排水蒸留水ポンプ	DCクラス (耐震評価対象機器 <sup>※2</sup> )																																																				
㊻	洗浄排水ポンプ	BCクラス (耐震評価対象機器 <sup>※2</sup> )																																																				
㊼	A-補助蒸気ドレンポンプ	BCクラス (耐震評価対象機器 <sup>※2</sup> )																																																				
㊽	B-補助蒸気ドレンポンプ	BCクラス (耐震評価対象機器 <sup>※2</sup> )																																																				

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<div data-bbox="85 210 607 1062" style="border: 1px solid black; height: 500px;"></div> <div data-bbox="616 432 645 871" style="text-align: center;">第2図 地震随伴火災源の抽出機器配置図(1/7)</div> <div data-bbox="656 240 685 584" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">枠囲みの内容は防護上の観点から公開できません。</div>	<div data-bbox="719 201 1272 1083" style="border: 1px solid black; height: 500px;"></div> <div data-bbox="1279 288 1308 1003" style="text-align: center;">第2図 ①島根原子力発電所2号炉 地震随伴火災源の抽出機器配置図(1/8)</div> <div data-bbox="943 1110 1319 1134" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">本資料のうち、枠囲みの内容は機密に係る事項のため公開できません。</div>	<div data-bbox="1361 210 1883 1099" style="border: 1px dashed red; border-width: 2px; height: 500px;"></div> <div data-bbox="1895 472 1924 927" style="text-align: center;">第2図 ①地震随伴火災源の抽出機器配置図(1/11)</div> <div data-bbox="1491 1142 1924 1182" style="border: 1px dashed red; padding: 2px;">: 評価結果に係る部分は別途ご説明する</div> <div data-bbox="1352 1222 1924 1246" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</div>	<p>【女川及び島根】                  記載内容の相違                  ・各プラントのアクセスルートが異なることによる地震随伴火災源の相違。</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<div data-bbox="91 209 607 1139" style="border: 1px solid black; height: 583px; width: 230px;"></div> <div data-bbox="618 408 645 844" style="text-align: center;">第2図 地震に伴火災源の抽出機器配置図(2/7)</div> <div data-bbox="658 245 680 580" style="text-align: center;">枠囲みの内容は防護上の観点から公開できません。</div>	<div data-bbox="721 202 1272 1085" style="border: 1px solid black; height: 553px; width: 246px;"></div> <div data-bbox="1283 293 1310 1008" style="text-align: center;">第2図 ②島根原子力発電所2号炉 地震に伴火災源の抽出機器配置図(2/8)</div> <div data-bbox="943 1114 1319 1134" style="text-align: center;">本資料のうち、枠囲みの内容は機密に係る事項のため公開できません。</div>	<div data-bbox="1359 209 1877 1069" style="border: 1px solid black; height: 539px; width: 231px;"></div> <div data-bbox="1888 376 1915 831" style="text-align: center;">第2図 ②地震に伴火災源の抽出機器配置図(2/11)</div> <div data-bbox="1503 1114 1933 1145" style="text-align: center;">:評価結果に係る部分は別途ご説明する</div> <div data-bbox="1359 1177 1933 1209" style="text-align: center;">:枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</div>	<p>【女川及び島根】                  記載内容の相違                  ・各プラントのアクセスルートが異なることによる地震に伴火災源の相違。</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<div data-bbox="85 220 607 1050" style="border: 1px solid black; height: 500px; width: 100%;"></div> <div data-bbox="616 384 645 823" style="text-align: center;"> <p>第2図 地震に伴火災源の抽出機器配置図 (3/7)</p> </div> <div data-bbox="656 252 685 587" style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;"> <p>枠囲みの内容は防護上の観点から公開できません。</p> </div>	<div data-bbox="719 212 1279 1091" style="border: 1px solid black; height: 500px; width: 100%;"></div> <div data-bbox="1288 300 1317 1015" style="text-align: center;"> <p>第2図 ③島根原子力発電所2号炉 地震に伴火災源の抽出機器配置図(3/8)</p> </div> <div data-bbox="943 1121 1317 1145" style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;"> <p>本資料のうち、枠囲みの内容は機密に係る事項のため公開できません。</p> </div>	<div data-bbox="1361 204 1890 1082" style="border: 1px solid black; height: 500px; width: 100%; border-style: dashed; border-color: red;"></div> <div data-bbox="1899 403 1928 858" style="text-align: center;"> <p>第2図 ③地震に伴火災源の抽出機器配置図(3/11)</p> </div> <div data-bbox="1496 1121 1933 1161" style="border: 1px dashed red; padding: 2px;"> <p>：評価結果に係る部分は別途ご説明する</p> </div> <div data-bbox="1350 1230 1928 1254" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p> </div>	<p>【女川及び島根】                  記載内容の相違                  ・各プラントのアクセスルートが異なることによる地震に伴火災源の相違。</p>



泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<div data-bbox="91 217 604 1038" style="border: 1px solid black; height: 515px; width: 229px;"></div> <div data-bbox="613 432 645 871" style="text-align: center;"> <p>第2図 地震随伴火災源の抽出機器配置図 (4/7)</p> </div> <div data-bbox="654 252 685 587" style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;"> <p>枠囲みの内容は防護上の観点から公開できません。</p> </div>	<div data-bbox="719 217 1276 1098" style="border: 1px solid black; height: 552px; width: 249px;"></div> <div data-bbox="1285 292 1317 1010" style="text-align: center;"> <p>第2図 ④島根原子力発電所2号炉 地震随伴火災源の抽出機器配置図 (4/8)</p> </div> <div data-bbox="958 1129 1317 1152" style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;"> <p>本資料のうち、枠囲みの内容は機密に係る事項のため公開できません。</p> </div>	<div data-bbox="1357 209 1881 1086" style="border: 1px dashed red; height: 550px; width: 234px;"></div> <div data-bbox="1890 437 1921 895" style="text-align: center;"> <p>第2図 ④地震随伴火災源の抽出機器配置図 (4/11)</p> </div> <div data-bbox="1491 1161 1921 1198" style="border: 1px dashed red; padding: 2px; text-align: center;"> <p>評価結果に係る部分は別途ご説明する</p> </div> <div data-bbox="1357 1235 1930 1262" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p> </div>	<p>【女川及び島根】                  記載内容の相違                  ・各プラントのアクセスルートが異なることによる地震随伴火災源の相違。</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<div data-bbox="85 220 600 1066" style="border: 1px solid black; height: 530px;"></div> <div data-bbox="609 427 640 865" style="text-align: center;">第2図 地震に伴火災源の抽出機器配置図 (5/7)</div> <div data-bbox="654 220 685 609" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">枠囲みの内容は防衛上の観点から公開できません。</div>	<div data-bbox="721 220 1272 1098" style="border: 1px solid black; height: 550px;"></div> <div data-bbox="1281 284 1312 1002" style="text-align: center;">第2図 ⑤島根原子力発電所2号炉 地震に伴火災源の抽出機器配置図 (5/8)</div> <div data-bbox="945 1120 1317 1145" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">本資料のうち、枠囲みの内容は機密に係る事項のため公開できません。</div>	<div data-bbox="1361 220 1877 1120" style="border: 1px solid black; height: 564px;"></div> <div data-bbox="1886 466 1917 922" style="text-align: center;">第2図 ⑤地震に伴火災源の抽出機器配置図 (5/11)</div> <div data-bbox="1496 1152 1930 1184" style="border: 1px dashed red; padding: 2px;">:評価結果に係る部分は別途ご説明する</div> <div data-bbox="1348 1232 1930 1264" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</div>	<p>【女川及び島根】                  記載内容の相違                  ・各プラントのアクセスルートが異なることによる地震に伴火災源の相違。</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<div data-bbox="85 209 602 1034" style="border: 1px solid black; height: 500px; width: 100%;"></div> <div data-bbox="613 418 642 853" style="text-align: center;">第2図 地震に伴火災源の抽出機器配置図 (6/7)</div> <div data-bbox="656 209 685 603" style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">枠囲みの内容は防護上の観点から公開できません。</div>	<div data-bbox="721 204 1274 1082" style="border: 1px solid black; height: 500px; width: 100%;"></div> <div data-bbox="1285 264 1314 979" style="text-align: center;">第2図 ⑥島根原子力発電所2号炉 地震に伴火災源の抽出機器配置図 (6/8)</div> <div data-bbox="943 1102 1319 1123" style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">本資料のうち、枠囲みの内容は機密に係る事項のため公開できません。</div>	<div data-bbox="1355 204 1890 1086" style="border: 1px solid black; height: 500px; width: 100%; border-style: dashed; border-color: red;"></div> <div data-bbox="1890 408 1919 865" style="text-align: center;">第2図 ⑥地震に伴火災源の抽出機器配置図(6/11)</div> <div data-bbox="1496 1129 1928 1166" style="border: 1px solid red; padding: 2px; text-align: center;">: 評価結果に係る部分は別途ご説明する</div> <div data-bbox="1355 1209 1928 1235" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <span style="border: 1px solid black; display: inline-block; width: 1em; height: 1em; vertical-align: middle;"></span> 枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。                 </div>	<p>【女川及び島根】                      記載内容の相違                      ・各プラントのアクセスルートが異なることによる地震に伴火災源の相違。</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<div data-bbox="85 220 604 1040" style="border: 1px solid black; height: 500px; width: 100%;"></div> <div data-bbox="613 432 645 869" style="text-align: center;">第2図 地震に伴火災源の抽出機器配置図 (7/7)</div> <div data-bbox="654 252 685 592" style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">枠囲みの内容は防護上の観点から公開できません。</div>	<div data-bbox="721 220 1272 1098" style="border: 1px solid black; height: 500px; width: 100%;"></div> <div data-bbox="1281 288 1312 1002" style="text-align: center;">第2図 ⑦島根原子力発電所2号炉 地震に伴火災源の抽出機器配置図(7/8)</div> <div data-bbox="943 1121 1319 1144" style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">本資料のうち、枠囲みの内容は機密に係る事項のため公開できません。</div>	<div data-bbox="1361 209 1868 1046" style="border: 1px solid black; height: 500px; width: 100%; border-style: dashed; border-color: red;"></div> <div data-bbox="1877 387 1908 842" style="text-align: center;">第2図 ⑦地震に伴火災源の抽出機器配置図(7/11)</div> <div data-bbox="1503 1106 1933 1144" style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">: 評価結果に係る部分は別途ご説明する</div> <div data-bbox="1352 1203 1924 1233" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <span style="border: 1px solid black; display: inline-block; width: 30px; height: 15px; vertical-align: middle;"></span> 枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。                 </div>	<p>【女川及び島根】                      記載内容の相違                      ・各プラントのアクセスルートが異なることによる地震に伴火災源の相違。</p>



泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<div data-bbox="719 204 1272 1082" style="border: 1px solid black; height: 550px; width: 100%;"></div> <div data-bbox="1285 284 1317 1002" style="writing-mode: vertical-rl; position: absolute; right: 10px; top: 100px;">第2図 ⑧島根原子力発電所2号炉 地震随伴火災源の抽出機器配置図(8/8)</div> <div data-bbox="943 1114 1319 1136" style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center; margin-top: 10px;">本資料のうち、枠囲みの内容は機密に係る事項のため公開できません。</div>	<div data-bbox="1361 204 1883 1098" style="border: 1px solid black; height: 560px; width: 100%;"></div> <div data-bbox="1883 427 1915 880" style="writing-mode: vertical-rl; position: absolute; right: 10px; top: 200px;">第2図 ⑧地震随伴火災源の抽出機器配置図(8/11)</div> <div data-bbox="1496 1139 1930 1177" style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center; margin-top: 10px;">! : 評価結果に係る部分は別途ご説明する</div> <div data-bbox="1361 1232 1930 1257" style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 10px;">枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</div>	<p>【女川及び島根】 記載内容の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各プラントのアクセスルートが異なることによる地震随伴火災源の相違。</li> </ul>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

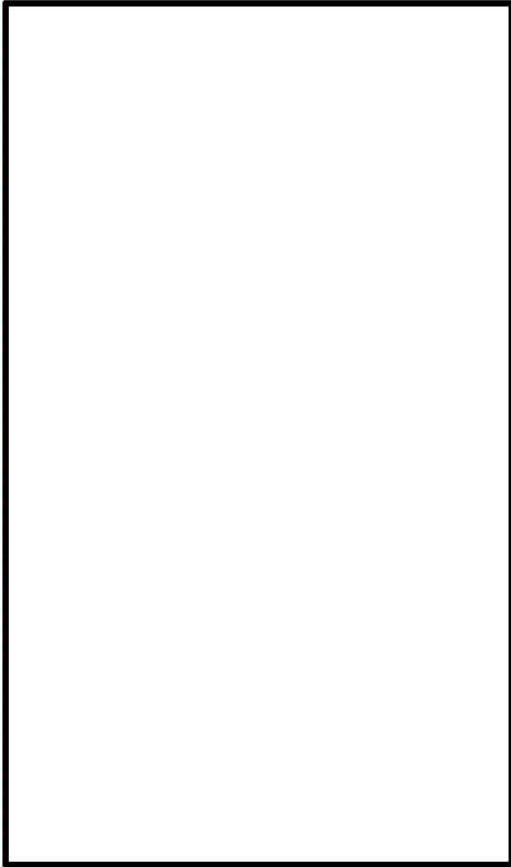
1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
		<div data-bbox="1361 204 1883 1086" style="border: 2px solid black; height: 550px; width: 100%;"></div> <div data-bbox="1890 411 1917 868" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright; position: absolute; right: 10px; top: 258px;">                     第2図 ⑨地震に伴火災源の抽出機器配置図(9/11)                 </div> <div data-bbox="1496 1129 1928 1174" style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 10px;"> <span style="border: 1px dashed red; padding: 2px;"> </span>：評価結果に係る部分は別途ご説明する                 </div> <div data-bbox="1357 1230 1928 1262" style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 10px;"> <span style="background-color: black; color: black;"> </span> 枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。                 </div>	<p>【女川及び島根】                      記載内容の相違                      ・各プラントのアクセスルートが異なることによる地震に伴火災源の相違。</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
		<div style="border: 2px solid black; width: 100%; height: 100%; display: flex; align-items: center; justify-content: center;">  </div> <p style="text-align: right; color: red; font-size: small;">第2図 ⑩地震に伴火災源の抽出機器配置図(10/11)</p> <p style="text-align: center; border: 1px dashed red; padding: 2px; margin-top: 10px;">: 評価結果に係る部分は別途ご説明する</p> <p style="margin-top: 10px;"> <span style="border: 1px solid black; display: inline-block; width: 1em; height: 1em; vertical-align: middle;"></span> 枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。         </p>	<p>【女川及び島根】              記載内容の相違              ・各プラントのアクセスルートが異なることによる地震に伴火災源の相違。</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
		<div data-bbox="1355 204 1870 1066" style="border: 2px solid black; height: 540px; width: 100%;"></div> <div data-bbox="1892 422 1921 890" style="position: absolute; right: 10px; top: 265px; font-size: small;">第2図 ①地震に伴火災源の抽出機器配置図(11/11)</div> <div data-bbox="1489 1125 1921 1168" style="border: 1px dashed red; padding: 2px; margin-top: 10px; font-size: small;">: 評価結果に係る部分は別途ご説明する</div> <div data-bbox="1355 1189 1926 1220" style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 10px; font-size: small;">枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</div>	<p>【女川及び島根】                      記載内容の相違                      ・各プラントのアクセスルートが異なることによる地震に伴火災源の相違。</p>



泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p style="text-align: right;">別紙(34)</p> <p>地震による内部溢水の影響評価について</p> <p>地震発生による内部溢水時のアクセスルートの評価について、「設置許可基準規則」第9条溢水による損傷の防止等の評価を踏まえ、以下のとおり実施する。評価フローを第1図に示す。</p> <p>1. アクセスルートとして使用するエリアの抽出                      アクセスルートとして使用するエリアを抽出する。</p> <p>2. 地震時の溢水源の抽出                      地震時の溢水源として、使用済燃料プール、原子炉ウエル及び蒸気乾燥器／気水分離器ビット（以下「DSビット」という。）のスロッシングを想定する。操作場所へのアクセスルートが成立することを評価する上で、耐震B、Cクラス機器のうち、基準地震動S<sub>s</sub>に対する耐震性が確認されていない機器を抽出する。                      なお、内部溢水影響評価の単一想定破損では、重大事故等に至ることはないため、本アクセスルートの評価においては基準地震動S<sub>s</sub>による溢水を考慮して評価する。</p>	<p style="text-align: right;">別紙(18)</p> <p>屋内のアクセスルートにおける地震に伴う内部溢水の影響評価</p> <p>地震発生による内部溢水時のアクセスルートの評価について、「設置許可基準規則」第9条溢水による損傷の防止等の評価を踏まえ、以下のとおり実施する。                      評価フローを第1図に、評価概要図を第2図に示す。</p> <p>1. アクセスルートとして使用するエリアの抽出                      アクセスルートとして使用するエリア（以下「アクセスルートエリア」という。）を抽出する。</p> <p>2. 地震時の溢水源の抽出                      地震時の溢水源として、燃料プールのスロッシングを想定する。また、操作場所へのアクセスルートが成立することを評価する上で、耐震B、Cクラスの機器のうち、基準地震動S<sub>s</sub>による地震力によって破損が生じるおそれのある機器も抽出する。                      なお、内部溢水影響評価の想定破損では、重大事故等に至ることはないため、本アクセスルートの評価においては基準地震動S<sub>s</sub>を考慮して評価する。</p>	<p style="text-align: right;">別紙(34)</p> <p>屋内のアクセスルートにおける地震による内部溢水の影響評価について</p> <p>地震発生による内部溢水時のアクセスルートの評価について、「設置許可基準規則」第9条溢水による損傷の防止等の評価を踏まえ、以下のとおり実施する。評価フローを第1図に示す。</p> <p>1. アクセスルートとして使用するエリアの抽出                      アクセスルートとして使用するエリア（以下「アクセスルートエリア」という。）を抽出する。</p> <p>2. 地震時の溢水源の抽出                      地震時の溢水源として、使用済燃料ビットのスロッシングを想定する。また、操作場所へのアクセスルートが成立することを評価する上で、耐震B、Cクラス機器のうち、基準地震動に対する耐震性が確認されていない機器を抽出する。                      なお、内部溢水影響評価の想定破損では、重大事故等に至ることはないため、本アクセスルートの評価においては基準地震動による溢水を考慮して評価する。</p>	<p>【女川及び島根】 記載表現の相違</p> <p>【島根】記載表現の相違</p> <p>【女川】記載表現の相違</p> <p>【女川及び島根】 記載表現及び名称の相違</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>3. アクセスルートエリアの溢水水位                      アクセスルートエリアの溢水水位については、上層階に関しては床開口部からの排水により床開口部のカーブ高さ（約13cm）程度に抑えられることを想定する。</p>	<p>3. アクセスルートエリアの溢水水位                      アクセスルートの溢水水位は、上層階に関しては床開口部からの排水により、カーブ高さ（約8cm）程度に抑えられることを想定する。</p> <p>【大飯3，4号炉まとめ資料より転載】</p> <p>【中間階】                      その区画の下階への溢水経路となる開口部のうち最大となる開口部入口高さを想定する。</p>	<p>3. アクセスルートエリアの溢水水位                      アクセスルートエリアの溢水水位については、上層階に関しては床開口部からの排水により床開口部の堰高さ程度に抑えられることを想定し、複数の床開口部から排水される場合は床開口部のうち最大の堰高さ程度を想定する。</p>	<p>【島根】                      記載表現の相違</p> <p>【女川及び島根】 評価方針の相違</p> <p>・女川及び島根は、第9条(溢水)において、床開口部からの排水に期待していることからアクセスルートにおいてもこれに期待して、床開口部の堰高さを溢水水位として設定している。一方、泊は第9条(溢水)において、床開口部からの排水に期待していないが、アクセスルートにおいては現実的に床開口部からの排水に期待していることから、下階に複数の床開口部から排水される場合に床開口部のうち最大の堰高さを溢水水位として設定することで保守性を持たせている。(評価方法については、大飯と同様)</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>最地下階においては上層階からの溢水がすべて集まるものとして溢水水位を算出する。</p> <p>なお、実際は床開口部のカーブ高さ以下の滞留水については床ファンネルからの排水により時間経過に伴い、最地下階のドレンサンクへ排水される。</p> <p>溢水水位評価概要を第2図に示す。</p> <p>有効性評価及び技術的能力手順で期待している操作において、アクセスルートとなるエリアを第1表、各エリアの溢水水位を第2表に、溢水源を第3-1表～第3-3表に示す。</p>	<p>最地下階においては上層階からの溢水が全て集まるものとして水位を算出する。</p> <p>【大飯3, 4号炉まとめ資料より転載】                  【下階への伝播経路がないエリア】                  下階への伝播がないため、溢水源からの溢水量（伝播経路上にある溢水源の全溢水量）と床面積から水位を算出する。</p> <p>なお、実際はカーブ高さ以下の滞留水については、時間経過に伴い床目皿からの排水により全量排水されることが期待できる。</p> <p>【大飯3, 4号炉まとめ資料より転載】                  内部溢水評価での溢水水位は、床開口部及び床目皿からの排出を考慮しない評価としているが、アクセスルートでの溢水水位は現実的に床開口部入口高さでの水位としているため、評価方法が異なる。</p> <p>有効性評価及び技術的能力手順で期待している操作において、アクセスルートエリアとなるエリアを第1表、各エリアの溢水水位を第2表に示す。</p> <p>有効性評価及び技術的能力手順におけるアクセスルートの溢水源となる系統を第3-1表～第3-4表に示す。</p>	<p>最地下階においては下階への伝播がないため、溢水源からの溢水量（伝播経路上にある溢水源の全溢水量）と滞留面積から水位を算出する。</p> <p>なお、実際は床開口部の堰高さ以下の滞留水については床目皿からの排水により時間経過に伴い、最地下階のサンプタンクへ排水されるが、床目皿からの排水及びサンプタンクへの流入に期待しない。</p> <p>第9条溢水による損傷の防止等における溢水水位は、床開口部及び床目皿からの排水に期待しない評価としているが、アクセスルートでの溢水水位は、現実的に床開口部の堰高さを溢水水位としているため、評価方法が異なる。</p> <p>溢水水位評価概要を第2図に示す。</p> <p>有効性評価及び技術的能力手順で期待している操作において、アクセスルートとなるエリアを第1表、各エリアの溢水水位を第2表に、溢水源を第3-1表～第3-3表に示す。</p>	<p>【女川及び島根】記載表現の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・泊は、最地下階の溢水水位の算出方法を具体的に記載している。（大飯と同様）</li> </ul> <p>【女川及び島根】評価方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・女川及び島根は、第9条(溢水)において、床開口部からの排水に期待していることからアクセスルートにおいてもこれに期待している。一方、泊は第9条(溢水)において、床開口部からの排水に期待していないが、アクセスルートにおいては現実的に床開口部からの排水に期待していることから、下階に複数の床開口部から排水される場合に床開口部のうち最大の堰高さを溢水水位として設定することで保守性を持たせている。（第9条と評価方法が異なることについては、大飯と同様）</li> </ul>



泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>第1図 地震発生による内部溢水時のアクセスルート評価フロー</p>	<p>第1図 地震に伴う内部溢水評価フロー図</p>	<p>第1図 地震発生による内部溢水時のアクセスルート評価フロー</p>	<p>【女川及び島根】              判断基準の相違              ・泊の最地下階のアクセスルートは扉を経由せずに操作場所までアクセス可能なため、通行可否の判断基準を一律20cm以下とはせずに21cm以上かつ70cm未満の場合は、扉の通行の必要性等を個別に確認したうえでアクセス性を判断することとしている。</p>





泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉

第1表 有効性評価及び技術的能力手順におけるアクセスルートエリア

0.F.	原子炉建屋 原子炉棟 (非管理区域)	原子炉建屋 付属棟 (非管理区域)	原子炉建屋 付属棟 (廃棄物処 理エリア) (管理区域)	原子炉建屋 付属棟 (廃棄物処理 エリア) (非管理区域)	制御建屋 (管理区域)	制御建屋 (非管理区域)	タービン建屋 (管理区域)	タービン建屋 (非管理区域)
3320	①							
2790	○							
2490								
2360								
2250	○	①②③④ ⑤⑥⑦⑧	—	—		①②③④ ⑤⑥⑦⑧		
1950						○		
1800	②③④⑤	①②③④ ⑤⑥⑦⑧	②③④⑤	○	①②③④	②③④⑤	②③④⑤	
1070	②③④							
900						②③④⑤		
760								
600	②③④	①③	—	—				
150						②③④⑤		
80								
-80	○	—	—	—				
-810	○	—	—	—				

【凡例】  
 ○ (数字なし) 有効性評価では通行しないが技術的能力1.1~1.19で通行するフロア  
 ○ (数字あり) 有効性評価で通行するフロア  
 — 通行しないフロア ■ 建屋ごとの対象外フロア

No.	事故シナリオ	作業番号*	No.	事故シナリオ	作業番号*
1	高圧・低圧水機能喪失	①	12	蒸気圧力・温度による静的負荷 (格納容器過圧・過負破損) (特種循環冷却系を使用する場合)	④
2	高圧注水・減圧機能喪失	—	13	蒸気圧力・温度による静的負荷 (格納容器過圧・過負破損) (特種循環冷却系を使用できない場合)	⑤
3	全交流動力電源喪失 (長期 Ⅱ)	②	14	原子炉圧力容器外の除熱燃料 - 冷却材相互作用	⑦
4	全交流動力電源喪失 (TK)	③	15	高圧容器物放出/格納容器閉気直接加熱	⑩
5	全交流動力電源喪失 (TB)	③	16	原子炉圧力容器外の除熱燃料 - 冷却材相互作用	⑦
6	全交流動力電源喪失 (TB)	③	17	留蔵炉心・コンクリート相互作用	⑧
7	留蔵炉心機能喪失 (取水機能が喪失した場合)	④	18	想定事故1	⑨
8	留蔵炉心機能喪失 (格納容器が故障した場合)	④	19	想定事故2	⑨
9	原子炉停止機能喪失	—	20	留蔵炉心機能喪失 (停止時)	⑩
10	LOCA時注水機能喪失	⑤	21	全交流動力電源喪失 (停止時)	⑩
11	格納容器バイパス (インターフェイスシステムLOCA)	⑥	22	原子炉冷却材の流出 (停止時)	⑩
			23	反応度の暴投入	⑩

※ 作業内容が同様のシナリオに関して同一の作業番号とする。

島根原子力発電所2号炉

第1表 有効性評価及び技術的能力手順におけるアクセスルートエリア

E.L. (m)	原子炉建屋 (管理区域)	原子炉建屋 (非管理区域)	タービン建屋 (非管理区域)	廃棄物処理建屋 (非管理区域)	制御室建屋
42.800	①				
34.900	③④⑤	②③⑤⑥			
30.500	③④⑤	②③④⑤⑥			
23.800	②③④⑤⑥	①②③④⑤⑥⑦			
22.100				③⑤⑥	
16.900			①②③④ ⑤⑦⑧⑨	①②③④ ⑤⑦⑧⑨	①②③④ ⑤⑦⑧⑨
15.300	②③④⑤⑥	①②③④ ⑤⑦⑧⑨			
12.800					○
12.300				②③⑤⑥	
8.800	③	③⑦⑧⑨	○	—	○
2.800		③⑧			
1.300	○				

【凡例】  
 ○ (数字なし)： 有効性評価ではアクセスしないが技術的能力1.1~1.19でアクセスするフロア  
 ○ (数字あり)： 有効性評価でアクセスするフロア  
 「—」： アクセスしないフロア  
 ■： 建屋に存在しないフロア

No.	事故対象シナリオ	No.	事故対象シナリオ
1	高圧・低圧注水機能喪失	13	留蔵炉心・温度による静的負荷 (格納容器過圧・過負破損) (残留熱代替除去系を使用しない場合)
2	高圧注水・減圧機能喪失	14	高圧容器物放出/格納容器閉気直接加熱
3	全交流動力電源喪失 (長期Ⅱ)	15	原子炉圧力容器外の除熱燃料 - 冷却材相互作用
4	全交流動力電源喪失 (TB)	16	留蔵炉心・コンクリート相互作用
5	全交流動力電源喪失 (TB)	17	想定事故1
6	全交流動力電源喪失 (TB)	18	想定事故2
7	留蔵炉心機能喪失 (取水機能が喪失した場合)	19	留蔵炉心機能喪失 (停止時)
8	留蔵炉心機能喪失 (格納容器が故障した場合)	20	全交流動力電源喪失 (停止時)
9	原子炉停止機能喪失	21	原子炉冷却材の流出 (停止時)
10	LOCA時注水機能喪失	22	反応度の暴投入 (停止時)
11	格納容器バイパス (インターフェイスシステムLOCA)		
12	蒸気圧力・温度による静的負荷 (格納容器過圧・過負破損) (残留熱代替除去系を使用する場合)		

泊発電所3号炉

第1表 有効性評価及び技術的能力手順におけるアクセスルートエリア

T.P.	原子炉補助建屋 (非管理区域)	原子炉補助建屋 (管理区域)	原子炉建屋 (非管理区域)	原子炉建屋 (管理区域)	ディーゼル 発電機建屋 (非管理区域)
43.6m			①②③④⑤ ⑥⑦⑧⑨		
40.3m		①②③④⑤⑥⑦		①②③④⑤⑥⑦	
36.3m			①②③		
33.1m	①②③④⑤	①②③④ ⑤⑥⑦	①②③④	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨	
29.3m			①②③④		
28.7m				③④⑤	
28.6m	①②③④⑤⑥	—			
24.8m	①②③④⑤ ⑥⑦⑧⑨	①②③④ ⑤⑥⑦⑧⑨	①②③④⑤ ⑥⑦⑧⑨	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨	
17.8m (中間床)	—	—	—	②③④⑤⑥⑦⑧⑨	
17.8m	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟	
10.3m (中間床)	—	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟	—	
10.3m	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟	—	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟
6.2m					○
2.9m (中間床)	—	—	—	—	
2.9m		①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟			
2.3m (中間床)			①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟		
2.3m			①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟		
-1.7m			①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟		

【凡例】  
 ○ (数字なし) 有効性評価では通行しないが技術的能力1.1~1.19で通行するフロア  
 ○ (数字あり) 有効性評価で通行するフロア  
 — 通行しないフロア ■ 建屋ごとの対象外フロア

No.	事故シナリオ	作業番号*	No.	事故シナリオ	作業番号*
1	2次冷却系からの除熱機能喪失	—	11	留蔵炉心・温度による静的負荷 (格納容器過圧・過負)	⑤
2	全交流動力電源喪失 (外部電源喪失時に非常用内交流電源が喪失し、原子炉補給冷却機能が喪失及びRCPシールLOCAが発生する事故)	①	12	留蔵炉心・温度による静的負荷 (格納容器過圧・過負)	⑤
3	全交流動力電源喪失 (外部電源喪失時に非常用内交流電源が喪失し、原子炉補給冷却機能が喪失する事故)	②	13	高圧容器物放出/格納容器閉気直接加熱	⑩
4	原子炉補給冷却機能喪失	③	14	原子炉圧力容器外の除熱燃料 - 冷却材相互作用	⑦
5	原子炉補給冷却機能喪失	④	15	留蔵炉心・コンクリート相互作用	⑧
6	原子炉停止機能喪失	—	16	留蔵炉心機能喪失 (停止時)	⑩
7	ECS注水機能喪失	—	17	全交流動力電源喪失 (停止時)	⑩
8	ECS再循環機能喪失	⑤	18	留蔵炉心機能喪失 (余熱除去系の故障による停止時冷却機能喪失)	⑩
9	格納容器バイパス (インターフェイスシステムLOCA)	⑥	19	全交流動力電源喪失 (燃料取出面のミッドロープ漏れ時に外部電源が喪失するときに非常用内交流電源が喪失する事故)	⑩
10	格納容器バイパス (蒸気発生器の詰り時に破損蒸気発生器の隔離に失敗する事故)	⑦	20	留蔵炉心機能喪失 (停止時)	⑩
			21	原子炉冷却材の流出	⑩
			22	反応度の暴投入	⑩

※ 作業内容が同様のシナリオに関して同一の作業番号とする。

【女川及び島根】  
 記載内容の相違  
 ・有効性評価及び各プランの設備及び対応手段の相違。

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉

第2表 有効性評価及び技術的能力手順におけるアクセスルート溢水水位

E.L.	原子炉建屋 原子炉棟	原子炉建屋 付属棟 (非管理区域)	原子炉建屋 付属棟 (廃棄物処理 エリア) (管理区域)	原子炉建屋 付属棟 (廃棄物処理 エリア) (非管理区域)	制御建屋 (管理区域)	制御建屋 (非管理区域)	タービン建屋 (管理区域)	タービン建屋 (非管理区域)
3200	カーブ高さ							
27800	溢水なし							
24800							—	
23500						溢水なし		
22500	溢水なし	溢水なし	—	—				
19600						溢水なし		
15000	カーブ高さ	溢水なし	カーブ高さ	溢水なし	溢水なし	溢水なし	カーブ高さ	
10700	溢水なし							
8000						溢水なし		
7600							—	—
8000	カーブ高さ	溢水なし	—					
1500						溢水なし		
800							—	—
-800	カーブ高さ	—	—					
-8100	◇	—	—					

【凡例】  
 「カーブ高さ」：床開口部のカーブ高さ（約13cm）  
 「溢水なし」：当該エリアでの排水又は他エリアからの溢水流入なし  
 —：通行しないフロア  
 ◇：水深20cm以上となる場合があるエリア  
 ■：建屋ごとの対象外フロア

島根原子力発電所2号炉

第2表 有効性評価及び技術的能力手順におけるアクセスルート溢水水位

E.L.	原子炉建屋 (管理区域)	原子炉建屋 (非管理区域)	タービン建屋 (非管理区域)	廃棄物処理建屋 (非管理区域)	制御室建屋
42.800	カーブ高さ				
34.800	カーブ高さ	カーブ高さ			
30.500	—	溢水なし			
29.800	カーブ高さ	カーブ高さ			
22.100				溢水なし	
16.900			カーブ高さ	溢水なし	カーブ高さ
15.300	カーブ高さ	カーブ高さ			
12.800					カーブ高さ
12.300				溢水なし	
8.800	溢水なし	カーブ高さ	—		カーブ高さ
2.800		約9cm			
1.300	約95cm				

【凡例】  
 「カーブ高さ」：下層階へ排水する開口部高さ（約8cm）  
 「溢水なし」：当該エリアでの排水又は他エリアからの溢水流入なし  
 「—」：アクセスしないフロア  
 ■：建屋に存在しないフロアレベル

泊発電所3号炉

第2表 有効性評価及び技術的能力手順におけるアクセスルート溢水水位

T.P.	原子炉補助建屋 (非管理区域)	原子炉補助建屋 (管理区域)	原子炉建屋 (非管理区域)	原子炉建屋 (管理区域)	ディーゼル 発電機建屋 (非管理区域)
43.6m			溢水なし		
40.3m		溢水なし		溢水なし	
36.3m			溢水なし		
33.1m	溢水なし	溢水なし	溢水なし	堰高さ（約0cm）	
29.3m			溢水なし		
28.7m				溢水なし	
28.6m	溢水なし	—			
24.8m	溢水なし	堰高さ（約5cm）	溢水なし	堰高さ（約5cm）	
17.8m（中間床）	—	—	—	堰高さ（約10cm）	
17.8m	溢水なし	堰高さ（約5cm）	溢水なし	堰高さ（約5cm）	
10.3m（中間床）	—	溢水なし	溢水なし	—	
10.3m	溢水なし	堰高さ（約5cm）	溢水なし	—	溢水なし
6.2m					溢水なし
2.8m（中間床）	—	—	—	—	
2.8m		堰高さ（約5cm）			
2.3m（中間床）			溢水なし		
2.3m			約1cm		
-1.7m			約14cm		

【凡例】  
 堰高さ：床開口部の堰高さ  
 溢水なし：当該エリアでの排水又は他エリアからの溢水流入なし  
 —：通行しないフロア  
 ■：建屋ごとの対象外フロア

追而【他条文の審査状況の反映】  
 （上記の破線囲部分 は、第9条の審査状況を踏まえて反映するため追而としている。）

破線囲部分：評価結果に係る部分は別途ご説明する

【女川及び島根】  
 記載内容の相違  
 ・有効性評価及び各プラントの設備及び対応手段の相違。



泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>原子炉建屋原子炉棟の最終貯留区画を除くアクセスルートにおける溢水水位の最大は床開口部のカーブ高さ（約13cm）であることから、長靴（靴丈約28cm）を装備することで地震により溢水が発生した場合においてもアクセスルートの通行は可能である。</p> <p>なお、防護具の着用は10分以内に実施可能であることを確認した。</p> <p>また、実際には床ファンネルによる排水が期待できるため通行は容易である。</p> <p>原子炉建屋原子炉棟の最終貯留区画において使用済燃料プール、原子炉ウェル及びDSピットからのスロッシングを考慮した場合、溢水量は212m<sup>3</sup>となり、アクセスルートにおける溢水水位は約83cmとなる。アクセスルート上の溢水水位が水深20cm以上となることから、通行できないと考えられる。</p> <p>しかしながら、原子炉建屋原子炉棟の最終貯留区画への通行が必要となる作業は高圧代替注水系及び原子炉隔離時冷却系の系統構成であり、本作業が必要となる場合には、原子炉ウェル及びDSピットには水が張られていないことから、溢水源は使用済燃料プールのみによるスロッシングによる溢水量80m<sup>3</sup>となり、アクセスルートにおける溢水水位は約13cmとなる。アクセスルート上の溢水水位が水深20cm以下となるため、長靴（靴丈約28cm）を装備することで十分に通行可能な水位である。</p> <p>アクセスルートへの溢水影響範囲について第3-1図～第3-8図に示す。</p>	<p>原子炉建物最上階には、燃料プールのスロッシング対策として開口部からの落水を抑制するために堰を新たに設置しており、溢水水位は「約19cm」である。</p> <p>建物の浸水時における歩行可能な水深は、歩行困難水深、水圧でドアが開かなくなる水深等から30cmと設定しており、作業用長靴（長さ約40cm）を装備することで、地震により溢水が発生してもアクセスルートの通行は可能である。</p> <p>なお、防護具の着用は10分以内に実施可能であることを確認した。</p> <p>また、実際には床目皿による排水が期待できるためアクセスは容易になる。</p> <p>原子炉建物（管理区域）の最終貯留区画であるトラス室については、アクセス及び操作が必要となるが、トラス室の歩廊は床面から約7.5mの高さに設置しており、溢水水位約95cmに対し十分に高い位置にあるためアクセスは可能である。なお、その他の原子炉建物最地下階のアクセスが必要となる区画の溢水はない。</p>	<div style="border: 1px dashed red; padding: 10px; text-align: center;"> <p>追而【他条文の審査状況の反映】                      （評価結果は、第9条の審査状況を踏まえて反映するため追而としている。）</p> </div> <p>アクセスルートへの溢水影響範囲について第3-1図～第3-9図に示す。</p> <div style="border: 1px dashed red; padding: 5px; text-align: center; margin-top: 10px;"> <p>：評価結果に係る部分は別途ご説明する</p> </div>	<p>追而【他条文の審査状況の反映】                      （評価結果は、第9条の審査状況を踏まえて反映するため追而としている。）</p> <p>【島根】記載内容の相違・泊は、溢水影響範囲を記載している。</p>



泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉

島根原子力発電所2号炉

泊発電所3号炉

相違理由

第3-1表 アクセスルートの溢水源（原子炉建屋原子炉棟）

第3-1表 アクセスルートの溢水源「原子炉建物(管理区域)」

第3-1表 アクセスルートの溢水源（原子炉建屋（管理区域））

フロア	溢水源	溢水量 (m <sup>3</sup> )	温度 (℃)	溢水水位 (cm)	溢水源への 添加薬品	放射能 の有無
0.P.3320a (地上3階)	使用済燃料プール、原子炉ウエル及びDSビットスロッシング	212	65*	約13	無	有
0.P.15000 (地上1階)	使用済燃料プール、原子炉ウエル及びDSビットスロッシング	212	65*	約13	無	有
0.P.6000 (地下1階)	使用済燃料プール、原子炉ウエル及びDSビットスロッシング	212	65*	約13	無	有
0.P.-800 (地下2階)	使用済燃料プール、原子炉ウエル及びDSビットスロッシング	212	65*	約13	無	有
0.P.-8100 (地下3階)	使用済燃料プール、原子炉ウエル及びDSビットスロッシング	212	65*	約83	無	有

※ 保安規定で定める運転上の制限値（ただし、通常時は～40℃程度）

第3-2表 アクセスルートの溢水源  
（原子炉建屋付属棟（廃棄物処理エリア）（管理区域））

フロア	溢水源	溢水量 (m <sup>3</sup> )	温度 <sup>※1</sup> (℃)	溢水水位 (cm)	溢水源への 添加薬品	放射能 の有無
0.P.15000 (地上1階)	放射性ドレン移送系	33	66	約13	無	有
	機器ドレン系	1,232	66		無	有
	床ドレン・化学機液系	616	148		無	有
	ストームドレン系	99	66		無	無
	廃スラッジ系	979	66		無	有
	濃縮機液系	88	66		無	有
	固化系 <sup>※3</sup>	44	95		無	有
	純水供給水系	11	66		無	無
	復水供給水系	33	66		無	有
	ろ過水系	11	66		無	無
	換気空調補機常用冷却水系	55	66		防食剤	無
	換気空調補機非常用冷却水系 (Sクラス)	33	66		防食剤	無
	原子炉補機冷却水系	121 <sup>※3</sup>	85		防食剤	無
	原子炉補機冷却水系 (Sクラス含有) <sup>※4</sup>	209	85		防食剤	無
	加熱蒸気及び復水戻り系	22	204		無	無
	所内漏水系	33	85		防食剤	無
	消火用水系	180	40		無	無

※1 各系統の最高使用温度  
 ※2 休止設備であり現在保有水はないが、保有水があるものとして評価する  
 ※3 RCW (A) 及び RCW (B) の常用系保有水量の合計  
 ※4 常用系と非常用系の保有水量合計（保有水量が多いRCW (A) で評価）

フロア	溢水源	溢水量 (m <sup>3</sup> )	温度 (℃)	溢水水位 (cm)	溢水源への 添加薬品	放射能 の有無
E.L. 42.800a (4階)	空調換気設備冷却水系	38	約40	約19	防錆剤	無
	復水輸送系	1	約40		無	有
	補給水系	8	約40		無	無
	消火系	57	約40		無	無
E.L. 34.800a (3階)	燃料プール スロッシング	130	約40	約8	無	有
	原子炉補機冷却水系	58	約44		防錆剤	無
	燃料プール冷却系	16	約52		無	有
E.L. 23.800a (2階)	復水輸送系	2	約40	約8	無	有
	補給水系	28	約40		無	無
	制御棒駆動系	12	約59		無	有
	原子炉浄化系	104	約95以上		無	有
E.L. 15.300a (1階)	原子炉補機冷却水系	167	約44	約8	防錆剤	無
	復水輸送系	28	約40		無	有
	補給水系	28	約40		無	無
	燃料プール補給水系	1	約40		無	有
E.L. 1.300m (地下2階)	復水給水系	163	約95以上	約95	無	有
	制御棒駆動系	12	約59		無	有
	原子炉浄化系	158	約95以上		無	有
	原子炉補機冷却水系	205	約44		防錆剤	無
	復水輸送系	30	約40		無	有
	補給水系	28	約40		無	無
	燃料プール補給水系	1	約40		無	有
	制御棒駆動系	12	約59		無	有
	原子炉浄化系	158	約95以上		無	有
	原子炉補機冷却水系	224	約44		防錆剤	無
E.L. 1.300m (地下2階)	液体廃棄物処理系 (放射性ドレン移送系・機器)	6	約40	約95	無	有
	液体廃棄物処理系 (機器ドレン)	182	約40		無	有
	液体廃棄物処理系 (放射性ドレン移送系・床)	6	約40		無	有
	液体廃棄物処理系 (非放射性ドレン移送系)	1	約40		無	無
	復水輸送系	34	約40		無	有
	補給水系	32	約40		無	無
	燃料プール補給水系	1	約40		無	有

フロア	溢水源	溢水量 (m <sup>3</sup> )	温度 <sup>※1</sup> (℃)	溢水水位 (cm)	薬品内包 の有無	放射能 の有無
T.P.33.1a	使用済燃料ビットスロッシング	35.0	約30	約0	無	有
T.P.24.8a	使用済燃料ビットスロッシング	35.0	約30	約5	無	有
T.P.17.8a (中間床)	使用済燃料ビットスロッシング	35.0	約30	約10	無	有
T.P.17.8a	使用済燃料ビットスロッシング	35.0	約30	約5	無	有

※1：通常運転時の温度

第3-2表 アクセスルートの溢水源（原子炉建屋（非管理区域））

フロア	溢水源	溢水量 (m <sup>3</sup> )	温度 (℃)	溢水水位 (cm)	薬品内包 の有無	放射能 の有無
T.P.2.3a	薬液混合タンク	0.1	約27 <sup>※1</sup>	約1	有	無

※1：通常運転時に常置の機器は設計外気温度27℃とした

【他条文の審査状況の反映】  
 （上記の「破線部分」は、第9条の審査状況を踏まえて反映するため追而として追而している。  
 なお、「二重囲部分」は、第9条まとめ資料（令和5年5月提出資料）を踏まえた暫定値である。）

：評価結果に係る部分は別途ご説明する

【女川及び島根】  
 記載内容の相違  
 ・各プラントの溢水源の相違。

【女川及び島根】  
 記載内容の相違  
 ・各プラントの溢水源の相違。

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉

島根原子力発電所2号炉

泊発電所3号炉

相違理由

第3-3表 アクセスルートの溢水源（タービン建屋（管理区域））

第3-2表 アクセスルートの溢水源「原子炉建物(非管理区域)」

第3-3表 アクセスルートの溢水源（原子炉補助建屋（管理区域））  
 (1/2)

フロア	溢水源	溢水量 (m <sup>3</sup> )	温度 (℃)	溢水水位 (cm)	溢水源への 添加薬品	放射能 の有無
0.P.15000 (地上1階)	放射性ドレン移送系	11	86	約13	無	有
	機器ドレン系	22	66		無	有
	床ドレン・化学廃液系	22	145		無	有
	スチームドレン系	22	66		無	無
	廃スラッジ系	55	66		無	有
	復水系、給水系	649	180		無	有
	給水加熱器ドレン系	330	302		無	有
	復水ろ過装置	132	66		無	有
	復水原液装置	209	66		無	有
	高圧油圧系	11	70		無	有
	タービン潤滑油系	198	79		無	有
	固定子巻線冷却水系	22	74		無	有
	循環水系	1,200	41		無	無
	純水補給水系	11	66		無	無
	復水補給水系	33	66		無	有
	ろ過水系	11	66		無	無
	換気空調機械室冷却水系	110	66		防食剤	無
	原子炉補機冷却水系	66	66		防食剤	無
	タービン補機冷却水系	231	66		防食剤	無
	加熱蒸気及び復水戻り系	19	204		無	無
所内復水系	33	66	防食剤	無		
消火用水系	180	40	無	無		

※ 各系統の最高使用温度

フロア	溢水源	溢水量 (m <sup>3</sup> )	温度 (℃)	溢水水位 (cm)	溢水源への 添加薬品	放射能 の有無	
E.L. 34.800m (3階)	原子炉補機冷却水系	58	約44	約8	防錆剤	無	
	E.L. 23.800m (2階)	原子炉補機冷却水系	182	約44	約8	防錆剤	無
		消火系	69	約40		無	無
E.L. 15.300m (1階)	消火系	60	約40	約8	無	無	
E.L. 8.800m (地下1階)	原子炉補機冷却水系	223	約44	約8	防錆剤	無	
	液体廃棄物処理系 (非放射性ドレン移送系)	1	約40		無	無	
	補給水系	32	約40		無	無	
E.L. 8.800m (地下2階)	消火系	69	約40	約9	無	無	
	液体廃棄物処理系 (非放射性ドレン移送系)	1	約40		無	無	

フロア	溢水源	溢水量 (m <sup>3</sup> )	温度 (℃)	溢水水位 (cm)	薬品内包 の有無	放射能 の有無
T.P.24.8m	使用済燃料ピットスロッシング	35.0	約30	約5	無	有
	樹脂タンク	0.5	約27 <sup>※1</sup>		無	無
	原液貯蔵ビッド中性ソーダ計量 タンク	0.3	約27 <sup>※1</sup>		有	無
	洗浄排水蒸発装置リン酸ソーダ 注入装置	0.5	約27 <sup>※1</sup>		有	無
	セメント固化装置	18.4	約20~90 <sup>※1</sup>		有	有
	T.P.17.8m	使用済燃料ピットスロッシング	35.0		約30	約5
樹脂タンク		0.5	約27 <sup>※1</sup>	無	無	
原液貯蔵ビッド中性ソーダ計量 タンク		0.3	約27 <sup>※1</sup>	有	無	
洗浄排水蒸発装置リン酸ソーダ 注入装置		0.5	約27 <sup>※1</sup>	有	無	
セメント固化装置		18.4	約20~90 <sup>※1</sup>	有	有	
1次系薬品タンク		0.1	約27 <sup>※1</sup>	有	無	
T.P.10.3m	使用済燃料ピットスロッシング	35.0	約30	約5	無	有
	樹脂タンク	0.5	約27 <sup>※1</sup>		無	無
	原液貯蔵ビッド中性ソーダ計量 タンク	0.3	約27 <sup>※1</sup>		有	無
	洗浄排水蒸発装置リン酸ソーダ 注入装置	0.5	約27 <sup>※1</sup>		有	無
	セメント固化装置	18.4	約20~90 <sup>※1</sup>		有	有
	1次系薬品タンク	0.1	約27 <sup>※1</sup>		有	無
	重鉛注入装置	0.2	約27 <sup>※1</sup>		有	無
	ガス圧縮装置	0.2	約49		無	有
排ガス除塵装置	0.3	約27 <sup>※1</sup>	無	有		

※1：通常運転時の温度  
 ※2：通常運転時に常置の機器は設計外気温度27℃とした  
 ※3：装置内の構成機器及び配管による

【女川及び島根】  
 記載内容の相違  
 ・各プラントの溢水源の  
 相違。

追而【他条文の審査状況の反映】  
 (上記の「破線部分」は、第9条の審査状況を踏まえて反映するため追而として  
 ている。  
 なお、「二重部分」は、第9条まとめ資料(令和5年5月提出資料)を踏まえた  
 暫定値である。)

：評価結果に係る部分は別途ご説明する

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉

島根原子力発電所2号炉

泊発電所3号炉

相違理由

第3-3表 アクセスルートの溢水源「タービン建物(非管理区域)」

フロア	溢水源	溢水量 (m <sup>3</sup> )	温度 (°C)	溢水水位 (cm)	溢水源への 添加薬品	放射能 の有無
E.L. 16.900m (2階)	所内上水系	4	約40	約8	無	無

第3-4表 アクセスルートの溢水源「制御室建物」

フロア	溢水源	溢水量 (m <sup>3</sup> )	温度 (°C)	溢水水位 (cm)	溢水源への 添加薬品	放射能 の有無
E.L. 16.900m (4階)	所内上水系	4	約40	約8	無	無
E.L. 12.800m (3階)	消火系	45	約40	約8	無	無
E.L. 8.900m (2階)	消火系	45	約40	約8	無	無
	所内上水系	8	約40	約8	無	無

第3-3表 アクセスルートの溢水源（原子炉補助建屋（管理区域））  
(2/2)

フロア	溢水源	溢水量 (m <sup>3</sup> )	温度 <sup>※1</sup> (°C)	溢水水位 (cm)	薬品内包 の有無	放射能 の有無
I.P.2.Su	使用済燃料ビットスロッシング	35.9	約30	約5	無	有
	樹脂タンク	0.5	約27 <sup>※2</sup>		無	無
	硫酸貯蔵ビットの性ソーダ計量 タンク	0.3	約27 <sup>※2</sup>		有	無
	洗浄排水蒸発装置リン酸ソーダ 注入装置	0.5	約27 <sup>※2</sup>		有	無
	セメント固化装置	18.4	約20~約90 <sup>※3</sup>		有	有
	1次系薬品タンク	0.1	約27 <sup>※2</sup>		有	無
	樹脂注入装置	0.2	約27 <sup>※2</sup>		有	無
	ガス圧縮装置	0.2	約49		有	無
	廃ガス除菌装置	0.3	約27 <sup>※2</sup>		無	有
	硫酸ドレンタンク、 硫酸ドレンタンクから性ソーダ計 量タンク	1.1	約27 <sup>※2</sup>		有	有
I.P.-L.7u	使用済燃料ビットスロッシング	35.9	約30	約14	無	有
	樹脂タンク	0.5	約27 <sup>※2</sup>		無	無
	硫酸貯蔵ビットの性ソーダ計量 タンク	0.3	約27 <sup>※2</sup>		有	無
	洗浄排水蒸発装置リン酸ソーダ 注入装置	0.5	約27 <sup>※2</sup>		有	無
	セメント固化装置	18.4	約20~約90 <sup>※3</sup>		有	有
	1次系薬品タンク	0.1	約27 <sup>※2</sup>		有	無
	樹脂注入装置	0.2	約27 <sup>※2</sup>		有	無
	ガス圧縮装置	0.2	約49		無	有
	廃ガス除菌装置	0.3	約27 <sup>※2</sup>		無	有
	硫酸ドレンタンク、 硫酸ドレンタンクから性ソーダ計 量タンク	1.1	約27 <sup>※2</sup>		有	有

※1：通常運転時の温度  
 ※2：通常運転時に常置の機器は設計外気温度27℃とした  
 ※3：装置内の構成機器及び配管による

【女川及び島根】  
 記載内容の相違  
 ・各プラントの溢水源の  
 相違。

追而【他条文の審査状況の反映】  
 (上記の破線部分)は、第9条の審査状況を踏まえて反映するため追而として  
 いる。  
 なお、二重部分)は、第9条まとめ資料(令和5年5月提出資料)を踏まえた  
 暫定値である。)

破線部分：評価結果に係る部分は別途ご説明する



泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<div data-bbox="94 225 678 762" style="border: 1px solid black; height: 337px; width: 261px;"></div> <p data-bbox="185 778 584 799">第3-1図 アクセスルートへの溢水影響範囲</p> <div data-bbox="297 818 687 855" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p data-bbox="320 826 656 844">枠囲みの内容は防護上の観点から公開できません。</p> </div>		<div data-bbox="1350 188 1951 999" style="border: 2px dashed black; padding: 10px;"> <div data-bbox="1373 212 1928 951" style="border: 1px solid black; height: 463px; width: 248px;"></div> <p data-bbox="1451 954 1850 975">第3-1図 アクセスルートへの溢水影響範囲</p> </div> <div data-bbox="1368 1070 1944 1155" style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p data-bbox="1541 1082 1765 1099">追而【他条文の審査状況の反映】</p> <p data-bbox="1391 1102 1928 1145">(上記の「破線囲部分」は、第9条の審査状況を踏まえて反映するため追而としている。)</p> </div> <div data-bbox="1561 1182 1935 1225" style="border: 1px dashed red; padding: 2px; margin-top: 10px; background-color: yellow;"> <p data-bbox="1653 1193 1921 1211">: 評価結果に係る部分は別途ご説明する</p> </div> <div data-bbox="1361 1257 1935 1286" style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 10px;"> <p data-bbox="1451 1265 1928 1283">枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p> </div>	<p data-bbox="1977 197 2157 304">【女川】記載内容の相違 ・アクセスルートが異なることによる溢水影響範囲の相違。</p> <p data-bbox="1977 316 2157 422">【島根】記載内容の相違 ・泊は、溢水影響範囲を記載している。(女川と同様)</p>



泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<div data-bbox="89 204 685 826" style="border: 1px solid black; height: 390px; width: 266px;"></div> <p data-bbox="183 833 586 858">第3-2図 アクセスルートへの溢水影響範囲</p> <div data-bbox="293 880 685 919" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p data-bbox="315 890 663 909">枠囲みの内容は防護上の観点から公開できません。</p> </div>		<div data-bbox="1348 194 1953 960" style="border: 2px dashed black; padding: 10px;"> <div data-bbox="1370 220 1930 922" style="border: 1px solid black; height: 440px; width: 250px;"></div> <p data-bbox="1451 922 1854 944">第3-2図 アクセスルートへの溢水影響範囲</p> </div> <div data-bbox="1361 1043 1939 1129" style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p data-bbox="1384 1059 1917 1120">追而【他条文の審査状況の反映】                      (上記の <span style="border: 1px dashed black; padding: 1px;"> </span> 破線囲部分 は、第9条の審査状況を踏まえて反映するため追而としている。)</p> </div> <div data-bbox="1559 1152 1935 1190" style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 10px;"> <p data-bbox="1581 1161 1912 1184"><span style="border: 1px dashed black; padding: 1px;"> </span> : 評価結果に係る部分は別途ご説明する</p> </div> <div data-bbox="1361 1232 1935 1264" style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 10px;"> <p data-bbox="1384 1241 1912 1264"><span style="border: 1px solid black; padding: 1px;"> </span> 枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p> </div>	<p data-bbox="1975 197 2154 421">【女川】記載内容の相違                      ・アクセスルートが異なることによる溢水影響範囲の相違。                      【島根】記載内容の相違                      ・泊は、溢水影響範囲を記載している。(女川と同様)</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<div data-bbox="91 236 683 852" style="border: 1px solid black; height: 386px; width: 264px;"></div> <p data-bbox="183 865 586 890">第3-3図 アクセスルートへの溢水影響範囲</p> <div data-bbox="293 919 685 954" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p data-bbox="315 925 651 944">枠囲みの内容は防護上の観点から公開できません。</p> </div>		<div data-bbox="1352 201 1948 906" style="border: 1px solid black; height: 442px; width: 266px; border-style: dashed;"> <div data-bbox="1451 865 1854 890" style="color: blue;">第3-3図 アクセスルートへの溢水影響範囲</div> </div> <div data-bbox="1364 991 1944 1075" style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p data-bbox="1541 1002 1765 1021" style="text-align: center;">追而【他条文の審査状況の反映】</p> <p data-bbox="1391 1024 1928 1066">(上記の「破線部分」は、第9条の審査状況を踏まえて反映するため追而としている。)</p> </div> <div data-bbox="1563 1107 1939 1145" style="border: 1px solid gray; padding: 2px; margin-top: 10px; text-align: center;"> <p data-bbox="1653 1117 1928 1136" style="color: yellow;">：評価結果に係る部分は別途ご説明する</p> </div> <div data-bbox="1364 1182 1939 1209" style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 10px;"> <p data-bbox="1451 1187 1928 1206">枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p> </div>	<p data-bbox="1975 197 2159 217" style="color: blue;">【女川】記載内容の相違</p> <ul data-bbox="1975 226 2159 306" style="list-style-type: none"> <li data-bbox="1975 226 2159 306">・アクセスルートが異なることによる溢水影響範囲の相違。</li> </ul> <p data-bbox="1975 316 2159 335" style="color: blue;">【島根】記載内容の相違</p> <ul data-bbox="1975 344 2159 424" style="list-style-type: none"> <li data-bbox="1975 344 2159 424">・泊は、溢水影響範囲を記載している。(女川と同様)</li> </ul>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<div data-bbox="85 204 683 735" style="border: 1px solid black; height: 333px; width: 267px;"></div> <p data-bbox="183 751 584 774">第3-4図 アクセスルートへの溢水影響範囲</p> <div data-bbox="295 794 687 831" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p data-bbox="318 802 651 820">枠囲みの内容は防護上の観点から公開できません。</p> </div>		<div data-bbox="1361 204 1928 884" style="border: 2px dashed black; padding: 10px;"> <div data-bbox="1368 220 1921 879" style="border: 1px solid black; height: 413px; width: 247px;"></div> <p data-bbox="1451 895 1852 917">第3-4図 アクセスルートへの溢水影響範囲</p> </div> <div data-bbox="1361 1027 1935 1110" style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p data-bbox="1384 1038 1912 1102">【他条文の審査状況の反映】                  (上記の破線部分 は、第9条の審査状況を踏まえて反映するため追而としている。)</p> </div> <div data-bbox="1563 1129 1928 1161" style="border: 1px solid gray; padding: 2px; margin-top: 10px;"> <p data-bbox="1585 1134 1921 1155">: 評価結果に係る部分は別途ご説明する</p> </div> <div data-bbox="1361 1209 1928 1241" style="border: 1px solid gray; padding: 2px; margin-top: 10px;"> <p data-bbox="1442 1214 1921 1235">枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p> </div>	<p data-bbox="1980 204 2152 304">【女川】記載内容の相違                  ・アクセスルートが異なることによる溢水影響範囲の相違。</p> <p data-bbox="1980 320 2152 421">【島根】記載内容の相違                  ・泊は、溢水影響範囲を記載している。(女川と同様)</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<div data-bbox="87 217 687 794" style="border: 1px solid black; height: 362px; width: 268px;"></div> <p data-bbox="183 805 586 833">第3-5図 アクセスルートへの溢水影響範囲</p> <div data-bbox="288 863 680 903" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p data-bbox="311 874 658 895">枠囲みの内容は防護上の観点から公開できません。</p> </div>		<div data-bbox="1352 193 1944 823" style="border: 2px dashed black; padding: 10px;"> <div data-bbox="1375 217 1921 770" style="border: 1px solid black; height: 347px; width: 244px;"></div> <p data-bbox="1451 778 1845 805">第3-5図 アクセスルートへの溢水影響範囲</p> </div> <div data-bbox="1361 890 1944 978" style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p data-bbox="1384 906 1921 970">追而【他条文の審査状況の反映】                  (上記の破線囲部分は、第9条の審査状況を踏まえて反映するため追而としている。)</p> </div> <div data-bbox="1554 1007 1935 1050" style="border: 1px solid gray; padding: 2px; margin-top: 10px;"> <p data-bbox="1576 1018 1912 1038">: 評価結果に係る部分は別途ご説明する</p> </div> <div data-bbox="1352 1082 1935 1117" style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 10px;"> <p data-bbox="1442 1090 1912 1110">枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p> </div>	<p data-bbox="1980 199 2159 422">【女川】記載内容の相違                  ・アクセスルートが異なることによる溢水影響範囲の相違。                  【島根】記載内容の相違                  ・泊は、溢水影響範囲を記載している。(女川と同様)</p>



泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<div data-bbox="91 204 680 767" style="border: 1px solid black; height: 350px; width: 100%;"></div> <div data-bbox="181 775 589 802" style="color: blue;">第3-6図 アクセスルートへの溢水影響範囲</div> <div data-bbox="293 834 685 874" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">枠囲みの内容は防護上の観点から公開できません。</div>		<div data-bbox="1352 204 1942 922" style="border: 1px solid black; height: 450px; width: 100%; border-style: dashed;"> <div data-bbox="1442 922 1852 949" style="color: blue;">第3-6図 アクセスルートへの溢水影響範囲</div> </div> <div data-bbox="1361 1062 1942 1150" style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <p>追而【他条文の審査状況の反映】                      (上記の <span style="border: 1px dashed black; padding: 0 2px;"> </span> 破線囲部分 は、第9条の審査状況を踏まえて反映するため追而としている。)</p> </div> <div data-bbox="1563 1174 1942 1214" style="border: 1px dashed red; padding: 2px; color: red;">: 評価結果に係る部分は別途ご説明する</div> <div data-bbox="1361 1249 1942 1281" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <span style="border: 1px solid black; padding: 0 5px;"> </span> 枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。                 </div>	<p>【女川】記載内容の相違                      ・アクセスルートが異なることによる溢水影響範囲の相違。                      【島根】記載内容の相違                      ・泊は、溢水影響範囲を記載している。(女川と同様)</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<div data-bbox="85 199 685 826" style="border: 1px solid black; height: 393px; width: 268px;"></div> <p data-bbox="183 834 586 861">第3-7図 アクセスルートへの溢水影響範囲</p> <div data-bbox="293 911 685 948" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p data-bbox="315 919 663 938">枠囲みの内容は防護上の観点から公開できません。</p> </div>		<div data-bbox="1348 199 1939 826" style="border: 1px solid black; height: 393px; width: 264px; border-style: dashed;"></div> <p data-bbox="1447 807 1850 831">第3-7図 アクセスルートへの溢水影響範囲</p> <div data-bbox="1368 919 1944 1003" style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <p data-bbox="1541 930 1765 949">追而【他条文の審査状況の反映】</p> <p data-bbox="1391 954 1928 995">(上記の「破線囲部分」は、第9条の審査状況を踏まえて反映するため追而としている。)</p> </div> <div data-bbox="1561 1038 1928 1075" style="border: 1px solid gray; padding: 2px;"> <p data-bbox="1581 1046 1921 1070">: 評価結果に係る部分は別途ご説明する</p> </div> <div data-bbox="1361 1107 1935 1134" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p data-bbox="1451 1114 1935 1134">枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p> </div>	<p data-bbox="1977 199 2159 308">【女川】記載内容の相違 ・アクセスルートが異なることによる溢水影響範囲の相違。</p> <p data-bbox="1977 316 2159 424">【島根】記載内容の相違 ・泊は、溢水影響範囲を記載している。(女川と同様)</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<div data-bbox="85 215 683 794" style="border: 1px solid black; height: 363px; width: 267px;"></div> <p data-bbox="183 805 586 833">第3-8図 アクセスルートへの溢水影響範囲</p> <div data-bbox="282 874 674 906" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p data-bbox="304 880 651 900">枠囲みの内容は防護上の観点から公開できません。</p> </div>		<div data-bbox="1355 199 1944 906" style="border: 1px solid black; height: 443px; width: 263px; border-style: dashed;"></div> <p data-bbox="1444 865 1854 890">第3-8図 アクセスルートへの溢水影響範囲</p> <div data-bbox="1368 981 1944 1066" style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <p data-bbox="1541 992 1765 1011">追而【他条文の審査状況の反映】</p> <p data-bbox="1393 1015 1930 1056">(上記の <span style="border: 1px dashed black; padding: 0 2px;"> </span> 破線部分 は、第9条の審査状況を踏まえて反映するため追而としている。)</p> </div> <div data-bbox="1559 1098 1928 1134" style="border: 1px solid gray; padding: 2px;"> <p data-bbox="1581 1104 1921 1126"><span style="border: 1px dashed red; padding: 0 2px;"> </span> : 評価結果に係る部分は別途ご説明する</p> </div> <div data-bbox="1361 1169 1928 1198" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p data-bbox="1451 1176 1928 1198">枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p> </div>	<p data-bbox="1975 199 2154 306">【女川】記載内容の相違 ・アクセスルートが異なることによる溢水影響範囲の相違。</p> <p data-bbox="1975 316 2154 422">【島根】記載内容の相違 ・泊は、溢水影響範囲を記載している。(女川と同様)</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
		<div data-bbox="1361 199 1937 790" style="border: 2px dashed black; padding: 10px;"> <p style="text-align: center;">第3-9図 アクセスルートへの溢水影響範囲</p> </div> <div data-bbox="1368 858 1944 946" style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>追而【他条文の審査状況の反映】                      (上記の破線部分 は、第9条の審査状況を踏まえて反映するため追而として                      ている。)</p> </div> <div data-bbox="1559 978 1933 1018" style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-top: 10px; background-color: #ffffcc;"> <p>：評価結果に係る部分は別途ご説明する</p> </div> <div data-bbox="1361 1050 1933 1077" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p> </div>	<p>【女川】記載内容の相違                      ・アクセスルートが異なることによる溢水影響範囲の相違。                      【島根】記載内容の相違                      ・泊は、溢水影響範囲を記載している。(女川と同様)</p>



泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>4. アクセスルートエリアの溢水による影響                      (1) アクセスルートエリアの溢水による温度の影響</p> <p>地震による溢水源に、「使用済燃料プール、原子炉ウエル及びDSビットスロッシング水」があるが、通常時の温度は40℃程度であり、それらはアクセスルートエリアには貯留するものの、溢水水位が低く、ゴム長靴等の防護具を着用するため、通行に与える影響はない。</p> <p>また、高温の流体を内包する系統として「加熱蒸気及び復水戻り系」、「給水加熱器ドレン系」及び「復水系、給水系」があるが、重大事故等が発生した場合には、原子炉建屋付属棟を経由し原子炉建屋原子炉棟へ移動するアクセスルートを使用することから作業場所までの通行が可能である。</p> <p>したがって、有効性評価における原子炉建屋内での作業における高温状態による影響はないと考えられる。</p> <p>なお、蒸気影響が考えられる有効性評価シナリオ「格納容器バイパス（インターフェイスシステムLOCA）」の場合でも、原子炉減圧操作及び原子炉建屋ブローアウトパネルからの排気により、4時間程度で約44℃となると評価されており、防護具（耐熱服）を着用することで、温度による影響は緩和されるため通行に与える影響はないと考えられる。</p>	<p>4. アクセスルートエリアの溢水による影響                      (1) アクセスルートエリアの溢水による温度の影響</p> <p>地震による溢水源の中で、高温の流体を内包する系統は「主蒸気系」、「原子炉浄化系」及び「復水・給水系」が考えられる。いずれも漏えい検知による自動隔離等のインターロックが設置されている。</p> <p>漏えいにより一時的に原子炉建物二次格納容器内は高温になるが、隔離及びブローアウトパネルからの排気により温度は低下する。</p> <p>隔離に時間を要する有効性評価シナリオ「格納容器バイパス（インターフェイスシステムLOCA）」がA又はB-残留熱除去系で発生した場合を評価した結果、原子炉棟内環境が静定する事象発生の9時間後から現場操作の完了時間として設定している10時間後までの温度は最大で約44℃であり、原子炉棟内の滞在時間はA-残留熱除去系の場合で約38分、B-残留熱除去系の場合で約37分であることから、操作場所へのアクセス及び操作は可能である*。</p> <p>C-残留熱除去系又は低圧炉心スプレイ系で発生した場合を評価した結果、漏えいにより原子炉建物二次格納容器内の温度は僅かに上昇するが、現場操作の完了時間として設定している事象発生の10時間後までの温度は最大で約31℃であり、想定している作業環境（最大約44℃）未達で推移する。原子炉棟内の滞在時間はC-残留熱除去系の場合で約37分、低圧炉心スプレイ系の場合で約41分であることから、操作場所へのアクセス及び操作は可能である*。なお、この時ブローアウトパネルの開放圧力には到達しない。</p> <p>※想定している作業環境（最大約44℃）においては、主に低温やけどが懸念されるが、一般的に、接触温度と低温やけどになるまでのおおよその時間の関係は、44℃で3時間～4時間として知られている。（出典：消費者庁 NewsRelease（平成25年2月27日））</p>	<p>4. アクセスルートエリアの溢水による影響                      (1) アクセスルートエリアの溢水による温度の影響</p> <p>地震による溢水源に、「セメント固化装置」があり、この装置の構成機器には運転時の温度が約90℃程度となる機器があるが、温度の高い機器は隔壁又は堰によって囲まれた区画の中に設置されていることから高温水の飛散によるアクセスルートへの影響はなく、セメント固化装置の加熱源として使用している補助蒸気配管は耐震性を確保するため、蒸気の漏えいは発生しない。</p> <p>したがって、有効性評価の作業における高温状態による影響はないと考えられる。</p> <p>なお、蒸気影響が考えられる有効性評価シナリオ「格納容器バイパス（インターフェイスシステムLOCA）」の場合でも、現場操作時に高温となるエリアは通行しないため、操作場所へのアクセス性及び操作に与える影響はないものと考えられる。</p> <div data-bbox="1361 898 1939 986" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>追而【他条文の審査状況の反映】                      (上記の破線囲部分)は、第9条の審査状況を踏まえて反映するため追而としている。</p> </div> <div data-bbox="1563 1010 1939 1050" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>：評価結果に係る部分は別途ご説明する</p> </div>	<p>【女川及び島根】                      設備の相違                      ・高温の流体を内包する溢水源の相違及び高温の流体に対する評価結果の相違。                      ・泊は、アクセスルート上への高温水の飛散及び蒸気漏えいが無いことを記載している。</p> <p>【女川及び島根】                      記載表現の相違                      ・泊は、高温状態による影響がないことを記載した。</p> <p>【女川及び島根】                      設備の相違                      ・泊は、格納容器バイパス事象時に高温エリア内をアクセスしない。</p>



泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>(2) アクセスルートエリアの溢水による線量の影響                      放射性物質を内包する溢水源の中で、漏えい時に環境線量が最も厳しくなる系統は「使用済燃料プール、原子炉ウェル及びDSピットスロッシング水」である。アクセスルートエリアには貯留するが使用済燃料プール、原子炉ウェル及びDSピットスロッシング水の溢水に伴う被ばく線量率は約 <math>2.6 \times 10^{-4}</math> mSv/h となり、緊急時の被ばく線量制限値 100mSv と比較して十分小さく抑えられるため、被ばく防護の適切な装備を実施することで通行及び作業は可能であると考えられる。</p> <p>(3) アクセスルートエリアの化学薬品を含む溢水の影響                      アクセスルートエリアの化学薬品を含む溢水源は「補機冷却水系に含まれる防食剤<sup>*</sup>」がある。</p> <p>ただし、防食剤は配管内に注入されているものであり、地震による溢水により更に機器等が腐食し倒壊することはない。</p> <p>また、薬品自体の性状として、皮膚に付くと炎症の可能性があるが、薬剤が付着しないよう適切な薬品防護具（ゴム長靴、ゴム手袋、全面マスク）を持参し着用することにより、アクセス性は確保可能である。                      ※主な成分：亜硝酸ナトリウム</p>	<p>(2) アクセスルートエリアの溢水による線量の影響                      放射性物質を内包する溢水源の中で、漏えい時に環境線量率が最も厳しくなる系統は「原子炉浄化系」である。                      内部溢水で評価しているとおおり、原子炉浄化系の漏えいによる被ばく線量は数 mSv 程度となり、緊急時の被ばく線量制限値 100mSv と比較して十分小さく抑えられるため、被ばく防護の適切な装備を実施した上で作業は可能であると考えられる。</p> <p>(3) アクセスルートエリアの化学薬品を含む溢水の影響                      化学薬品を含む溢水源の中で、アクセスルートに影響を与える可能性のあるものは「原子炉補機冷却水系に含まれる防錆剤（亜硝酸ソーダ）」がある。</p> <p>「原子炉補機冷却水系に含まれる防錆剤（亜硝酸ソーダ）」は、濃度が十分低く防護具により安全性を確保していることから作業は可能であると考えられる。</p>	<p>(2) アクセスルートエリアの溢水による線量の影響                      放射性物質を内包する溢水源の中で、漏えい時に環境線量率が厳しくなる機器は「使用済燃料ピットスロッシング」、「セメント固化装置」、「ガス圧縮装置」及び「廃ガス除湿装置」である。                      溢水影響により環境線量率が最も高くなるアクセスルートエリアは最地下階となる原子炉補助建屋 T.P. -1.7m であり、当該エリアでの被ばく線量は数 mSv 程度となることから、緊急時の被ばく線量制限値 100mSv 以下に抑えられるため、被ばく防護の適切な装備を実施することで通行及び作業は可能であると考えられる。</p> <p>(3) アクセスルートエリアの化学薬品を含む溢水の影響                      化学薬品を含む溢水源の中で、アクセスルートに影響を与える可能性のある薬品は「洗浄排水蒸発装置リン酸ソーダ注入装置に含まれるリン酸水素二ナトリウム」及び「亜鉛注入装置に含まれる酢酸亜鉛」がある。</p> <p>ただし、これらの薬品は配管内に注入されるものであり、地震による溢水により更に機器等が腐食し倒壊することはない。</p> <p>また、これらの薬品の性状として、皮膚に付くと炎症の可能性があるが、薬剤が人体に付着しないよう適切な薬品防護具（ゴム長靴、ゴム手袋、全面マスク）を持参し着用することにより、アクセス性は確保可能である。</p>	<p>【女川及び島根】                      ・設備の相違                      ・放射性物質を内包する溢水源の相違。                      【女川及び島根】                      ・評価方針の相違                      ・泊は、環境線量率が厳しくなる機器が複数あるため、放射性物質を含む溢水が最地下階にすべて滞留した場合を想定して評価した。                      【島根】記載表現の相違</p> <p>【女川及び島根】                      ・設備の相違                      ・設備及びアクセスルートに影響を与える可能性のある化学薬品の相違。                      【女川】記載表現の相違                      【島根】記載内容の相違                      ・泊は、機器等への影響についても記載した。                      【島根】記載内容の相違                      ・泊は、人体への影響及び具体的な薬品防護具を記載した。</p>
		<p>追而【他条文の審査状況の反映】                      （上記の破線部分<sup>①</sup>は、第9条の審査状況を踏まえて反映するため追而としている。）</p>	<p>①：評価結果に係る部分は別途ご説明する</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																													
	<p>なお、廃棄物処理建物（管理区域）には液体廃棄物処理系中和装置に苛性ソーダ及び硫酸が存在し、固体廃棄物処理系中和装置に苛性ソーダ及び硫酸等が存在するが、通行するルートは廃棄物処理建物（非管理区域）であり、薬品設置箇所とは異なる場所にあるため影響を受けることはない。</p>	<p>なお、「セメント固化装置消泡剤タンク及び消泡剤計量管に含まれる非晶質シリカ」は、アクセスルート上に漏えいした場合であっても、人体への影響はないためアクセス性への影響はない。また、系統への薬品添加作業により溢水源の中に一時的に内包する薬品として、「水酸化ナトリウム」、「水加ヒドラジン」、「過酸化水素」、「水酸化リチウム」があるが、これらの薬品は添加時のみ内包し常時保管するものではないことから、溢水時の薬品によるアクセス性への影響を考慮する必要はないと考えられる。万一、薬品の添加作業中に地震が発生し、薬品の漏えいによりアクセス性が阻害される可能性がある場合であっても適切な薬品防護具（化学防護長靴、化学防護手袋、防毒マスク、ガス吸収缶）を持参し着用することにより、アクセス性は確保可能である。</p> <p>アクセスルートに影響を与える可能性のある薬品を第4表に、アクセスルートへの影響を考慮する必要がないとした薬品を第5表に示す。</p> <p style="text-align: center;">第4表 アクセスルートに影響を与える可能性のある薬品 （溢水源内に保管する薬品）</p> <table border="1" data-bbox="1344 718 1957 1157"> <thead> <tr> <th>フロア</th> <th>溢水源</th> <th>保管薬品</th> <th>容量 (濃度)</th> <th>被害想定</th> <th>対応内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉補助建屋 T.P. 24. 8a</td> <td>洗浄排水処理装置リン酸ソーダ注入装置</td> <td>リン酸水素二ナトリウム</td> <td>500 L (3.3wt%)</td> <td>【人体への影響】 ・吸入した場合・・・炎症 ・皮膚に付着した場合・・・炎症 ・目に入った場合・・・炎症 【ガスの発生】 ・毒性の強いガスの発生は少ない</td> <td>・薬品の流出時はアクセスルート上に溢水するが、流出時は人体への影響を考慮して、作業人体に接触しないよう適切な薬品防護具（ゴム長靴、ゴム手袋、全面マスク）を持参し着用することで、安全に通行することが可能である。</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">原子炉補助建屋 T.P. 10. 3a</td> <td>重油注入装置</td> <td>醇酸樹脂</td> <td>150 L (0.15wt%)</td> <td>【人体への影響】 ・吸入した場合、鼻、のど、気管、気管支等の粘膜が侵される。 ・皮膚に付着した場合、刺激作用があり、炎症を起こすことがある。 ・目に入った場合、粘膜が侵され、炎症を起こす。 【ガスの発生】 ・毒性の強いガスの発生は少ない</td> <td>・薬品の流出時はアクセスルート上に溢水するが、流出時は人体への影響を考慮して、作業人体に接触しないよう適切な薬品防護具（ゴム長靴、ゴム手袋、全面マスク）を持参し着用することで、安全に通行することが可能である。</td> </tr> <tr> <td>セメント固化装置消泡剤タンク</td> <td>非晶質シリカ</td> <td>135 L (10wt%)</td> <td>【人体への影響】 ・該当なし。 【ガスの発生】 ・毒性の強いガスの発生は少ない</td> <td>・薬品の流出時はアクセスルート上に溢水するが、有害性がないためアクセスルートへの影響はない。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>セメント固化装置消泡剤計量管</td> <td>非晶質シリカ</td> <td>6.5 L (10wt%)</td> <td>【人体への影響】 ・該当なし。 【ガスの発生】 ・毒性の強いガスの発生は少ない</td> <td>・薬品の流出時はアクセスルート上に溢水するが、有害性がないためアクセスルートへの影響はない。</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">―――追而【他条文の審査状況の反映】          (上記の破線囲部分 は、第9条の審査状況を踏まえて反映するため追而としている。)</p> <p style="text-align: right;">: 評価結果に係る部分は別途ご説明する</p>	フロア	溢水源	保管薬品	容量 (濃度)	被害想定	対応内容	原子炉補助建屋 T.P. 24. 8a	洗浄排水処理装置リン酸ソーダ注入装置	リン酸水素二ナトリウム	500 L (3.3wt%)	【人体への影響】 ・吸入した場合・・・炎症 ・皮膚に付着した場合・・・炎症 ・目に入った場合・・・炎症 【ガスの発生】 ・毒性の強いガスの発生は少ない	・薬品の流出時はアクセスルート上に溢水するが、流出時は人体への影響を考慮して、作業人体に接触しないよう適切な薬品防護具（ゴム長靴、ゴム手袋、全面マスク）を持参し着用することで、安全に通行することが可能である。	原子炉補助建屋 T.P. 10. 3a	重油注入装置	醇酸樹脂	150 L (0.15wt%)	【人体への影響】 ・吸入した場合、鼻、のど、気管、気管支等の粘膜が侵される。 ・皮膚に付着した場合、刺激作用があり、炎症を起こすことがある。 ・目に入った場合、粘膜が侵され、炎症を起こす。 【ガスの発生】 ・毒性の強いガスの発生は少ない	・薬品の流出時はアクセスルート上に溢水するが、流出時は人体への影響を考慮して、作業人体に接触しないよう適切な薬品防護具（ゴム長靴、ゴム手袋、全面マスク）を持参し着用することで、安全に通行することが可能である。	セメント固化装置消泡剤タンク	非晶質シリカ	135 L (10wt%)	【人体への影響】 ・該当なし。 【ガスの発生】 ・毒性の強いガスの発生は少ない	・薬品の流出時はアクセスルート上に溢水するが、有害性がないためアクセスルートへの影響はない。		セメント固化装置消泡剤計量管	非晶質シリカ	6.5 L (10wt%)	【人体への影響】 ・該当なし。 【ガスの発生】 ・毒性の強いガスの発生は少ない	・薬品の流出時はアクセスルート上に溢水するが、有害性がないためアクセスルートへの影響はない。	<p>【女川及び島根】 記載内容の相違 ・泊は、薬品漏えい時に防護具着用の必要がない薬品について記載した。</p> <p>【女川及び島根】 記載内容の相違 ・泊は、添加作業により一時的に薬品を内包する溢水源に対する評価結果を記載した。</p> <p>【女川及び島根】 記載方針の相違 ・泊は、アクセスルートに影響を与える可能性のある薬品が複数あるため被害想定等を表形式で記載した。</p>
フロア	溢水源	保管薬品	容量 (濃度)	被害想定	対応内容																											
原子炉補助建屋 T.P. 24. 8a	洗浄排水処理装置リン酸ソーダ注入装置	リン酸水素二ナトリウム	500 L (3.3wt%)	【人体への影響】 ・吸入した場合・・・炎症 ・皮膚に付着した場合・・・炎症 ・目に入った場合・・・炎症 【ガスの発生】 ・毒性の強いガスの発生は少ない	・薬品の流出時はアクセスルート上に溢水するが、流出時は人体への影響を考慮して、作業人体に接触しないよう適切な薬品防護具（ゴム長靴、ゴム手袋、全面マスク）を持参し着用することで、安全に通行することが可能である。																											
原子炉補助建屋 T.P. 10. 3a	重油注入装置	醇酸樹脂	150 L (0.15wt%)	【人体への影響】 ・吸入した場合、鼻、のど、気管、気管支等の粘膜が侵される。 ・皮膚に付着した場合、刺激作用があり、炎症を起こすことがある。 ・目に入った場合、粘膜が侵され、炎症を起こす。 【ガスの発生】 ・毒性の強いガスの発生は少ない	・薬品の流出時はアクセスルート上に溢水するが、流出時は人体への影響を考慮して、作業人体に接触しないよう適切な薬品防護具（ゴム長靴、ゴム手袋、全面マスク）を持参し着用することで、安全に通行することが可能である。																											
	セメント固化装置消泡剤タンク	非晶質シリカ	135 L (10wt%)	【人体への影響】 ・該当なし。 【ガスの発生】 ・毒性の強いガスの発生は少ない	・薬品の流出時はアクセスルート上に溢水するが、有害性がないためアクセスルートへの影響はない。																											
	セメント固化装置消泡剤計量管	非晶質シリカ	6.5 L (10wt%)	【人体への影響】 ・該当なし。 【ガスの発生】 ・毒性の強いガスの発生は少ない	・薬品の流出時はアクセスルート上に溢水するが、有害性がないためアクセスルートへの影響はない。																											



泊発電所 3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所 2号炉

島根原子力発電所 2号炉

泊発電所 3号炉

相違理由

第5表 アクセスルートへの影響を考慮しないとした薬品  
 （薬品添加作業時のみ溢水源の中に内包する薬品）

フロア	溢水源	添加薬品	容量 (濃度)	被害想定	対応内容
原子炉 補助建屋 T.P. 2.4.8a	廃液貯蔵 ビツクの性 ソーダ計量 タンク	水酸化 ナトリウム	300 L <sup>※1</sup> (25wt%)	【人体への影響】 ・接触により皮膚表 面の組織を侵す。 【ガスが発生】 ・毒性の強いガスの 発生は少ない。	・本設備は廃液貯蔵ビツクへの薬品の添加を目的 としていることから、薬品添加時以外は薬品を内 包するものではなく、薬品を常時保管するものでは ないことから溢水時にアクセス性への影響を考慮 する必要はない。 ・万一、薬品の添加作業中に地震が発生し漏えいによ りアクセス性が阻害される可能性がある場合であ っても、適切な薬品防護具（化学防護長靴、化学防 護手袋、全面マスク）を携帯し着用することにより、 アクセス性は確保可能である。
原子炉 建屋 T.P. 17.8a	1次系 薬品 タンク	水酸化 リチウム	19 L <sup>※1</sup> (10wt%)	【人体への影響】 ・重篤な皮膚の薬傷 及び目の損傷 【ガスが発生】 ・毒性の強いガスの 発生は少ない。	・本設備は1次冷却系薬品への薬品の添加を目的 としていることから、薬品添加時以外は薬品を内 包するものではなく、薬品を常時保管するものでは ないことから溢水時にアクセス性への影響を考慮 する必要はない。 ・万一、薬品の添加作業中に地震が発生し漏えいによ りアクセス性が阻害される可能性がある場合であ っても、「水酸化リチウム」又は「過酸化水素」が 漏えいした場合については、適切な薬品防護具（化 学防護長靴、化学防護手袋、全面マスク）を携帯し 着用することにより、アクセス性は確保可能であ る。適切な薬品防護具（化学防護長靴、化学防護手 袋、防護マスク、ガス検知器）を携帯し着用するこ とにより、アクセス性は確保可能である。 ・なお、本設備に内包する「水酸化リチウム」、「水 酸化ヒドロキシド」は、それぞれプラント 起動停止時に1次冷却系薬品の水質調整に使用す ることから同時に保管することなく、薬品が混 合することはない。
		水加 ヒドロキシド	19 L <sup>※1</sup> (30wt%)	【人体への影響】 ・重篤な皮膚の薬傷 及び目の損傷 【ガスが発生】 ・毒性の強いガスが 発生する可能性が ある。	
		過酸化 水素	19 L <sup>※1</sup> (32wt%)	【人体への影響】 ・重篤な皮膚の薬傷 及び目の損傷 【ガスが発生】 ・毒性の強いガスの 発生は少ない。	
原子炉 補助建屋 T.P. 17.8a	セメント 固化装置 中和槽 計量槽	水酸化 ナトリウム	10 L <sup>※1</sup> (25wt%)	【人体への影響】 ・接触により皮膚表 面の組織を侵す。 【ガスが発生】 ・毒性の強いガスの 発生は少ない。	・本設備はセメント固化装置への薬品の添加を目的 としていることから、薬品添加時以外は薬品を内 包するものではなく、薬品を常時保管するものでは ないことから溢水時にアクセス性への影響を考慮 する必要はない。 ・万一、薬品の添加作業中に地震が発生し漏えいによ りアクセス性が阻害される可能性がある場合であ っても、適切な薬品防護具（化学防護長靴、化学防 護手袋、全面マスク）を携帯し着用することにより、 アクセス性は確保可能である。
		水酸化 ナトリウム	20 L <sup>※1</sup> (25wt%)	【人体への影響】 ・接触により皮膚表 面の組織を侵す。 【ガスが発生】 ・毒性の強いガスの 発生は少ない。	
原子炉 建屋 T.P. 2.3a	薬液混合 タンク	水加 ヒドロキシド	18 L <sup>※1</sup> (30wt%)	【人体への影響】 ・重篤な皮膚の薬 傷・目の損傷 【ガスが発生】 ・毒性の強いガスが 発生する可能性が ある。	・本設備は空冷用冷水設備への薬品の添加を目的 としていることから、薬品添加時以外は薬品を内 包するものではなく、薬品を常時保管するものでは ないことから溢水時にアクセス性への影響を考慮 する必要はない。 ・万一、薬品の添加作業中に地震が発生し漏えいによ りアクセス性が阻害される可能性がある場合であ っても、適切な薬品防護具（化学防護長靴、化学防 護手袋、防護マスク、ガス検知器）を携帯し着用す ることにより、アクセス性は確保可能である。

【女川及び島根】  
記載方針の相違  
・泊は、アクセスルート  
への影響を考慮する必  
要がないとした薬品が  
複数あるため、被害想  
定等を表形式で記載し  
た。

※1：添加薬品を常時保管するものではなく、薬品添加時以外はタンク内に要の取量である。  
 ※2：添加薬品を常時保管するものではなく、薬品添加時以外はタンク内に系統水（空調用冷水）にて満たされている。

追而【他条文の審査状況の反映】  
 （上記の「破線画部分」は、第9条の審査状況を踏まえて反映するため追而とし  
 ている。）

：評価結果に係る部分は別途ご説明する



泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>(4) 照明への影響                      照明については、常用電源若しくは非常用電源から受電し、建屋全体に設置されていることから現場への通行に影響はない。また、溢水の影響により一部の照明が機能喪失した場合においても、中央制御室に配備しているヘッドライト、懐中電灯の携行により対応可能である。</p> <p>(5) 感電の影響                      電気設備が溢水の影響を受けた場合は保護回路が動作し、電気回路をトリップすることで、当該電気設備の給電が遮断されると考えられる。また、地絡等の警報が発生した場合は負荷の切離し等の対応を行う。さらに、ゴム長靴等の防護具を着用することによりアクセス時の安全性を確保する。</p> <p>(6) 漂流物の影響                      屋内に設置された棚やラック等の設備は固縛処置がされており、溢水が発生した場合においても漂流物になることはない。よってアクセス性に対して影響はない。</p> <p>5. 防護具の配備状況                      地震による内部溢水の発生により、建屋内の床面が没水した場合を考慮しても対応作業が可能となる必要となる防護具の配備状況についても確認した。</p> <p>内部溢水が発生していると考えられる場合には、中央制御室で必要な防護具を着用し、対応操作現場に向かう手順としており、訓練等を通じて、防護具の着用時間は10分以内で実施できることを確認した。</p>	<p>(4) 照明への影響                      照明設備については常用電源若しくは非常用電源から受電しており、建物全体に設置されている。溢水の影響により照明機能が喪失しても、可搬型照明により対応可能である。（別紙(16)参照）</p> <p>(5) 感電の影響                      電気設備が溢水の影響を受けた場合は、保護回路が動作し電気回路をトリップすることで電源供給が遮断されると考えられる。また、地絡等の警報が発生した場合は負荷の切り離し等の対応を行う。                      なお、第3図に示す絶縁性を確保した装備を着用することによりアクセス時の安全性を確保する。</p> <p>(6) 漂流物の影響                      屋内に設置された棚やラック等の設備は、固縛処置がされており、溢水が発生した場合においても漂流物となることはない。よってアクセス性に対して影響はない。</p> <p>【内部溢水に対する対応】                      地震による内部溢水の発生により、建物内の床面が水没した場合を考慮しても対応作業が可能となるよう、必要となる防護具を配備する。                      なお、作業現場に向かう際には防護具を携帯する。</p> <p>内部溢水が発生していると考えられる場合には、予め中央制御室や緊急時対策所で必要な防護具を着用し、対応操作現場に向かう手順としており、訓練等を通じて、防護具の着用時間は10分以内で実施できることを確認した。</p>	<p>(4) 照明への影響                      照明については、常用電源若しくは非常用電源から受電し、建屋全体に設置されていることから現場への通行に影響はない。また、溢水の影響により一部の照明が機能喪失した場合においても、中央制御室に配備しているヘッドライト、懐中電灯の携行により対応可能である。</p> <p>(5) 感電の影響                      電気設備が溢水の影響を受けた場合は保護回路が動作し、電気回路をトリップすることで、当該電気設備の給電が遮断されると考えられる。また、地絡等の警報が発生した場合は負荷の切り離し等の対応を行う。さらに、ゴム長靴等の防護具を着用することによりアクセス時の安全性を確保する。</p> <p>(6) 漂流物の影響                      屋内に設置された棚やラック等の設備は固縛処置がされており、溢水が発生した場合においても漂流物になることはない。よってアクセス性に対して影響はない。</p> <p>追而【他条文の審査状況の反映】                      （上記の破線部分 は、第9条の審査状況を踏まえて反映するため追而としている。）</p> <p>：評価結果に係る部分は別途ご説明する</p> <p>5. 防護具の配備状況                      地震による内部溢水の発生により、建屋内の床面が没水した場合を考慮しても対応作業が可能となる必要となる防護具の配備状況についても確認した。                      なお、作業現場に向かう際には防護具を携帯する。</p> <p>内部溢水が発生していると考えられる場合には、中央制御室や緊急時対策所で必要な防護具を着用し、対応操作現場に向かう手順としており、訓練等を通じて、防護具の着用時間は10分以内で実施できることを確認した。</p>	<p>【島根】記載表現の相違                      【女川】名称の相違</p> <p>【島根】記載表現の相違</p> <p>【島根】記載表現の相違</p> <p>【島根】記載表現の相違</p> <p>【女川】記載内容の相違                      ・泊は、現場移動時に防護具を携帯することを追記した。（島根と同様）</p> <p>【島根】記載表現の相違                      【女川】記載内容の相違                      ・泊は、緊急時対策所の要員が屋内にアクセスする場合も考慮し、緊急時対策所で必要な防護具を着用することを記載した。</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）



















1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>配備場所：中央制御室</p> <p>防護具：綿手袋，ゴム長靴（靴丈 28cm），ゴム手袋，必要に応じて電子式線量計，タイベック，EVA スーツ，全面マスク</p> <p>さらに，高温，高線量での操作及び評価を超える溢水に対応するために，耐熱服，自給式呼吸器，胴長靴を配備する。</p>	<p>アクセスに係る防護具等を第3図に示す。</p> <p>配備箇所：中央制御室，緊急時対策所</p> <p>防護具：『マスク』（状況に応じて選択）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全面マスク等（全面マスク又は電動ファン付き全面マスク）</li> <li>・酸素呼吸器</li> <li>・セルフエアーセット</li> </ul> <p>『服装』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴム手袋</li> <li>・汚染防護服</li> <li>・被水防護服</li> <li>・耐熱服*</li> <li>・作業用長靴</li> </ul> <p>※第2チェックポイント（原子炉建物1階）に配備薬品類の漏えい時に着用する防護具は別紙(35)参照</p>	<p>アクセスに係る防護具等を第4図に示す。</p> <p>配備場所：中央制御室近傍，緊急時対策所，災害対策要員執務室</p> <p>防護具：綿手袋，ゴム長靴（靴丈 28cm），胴長靴（靴丈約 130cm）*，ゴム手袋，ポケット線量計，タイベック，アノラック，全面マスク</p> <p>※：中央制御室近傍にのみ配備</p> <p>さらに，評価を超える溢水に対応するため，薬品防護具（化学防護服，化学防護手袋，化学防護長靴，防毒マスク，ガス吸収缶，防護メガネ），自給式呼吸器を配備する。</p>	<p>【女川】記載表現の相違</p> <p>【女川及び島根】記載内容の相違                  ・泊の配備場所及び防護具を記載した。</p> <p>【島根】記載内容の相違                  ・泊は，薬品漏えい時においても溢水防護具と同様の防護具（ゴム長靴，ゴム手袋，全面マスク）を着用して対応する。</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<div style="display: flex; flex-wrap: wrap; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;">  <p>個人線量計 (電子式線量計)</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;">  <p>汚染防護服 (タイベック)</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;">  <p>EVAシューズ</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;">  <p>長靴</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;">  <p>全面マスク</p> </div> </div>	<div style="display: flex; flex-wrap: wrap; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;">  <p>全面マスク</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;">  <p>セルフエアセット</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;">  <p>酸素呼吸器</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;">  <p>汚染防護服</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;">  <p>被水防護服</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;">  <p>作業用長靴</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;">  <p>耐熱服</p> </div> </div> <p style="text-align: center;">第3図 溢水時に着用する防護具 (例)</p>	<div style="display: flex; flex-wrap: wrap; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;">  <p>ポケット線量計</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;">  <p>タイベック</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;">  <p>アノラック</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;">  <p>全面マスク</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;">  <p>ゴム長靴</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;">  <p>膜長靴</p> </div> </div> <p style="text-align: center;">第4図 溢水時に着用する防護具 (例)</p>	<p style="text-align: center;">【女川】記載表現の相違</p>



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

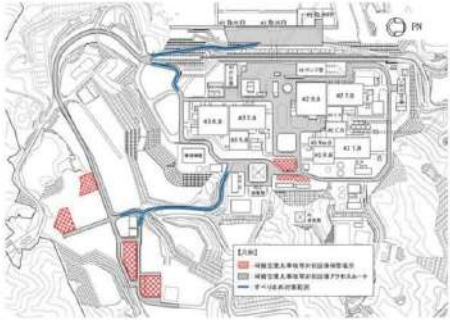
1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p style="text-align: right;">別紙(36)</p> <p style="text-align: center;">積雪、凍結時のすべり止め対策について</p> <p>1. はじめに                  積雪、凍結への対応として、下記①～②の対策によりアクセスルートの積雪や凍結による車両の通行支障を事前に防止する。さらに下記③～⑤により積雪や凍結時の通行性を確実にする対策を行う。                  ①降雪時に速やかに除雪を実施できる体制を構築する。                  ②積雪、凍結が発生又は発生が予想される場合は、融雪剤を散布する。                  ③車両に常時スタッドレスタイヤを装着し、積雪、凍結時は徐行（15km/h 以下）で走行する。                  ④アクセスルートの急勾配箇所にはすべり止め舗装を施す。                  ⑤アクセスルートの急勾配箇所にはすべり止め材（砂）を配備する。</p>	<p style="text-align: right;">該当箇所なし</p>	<p style="text-align: right;">別紙(35)</p> <p style="text-align: center;">積雪、凍結時の通行性確保について</p> <p>1. はじめに                  積雪、凍結への対応として、下記①～②の対策によりアクセスルートの積雪や凍結による車両の通行支障を事前に防止する。さらに下記③～⑤により積雪や凍結時の通行性を確実にする対策を行う。                  ①降雪時に速やかに除雪を実施できる体制を構築する。                  ②積雪、凍結が発生又は発生が予想される場合は、必要に応じて融雪剤を散布する。                  ③車両にスタッドレスタイヤ又はスパイクタイヤを装着し、積雪、凍結時は徐行（15km/h 以下）で走行する。                  ④アクセスルートの周辺にスノーボールを設置する。                  ⑤アクセスルート近傍にすべり止め材（砂）を配備する。</p> <p>2. 積雪対策                  アクセスルートへの積雪については、気象予報により事前の予測が十分に可能であり、速やかに除雪できる体制を構築している。アクセスルートへの積雪量が10cm程度を目安に除雪する。</p> <p>3. 視界不良対策                  降雪や吹雪が発生している場合における可搬型設備の運搬や除雪作業については、あらかじめスノーボールをアクセスルートに沿って設置しておくことにより、運転者に道路線形を明示し、対応操作が可能となるよう対策する。スノーボールの設置例を第1図に示す。</p> <div data-bbox="1361 986 1948 1327" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">第1図 スノーボール（例）</p>	<p>【女川】記載表現の相違</p> <p>【女川】記載内容の相違・対策の相違。</p> <p>【女川】記載内容の相違・泊に急勾配箇所（道路勾配9%以上）はない。</p> <p>【女川】記載内容の相違・泊では積雪対策の内容について記載。</p> <p>【女川】記載内容の相違・泊では視界不良対策の内容について記載。</p>



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>2. すべり止め対策を行う範囲</p> <p>アクセスルートにおいて勾配が急となる部分にすべり止め舗装を施す。上記1. ③に記載のとおり車両は徐行（15km/h以下）で走行するが、安全側に設計速度20km/hで走行するものと仮定し、道路構造令*1に示されている20km/hでの走行における道路の設計勾配が9～12%以下とされていることを参考に、道路勾配が9%以上となる箇所では積雪・凍結時の通行に支障が出るおそれがあるものとして、9%以上の勾配となるルート全線にわたってすべり止め対策を施す。第1図にすべり止め対策を行う範囲を示す。</p> <p>※1 道路構造令（平成15年 国土交通省）</p>  <p>第1図 すべり止め対策を行う範囲</p> <p>3. すべり止め対策の概要</p> <p>(1) すべり止め舗装</p> <p>アクセスルートの急勾配箇所に樹脂系のすべり止め舗装を施し、すべり抵抗性を向上させる。すべり止め舗装の対策例を第2図に、構造の概要を第3図に示す。</p> <p>この樹脂系のすべり止め舗装による効果は、道路舗装部に約1mmの水膜が形成された場合、一般舗装部は水膜の標準的な摩擦係数の0.16であったのに対して、樹脂系のすべり止め舗装では摩擦係数は0.35程度と摩擦係数が大きくなることが試験**により確認されている。</p> <p>摩擦係数が0.35の場合において車両が滑り落ちない限界勾配は35%**であり、アクセスルートの最急勾配部（15.6%）においても限界勾配と比較し緩やかな勾配であることから、可搬型設備は走行可能である。</p> <p>※2 大沼ら：すべり止め舗装の効果と耐久性について（平成13年 旧北海道開発局 開発土木研究所（現 国立研究開発法人 土木研究所 寒地土木研究所））</p> <p>※3 濱本ら：小規模道路の平面線形及び縦断勾配の必要水準に関する基礎的検討（平成24年 国土交通省 国土技術政策総合研究所）</p>			<p>【女川】記載内容の相違・泊の冬季における路面は圧雪状態となっているため、すべり止め舗装の効果は限定的であること、また、アクセスルート及びサブルートにおいて勾配が9%を超える箇所はないことから、すべり止め舗装は施していない。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p data-bbox="273 108 499 132">女川原子力発電所2号炉</p>  <p data-bbox="273 373 499 397">第2図 すべり止め舗装例</p>  <p data-bbox="250 517 524 541">第3図 すべり止め舗装の構造</p> <p data-bbox="80 576 239 600">(2) すべり止め材</p> <p data-bbox="96 606 696 687">アクセスルートが凍結した場合に備えて、アクセスルートに散布するためのすべり止め材（砂）をアクセスルートの急勾配箇所に配備する。第4図にすべり止め材の配備例を示す。</p>  <p data-bbox="259 954 499 978">第4図 すべり止め材（例）</p>		<p data-bbox="1346 576 1525 600">4. すべり止め対策</p> <p data-bbox="1361 606 1962 687">アクセスルートが凍結した場合に備えて、アクセスルートに散布するためのすべり止め材（砂）をアクセスルート近傍に配備する。すべり止め材の配備例を第2図に示す。</p>  <p data-bbox="1525 954 1765 978">第2図 すべり止め材（例）</p>	<p data-bbox="1984 576 2163 600">【女川】記載表現の相違</p> <p data-bbox="1984 636 2163 743">【女川】記載内容の相違                  ・泊に急勾配箇所（道路勾配9%以上）はない。</p>

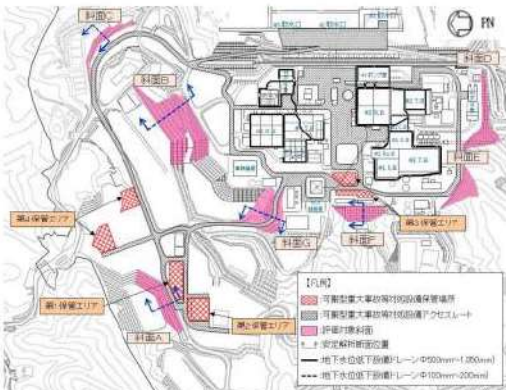

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p style="text-align: right;">別紙(37)</p> <p style="text-align: center;">保管場所及び屋外アクセスルートの評価における 地下水位の設定方法について</p> <p>1. はじめに</p> <p>保管場所及び屋外アクセスルートの評価のうち、周辺斜面の崩壊、敷地下斜面のすべり、液状化及び揺すり込みによる不等沈下・傾斜、液状化による地下構造物の浮き上がり評価に係る地下水位について、以下に設定方法を示す。</p> <p>また、工事計画認可段階での設計用地下水位が保管場所及び屋外アクセスルートの評価に影響を与える可能性がある場合の対応方針を示す。</p> <p>2. 保管場所及び屋外アクセスルートの地下水位設定</p> <p>(1) 周辺斜面の崩壊、敷地下斜面のすべり評価に係る地下水位の設定</p> <p>保管場所及び屋外アクセスルートにおける周辺斜面、敷地下斜面については、保管場所及び屋外アクセスルートから所定の離隔を確保できない場合は解析により安定性を確認するか、斜面崩壊による影響を考慮することにより評価を行っている。</p> <p>斜面の安定性を解析により確認する場合の地下水位の設定方法を以下に示す。</p> <p>a. 斜面の地下水位の設定フロー</p> <p>解析により斜面の安定性評価を実施する箇所の地下水位の設定については、第1図のフローにより設定している。評価対象斜面を第2図に示す。</p> <div data-bbox="107 965 683 1236" data-label="Diagram"> <pre>             graph TD             A[①: 斜面の安定性評価を実施する断面を決定 (斜面A, B, C, F, G)] --&gt; B{評価対象断面の近傍に 地下水位の連続観測記録があるか}             B -- Yes (斜面B, F) --&gt; C[②: 浸透流解析により斜面の地下水位を設定 (地下水位の連続観測記録により浸透 流解析の妥当性を検証する。)]             B -- No (斜面A, C, G) --&gt; D[③: 地下水位を地表面に設定]             C --&gt; E[④: 斜面の安定解析を実施]             D --&gt; E             </pre> </div> <p style="text-align: center;">第1図 斜面の地下水位設定フロー</p>	<p style="text-align: right;">別紙(36)</p> <p style="text-align: center;">敷地内の地下水位の設定について</p> <p>保管場所及びアクセスルートの評価のうち、地中埋設構造物の浮き上がり評価等に用いる地下水位を設定するに当たっては、地形等を適切にモデル化した浸透流解析を実施することとし、保守性を確保する方針とする。(浸透流解析の詳細については、四条別紙17「地下水位低下設備について」参照)</p> <p>なお、周辺斜面の崩壊及び敷地下斜面のすべりに対する影響評価に係る地下水位については、別紙(31)に示す。</p> <p>以下に地下水位設定の方針を示す。</p>	<p style="text-align: right;">別紙(36)</p> <p style="text-align: center;">敷地内の地下水位の設定方針について</p> <p>保管場所及びアクセスルートの評価のうち、地下構造物等の浮き上がり評価等に用いる地下水位を設定するに当たっては、地形等を適切にモデル化した浸透流解析を実施することとし、保守性を確保する方針とする。(浸透流解析の詳細については、第四条 別紙-10「設計地下水位の設定方針について」参照)</p> <p>以下に地下水位設定の方針を示す。</p>	<p>相違理由</p> <p>【女川】資料構成の相違          ・女川は設置許可段階で設計地下水位の設定について詳細に設定をしているが、泊は島根と同様に設置許可段階では設計地下水位をすべて地表面に設定することとしていることから、島根に合わせた資料構成とする。</p> <p>【島根】記載表現の相違          ・泊の周辺斜面・敷地下斜面の記載については、下記②に記載。</p> <p>【女川】設計方針の相違          ・泊は設置許可段階では、設計地下水位をすべて地表面に設定している。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）


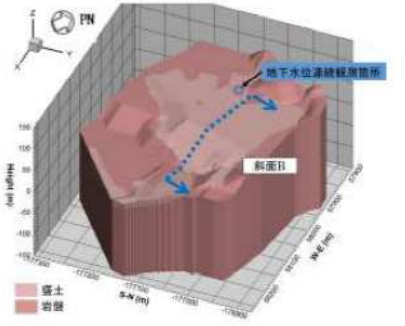
1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
 <p>第2図 評価対象斜面位置図</p> <p>b. 浸透流解析における地下水位低下設備の取扱い</p> <p>第1図のフローに示すとおり、斜面B及び斜面Fについては浸透流解析により地下水位を設定する。</p> <p>第2図及び第3図に示すとおり、原子炉建屋等の主要建屋直下及びその周囲には地下水位低下設備が設置されており、主要建屋周辺を含めた O.P. +14.8m 盤の広い範囲で水位低下効果が見込まれる。O.P. +14.8m 盤と近接する斜面も同様に水位低下効果が及ぶと考えられるが、地下水位低下設備の機能を考慮した地下水位は工事計画認可段階において設定することから、斜面評価に係る地下水位の設定に当たっては、保守的に地下水位低下設備の機能を考慮しないこととする。</p>  <p>第3図 地下水位低下設備概要図</p>			



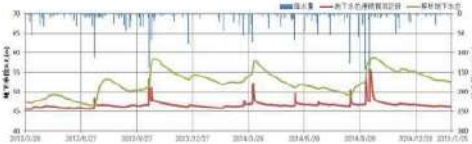
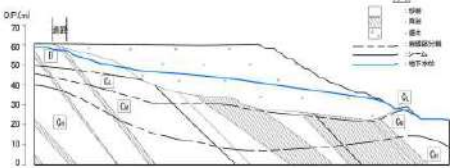
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>(a) 斜面Bの地下水位設定</p> <p>1. 解析手法</p> <p>斜面Bの解析断面位置を第4図に示す。斜面Bは敷地造成のため盛土により構築された斜面であり、造成前の沢部を埋めている。地下水位の設定における解析手法は、造成前の沢部への集水効果を考慮する必要があるため三次元浸透流解析を用いる。三次元浸透流解析の解析モデルを第5図に示す。降雨の設定は石巻、大船渡の両特別地域気象観測所の観測期間<sup>※1</sup>における既往最大降雨とし、降雨後の最高水位を斜面の安定解析に用いる。</p> <p>解析に用いた透水係数等の妥当性を検証するため、地下水位連続観測記録と再現解析結果を比較する。第6図に示すとおり、再現解析による地下水位は観測地下水位より高く、解析に用いた透水係数等が保守的な設定であることを確認している。</p> <p>浸透流解析は解析コード「GETFLOWsver.6.64.0」を使用する。</p> <p>※1 観測期間：石巻特別地域気象観測所（1937年～2017年）                  大船渡特別地域気象観測所（1963年～2017年）</p>  <p>第4図 斜面Bの地下水位解析断面位置図</p>  <p>第5図 斜面Bの三次元浸透流解析モデル</p>			

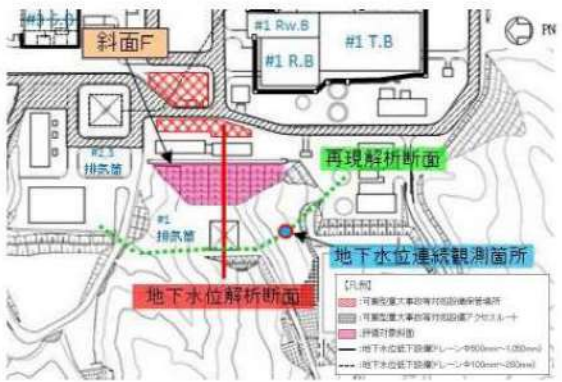
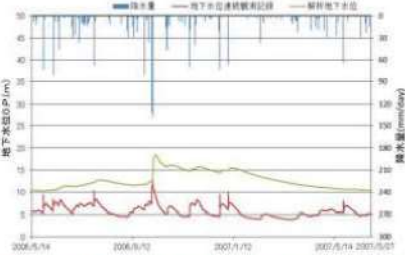
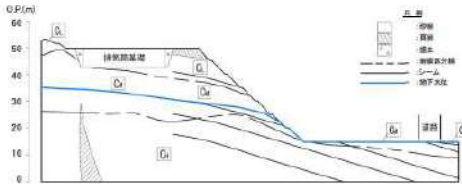
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p data-bbox="277 108 497 132">女川原子力発電所2号炉</p>  <p data-bbox="181 316 591 339">第6図 地下水位連続観測記録と再現解析結果</p> <p data-bbox="120 373 237 397">ii. 解析結果</p> <p data-bbox="136 400 696 453">斜面Bにおける地下水位の解析結果を第7図に示す。この地下水位を用いて斜面Bの安定解析を実施している。</p>  <p data-bbox="232 663 539 687">第7図 斜面Bの地下水位解析結果</p> <p data-bbox="109 721 349 745">(b) 斜面Fの地下水位設定</p> <p data-bbox="120 751 237 775">i. 解析手法</p> <p data-bbox="136 778 696 978">斜面Fの解析断面位置を第8図に示す。斜面Fは敷地造成のために尾根部を掘削して整形された岩盤斜面である。地下水位の設定における解析断面は尾根部中央であり、地下水位は周辺からの集水の影響を受けないため、解析手法は二次元浸透流解析を用いる。降雨の設定は石巻、大船渡の両特別地域気象観測所の観測期間<sup>※1</sup>における既往最大降雨とし、降雨後の最高水位を斜面の安定解析に用いる。</p> <p data-bbox="136 984 696 1096">解析に用いた透水係数等の妥当性を検証するため、地下水位連続観測記録と再現解析結果を比較する。第9図に示すとおり、再現解析による地下水位は観測地下水位より高く、解析に用いた透水係数等が保守的な設定であることを確認している。</p> <p data-bbox="152 1102 696 1126">浸透流解析は解析コード「GETFLOWSver. 6. 64. 0」を使用する。</p> <p data-bbox="120 1160 696 1212">※1 観測期間：石巻特別地域気象観測所（1937年～2017年）                  大船渡特別地域気象観測所（1963年～2017年）</p>			

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）


1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
 <p data-bbox="197 574 571 598">第8図 斜面Fの地下水位解析断面位置図</p>  <p data-bbox="179 957 604 981">第9図 地下水位連続観測記録と再現解析結果</p> <p data-bbox="123 1045 246 1069">ii. 解析結果</p> <p data-bbox="134 1077 694 1125">斜面Fにおける地下水位の解析結果を第10図に示す。この地下水位を用いて斜面Fの安定解析を実施している。</p>  <p data-bbox="224 1364 548 1388">第10図 斜面Fの地下水位解析結果</p>			



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）


1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>(2) 液状化及び揺すり込みによる不等沈下・傾斜、液状化による地下構造物の浮き上がり評価に係る地下水位の設定</p> <p>保管場所及び屋外アクセスルートにおける液状化及び揺すり込みによる不等沈下・傾斜については、沈下を想定する盛土及び旧表土について沈下率を設定し、評価を行っている。</p> <p>液状化による地下構造物の浮き上がりについては、岩盤内部に構築されており、かつ構造物下端面よりも地下水位が高い地下構造物について、地下水位以深の盛土、旧表土がすべて液状化するものと想定し、評価を行っている。</p> <p>上記評価に係る地下水位は、第11図に示すとおり、エリア①、エリア②、その他のエリアに分けて設定している。</p>  <p>第11図 地下水位設定エリア区分図</p> <p>a. エリア①</p> <p>エリア①の地下水位は、O.P.+14.8m盤の女川原子力発電所2号炉及び3号炉建設時の工事計画認可申請書で評価対象となっている構造物等の設定水位を基に設定する。なお、女川原子力発電所2号炉及び3号炉建設時の工事計画認可申請書で評価対象となっている構造物等の設定水位は、地下水位低下設備の水位低下効果を考慮している。</p> <p>O.P.+14.8m盤の構造物等における設定水位のうち最も地下水位が高いのは2・3号炉排気筒基礎のO.P.+4.5mであることから、保守的にエリア①の地下水位をO.P.+5.0mに設定する（第12図）。なお、エリア①における地下水位連続観測記録の最高水位（①）はO.P.+5.0mを超えないことを確認している。</p> <p>b. エリア②</p> <p>エリア②における地下水位は、敷地の沈下を考慮した朔望平均満潮位である</p> <p>O.P.+2.43mに設定する（第12図）。なお、エリア②における地下水位連続観測記録の最高水位（②、③）はO.P.+2.43mを超えないことを確認している。</p> <p>c. その他のエリア</p> <p>エリア①、②以外のエリアについては、地下水位を保守的に地表面に設定する。</p>	<p>①解析モデル作成・再現解析による検証</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>島根原子力発電所の敷地は堅硬な地山の尾根（分水嶺）に囲まれている。また、1、2号炉及び3号炉エリアの境界部にも同様の分水嶺が存在する。この島根サイトの地形的特徴を踏まえ、それぞれの領域で適切に地下水位を評価する観点から、両エリアで解析モデルを作成する。</li> <li>解析モデル・解析条件について建設時工認を参照し設定した上で、観測記録との比較等によりモデルの妥当性の確認を行う。</li> </ul>  <p>第1図 解析モデル鳥瞰図</p> <p>②地下水位の設定（予測解析）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>詳細設計段階で予測解析を実施し、地中埋設構造物の浮き上がり評価等に用いる地下水位を設定する。</li> </ul> <p>以上を踏まえ、地中埋設構造物の浮き上がり評価等に用いる地下水位については詳細設計段階で決定するため、設置許可段階においては地下水位を地表面に設定する。</p>	<p>①解析モデル作成・妥当性検証解析による検証</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>泊発電所敷地等の地形的特徴を踏まえ、敷地を取り囲む分水嶺（地中部も含む）までを対象範囲とした三次元浸透流解析の解析モデルを作成する。</li> <li>解析モデル・解析条件について泊3号炉建設時（設置許可時）を参照し設定した上で、観測記録との比較等によりモデルの妥当性・保守性の確認を行う。</li> </ul>  <p>第1図 解析モデル鳥瞰図</p> <p>②地下水位の設定</p> <p>保管場所及びアクセスルートの評価のうち、地下構造物等の浮き上がり評価等に用いる設計地下水位の設定は以下のとおりとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保管場所及びアクセスルートにおける周辺斜面、敷地下斜面については、設計地下水位を地表面に設定する。</li> <li>液状化及び揺すり込みによる不等沈下・傾斜、液状化による地下構造物等の浮き上がり評価に係る地下水位の設定については、以下のとおり。             <ul style="list-style-type: none"> <li>T.P.10.0m盤エリアに設置される地下構造物等については、設計地下水位を地表面に設定する。</li> <li>T.P.10.0m盤より高標高に設置される地下構造物等については、自然水位（地下水排水設備に期待しない場合の三次元浸透流解析の予測解析結果）に基づき設計地下水位を設定する。</li> </ul> </li> </ul> <p>以上を踏まえ、地下構造物等の浮き上がり評価等に用いる地下水位については、一部は設置工認段階で決定するため、設置許可段階においては地下水位をすべて地表面に設定する。</p>	<p>【女川】資料構成の相違</p> <p>【島根】記載表現の相違              ・プラントの特徴の相違。</p> <p>【女川及び島根】設計方針の相違              ・女川は設置許可段階で設定した設計地下水位を設工認段階で変更する対象として、液状化による地下構造物の浮き上がり評価を設定している。              ・島根は設置許可段階では、設計地下水位を地表面に設定し、詳細設計段階で決定する。              ・泊は設置許可段階では、設計地下水位をすべて地表面に設定している。</p>



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
 <p>第12図 構造物等における設定水位及び地下水位観測地点分布図</p>			


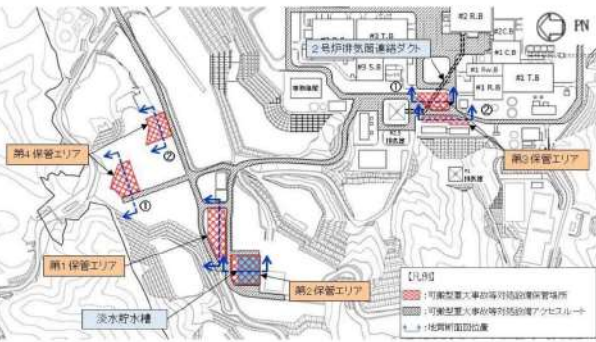
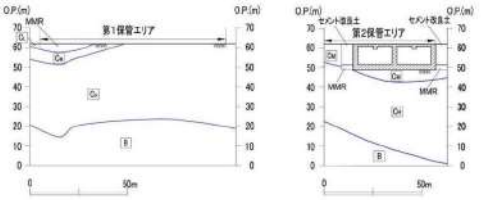
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>3. 工事計画認可段階での設計用地下水位を踏まえた影響と対応方針                  工事計画認可段階においては、O.P.+14.8m盤に設置されている各施設の設計用地下水位について、地下水位低下設備による水位低下効果を考慮した浸透流解析により設定する方針としている。                  工事計画認可段階において設定する設計用地下水位が保管場所及び屋外アクセスルートの評価へ与える影響と、影響を与える可能性がある場合における対応方針を以下に示す。</p> <p>(1) 周辺斜面の崩壊、敷地下斜面のすべり                  解析により安定性を確認する斜面の地下水位は、地表面又は地下水位低下設備の効果を考慮しない浸透流解析結果により保守的に設定しているため、工事計画認可段階においても評価結果は変更とならない。</p> <p>(2) 液状化及び揺すり込みによる不等沈下・傾斜、液状化による地下構造物の浮き上がり                  a. 保管場所                  液状化及び揺すり込みによる不等沈下・傾斜評価では、第1、第2、第4保管エリアは地下水位を地表面に設定しているため、工事計画認可段階においても評価結果は変更とならない。第3保管エリアは第13図に示すとおり、地下水位を地表面に設定している箇所とO.P.+5.0mと設定している箇所があるが、岩盤及びMMR上にあることから、工事計画認可段階においても評価結果は変更とならない。                  液状化による地下構造物の浮き上がり評価については、第14図及び第15図に示すとおり、第1、第4保管エリアは、地下構造物が存在しないため、工事計画認可段階においても評価結果は変更とならない。第2保管エリアについては、下部に埋設されている淡水貯水槽は岩盤に直接支持され、周囲はセメント改良土により埋め戻されていることから浮き上がりは発生しないため、工事計画認可段階においても評価結果は変更とならない。第3保管エリア下部には、2号炉排気筒連絡ダクトがあるが、岩盤内に設置されていることから、浮き上がりは発生しないため、工事計画認可段階においても評価結果は変更とならない。</p>			

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
 <p>第13図 第3保管エリアの地下水水位設定</p>  <p>第14図 保管エリア平面図及び地下構造物位置図</p>  <p>第15図 保管エリア地質断面図 (1/2)</p>			

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<div data-bbox="179 167 571 454" data-label="Figure"> </div> <div data-bbox="212 486 548 518" data-label="Caption"> <p>第15図 保管エリア地質断面図 (2/2)</p> </div> <div data-bbox="89 550 302 574" data-label="Section-Header"> <p>b. 屋外アクセスルート</p> </div> <div data-bbox="89 574 694 662" data-label="Text"> <p>液状化及び揺すり込みによる沈下・傾斜評価では、沈下を想定する盛土及び旧表土について沈下率を設定し、評価を行っている（沈下率の設定方法については別紙（15）参照）。</p> </div> <div data-bbox="89 662 694 774" data-label="Text"> <p>第16図に示すとおり、地下水位が浅く地下水位が深いは同様の沈下率を設定しており、工事計画認可段階における設計用地下水位の設定を考慮しても沈下量は変化しないことから、評価結果は変更としない。</p> </div> <div data-bbox="89 774 694 893" data-label="Text"> <p>液状化による地下構造物の浮き上がり評価については、工事計画認可段階における設計用地下水位の設定が評価に影響を与える場合は、評価用の地下水位を見直して再評価を行い、アクセスルートの通行性に影響を与えないよう必要に応じて対策を施す。</p> </div> <div data-bbox="280 925 492 1173" data-label="Figure"> </div> <div data-bbox="280 1189 492 1212" data-label="Caption"> <p>第16図 沈下率設定図</p> </div>			



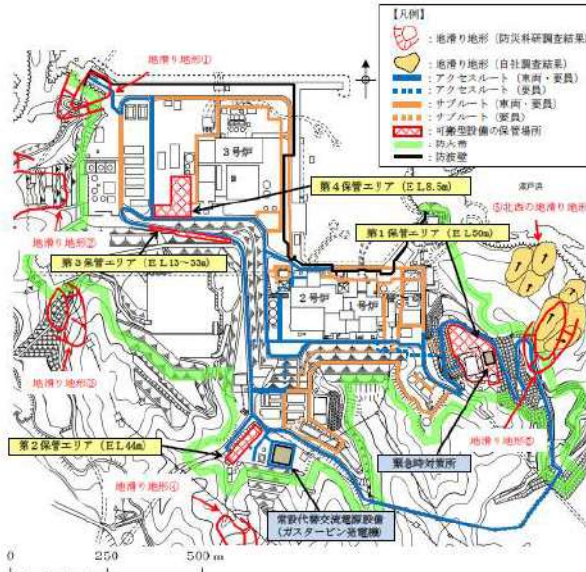
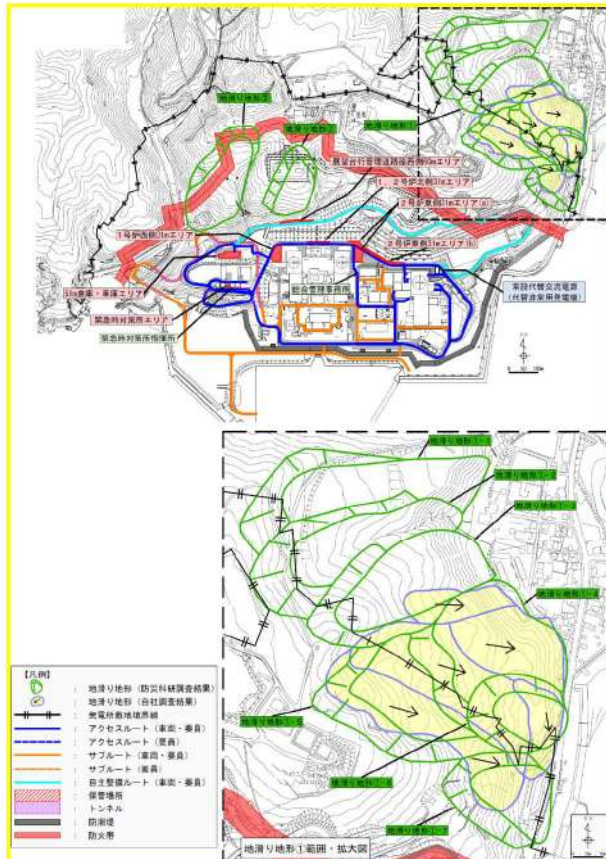
赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p style="text-align: right;">別紙(38)</p> <p style="text-align: center;">地滑り又は土石流による影響評価について</p> <p>1. はじめに                      保管場所及びアクセスルートに対する地滑り又は土石流の影響について、以下のとおり評価し、重大事故等対応に影響がないことを確認した。</p> <p>2. 地滑りの影響評価について                      独立行政法人防災科学技術研究所（以下、「防災科研」）が作成した地すべり地形分布図（平成17年、清水ほか「恵曇」(2005a)※1、「境港」(2005b)※2）の記載に基づく、第1図のとおり島根原子力発電所構内に地滑り地形は5箇所記載されている。</p> <p>保管場所については、各地滑り地形の範囲外に設置されており、影響はない。                      アクセスルートについては、防災科研調査結果の地滑り地形①及び地滑り地形⑤の範囲にあるが、自社調査（机上調査による地形判読及び現地踏査による地滑り地形の詳細検討）の結果、地滑り地形①については深層崩壊を伴うような地滑り地形ではないことを確認している。また、防災科研調査結果の地滑り地形①付近において確認された表層土（礫質土及び粘性土）については、過去の表層すべりの可能性が否定できないことから、周辺斜面の安定性確保のため、撤去を行うこととしている。</p> <p>地滑り地形⑤については、自社調査の結果、地滑り土塊が認められるが、アクセスルートは自社調査結果の地滑り土塊の範囲外に位置する。また、地滑り頭部付近においては、尾根筋を切り取っているが、斜面にすべり面が認められないことから、アクセスルートは地滑り地形の範囲外に位置する。                      （第六条 外部からの衝撃による損傷の防止参照）</p> <p>※1 清水文健・井口隆・大八木規夫(2005a)：5万分の1地すべり地形分布図、第26集「浜田・大社」図集、地すべり地形分布図恵曇、防災科学技術研究所研究資料第285号、防災科学技術研究所                      ※2 清水文健・井口隆・大八木規夫(2005b)：5万分の1地すべり地形分布図、第25集「松江・高梁」図集、地すべり地形分布図境港、防災科学技術研究所研究資料第278号、防災科学技術研究所</p>	<p style="text-align: right;">別紙(37)</p> <p style="text-align: center;">地滑り、土石流又は急傾斜地の崩壊による影響評価について</p> <p>1. はじめに                      保管場所及びアクセスルートに対する地滑り、土石流又は急傾斜地の崩壊の影響について、以下のとおり評価し、重大事故等対応に影響がないことを確認した。</p> <p>2. 地滑りの影響評価について                      独立行政法人防災科学技術研究所（以下、「防災科研」）が作成した地すべり地形分布図（平成22年、清水ほか「茅沼」(2010)※）の記載に基づく、第1図のとおり泊発電所構内に地滑り地形は3箇所（地滑り地形①～③）記載されている。</p> <p>保管場所及びアクセスルートについては、各地滑り地形の範囲外に設置されており、影響はない。                      （第六条 外部からの衝撃による損傷の防止参照）</p> <p>※：清水文健・井口隆・大八木規夫(2010)：5万分の1地すべり地形分布図、第45集「岩内」図集、地すべり地形分布図茅沼、防災科学技術研究所研究資料第339号、防災科学技術研究所</p>	<p>【島根】設計方針の相違                      ・泊発電所構内には急傾斜地崩壊危険箇所が認められるため、地滑り及び土石流のほか、急傾斜地の崩壊による影響評価を行う。</p> <p>【島根】記載内容の相違                      ・プラントの相違に伴う地滑り地形の相違。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	 <p>第1図 地滑り地形分布図（保管場所及びアクセスルート）</p>	 <p>第1図 地滑り地形分布図（保管場所及びアクセスルート）</p>	<p>【島根】記載内容の相違                  ・プラントの相違に伴う地滑り地形の相違。</p>



1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>3. 土石流の影響評価について</p> <p>国土交通省国土政策局が公開する「国土数値情報土砂災害危険箇所データ」の記載に基づくと、第2図のとおり島根原子力発電所構内の土石流危険区域は7箇所である。</p> <p>第2保管エリア及び一部のアクセスルートが土石流危険区域の範囲に含まれているが、屋外に配置している可搬型設備は複数箇所にそれぞれ離隔して分散配置しているため、影響を受けない。アクセスルートは、複数確保しているアクセスルートが使用可能であるためアクセス性に影響はない。なお、屋内のアクセスルートについては、原子炉建物等が影響を受ける範囲にないため、影響はない。詳細は以下のとおり。</p> <p>(1) 対応方針</p> <p>a. 土石流が発生した場合の対応方針</p> <p>土石流が発生し第2保管エリア及び一部のアクセスルート<sup>*1</sup>に影響が及んだ場合は、土石流の影響を受けるおそれのないアクセスルート（要員）を使用し、サブルート<sup>*2</sup>は使用しない。緊急時対策要員は、緊急時対策所からアクセスルート（要員）を用いて、徒歩で土石流の影響を受けるおそれのない第3及び第4保管エリアに移動したうえで、保管されている可搬型重大事故等対処設備を用いて、重大事故等の対応を実施する。</p> <p>土石流が発生した際の土砂撤去作業は、要員の安全確保の観点から、発生後すぐに行うことは困難であると想定されるため、重大事故等の対応上、土砂撤去作業によるアクセスルート<sup>*1</sup>の復旧には期待しない。</p> <p>土砂撤去作業は、二次災害の発生を防止するため、天候や現場状況の確認を行ったうえで実施する。</p> <p>※1：第2図の土石流危険区域①～⑥が掛かる範囲のアクセスルート</p> <p>※2：地震及び津波時に期待しないルートであり、地震及び津波その他の自然現象の影響評価対象外</p> <p>b. 設置許可基準規則への適合性</p> <p>「設置許可基準規則」第四十三条第3項第五号<sup>*1</sup>に基づき、可搬型重大事故等対処設備は、常設重大事故等対処設備と異なる場所に、2セットを分散配置して保管することとしている。</p> <p>土石流の影響を考慮し、可搬型重大事故等対処設備は、2セットを分散配置し、いずれか1セットは土石流の影響を受けない保管場所に配置し、基準に適合させる。</p> <p>「設置許可基準規則」第四十三条第3項第六号<sup>*2</sup>に基づき、アクセスルートは、想定される自然現象、原子炉施設の安全性を損なわせる原因となるおそれがある事象であって人為によるもの（故意によるものを除く。）、溢水及び火災を想定しても、速やかに運搬、移動に支障をきたすことのないよう、複数のアクセスルートを確保することとしている。</p>	<p>3. 土石流の影響評価について</p> <p>北海道が公開する「土砂災害危険箇所図」（以下「北海道調査」という。）の記載に基づくと、第2図のとおり泊発電所構内の土石流危険区域及び土石流危険渓流は1箇所である。</p> <p>保管場所及びアクセスルートについては、土石流危険区域及び土石流危険渓流の範囲外に設置されており、影響はない。</p> <p>（第六条 外部からの衝撃による損傷の防止参照）</p>	<p>【島根】記載内容の相違・プラントの相違に伴う土石流危険区域の相違。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>想定される自然現象のうち土石流に対しては、複数のアクセスルートのうち土石流の影響を受けないアクセスルートを少なくとも1ルート確保し、基準に適合させる。</p> <p>※1：第四十三条第3項第五号：地震、津波その他の自然現象又は故意による大型航空機の衝突その他のテロリズムによる影響、設計基準事故対処設備及び重大事故等対処設備の配置その他の条件を考慮した上で常設重大事故等対処設備と異なる保管場所に保管すること</p> <p>※2：第四十三条第3項第六号：想定される重大事故等が発生した場合において、可搬型重大事故等対処設備を運搬し、又は他の設備の被害状況を把握するため、工場等内の道路及び通路が確保できるよう、適切な措置を講じたものであること</p> <p>c. 土石流が発生した場合の対策内容                  土石流の影響を考慮し、全ての土石流危険区域で、同時に土石流が発生した場合においても、重大事故等の対応が可能となるよう、以下の対策を講ずる。また、対策の全体像を第3図に示す。</p> <p>①アクセスルートの確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>土石流が発生した場合でも、緊急時対策所から第3及び第4保管エリアに要員が移動できるよう、土石流の影響を受けないアクセスルート（要員）を管理事務所2号館南東の位置に設置する。なお、移動に際して、サブルートの使用は期待しない。</li> <li>万一の送電線垂れ下がり時においても要員が移動できるよう、アクセスルート（要員）を管理事務所2号館南西の位置に設置する。</li> </ul> <p>②可搬型設備の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>土石流が発生した場合でも、土石流の影響を受けない第3及び第4保管エリアに保管する可搬型設備を用いて、重大事故等の対応ができるよう、第1保管エリアに保管していたn設備と第4保管エリアに保管していた予備を入れ替える。また、資機材についても保管場所を第1保管エリアから第4保管エリアに変更する。これに伴い、保管場所を確保するため、第4保管エリアの範囲を拡充する。<sup>※1</sup></li> </ul> <p>※1：2n設備は、2セットのうち1セットを第3又は第4保管エリアに配置（変更なし）</p> <p>③原子炉注水等に使用する水源の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>代替淡水源である輪谷貯水槽（西1）及び輪谷貯水槽（西2）並びにその周辺が土石流に覆われ、輪谷貯水槽（西1）及び輪谷貯水槽（西2）を水源とした注水ができなくなることから、海を水源（海水取水箇所：非常用取水設備（2号炉取水槽））とした注水を実施する<sup>※2</sup>。</li> </ul> <p>※2：海を水源とする注水手順は、SA手順として整備済（変更なし）</p>		<p>【島根】記載内容の相違                  ・プラントの相違に伴う土石流危険区域の相違。</p>





赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
		<p>4. 急傾斜地の崩壊の影響評価について</p> <p>北海道調査の記載に基づくと、第3図のとおり泊発電所構内の急傾斜地崩壊危険箇所は3箇所である。</p> <p>保管場所については、各急傾斜地崩壊危険箇所の範囲外に設置されており、影響はない。</p> <p>（第六条 外部からの衝撃による損傷の防止参照）</p> <p>アクセスルートについては、敷地下斜面の一部が急傾斜地崩壊危険箇所③の範囲にあり、敷地下斜面のすべりに対する影響評価において、基準地震動による安定性を確認する。当該斜面の安定性評価は「別紙(14)保管場所及び屋外のアクセスルートの斜面の地震時の安定性評価について」において説明する。</p>  <p>第3図 急傾斜地崩壊危険箇所図（保管場所及びアクセスルート）</p>	<p>【島根】設計方針の相違</p> <p>・泊発電所構内には急傾斜地崩壊危険箇所が認められるため、地滑り及び土石流のほか、急傾斜地の崩壊による影響評価を行う。</p>

泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<div data-bbox="728 172 1265 1098" style="border: 1px solid black; height: 580px; width: 100%;"></div> <div data-bbox="1276 451 1299 849" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: mixed; position: absolute; right: 10px; top: 283px;">                     第3図 土石流が発生した場合の重大事故等の対応                 </div> <div data-bbox="898 1106 1301 1129" style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 10px auto;">                     本資料のうち、特図みの内容は機密に係る事項のため公開できません。                 </div>		<p>【島根】記載内容の相違                      ・プラントの相違に伴う土石流が発生した場合の対応内容の相違。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>【注釈】          ●：サブmersカナルバート（既設、要員）          ▲：サブmersカナルバート（既設、要員）          ○：サブmersカナルバートの緊急時運用          □：土石流危険区域          ※：土石流危険区域に近接する</p> <p>変更前          緊急時対策所          管理事務所2号館          サブmersカナルバートの通行          土石流危険区域</p> <p>変更後          緊急時対策所          管理事務所2号館          土石流危険区域          送電線          ボックスカナルバート          連絡通路（地上ボックスカナルバート）          詳細図</p> <p>土石流影響範囲          連絡通路（地下ダクト）          詳細図          出入口</p> <p>第4図 アクセスレール（要員）の一例</p>		<p>【島根】記載内容の相違          ・プラントの相違に伴う土石流が発生した場合の対応内容の相違。</p>





泊発電所3号炉 技術的能力 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>d. 土石流が発生した場合の対応内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>緊急時対策要員は、緊急時対策所から土石流の影響を受けるおそれのないアクセスルート（要員）及び1、2号炉原子炉建物南側を經由したルートを用いて、第3及び第4保管エリアに移動する。</li> <li>第3及び第4保管エリアに保管する大量送水車及びホース展開車を用いて、海（海水取水箇所：非常用取水設備（2号炉取水槽））を水源として、原子炉、燃料プールに海水を注水する。なお、重大事故等の発生時においては海水による注水を実施するが、重大事故等の一連の対策を講じたところで、淡水水源（自主対策設備である非常用ろ過水タンク等）への注水に切り替える。(①)</li> <li>第3及び第4保管エリアに保管するタンクローリを用いて、E L15m及びE L8.5mの非常用ディーゼル発電機燃料貯蔵タンク等からの燃料採取を実施し、大量送水車等の可搬型設備に定期的に燃料補給を実施する。(②)</li> </ul> <p>【①：海を水源とした注水手順の成立性】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>海を水源とするタイムチャートを第6図に、輪谷貯水槽（西1）及び輪谷貯水槽（西2）を水源とするタイムチャートを第7図に、使用するルートを第8図に示す。</li> <li>有効性評価における輪谷貯水槽（西1）及び輪谷貯水槽（西2）を水源とした注水等の想定時間は2時間10分以内であり、海を水源とした注水等も、この想定時間内（所要時間目安：1時間40分）で対応可能である。（第1表及び参考資料-1参照）</li> </ul> <p>【②：非常用ディーゼル発電機燃料貯蔵タンク等を使用した燃料採取手順の成立性】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>非常用ディーゼル発電機燃料貯蔵タンク等を使用した燃料採取手順のタイムチャートを第9図に、ガスタービン発電機用軽油タンクを使用した燃料採取手順のタイムチャートを第10図に、使用するルートを第11図に示す。</li> <li>有効性評価におけるガスタービン発電機用軽油タンクからの燃料採取作業の想定時間は約1時間50分となっているが、非常用ディーゼル発電機燃料貯蔵タンク等を使用した燃料採取作業の想定時間は約2時間30分となる。（第2表）                      事象初期に使用する大量送水車の起動後（事象発生約2時間20分後）から、燃料枯渇までの約3.5時間以内に準備及び燃料補給を完了させる必要があるが、時間内に完了することを確認している。（第12図）</li> </ul>		<p>【島根】記載内容の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ブランドの相違に伴う土石流が発生した場合の対応内容の相違。</li> </ul>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																						
	<p>第1表 水源の違いによる注水作業時間</p> <table border="1" data-bbox="788 220 907 1037"> <thead> <tr> <th rowspan="2">所要時間目安<sup>※1</sup></th> <th colspan="2">作業時間</th> </tr> <tr> <th>1時間 41分</th> <th>想定時間<sup>※2</sup> 2時間 10分</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>輪谷野水槽（西1/西2）を水源とした注水等</td> <td>1時間 40分</td> <td>2時間 10分</td> </tr> <tr> <td>海を水源とした注水等</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※1：実機による検証及び模擬により算定した時間                  ※2：移動時間+操作時間に余裕を見て設定</p> <p>第2表 給油箇所の違いによる補給準備作業時間</p> <table border="1" data-bbox="1057 220 1227 1037"> <thead> <tr> <th rowspan="2">所要時間目安<sup>※1</sup></th> <th colspan="2">作業時間</th> </tr> <tr> <th>1時間 34分</th> <th>想定時間<sup>※2</sup> 1時間 50分</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ガスタービン発電機用軽油タンクを使用した燃料抜き取り手順</td> <td>2時間 12分</td> <td>2時間 30分</td> </tr> <tr> <td>非常用ディーゼル発電機燃料貯蔵タンク等を使用した燃料抜き取り手順</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※1：実機による検証及び模擬により算定した時間                  ※2：移動時間+操作時間に余裕を見て設定</p>	所要時間目安 <sup>※1</sup>	作業時間		1時間 41分	想定時間 <sup>※2</sup> 2時間 10分	輪谷野水槽（西1/西2）を水源とした注水等	1時間 40分	2時間 10分	海を水源とした注水等			所要時間目安 <sup>※1</sup>	作業時間		1時間 34分	想定時間 <sup>※2</sup> 1時間 50分	ガスタービン発電機用軽油タンクを使用した燃料抜き取り手順	2時間 12分	2時間 30分	非常用ディーゼル発電機燃料貯蔵タンク等を使用した燃料抜き取り手順				<p>【島根】記載内容の相違                  ・プラントの相違に伴う土石流が発生した場合の対応内容の相違。</p>
所要時間目安 <sup>※1</sup>	作業時間																								
	1時間 41分	想定時間 <sup>※2</sup> 2時間 10分																							
輪谷野水槽（西1/西2）を水源とした注水等	1時間 40分	2時間 10分																							
海を水源とした注水等																									
所要時間目安 <sup>※1</sup>	作業時間																								
	1時間 34分	想定時間 <sup>※2</sup> 1時間 50分																							
ガスタービン発電機用軽油タンクを使用した燃料抜き取り手順	2時間 12分	2時間 30分																							
非常用ディーゼル発電機燃料貯蔵タンク等を使用した燃料抜き取り手順																									





赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.0 重大事故等対策における共通事項

女川原子力発電所2号炉	島根原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>第8図 海を水源とした対応手段のルート</p>		<p>【島根】記載内容の相違・プラントの相違に伴う土石流が発生した場合の対応内容の相違。</p>